

**男女共同参画に関する
市民意識調査**

【報告書】

平成 29 年1月

霧島市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 集計上の留意点	1
第2章 調査結果	3
1. 回答者の属性	3
問1 性別	3
問2 年齢	3
問3 職業	4
問4 就労状況	4
問5 婚姻状況	5
問6 夫婦の就労形態	5
問7 子どもの有無	6
2. 男女平等意識について	7
(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識	7
(2) 社会全体でみた場合の地位の平等意識	16
(3) 男女が平等でない原因	20
(4) 男女が平等になるために重要なこと	22
3. 家庭生活について	25
(1) 性別役割分担に対する考え方	25
(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由	30
(3) 日常生活における役割分担についての理想と現実	32
(4) 男性が家事、育児をすることについての考え	41
(5) 男性が家事、育児をすることについての考えの理由	45
(6) 家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え	47
(7) 「仕事」、「家庭生活」、「地域個人生活」の関わり方の希望と現実	49
(8) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと	55
4. 社会活動・地域活動について	58
(1) 地域における活動への参加状況	58
(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと	61

5. 就労について	64
(1) (結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え.....	64
(2) 現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由	67
(3) 職場での男女格差の有無	69
(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え	71
(5) 女性が働きにくいと思う理由	74
(6) 女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿.....	77
6. 教育について	81
(1) 子どもの育て方についての考え	81
(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと	83
7. 女性の政策参画について	85
(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度	85
(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由.....	91
(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること	94
8. 人権・暴力について	96
(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方.....	96
(2) 配偶者等からのDVの被害経験の有無	100
(3) 配偶者等からのDVにより命の危険を感じたことの有無	104
(4) この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無	106
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無.....	108
(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無	110
(7) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無	113
(8) DVにあった際の相談の有無	115
(9) DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由	117
(10) DVの未然防止にとって必要なこと	120
(11) メディアにおける性・暴力表現についての考え	123
9. 男女共同参画に関する用語	125
(1) 用語の認知度	125
10. 行政について	129
(1) 男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること	129
11. 自由意見.....	132

第 1 章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査目的

「霧島市男女共同参画計画」を改訂するために基礎資料とするため、男女共同参画に関する市民意識調査を実施するものである。

2. 調査方法

- (1) 調査対象者 霧島市在住の18歳以上の男女2,100人
- (2) 抽出方法 霧島市住民基本台帳から無作為抽出
- (3) 調査期間 平成28年7月29日(金)～平成28年8月31日(水)
- (4) 調査方法 調査票による本人記入式(郵送配布・郵送回収による郵送調査法)

3. 回収結果

調査名	配布数	有効回答数	有効回収率
男女共同参画に関する市民意識調査	2,100人	840人	40.0%

4. 集計上の留意点

- (1) 集計は、百分比の少数点以下第2位は四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 文中の選択肢の表記は「 」で行なっている。
- (4) 2つ以上の選択肢を合計している比率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。

【参考】本報告書で結果を引用した過去の調査

◆平成 24 年度「男女共同参画社会に関する市民意識調査」（霧島市）
（20 歳以上の男女 2,100 人、有効回答数 829 人）

◆平成 24 年度「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人、有効回答数 3,033 人）
※本文中では「内閣府調査」と表記している

◆平成 26 年度「女性の活躍推進に関する世論調査」（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人、有効回答数 3,037 人）
※本文中では、「内閣府女性活躍推進調査」と表記している

◆平成 26 年度「男女間における暴力に関する調査」（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人、有効回答数 3,544 人）
※本文中では、「内閣府 DV 調査」と表記している

◇比較に使用した図表は、集計データを基に改めて作成しているため、前回調査及び内閣府調査時に公表されたものと異なる場合がある

第2章 調査結果

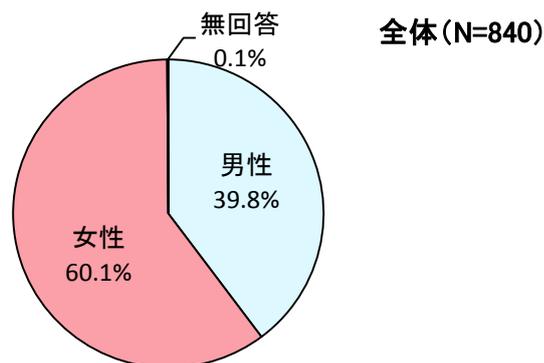
第2章 調査結果

1. 回答者の属性

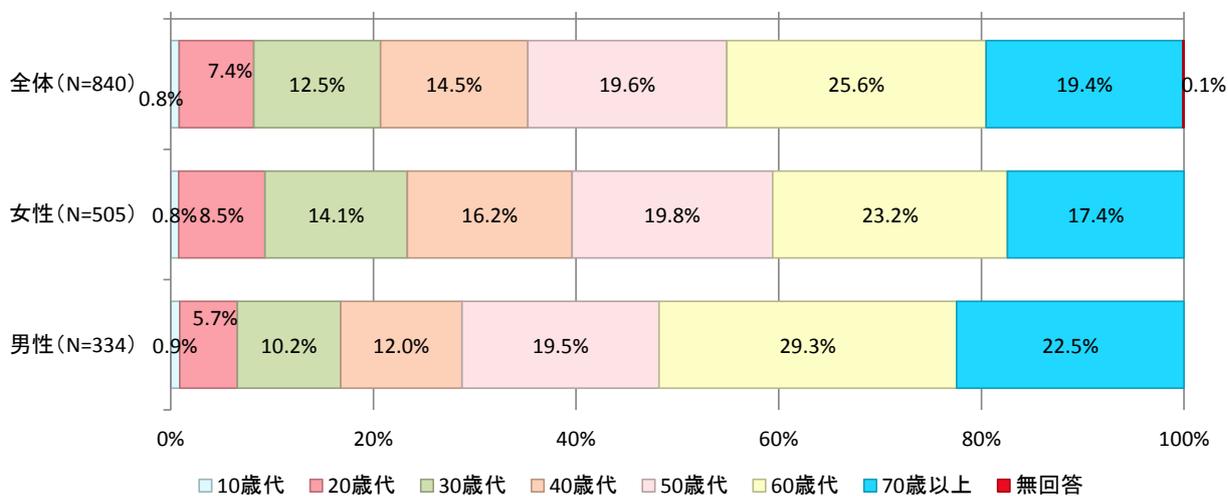
回答者 840 人の属性は以下の通り。

問1 性別

	サンプル数	性別		
		女性	男性	無回答
全体	840	505	334	1
	100.0%	60.1%	39.8%	0.1%

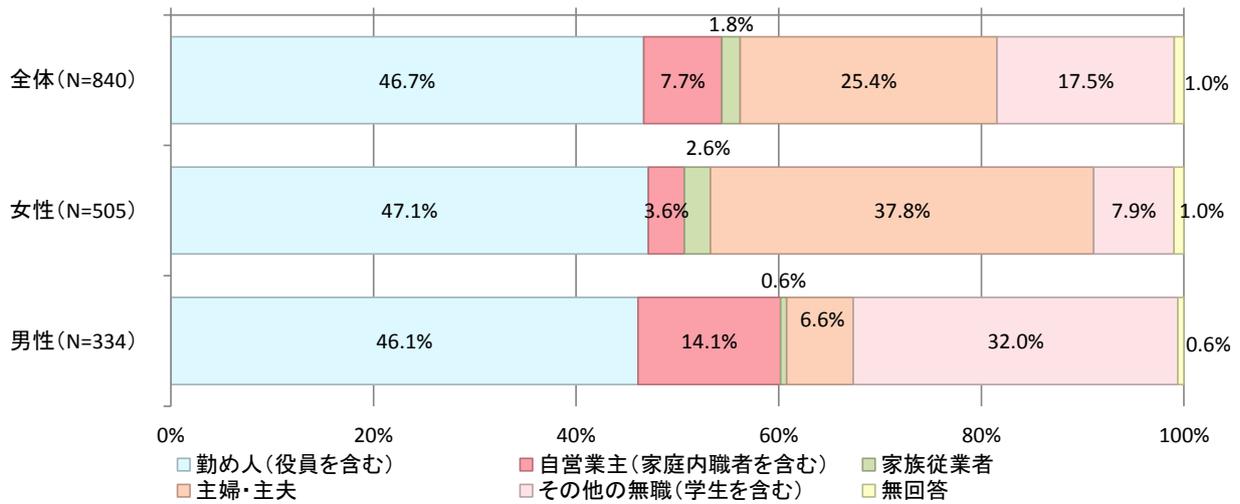


問2 年齢



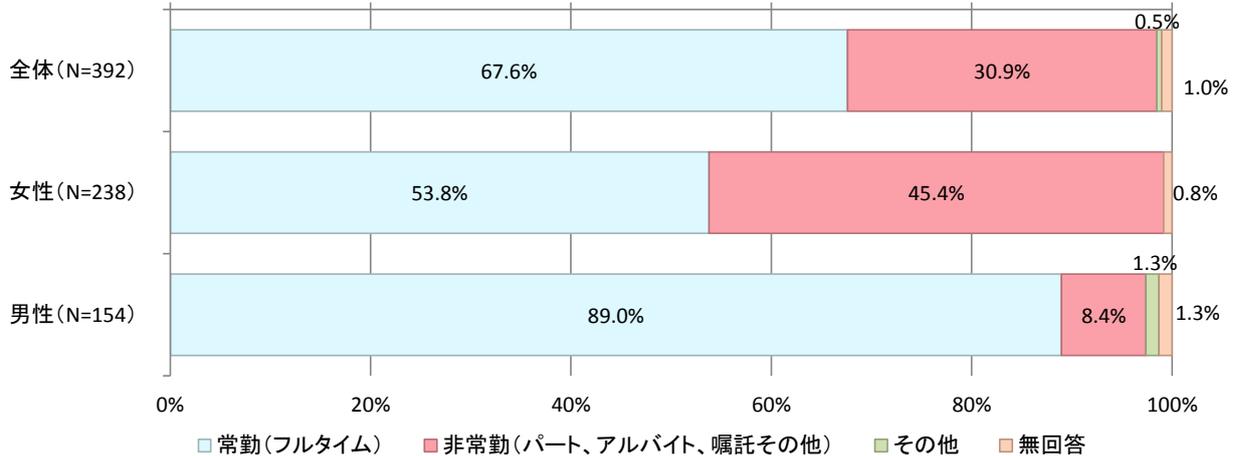
	サンプル数	年齢								
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	
全体	840	7	62	105	122	165	215	163	1	
	100.0%	0.8%	7.4%	12.5%	14.5%	19.6%	25.6%	19.4%	0.1%	
性別	女性	505	4	43	71	82	100	117	88	0
		100.0%	0.8%	8.5%	14.1%	16.2%	19.8%	23.2%	17.4%	0.0%
	男性	334	3	19	34	40	65	98	75	0
	100.0%	0.9%	5.7%	10.2%	12.0%	19.5%	29.3%	22.5%	0.0%	

問3 職業



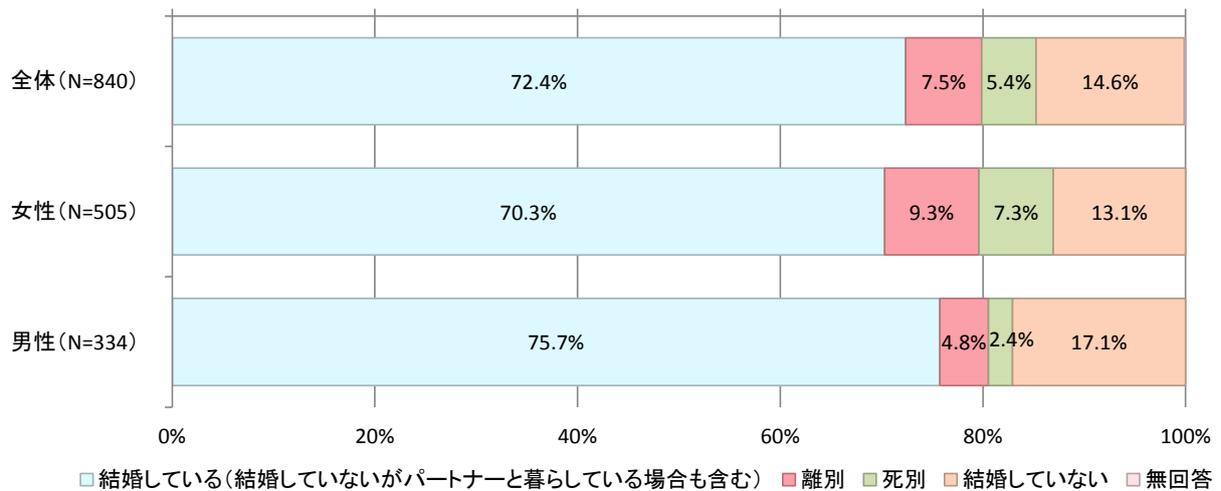
		サンプル数	職業					無回答
			勤め人(役員を含む)	自営業主(家庭内職者を含む)	家族従業者	主婦・主夫	その他の無職(学生を含む)	
全体		840	392	65	15	213	147	8
		100.0%	46.7%	7.7%	1.8%	25.4%	17.5%	1.0%
性別	女性	505	238	18	13	191	40	5
		100.0%	47.1%	3.6%	2.6%	37.8%	7.9%	1.0%
	男性	334	154	47	2	22	107	2
		100.0%	46.1%	14.1%	0.6%	6.6%	32.0%	0.6%

問4 就労状況



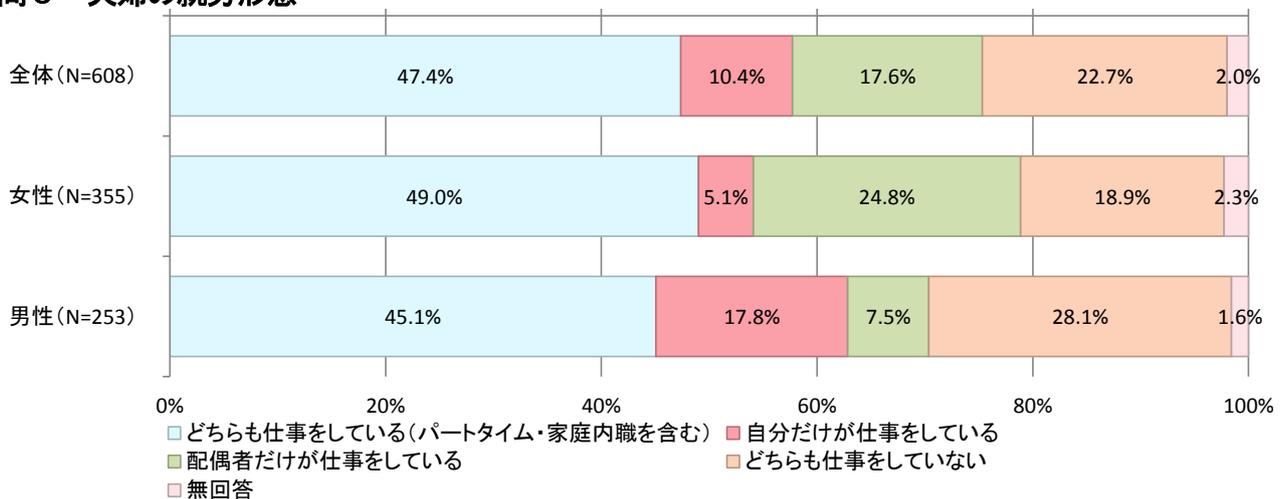
		サンプル数	就労状況			無回答
			常勤(フルタイム)	非常勤(パート、アルバイト、嘱託その他)	その他	
全体		392	265	121	2	4
		100.0%	67.6%	30.9%	0.5%	1.0%
性別	女性	238	128	108	0	2
		100.0%	53.8%	45.4%	0.0%	0.8%
	男性	154	137	13	2	2
		100.0%	89.0%	8.4%	1.3%	1.3%

問5 婚姻状況



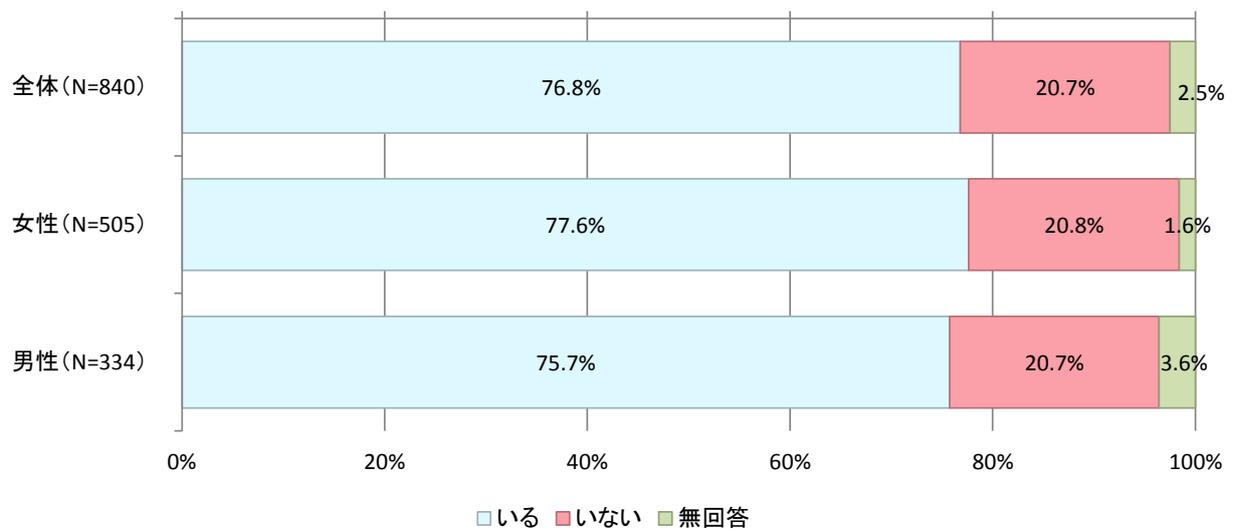
	サンプル数	婚姻状況					
		結婚している(結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む)	離別	死別	結婚していない	無回答	
全体	840	608	63	45	123	1	
	100.0%	72.4%	7.5%	5.4%	14.6%	0.1%	
性別	女性	505	355	47	37	66	0
	100.0%	70.3%	9.3%	7.3%	13.1%	0.0%	
男性	334	253	16	8	57	0	
	100.0%	75.7%	4.8%	2.4%	17.1%	0.0%	

問6 夫婦の就労形態



	サンプル数	夫婦の就労形態				無回答	
		どちらも仕事をしている(パートタイム・家庭内職を含む)	自分だけが仕事をしている	配偶者だけが仕事をしている	どちらも仕事をしていない		
全体	608	288	63	107	138	12	
	100.0%	47.4%	10.4%	17.6%	22.7%	2.0%	
性別	女性	355	174	18	88	67	8
	100.0%	49.0%	5.1%	24.8%	18.9%	2.3%	
男性	253	114	45	19	71	4	
	100.0%	45.1%	17.8%	7.5%	28.1%	1.6%	

問7 子どもの有無



		サンプル数	子どもの有無		
			いる	いない	無回答
全体		840	645	174	21
		100.0%	76.8%	20.7%	2.5%
性別	女性	505	392	105	8
	100.0%	77.6%	20.8%	1.6%	
性別	男性	334	253	69	12
	100.0%	75.7%	20.7%	3.6%	

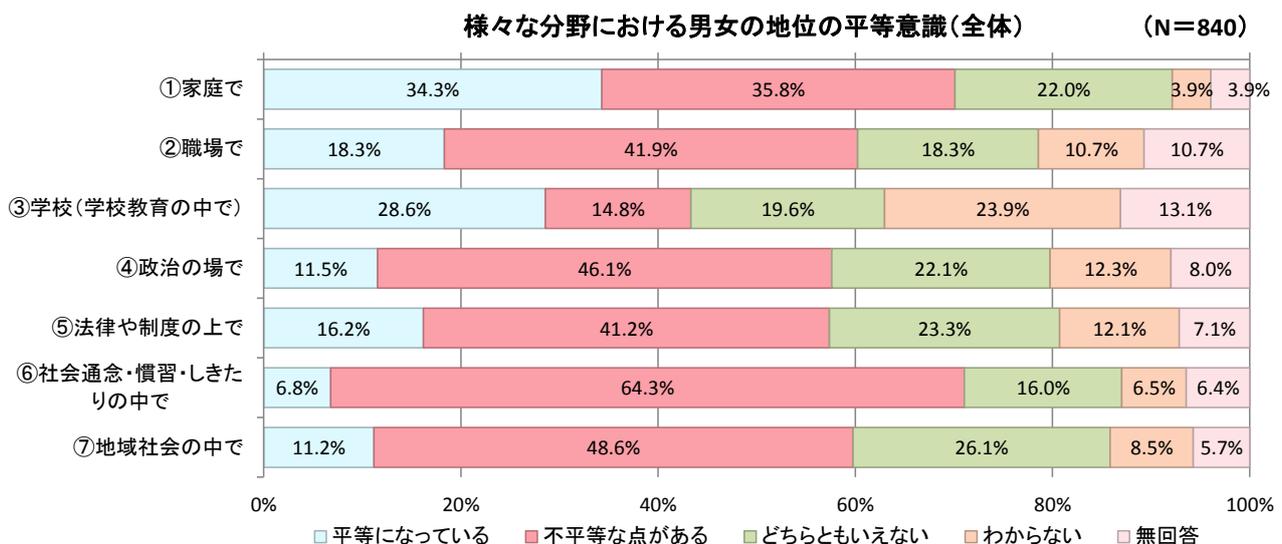
2. 男女平等意識について

(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識

【問8】 男性と女性は憲法上では平等となっていますが、次にあげる①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

～「社会通念や慣習、しきたりの中で」不平等感が強い～

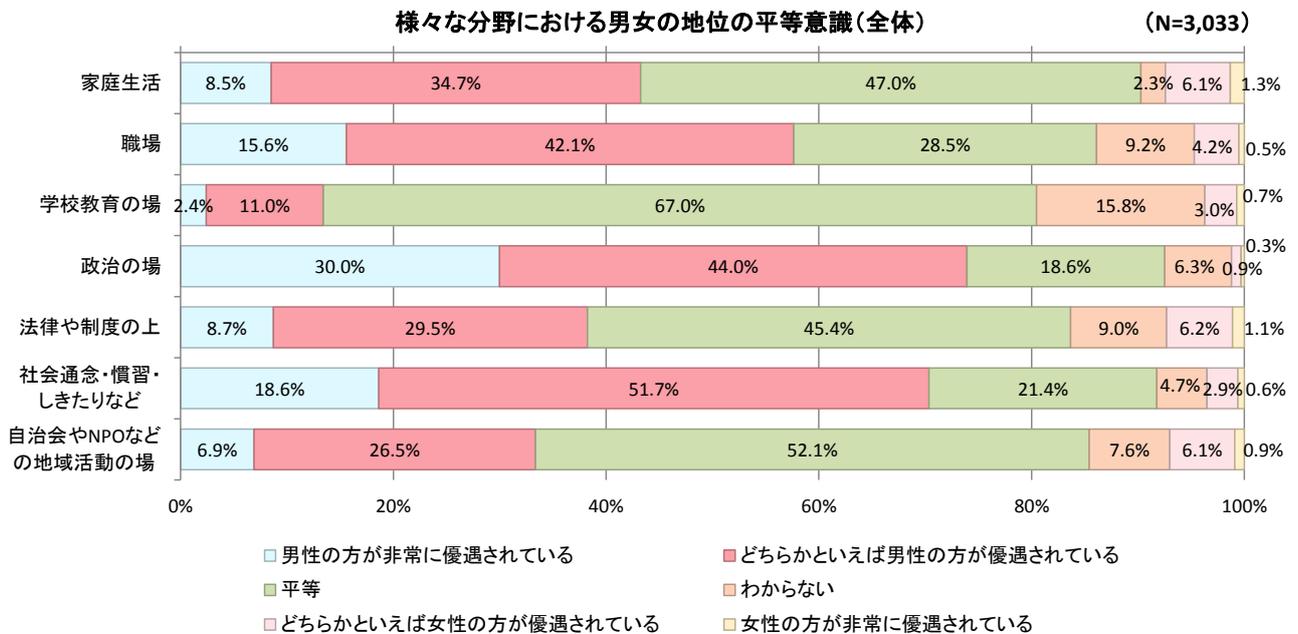
様々な分野における男女の地位の平等意識についてみると、全体では「平等になっている」の割合は「①家庭で」(34.3%)が最も高く、次いで「③学校(学校教育の中で)」(28.6%)、「②職場で」(18.3%)となっており、「不平等な点がある」の割合は「⑦社会通念・慣習・しきたりの中で」(64.3%)が最も高く、次いで「⑦地域社会の中で」(48.6%)、「④政治の場で」(46.1%)となっている。①～⑦の項目の内、「平等になっている」が「不平等な点がある」を上回っているのは「③学校(学校教育の中で)」のみで、それ以外の項目では「不平等な点がある」が「平等になっている」を上回っている。特に「⑥社会通念・慣習・しきたりの中で」(平等になっている：6.8%、不平等な点がある：64.3%)で差が大きくなっている。



内閣府調査でみると、「平等になっている」の割合は「学校教育の場」(67.0%)が最も高く、次いで「自治会やNPOなどの地域活動の場」(52.1%)、「法律や制度の上」(45.4%)となっている。

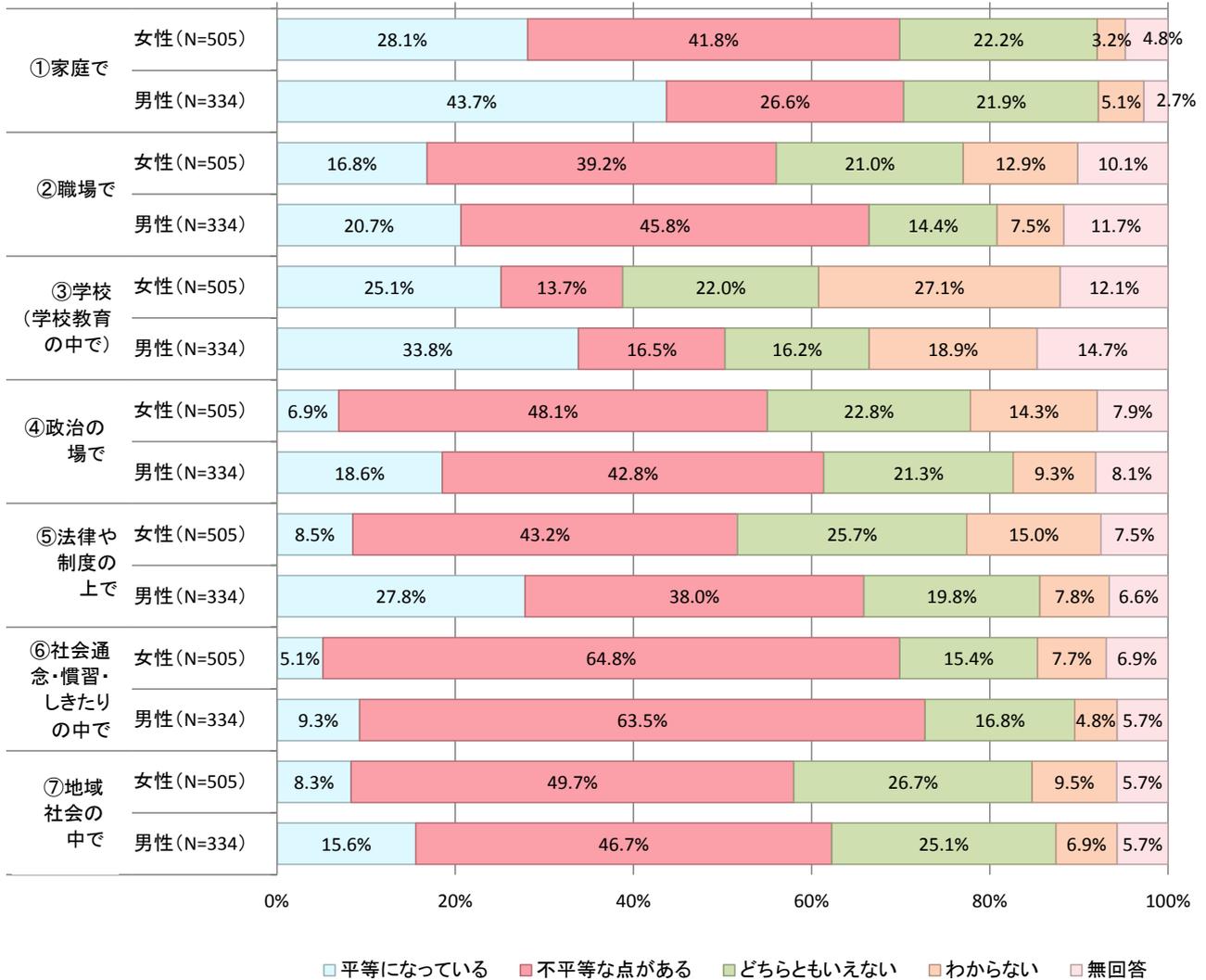
内閣府調査と霧島市との比較については、選択肢は異なっており単純に比較することが難しいが、「家庭で」や「学校(学校教育の中で)」については、国、霧島市とも「平等になっている」との意識が高いが、「地域社会の中で」や「社会通念・慣習・しきたりの中で」については、国に比べ霧島市は、「平等になっている」という意識が低いことがうかがえる。

【内閣府調査】



性別にみると、すべての項目において「平等になっている」の割合は男性が女性より高く、「不平等な点がある」の割合は女性が男性より高くなっている。特に、「⑥法律や制度の上で」、「①家庭の中で」、「④政治の場で」において、項目での「平等になっている」の差が男女間で大きくなっている。

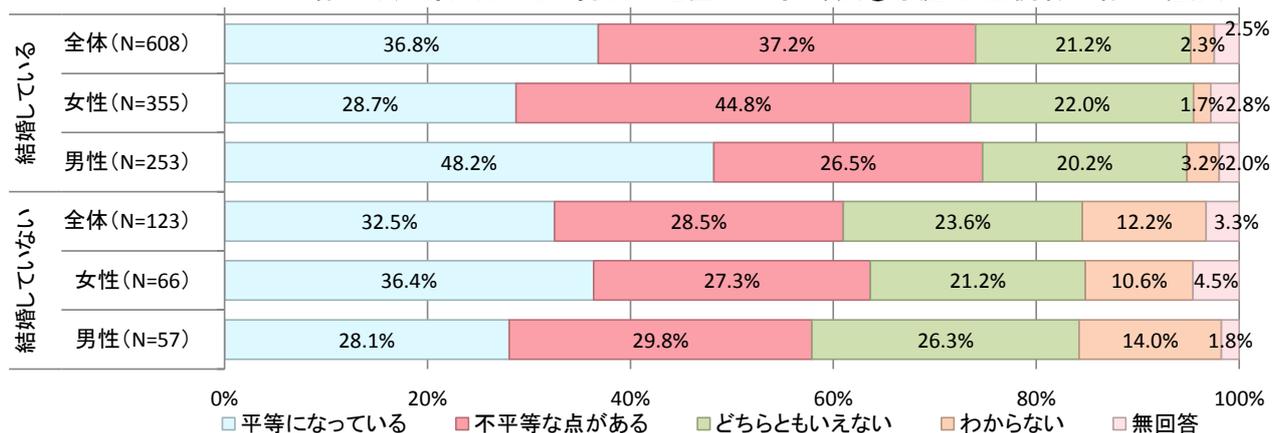
様々な分野における男女の地位の平等意識(性別)



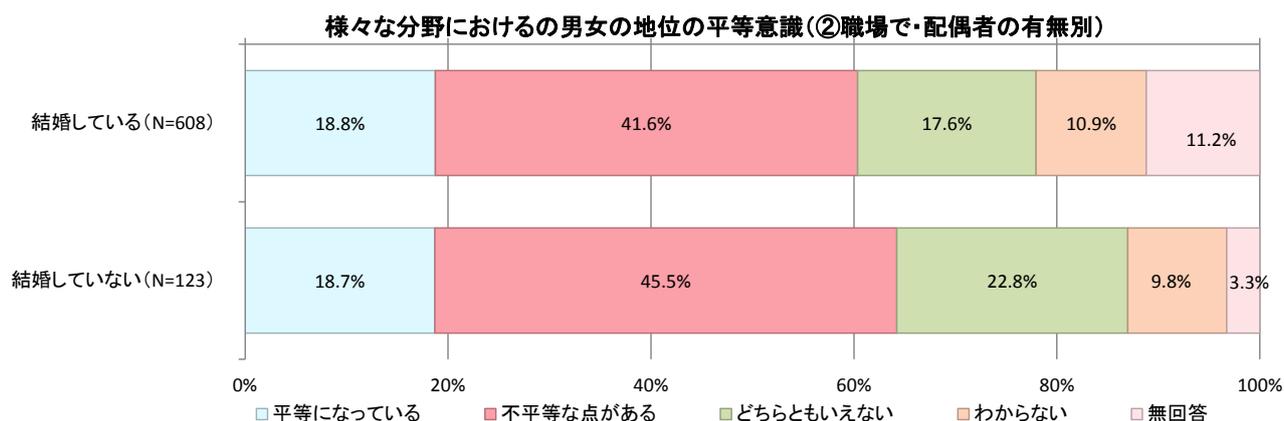
「①家庭で」の男女の地位の平等意識についてみると配偶者有無別では、「不平等な点がある（結婚している：37.2%、結婚していない：28.5%）」の割合は「結婚している」が高くなっている。

性別にみると「不平等な点がある」の割合は、「結婚していない」については男性の方が若干高くなっているが、「結婚している」は女性（44.8%）の方が大幅に高くなっている。

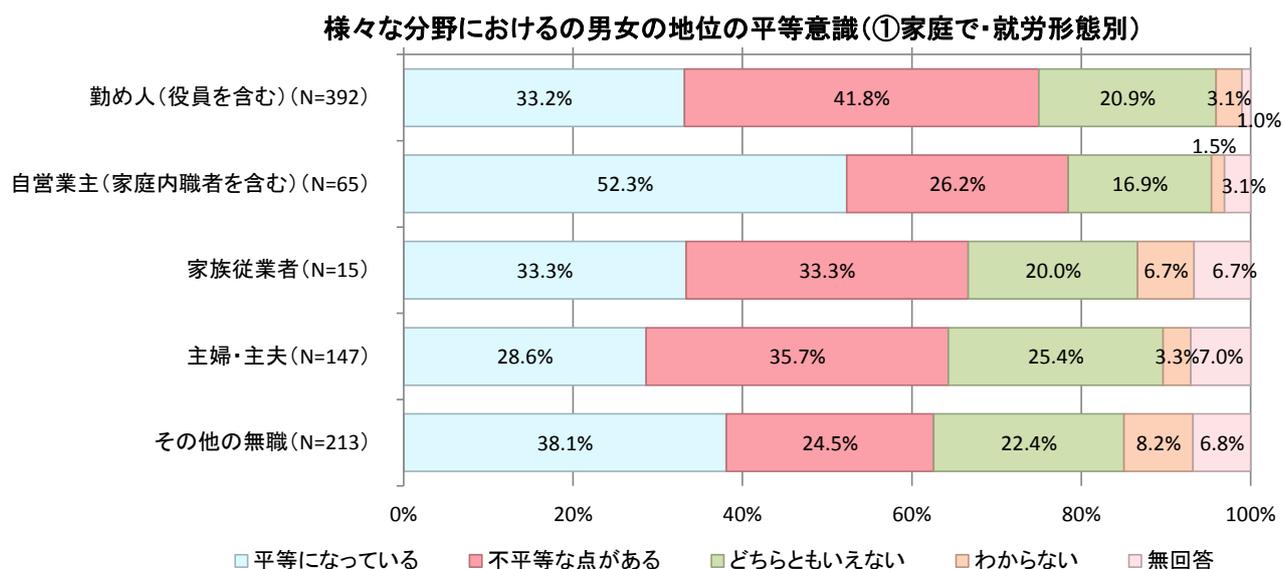
様々な分野におけるの男女の地位の平等意識(①家庭で・配偶者の有無・性別)



「②職場で」の男女の地位の平等意識について、配偶者有無別では、大きな差異はみられなかった。

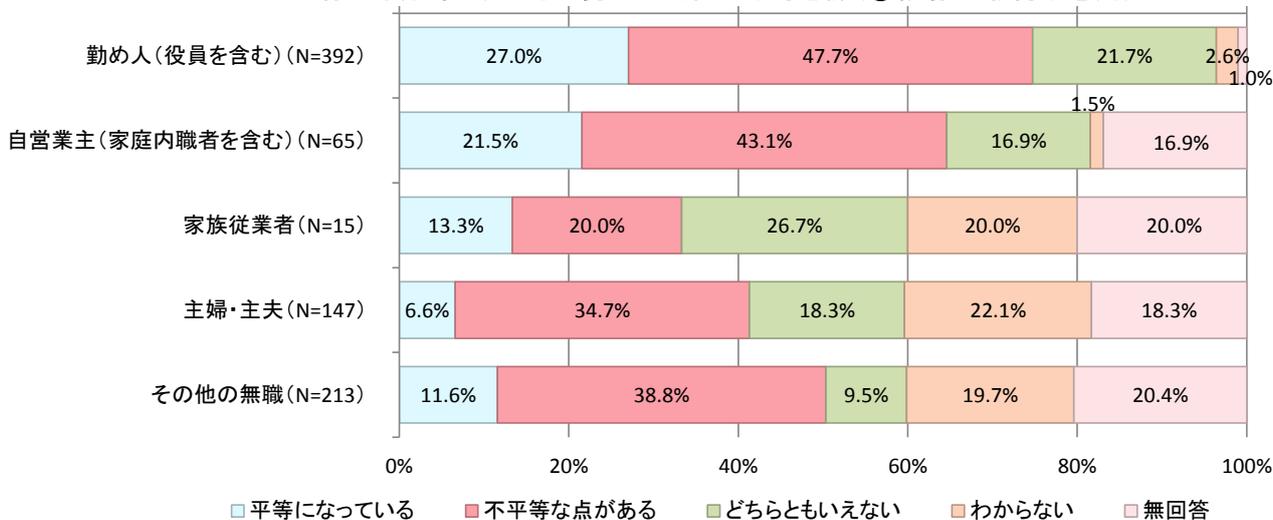


「①家庭で」の男女の地位の平等意識について、就労形態別では、「平等になっている」の割合は「自営業主(家庭内職者を含む)」(52.3%)が最も高く、次いで「その他の無職」(38.1%)、「家族従業者」(33.3%)となっている。



「②職場で」の男女の地位の平等意識について、就労形態別では、「平等になっている」の割合は「勤め人（役員を含む）」（27.0%）が最も高く、次いで「自営業主（家庭内職者を含む）」（21.5%）、「家族従業者」（13.3%）となっている。

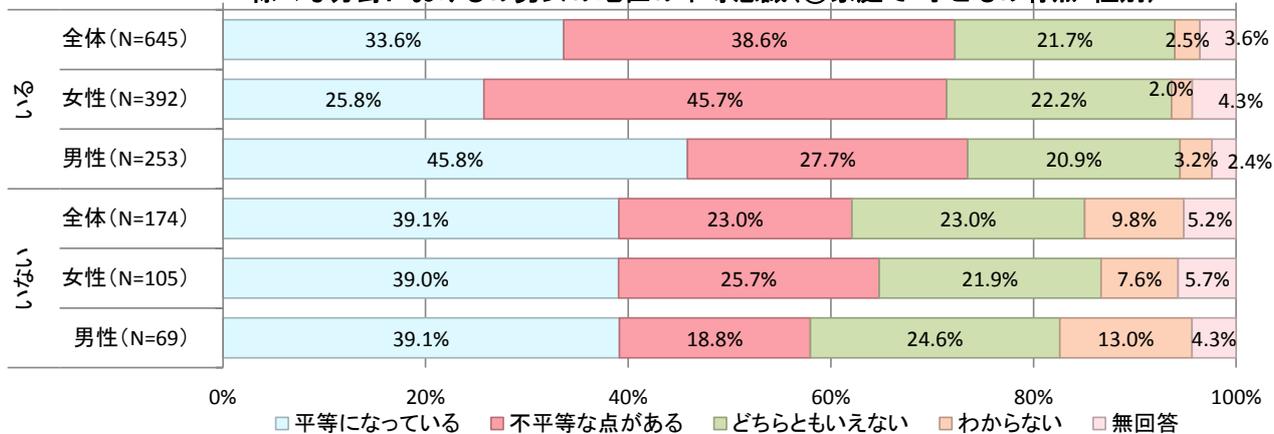
様々な分野における男女の地位の平等意識(②職場で・就労形態別)



「①家庭で」の男女の地位の平等意識について、子どもの有無別では、「不平等な点がある（いる：38.6%、いない：23.0%）」の割合は「いる」の方が高くなっている。

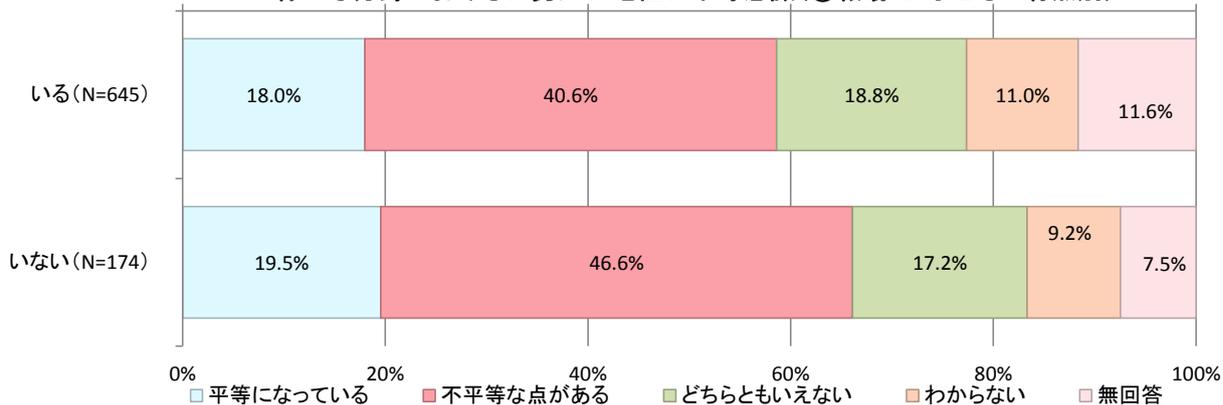
性別にみると「不平等な点がある」の割合は、「いる」、「いない」ともに女性が高くなっているが、「いる」については女性（45.7%）の方が大幅に高くなっている。

様々な分野における男女の地位の平等意識(①家庭で・子どもの有無・性別)



「②職場で」の男女の地位の平等意識について、子どもの有無別では、「不平等な点がある（いる：40.6%、いない：46.6%）」の割合は「いない」の方が高くなっている。

様々な分野における男女の地位の平等意識(②職場で・子どもの有無別)



様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別）1/4

	サンプル数	①家庭で					②職場で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	840	288	301	185	33	33	154	352	154	90	90	
	100.0%	34.3%	35.8%	22.0%	3.9%	3.9%	18.3%	41.9%	18.3%	10.7%	10.7%	
性別	女性	505	142	211	112	16	24	85	198	106	65	51
		100.0%	28.1%	41.8%	22.2%	3.2%	4.8%	16.8%	39.2%	21.0%	12.9%	10.1%
	男性	334	146	89	73	17	9	69	153	48	25	39
		100.0%	43.7%	26.6%	21.9%	5.1%	2.7%	20.7%	45.8%	14.4%	7.5%	11.7%
性・年代別	女性計	505	142	211	112	16	24	85	198	106	65	51
		100.0%	28.1%	41.8%	22.2%	3.2%	4.8%	16.8%	39.2%	21.0%	12.9%	10.1%
	10代・20代	47	23	16	6	1	1	11	15	14	5	2
		100.0%	48.9%	34.0%	12.8%	2.1%	2.1%	23.4%	31.9%	29.8%	10.6%	4.3%
	30代	71	18	35	14	3	1	10	35	16	8	2
		100.0%	25.4%	49.3%	19.7%	4.2%	1.4%	14.1%	49.3%	22.5%	11.3%	2.8%
	40代	82	21	43	14	4	0	15	42	21	4	0
		100.0%	25.6%	52.4%	17.1%	4.9%	0.0%	18.3%	51.2%	25.6%	4.9%	0.0%
	50代	100	26	43	28	1	2	20	49	19	11	1
		100.0%	26.0%	43.0%	28.0%	1.0%	2.0%	20.0%	49.0%	19.0%	11.0%	1.0%
	60代	117	28	49	33	3	4	24	37	29	18	9
		100.0%	23.9%	41.9%	28.2%	2.6%	3.4%	20.5%	31.6%	24.8%	15.4%	7.7%
	70歳以上	88	26	25	17	4	16	5	20	7	19	37
		100.0%	29.5%	28.4%	19.3%	4.5%	18.2%	5.7%	22.7%	8.0%	21.6%	42.0%
	男性計	334	146	89	73	17	9	69	153	48	25	39
		100.0%	43.7%	26.6%	21.9%	5.1%	2.7%	20.7%	45.8%	14.4%	7.5%	11.7%
10代・20代	22	8	10	3	1	0	4	10	3	4	1	
	100.0%	36.4%	45.5%	13.6%	4.5%	0.0%	18.2%	45.5%	13.6%	18.2%	4.5%	
30代	34	12	11	8	2	1	10	18	5	1	0	
	100.0%	35.3%	32.4%	23.5%	5.9%	2.9%	29.4%	52.9%	14.7%	2.9%	0.0%	
40代	40	15	15	8	1	1	13	19	6	1	1	
	100.0%	37.5%	37.5%	20.0%	2.5%	2.5%	32.5%	47.5%	15.0%	2.5%	2.5%	
50代	65	30	19	16	0	0	15	35	13	2	0	
	100.0%	46.2%	29.2%	24.6%	0.0%	0.0%	23.1%	53.8%	20.0%	3.1%	0.0%	
60代	98	42	24	22	7	3	19	46	13	6	14	
	100.0%	42.9%	24.5%	22.4%	7.1%	3.1%	19.4%	46.9%	13.3%	6.1%	14.3%	
70歳以上	75	39	10	16	6	4	8	25	8	11	23	
	100.0%	52.0%	13.3%	21.3%	8.0%	5.3%	10.7%	33.3%	10.7%	14.7%	30.7%	

%：各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別） 2/4

	サンプル数	③学校(学校教育の中で)					④政治の場で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	840	240	124	165	201	110	97	387	186	103	67	
	100.0%	28.6%	14.8%	19.6%	23.9%	13.1%	11.5%	46.1%	22.1%	12.3%	8.0%	
性別	女性	505	127	69	111	137	61	35	243	115	72	40
		100.0%	25.1%	13.7%	22.0%	27.1%	12.1%	6.9%	48.1%	22.8%	14.3%	7.9%
	男性	334	113	55	54	63	49	62	143	71	31	27
		100.0%	33.8%	16.5%	16.2%	18.9%	14.7%	18.6%	42.8%	21.3%	9.3%	8.1%
性・年代別	女性計	505	127	69	111	137	61	35	243	115	72	40
		100.0%	25.1%	13.7%	22.0%	27.1%	12.1%	6.9%	48.1%	22.8%	14.3%	7.9%
	10代・20代	47	15	12	11	7	2	3	25	11	6	2
		100.0%	31.9%	25.5%	23.4%	14.9%	4.3%	6.4%	53.2%	23.4%	12.8%	4.3%
	30代	71	21	12	15	19	4	4	39	16	12	0
		100.0%	29.6%	16.9%	21.1%	26.8%	5.6%	5.6%	54.9%	22.5%	16.9%	0.0%
	40代	82	30	14	19	17	2	6	44	22	9	1
		100.0%	36.6%	17.1%	23.2%	20.7%	2.4%	7.3%	53.7%	26.8%	11.0%	1.2%
	50代	100	27	15	26	27	5	6	62	21	10	1
		100.0%	27.0%	15.0%	26.0%	27.0%	5.0%	6.0%	62.0%	21.0%	10.0%	1.0%
	60代	117	24	11	29	41	12	8	45	33	23	8
		100.0%	20.5%	9.4%	24.8%	35.0%	10.3%	6.8%	38.5%	28.2%	19.7%	6.8%
	70歳以上	88	10	5	11	26	36	8	28	12	12	28
		100.0%	11.4%	5.7%	12.5%	29.5%	40.9%	9.1%	31.8%	13.6%	13.6%	31.8%
	男性計	334	113	55	54	63	49	62	143	71	31	27
		100.0%	33.8%	16.5%	16.2%	18.9%	14.7%	18.6%	42.8%	21.3%	9.3%	8.1%
	10代・20代	22	9	7	5	0	1	5	11	4	2	0
		100.0%	40.9%	31.8%	22.7%	0.0%	4.5%	22.7%	50.0%	18.2%	9.1%	0.0%
	30代	34	11	8	5	10	0	8	12	9	5	0
	100.0%	32.4%	23.5%	14.7%	29.4%	0.0%	23.5%	35.3%	26.5%	14.7%	0.0%	
40代	40	15	11	6	6	2	1	23	12	2	2	
	100.0%	37.5%	27.5%	15.0%	15.0%	5.0%	2.5%	57.5%	30.0%	5.0%	5.0%	
50代	65	28	11	14	9	3	13	33	9	8	2	
	100.0%	43.1%	16.9%	21.5%	13.8%	4.6%	20.0%	50.8%	13.8%	12.3%	3.1%	
60代	98	33	11	16	20	18	23	41	19	7	8	
	100.0%	33.7%	11.2%	16.3%	20.4%	18.4%	23.5%	41.8%	19.4%	7.1%	8.2%	
70歳以上	75	17	7	8	18	25	12	23	18	7	15	
	100.0%	22.7%	9.3%	10.7%	24.0%	33.3%	16.0%	30.7%	24.0%	9.3%	20.0%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別） 3/4

	サンプル数	⑤法律や制度の上で					⑥社会通念・慣習・しきたりの中で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	840	136	346	196	102	60	57	540	134	55	54	
	100.0%	16.2%	41.2%	23.3%	12.1%	7.1%	6.8%	64.3%	16.0%	6.5%	6.4%	
性別	女性	505	43	218	130	76	38	26	327	78	39	35
		100.0%	8.5%	43.2%	25.7%	15.0%	7.5%	5.1%	64.8%	15.4%	7.7%	6.9%
	男性	334	93	127	66	26	22	31	212	56	16	19
		100.0%	27.8%	38.0%	19.8%	7.8%	6.6%	9.3%	63.5%	16.8%	4.8%	5.7%
性・年代別	女性計	505	43	218	130	76	38	26	327	78	39	35
		100.0%	8.5%	43.2%	25.7%	15.0%	7.5%	5.1%	64.8%	15.4%	7.7%	6.9%
	10代・20代	47	6	18	15	6	2	5	31	7	2	2
		100.0%	12.8%	38.3%	31.9%	12.8%	4.3%	10.6%	66.0%	14.9%	4.3%	4.3%
	30代	71	1	33	26	10	1	3	50	12	6	0
		100.0%	1.4%	46.5%	36.6%	14.1%	1.4%	4.2%	70.4%	16.9%	8.5%	0.0%
	40代	82	7	42	20	13	0	1	70	8	3	0
		100.0%	8.5%	51.2%	24.4%	15.9%	0.0%	1.2%	85.4%	9.8%	3.7%	0.0%
	50代	100	7	58	23	11	1	4	75	13	8	0
		100.0%	7.0%	58.0%	23.0%	11.0%	1.0%	4.0%	75.0%	13.0%	8.0%	0.0%
	60代	117	11	46	34	20	6	8	70	22	10	7
		100.0%	9.4%	39.3%	29.1%	17.1%	5.1%	6.8%	59.8%	18.8%	8.5%	6.0%
	70歳以上	88	11	21	12	16	28	5	31	16	10	26
		100.0%	12.5%	23.9%	13.6%	18.2%	31.8%	5.7%	35.2%	18.2%	11.4%	29.5%
	男性計	334	93	127	66	26	22	31	212	56	16	19
		100.0%	27.8%	38.0%	19.8%	7.8%	6.6%	9.3%	63.5%	16.8%	4.8%	5.7%
	10代・20代	22	8	10	2	2	0	2	17	1	2	0
		100.0%	36.4%	45.5%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	77.3%	4.5%	9.1%	0.0%
	30代	34	12	7	11	4	0	5	23	3	3	0
	100.0%	35.3%	20.6%	32.4%	11.8%	0.0%	14.7%	67.6%	8.8%	8.8%	0.0%	
40代	40	8	19	10	2	1	0	33	5	1	1	
	100.0%	20.0%	47.5%	25.0%	5.0%	2.5%	0.0%	82.5%	12.5%	2.5%	2.5%	
50代	65	21	25	13	3	3	5	41	14	3	2	
	100.0%	32.3%	38.5%	20.0%	4.6%	4.6%	7.7%	63.1%	21.5%	4.6%	3.1%	
60代	98	28	40	14	10	6	12	58	21	3	4	
	100.0%	28.6%	40.8%	14.3%	10.2%	6.1%	12.2%	59.2%	21.4%	3.1%	4.1%	
70歳以上	75	16	26	16	5	12	7	40	12	4	12	
	100.0%	21.3%	34.7%	21.3%	6.7%	16.0%	9.3%	53.3%	16.0%	5.3%	16.0%	

%：各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別） 4/4

		サンプル数	⑦地域社会の中で				
			平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答
全体		840	94	408	219	71	48
		100.0%	11.2%	48.6%	26.1%	8.5%	5.7%
性別	女性	505	42	251	135	48	29
		100.0%	8.3%	49.7%	26.7%	9.5%	5.7%
	男性	334	52	156	84	23	19
		100.0%	15.6%	46.7%	25.1%	6.9%	5.7%
性・年代別	女性計	505	42	251	135	48	29
		100.0%	8.3%	49.7%	26.7%	9.5%	5.7%
	10代・20代	47	8	24	9	5	1
		100.0%	17.0%	51.1%	19.1%	10.6%	2.1%
	30代	71	4	34	20	13	0
		100.0%	5.6%	47.9%	28.2%	18.3%	0.0%
	40代	82	5	51	21	5	0
		100.0%	6.1%	62.2%	25.6%	6.1%	0.0%
	50代	100	6	63	22	9	0
		100.0%	6.0%	63.0%	22.0%	9.0%	0.0%
	60代	117	8	52	42	9	6
		100.0%	6.8%	44.4%	35.9%	7.7%	5.1%
	70歳以上	88	11	27	21	7	22
		100.0%	12.5%	30.7%	23.9%	8.0%	25.0%
	男性計	334	52	156	84	23	19
		100.0%	15.6%	46.7%	25.1%	6.9%	5.7%
10代・20代	22	4	9	5	4	0	
	100.0%	18.2%	40.9%	22.7%	18.2%	0.0%	
30代	34	7	15	7	5	0	
	100.0%	20.6%	44.1%	20.6%	14.7%	0.0%	
40代	40	0	26	12	1	1	
	100.0%	0.0%	65.0%	30.0%	2.5%	2.5%	
50代	65	15	27	16	4	3	
	100.0%	23.1%	41.5%	24.6%	6.2%	4.6%	
60代	98	15	50	25	4	4	
	100.0%	15.3%	51.0%	25.5%	4.1%	4.1%	
70歳以上	75	11	29	19	5	11	
	100.0%	14.7%	38.7%	25.3%	6.7%	14.7%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 社会全体でみた場合の地位の平等意識

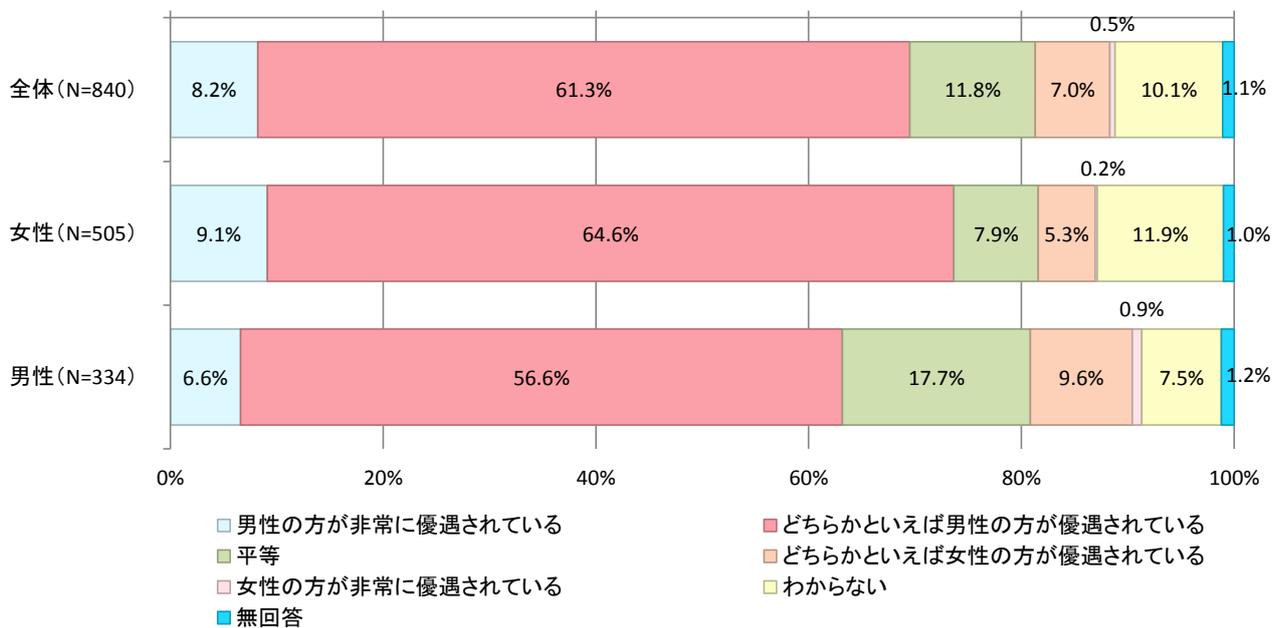
【問9】 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。

～『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回る～

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識についてみると、全体では『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」）＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が69.5%、『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」）＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）が7.5%となっており、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

性別にみると、『男性優遇』（女性：73.7%、男性：63.2%）の割合は女性が男性より高く、『女性優遇』（女性：5.5%、男性：10.5%）の割合は男性が女性より高くなっている。また、「平等」（女性：7.9%、男性：17.7%）の割合は男性が女性より高くなっている。

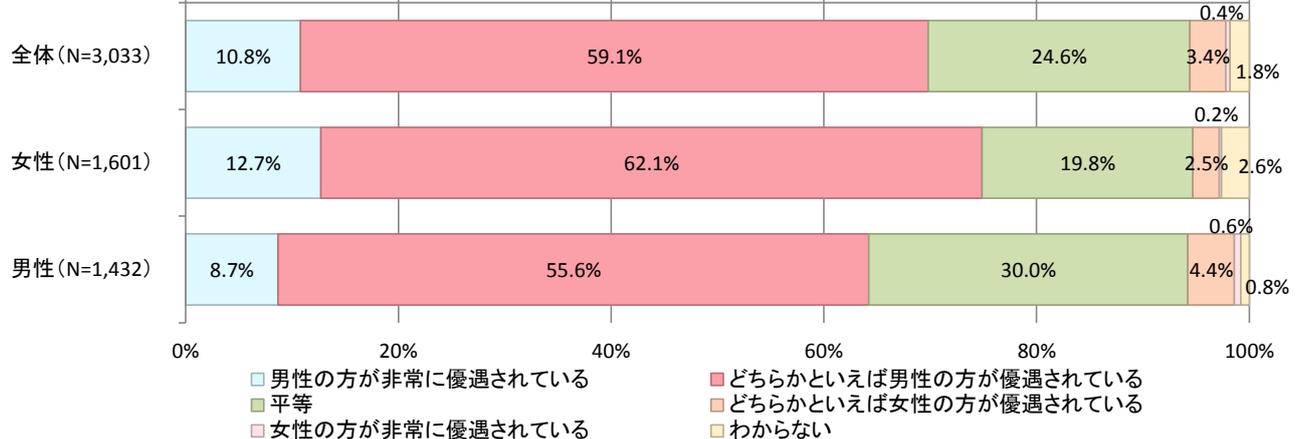
社会全体でみた場合の男女の平等意識(全体・性別)



内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに霧島市は「平等」の割合が低く、『女性優遇』の割合が高くなっている。

【内閣府調査】

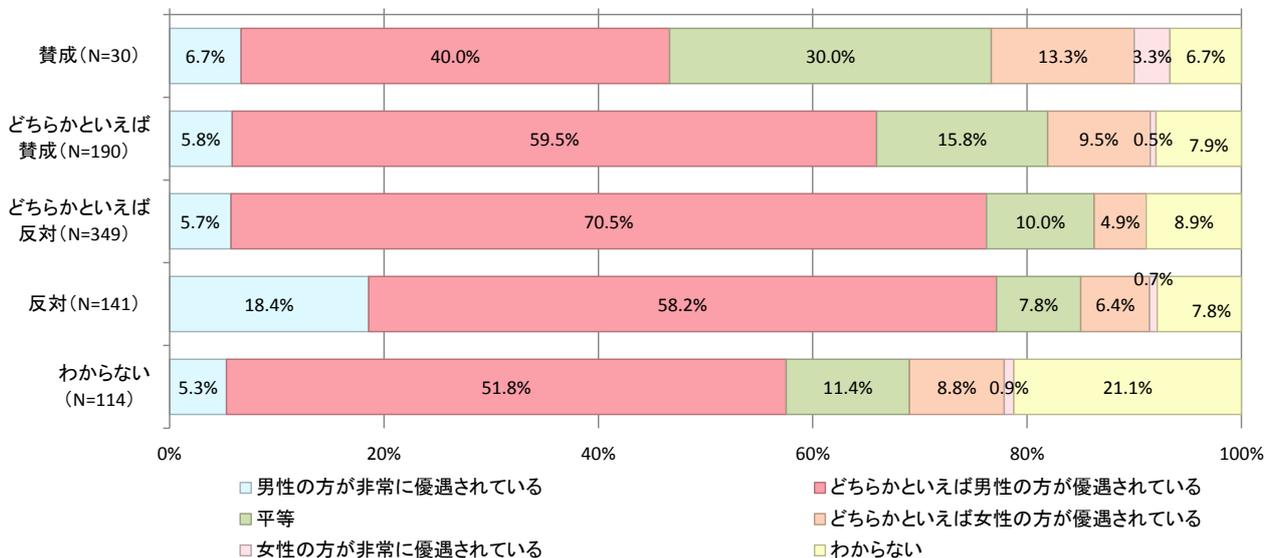
社会全体における男女の地位の平等感(全体・性別)



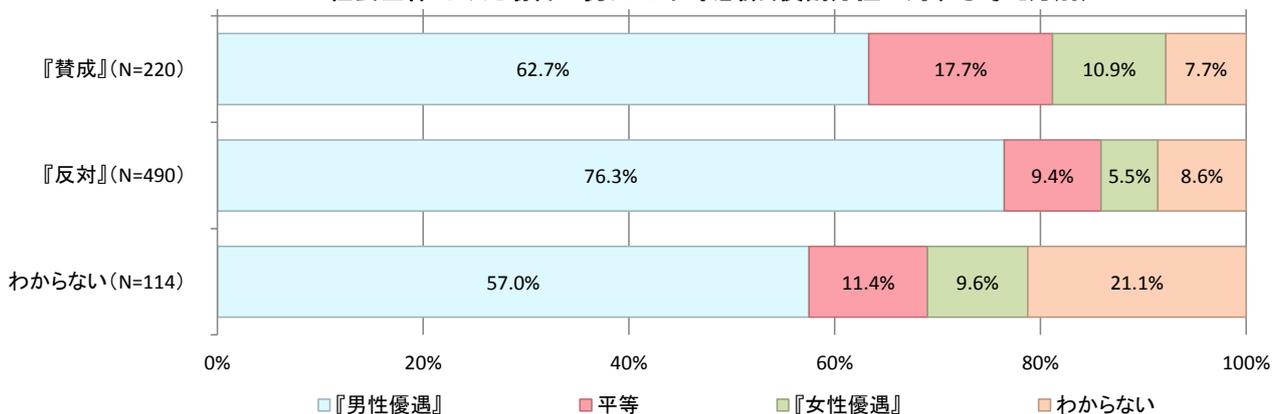
性別役割分担に対する考え方（問12「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）別にみると、性別役割分担に『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）の人は『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）の人より、『男性優遇』と答えた割合が高く、『女性優遇』『平等』の割合は低くなっている。

		社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識							無回答	
		サンプル数	『男性優遇』		平等	『女性優遇』		わからない		
			るに男 優性 遇の さ方 れが て非 い常	遇ばど さ男 れ性 ら ての か い方 と るが い 優え		遇ばど さ女 れ性 ら ての か い方 と るが い 優え	るに女 優性 遇の さ方 れが て非 い常			
全体		840	69	515	99	59	4	85	9	
担性 考に別 え対 役割 す割 る分	『賛成』	賛成	30	2	12	9	4	1	2	0
		どちらかといえば賛成	190	11	113	30	18	1	15	2
	『反対』	どちらかといえば反対	349	20	246	35	17	0	31	0
		反対	141	26	82	11	9	1	11	1
	わからない	114	6	59	13	10	1	24	1	
無回答		16	4	3	1	1	0	2	5	

社会全体でみた場合の男女の平等意識（役割分担に対する考え方別）



社会全体でみた場合の男女の平等意識（役割分担に対する考え方別）



『賛成』 (N=220) = 「賛成」 (N=30) + 「どちらかといえば賛成」 (N=190)

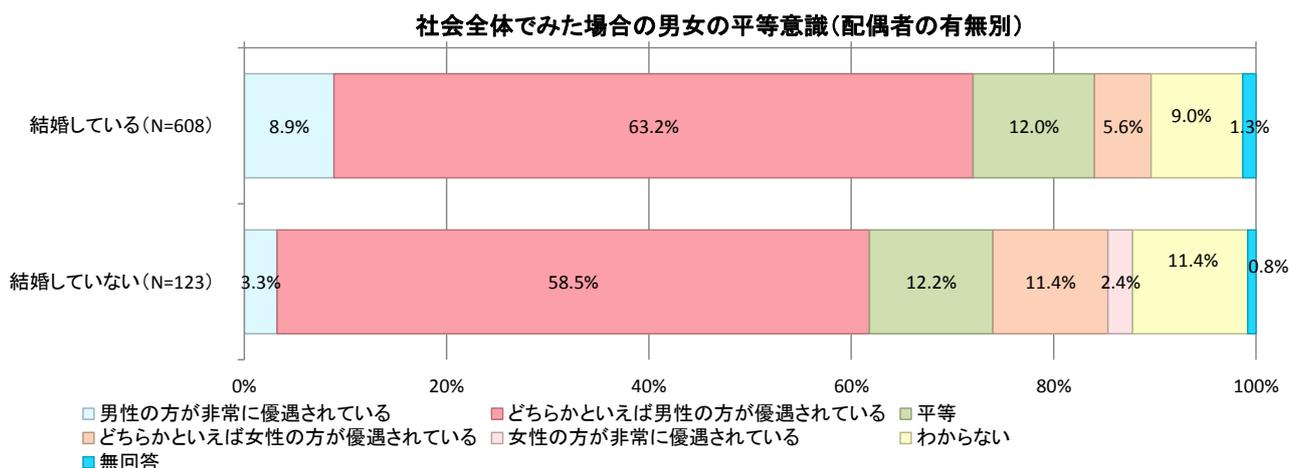
『反対』 (N=490) = 「反対」 (N=141) + 「どちらかといえば反対」 (N=349)

『男性優遇』 = 「男性のほう非常に優遇されている」 + 「どちらかといえば男性のほう優遇されている」

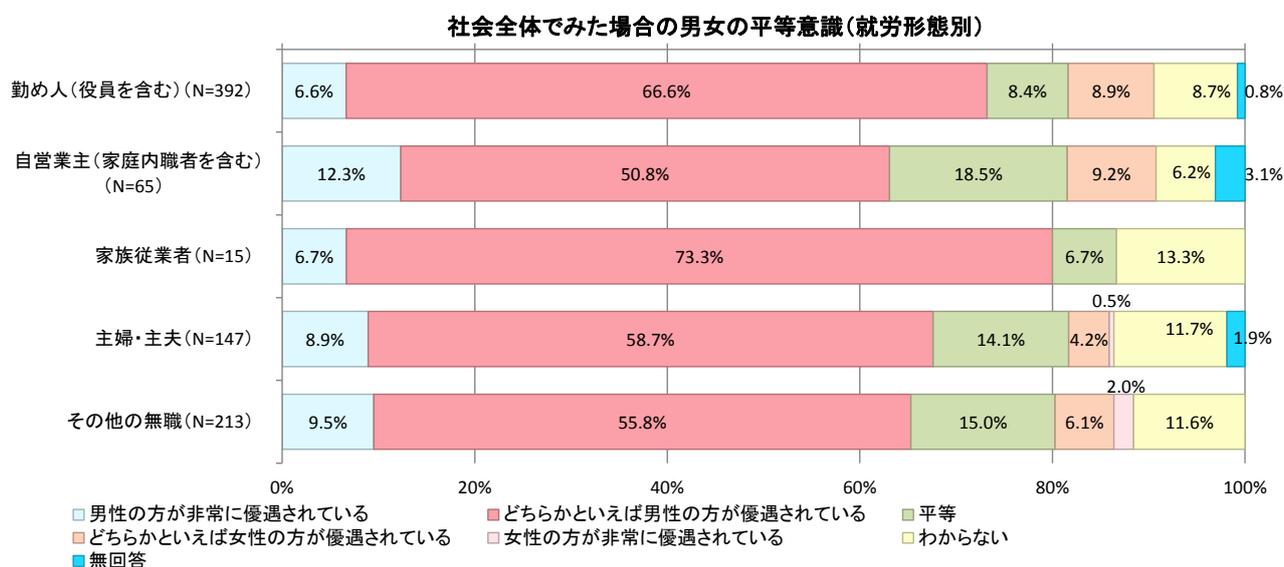
『女性優遇』 = 「女性のほう非常に優遇されている」 + 「どちらかといえば女性のほう優遇されている」

※以後本報告書では、性的役割分担の考え方に「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合計したものを『賛成』とし、「反対」、「どちらかといえば反対」を合計したものを『反対』とする。

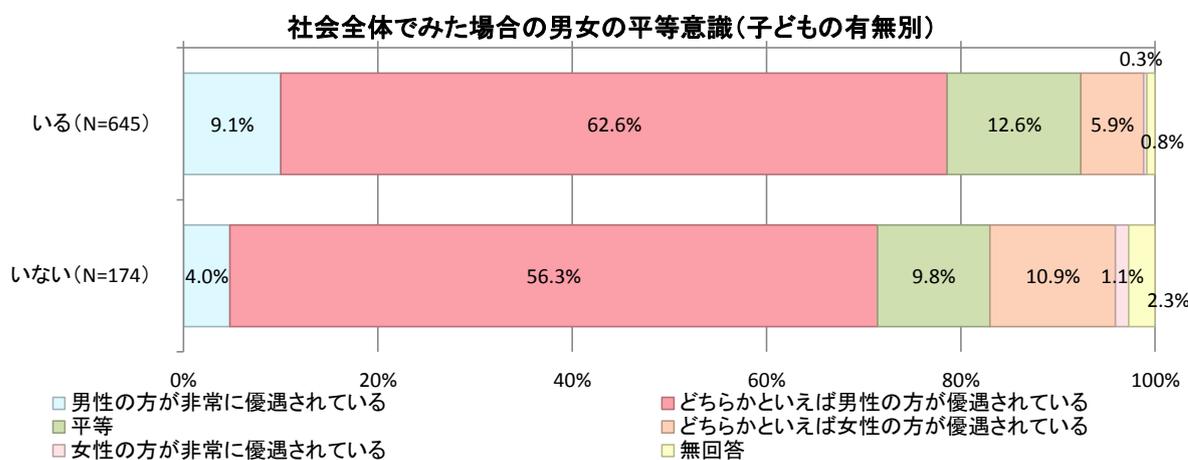
配偶者の有無別にみると、『男性優遇』（結婚している：72.1%、結婚していない：61.8%）の割合は「結婚している」が高くなっている。



就労形態別にみると、『男性優遇』の割合は「家族従業者」（80.0%）と最も高く、次いで「勤め人（役員を含む）」（73.2%）、「主婦・主夫」（67.6%）となっている。



子どもの有無別にみると、『男性優遇』（いる：71.7%、いない：60.3%）の割合は「いる」が高くなっている。



社会全体でみた場合の地位の平等意識（性・年代別）

	サンプル数	社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識							
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	840	69	515	99	59	4	85	9	
	100.0%	8.2%	61.3%	11.8%	7.0%	0.5%	10.1%	1.1%	
性・年代別	女性計	46	326	40	27	1	60	5	
		100.0%	9.1%	64.6%	7.9%	5.3%	0.2%	11.9%	1.0%
	10代・20代	47	3	27	2	8	0	6	1
		100.0%	6.4%	57.4%	4.3%	17.0%	0.0%	12.8%	2.1%
	30代	71	6	46	5	5	0	9	0
		100.0%	8.5%	64.8%	7.0%	7.0%	0.0%	12.7%	0.0%
	40代	82	6	62	2	3	0	9	0
		100.0%	7.3%	75.6%	2.4%	3.7%	0.0%	11.0%	0.0%
	50代	100	9	73	4	4	0	10	0
		100.0%	9.0%	73.0%	4.0%	4.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	60代	117	11	75	10	6	0	14	1
		100.0%	9.4%	64.1%	8.5%	5.1%	0.0%	12.0%	0.9%
	70歳以上	88	11	43	17	1	1	12	3
		100.0%	12.5%	48.9%	19.3%	1.1%	1.1%	13.6%	3.4%
	男性計	334	22	189	59	32	3	25	4
		100.0%	6.6%	56.6%	17.7%	9.6%	0.9%	7.5%	1.2%
10代・20代	22	0	10	5	5	1	1	0	
	100.0%	0.0%	45.5%	22.7%	22.7%	4.5%	4.5%	0.0%	
30代	34	3	11	5	8	1	5	1	
	100.0%	8.8%	32.4%	14.7%	23.5%	2.9%	14.7%	2.9%	
40代	40	2	23	4	5	0	5	1	
	100.0%	5.0%	57.5%	10.0%	12.5%	0.0%	12.5%	2.5%	
50代	65	6	40	11	4	1	3	0	
	100.0%	9.2%	61.5%	16.9%	6.2%	1.5%	4.6%	0.0%	
60代	98	7	65	14	6	0	5	1	
	100.0%	7.1%	66.3%	14.3%	6.1%	0.0%	5.1%	1.0%	
70歳以上	75	4	40	20	4	0	6	1	
	100.0%	5.3%	53.3%	26.7%	5.3%	0.0%	8.0%	1.3%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(3) 男女が平等でない原因

【問10】 問8で「不平等な点がある」、問9で「1. 2. 4. 5」のいずれかを選んだ方におたずねします。その主な原因はどこにあると思いますか。(複数回答)

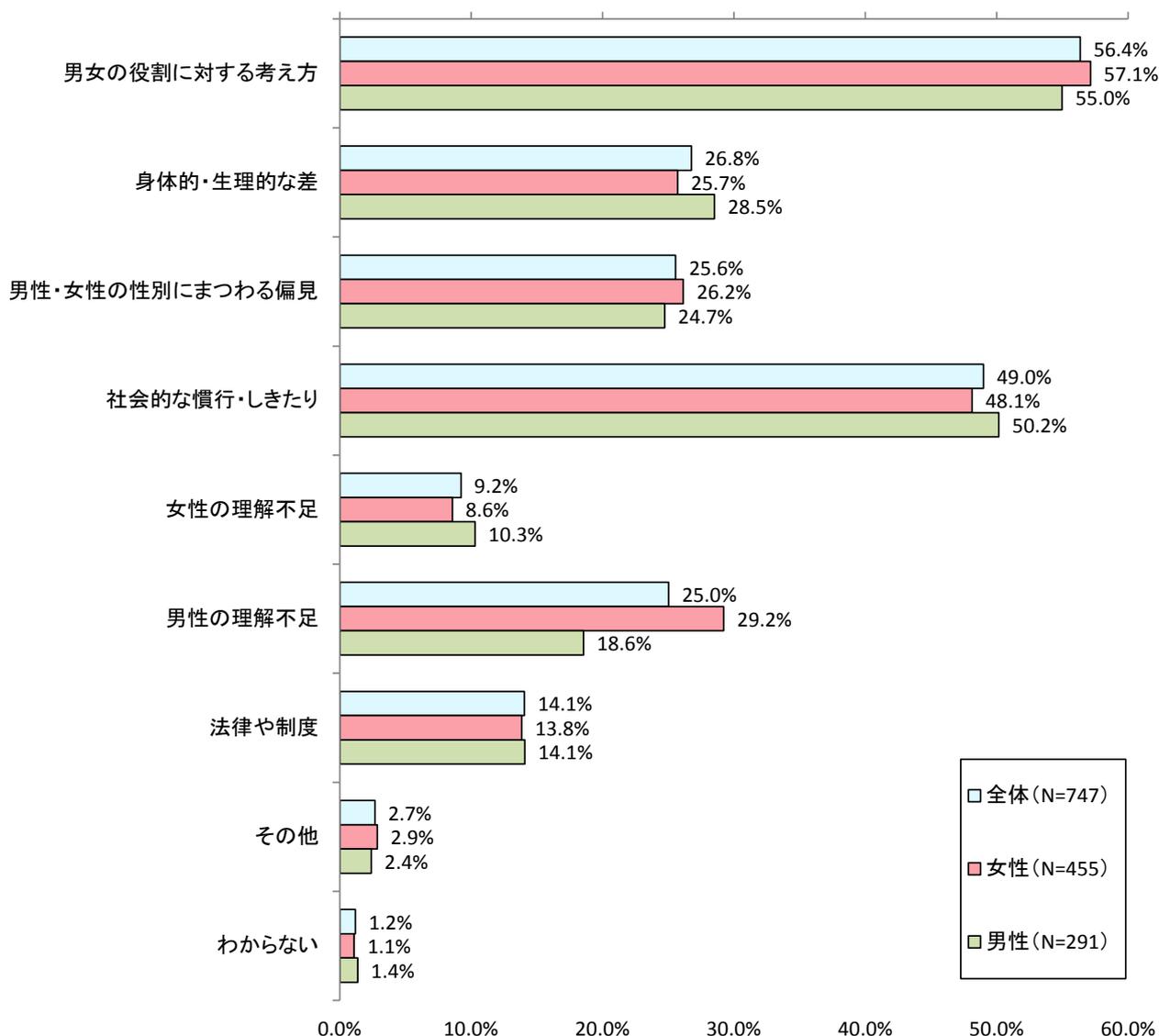
- ※問9の選択肢
1. 男性の方が非常に優遇されている
 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
 5. 女性の方が非常に優遇されている

～「男女の役割に対する考え方」「社会的な慣行・しきたり」が原因と考える人が多い～

男女が平等でない原因についてみると、全体では「男女の役割に対する考え方」(56.4%)の割合が最も高く、次いで「社会的な慣行・しきたり」(49.0%)、「身体的・生理的な差」(26.8%)となっている。

性別にみると、「男性の理解不足」(女性：29.2%、男性：18.6%)で女性の割合が男性より高く、「身体的・生理的な差」(女性：25.7%、男性：28.5%)で男性の割合が女性より高くなっている。

男女が平等でない原因(全体・性別)



男女が平等でない原因（性・年代・性別役割分担に対する考え方別）（複数回答）

	サンプル数	男女が平等でない原因								
		男女の役割に対する考え方	身体的・生理的な差	男性・女性の性別にまつわる偏見	社会的な慣行・しきたり	女性の理解不足	男性の理解不足	法律や制度	その他	わからない
全体	747	421 56.4%	200 26.8%	191 25.6%	366 49.0%	69 9.2%	187 25.0%	105 14.1%	20 2.7%	9 1.2%
性・年代別	女性計	455 260 57.1%	117 25.7%	119 26.2%	219 48.1%	39 8.6%	133 29.2%	63 13.8%	13 2.9%	5 1.1%
	10代・20代	43 20 46.5%	10 23.3%	12 27.9%	17 39.5%	5 11.6%	7 16.3%	5 11.6%	1 2.3%	1 2.3%
	30代	67 40 59.7%	23 34.3%	15 22.4%	35 52.2%	6 9.0%	18 26.9%	7 10.4%	1 1.5%	0 0.0%
	40代	80 49 61.3%	20 25.0%	26 32.5%	46 57.5%	4 5.0%	27 33.8%	11 13.8%	2 2.5%	1 1.3%
	50代	95 56 58.9%	29 30.5%	31 32.6%	49 51.6%	6 6.3%	31 32.6%	17 17.9%	2 2.1%	0 0.0%
	60代	105 65 61.9%	25 23.8%	25 23.8%	40 38.1%	11 10.5%	28 26.7%	12 11.4%	2 1.9%	1 1.0%
	70歳以上	65 30 46.2%	10 15.4%	10 15.4%	32 49.2%	7 10.8%	22 33.8%	11 16.9%	5 7.7%	2 3.1%
	男性計	291 160 55.0%	83 28.5%	72 24.7%	146 50.2%	30 10.3%	54 18.6%	41 14.1%	7 2.4%	4 1.4%
	10代・20代	21 9 42.9%	5 23.8%	6 28.6%	7 33.3%	4 19.0%	3 14.3%	5 23.8%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	29 17 58.6%	8 27.6%	8 27.6%	10 34.5%	4 13.8%	6 20.7%	5 17.2%	3 10.3%	0 0.0%
	40代	36 22 61.1%	7 19.4%	7 19.4%	21 58.3%	2 5.6%	7 19.4%	5 13.9%	1 2.8%	0 0.0%
	50代	59 40 67.8%	21 35.6%	15 25.4%	29 49.2%	5 8.5%	9 15.3%	8 13.6%	1 1.7%	0 0.0%
	60代	89 46 51.7%	30 33.7%	22 24.7%	49 55.1%	10 11.2%	19 21.3%	11 12.4%	1 1.1%	3 3.4%
	70歳以上	57 26 45.6%	12 21.1%	14 24.6%	30 52.6%	5 8.8%	10 17.5%	7 12.3%	1 1.8%	1 1.8%
	対する性別役割 分担に 考え方	『賛成』	192 104 54.2%	71 37.0%	43 22.4%	91 47.4%	19 9.9%	34 17.7%	23 12.0%	9 4.7%
『反対』		454 263 57.9%	104 22.9%	124 27.3%	237 52.2%	40 8.8%	133 29.3%	71 15.6%	9 2.0%	5 1.1%
わからない		93 51 54.8%	23 24.7%	22 23.7%	37 39.8%	10 10.8%	18 19.4%	9 9.7%	2 2.2%	1 1.1%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(4) 男女が平等になるために重要なこと

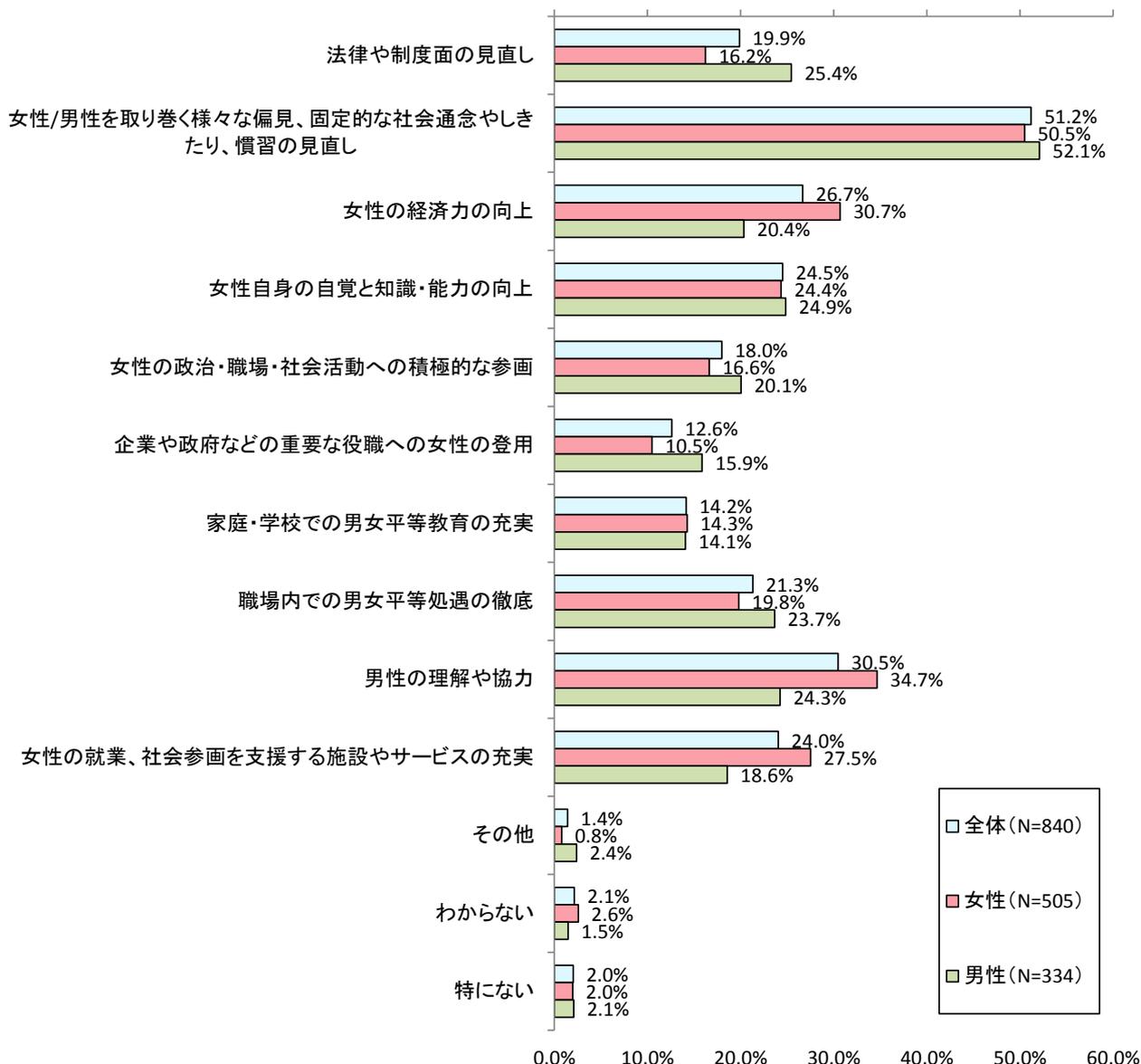
【問 11】 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要であると思いますか。(複数回答)

～女性や男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直しが必要～

男女が平等になるために重要なことについてみると、全体では「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(51.2%)の割合が最も高く、次いで「男性の理解や協力」(30.5%)、「女性の経済力の向上」(26.7%)となっている。

性別にみると、「女性の経済力の向上」(女性：30.7%、男性：20.4%)、「男性の理解や協力」(女性：34.7%、男性：24.3%)、「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実」(女性：27.5%、男性：18.6%)で女性の割合が男性より高く、「法律や制度面の見直し」(女性：16.2%、男性25.4%)、「企業や政府などの重要な役職への女性の登用」(女性：10.5%、男性：15.9%)で男性の割合が女性より高くなっている。

男女が平等になるために重要なこと(全体・性別)



男女が平等になるために重要なこと（性・年代別）（複数回答）1/2

	サンプル数	男女が平等になるために重要なこと							
		法律や制度面の見直し	女性の見直し の固 定的 な 社 会 通 念 や し き た り 、 偏 見 、 慣 習	女性 の 経 済 力 の 向 上	女性 自 身 の 自 覚 と 知 識 ・ 能 力 の 向 上	極 端 な 参 画 の 政 治 ・ 職 場 ・ 社 会 活 動 へ の 積 極 的 な 参 画	性 の 登 用 の 政 府 な ど の 重 要 な 役 職 へ の 女 性	家 庭 ・ 学 校 で の 男 女 平 等 教 育 の 充 実	
全体	840	167 19.9%	430 51.2%	224 26.7%	206 24.5%	151 18.0%	106 12.6%	119 14.2%	
性・年代別	女性計	505	82 16.2%	255 50.5%	155 30.7%	123 24.4%	84 16.6%	53 10.5%	72 14.3%
	10代・20代	47	8 17.0%	20 42.6%	13 27.7%	9 19.1%	9 19.1%	3 6.4%	8 17.0%
	30代	71	16 22.5%	41 57.7%	19 26.8%	13 18.3%	13 18.3%	8 11.3%	11 15.5%
	40代	82	10 12.2%	48 58.5%	33 40.2%	11 13.4%	8 9.8%	8 9.8%	11 13.4%
	50代	100	18 18.0%	56 56.0%	37 37.0%	22 22.0%	12 12.0%	11 11.0%	6 6.0%
	60代	117	19 16.2%	66 56.4%	28 23.9%	37 31.6%	23 19.7%	12 10.3%	23 19.7%
	70歳以上	88	11 12.5%	24 27.3%	25 28.4%	31 35.2%	19 21.6%	11 12.5%	13 14.8%
	男性計	334	85 25.4%	174 52.1%	68 20.4%	83 24.9%	67 20.1%	53 15.9%	47 14.1%
	10代・20代	22	8 36.4%	11 50.0%	6 27.3%	6 27.3%	3 13.6%	0 0.0%	3 13.6%
	30代	34	12 35.3%	19 55.9%	5 14.7%	3 8.8%	8 23.5%	1 2.9%	7 20.6%
	40代	40	10 25.0%	27 67.5%	9 22.5%	3 7.5%	7 17.5%	9 22.5%	5 12.5%
	50代	65	20 30.8%	37 56.9%	14 21.5%	19 29.2%	11 16.9%	12 18.5%	10 15.4%
	60代	98	24 24.5%	51 52.0%	20 20.4%	32 32.7%	21 21.4%	18 18.4%	14 14.3%
	70歳以上	75	11 14.7%	29 38.7%	14 18.7%	20 26.7%	17 22.7%	13 17.3%	8 10.7%

%：各属性内での回答割合が最も高い

男女が平等になるために重要なこと（性・年代別）（複数回答） 2/2

		サンプル数	男女が平等になるために重要なこと					特 に な い
			職 場 内 で の 男 女 平 等 処 遇 の 徹 底	男 性 の 理 解 や 協 力	設 女 性 の 就 業 、 サ ー ビ ス の 充 実	そ の 他	わ か ら な い	
全体		840	179 21.3%	256 30.5%	202 24.0%	12 1.4%	18 2.1%	17 2.0%
性・年代別	女性 計	505	100 19.8%	175 34.7%	139 27.5%	4 0.8%	13 2.6%	10 2.0%
	10代・20代	47	8 17.0%	17 36.2%	19 40.4%	0 0.0%	1 2.1%	0 0.0%
	30代	71	16 22.5%	22 31.0%	20 28.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.2%
	40代	82	19 23.2%	35 42.7%	21 25.6%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
	50代	100	26 26.0%	36 36.0%	32 32.0%	0 0.0%	3 3.0%	0 0.0%
	60代	117	18 15.4%	39 33.3%	29 24.8%	1 0.9%	2 1.7%	2 1.7%
	70歳以上	88	13 14.8%	26 29.5%	18 20.5%	1 1.1%	7 8.0%	5 5.7%
	男性 計	334	79 23.7%	81 24.3%	62 18.6%	8 2.4%	5 1.5%	7 2.1%
	10代・20代	22	4 18.2%	9 40.9%	2 9.1%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	34	8 23.5%	12 35.3%	4 11.8%	4 11.8%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	40	6 15.0%	8 20.0%	6 15.0%	2 5.0%	1 2.5%	1 2.5%
	50代	65	19 29.2%	11 16.9%	14 21.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%
	60代	98	20 20.4%	22 22.4%	25 25.5%	1 1.0%	0 0.0%	3 3.1%
	70歳以上	75	22 29.3%	19 25.3%	11 14.7%	0 0.0%	4 5.3%	2 2.7%

3. 家庭生活について

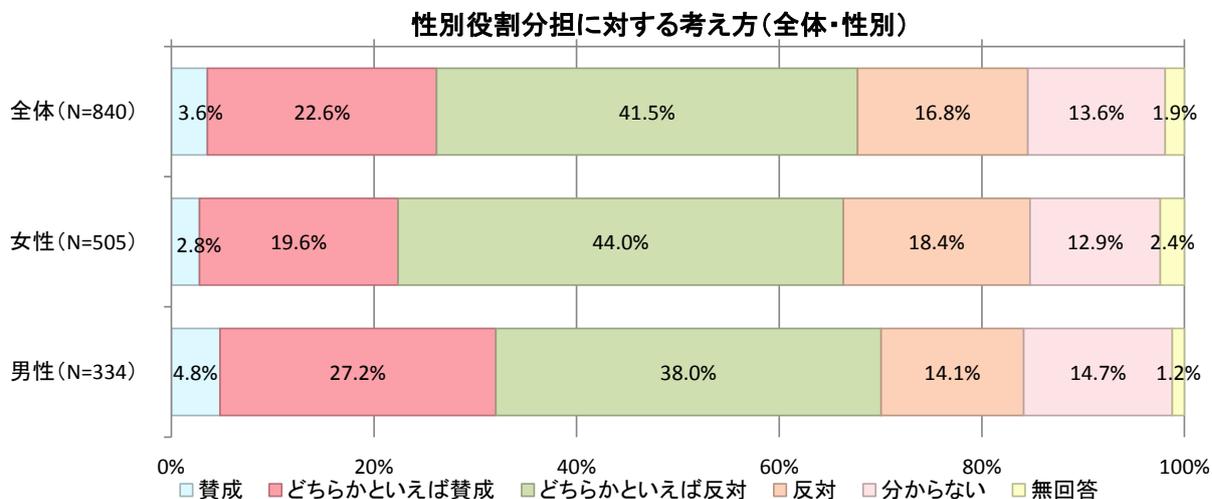
(1) 性別役割分担に対する考え方

【問 12】 「男性は仕事、女性は家庭」というような、性別によって固定的に役割などを分けてしまう考えがありますが、あなたはどのように思いますか。

～『反対』が『賛成』を上回る～

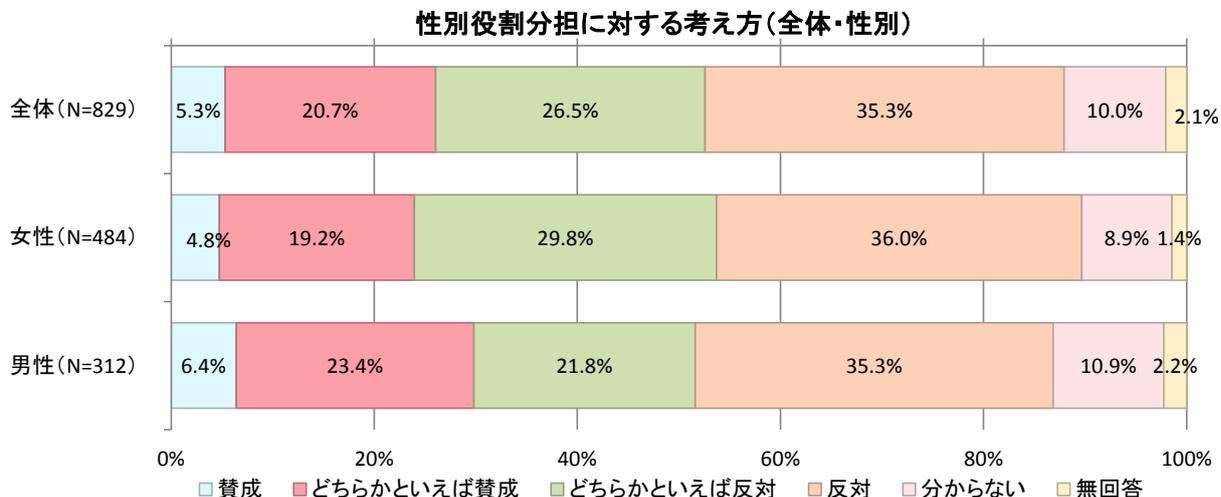
「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に対する考え方についてみると、全体では『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が26.2%、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が58.3%となっており、『反対』が『賛成』を上回っている。

性別にみると、『賛成』（女性：22.4%、男性：32.0%）の割合は男性が女性より高く、『反対』（女性：62.4%、男性：52.1%）の割合は女性が男性より高くなっている。



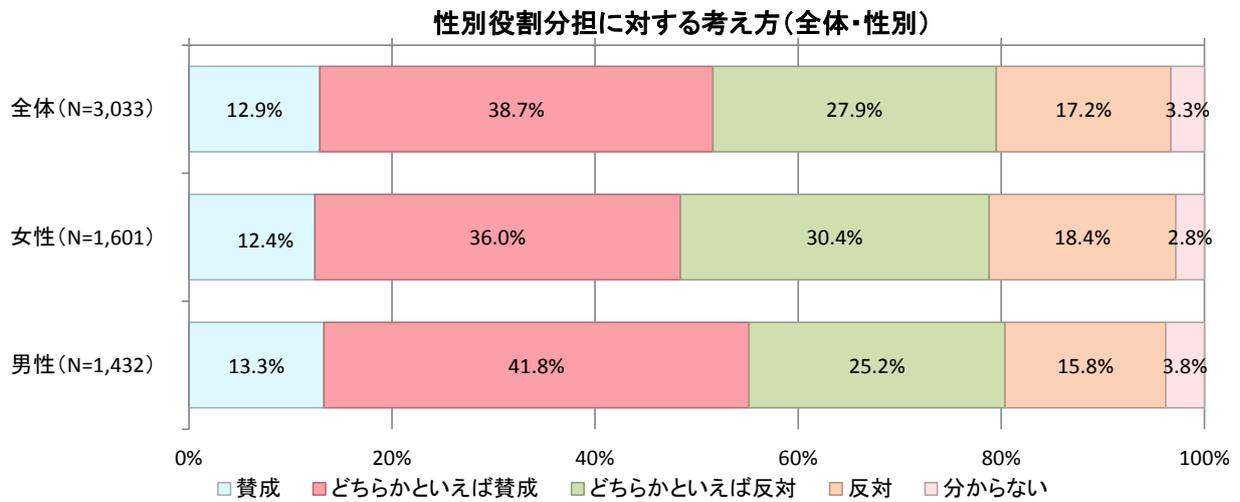
前回調査と比較すると、全体、男女ともに『反対』の割合が減少している。

【前回調査】



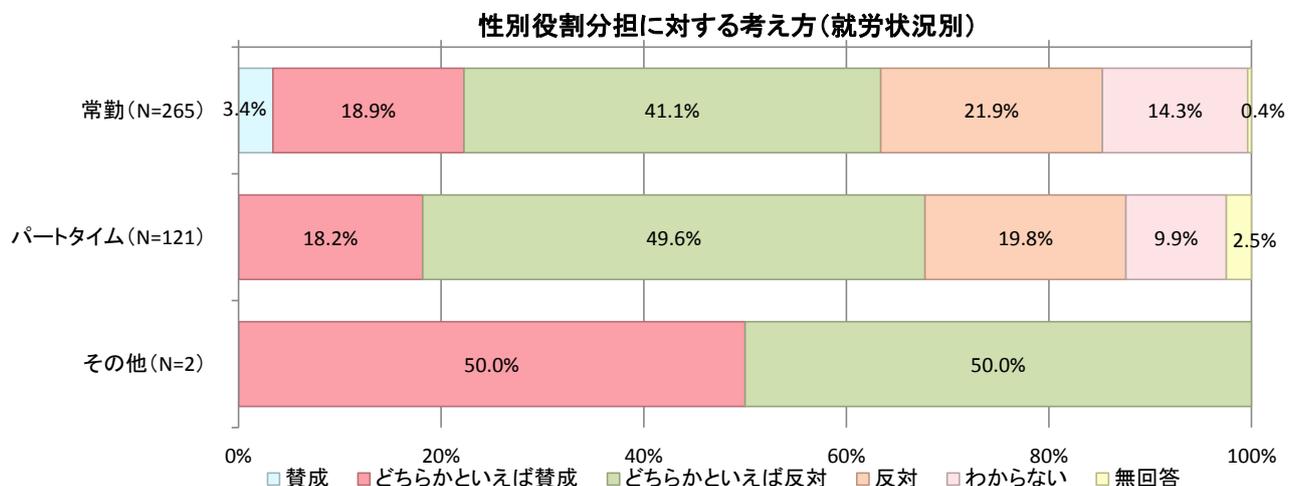
内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに『賛成』の割合が内閣府より低く、『反対』と「わからない」の割合が内閣府より高くなっている。

【内閣府調査】

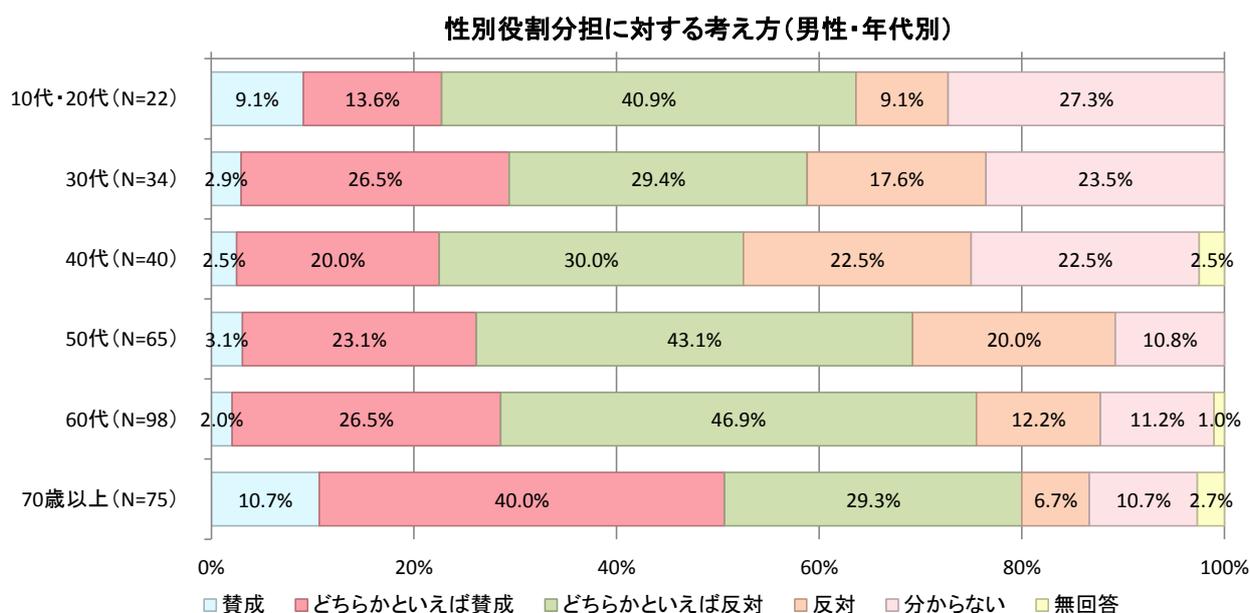
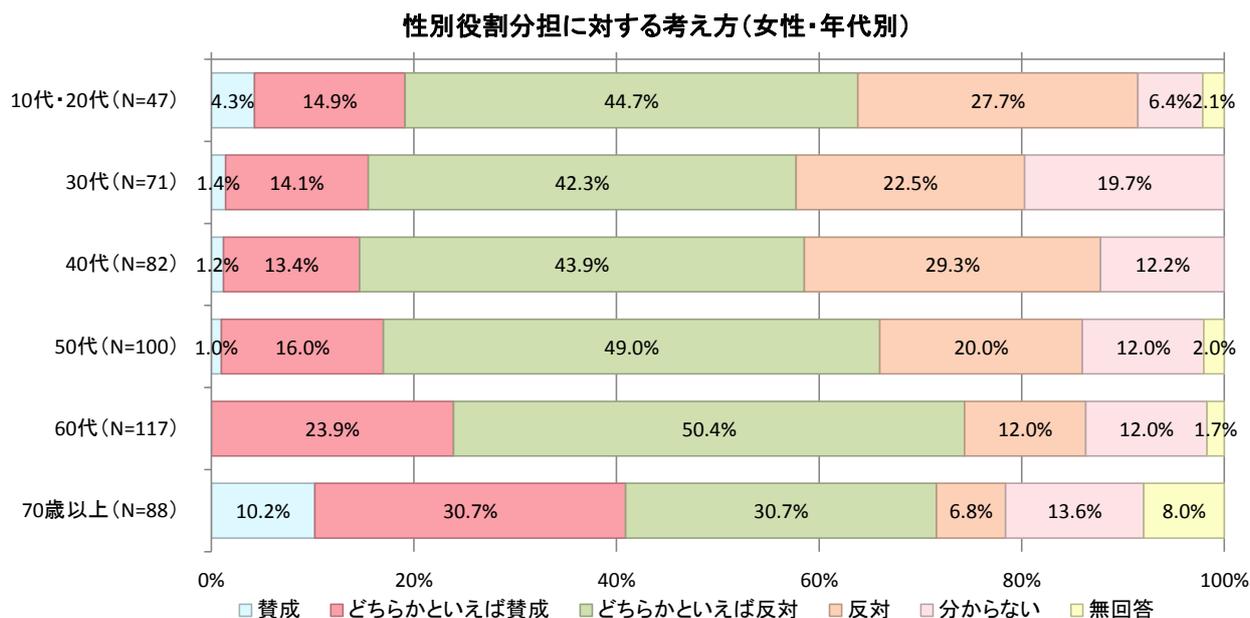


		性別役割分担に対する考え方						
		『賛成』			『反対』		わからない	無回答
		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対			
	サンプル数							
	全体	392	9	74	171	82	52	4
状況別	常勤	265	9	50	109	58	38	1
	パートタイム	121	0	22	60	24	12	3
	その他	2	0	1	1	0	0	0

就労状況別にみると、「常勤」は「パートタイム」と比較し『賛成』（常勤：22.3%、パートタイム：18.2%）の割合が高く、『反対』（常勤：63.0%、69.4%）の割合が低くなっている。



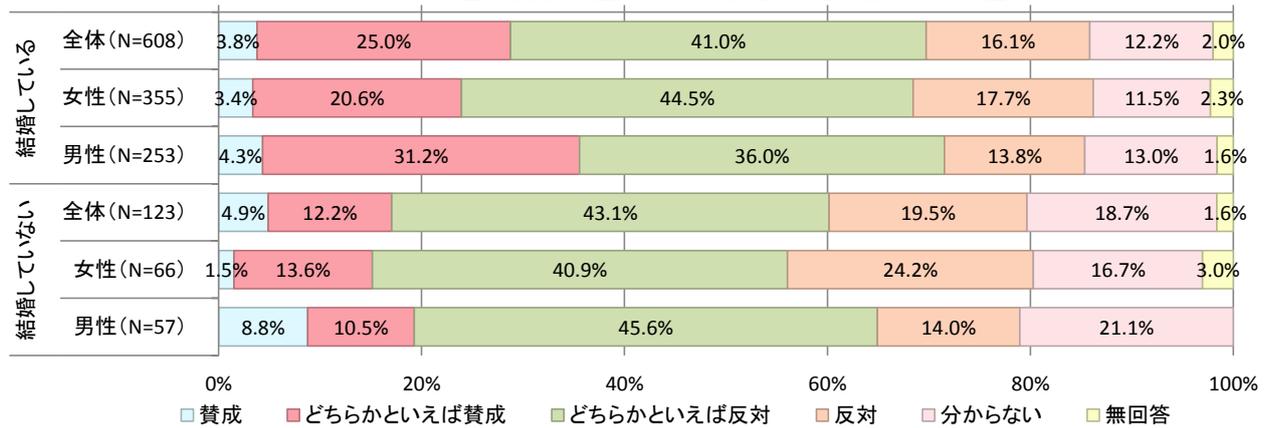
性・年代別にみると、男女とも70歳以上で『賛成』の割合が最も高くなっている。



配偶者の有無別にみると、「結婚している」は「結婚していない」と比較し『賛成』(結婚している: 28.8%、結婚していない: 17.1%)の割合が高くなっている。

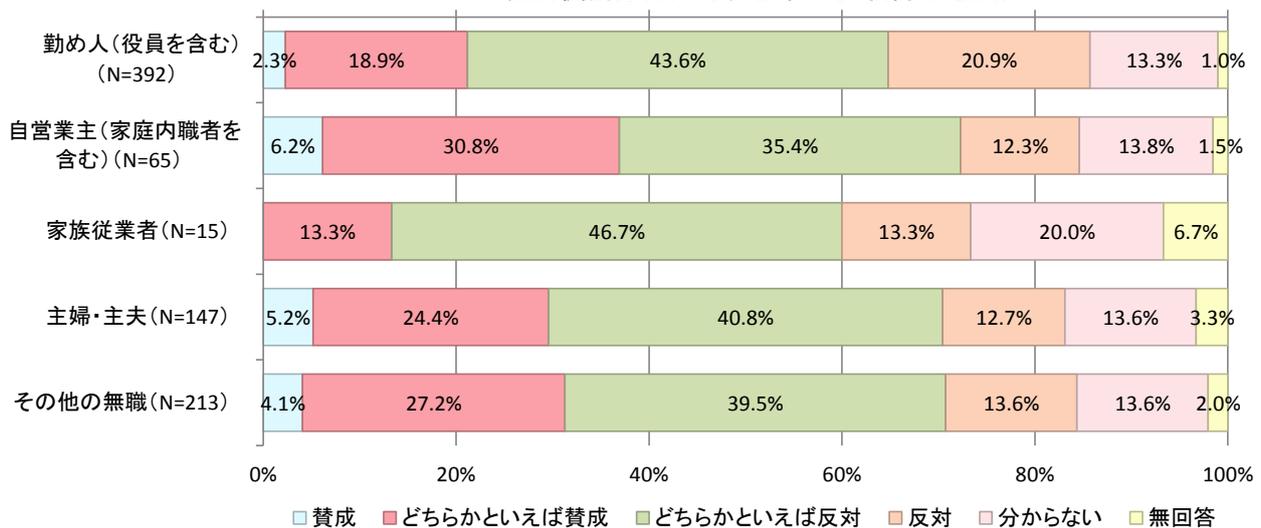
性別にみると『賛成』の割合は「結婚している」、「結婚していない」にかかわらず、男性の方が高くなっている。

性別役割分担に対する考え方(配偶者の有無・性別)



就労形態別にみると、『賛成』の割合が「自営業主(家庭内職者を含む)」(37.0%)の割合が最も高く、次いで「その他の無職」(31.3%)、「主婦・主夫」(29.6%)、「勤め人(役員を含む)」(21.2%)、「家族従業者(13.3%)」となっている。

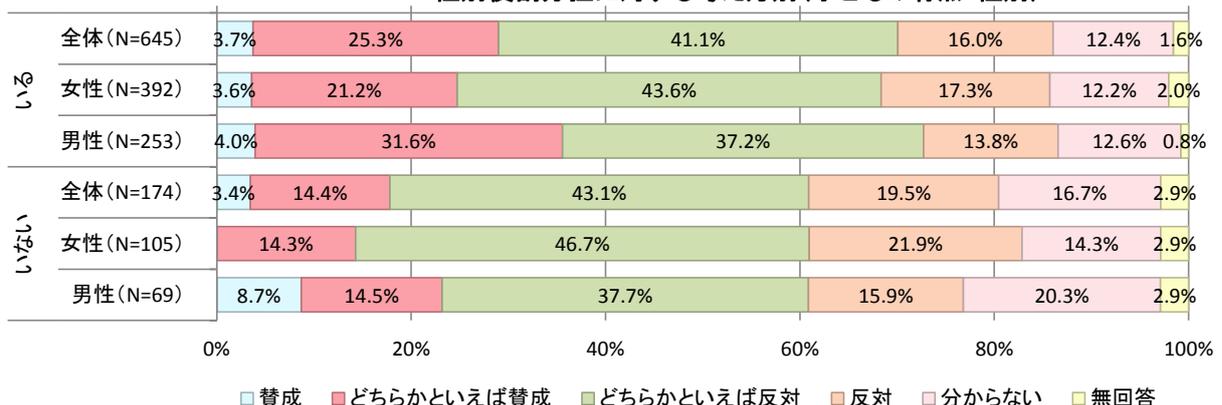
性別役割分担に対する考え方(就労形態別)



子どもの有無別にみると、「いる」は「いない」と比較し『賛成』(いる:29.0%、いない:17.8%)の割合が高くなっている。

性別にみると『賛成』の割合は「いる(男性:35.6%)」の割合が最も高くなっている。

性別役割分担に対する考え方(子どもの有無・性別)



性別役割分担に対する考え方（性・年代別）

		サンプル数	性別役割分担に対する考え方					無回答
			賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	分からない	
全体		840	30	190	349	141	114	16
		100.0%	3.6%	22.6%	41.5%	16.8%	13.6%	1.9%
性・年代別	女性計	505	14	99	222	93	65	12
		100.0%	2.8%	19.6%	44.0%	18.4%	12.9%	2.4%
	10代・20代	47	2	7	21	13	3	1
		100.0%	4.3%	14.9%	44.7%	27.7%	6.4%	2.1%
	30代	71	1	10	30	16	14	0
		100.0%	1.4%	14.1%	42.3%	22.5%	19.7%	0.0%
	40代	82	1	11	36	24	10	0
		100.0%	1.2%	13.4%	43.9%	29.3%	12.2%	0.0%
	50代	100	1	16	49	20	12	2
		100.0%	1.0%	16.0%	49.0%	20.0%	12.0%	2.0%
	60代	117	0	28	59	14	14	2
		100.0%	0.0%	23.9%	50.4%	12.0%	12.0%	1.7%
	70歳以上	88	9	27	27	6	12	7
		100.0%	10.2%	30.7%	30.7%	6.8%	13.6%	8.0%
	男性計	334	16	91	127	47	49	4
		100.0%	4.8%	27.2%	38.0%	14.1%	14.7%	1.2%
10代・20代	22	2	3	9	2	6	0	
	100.0%	9.1%	13.6%	40.9%	9.1%	27.3%	0.0%	
30代	34	1	9	10	6	8	0	
	100.0%	2.9%	26.5%	29.4%	17.6%	23.5%	0.0%	
40代	40	1	8	12	9	9	1	
	100.0%	2.5%	20.0%	30.0%	22.5%	22.5%	2.5%	
50代	65	2	15	28	13	7	0	
	100.0%	3.1%	23.1%	43.1%	20.0%	10.8%	0.0%	
60代	98	2	26	46	12	11	1	
	100.0%	2.0%	26.5%	46.9%	12.2%	11.2%	1.0%	
70歳以上	75	8	30	22	5	8	2	
	100.0%	10.7%	40.0%	29.3%	6.7%	10.7%	2.7%	

____%：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由

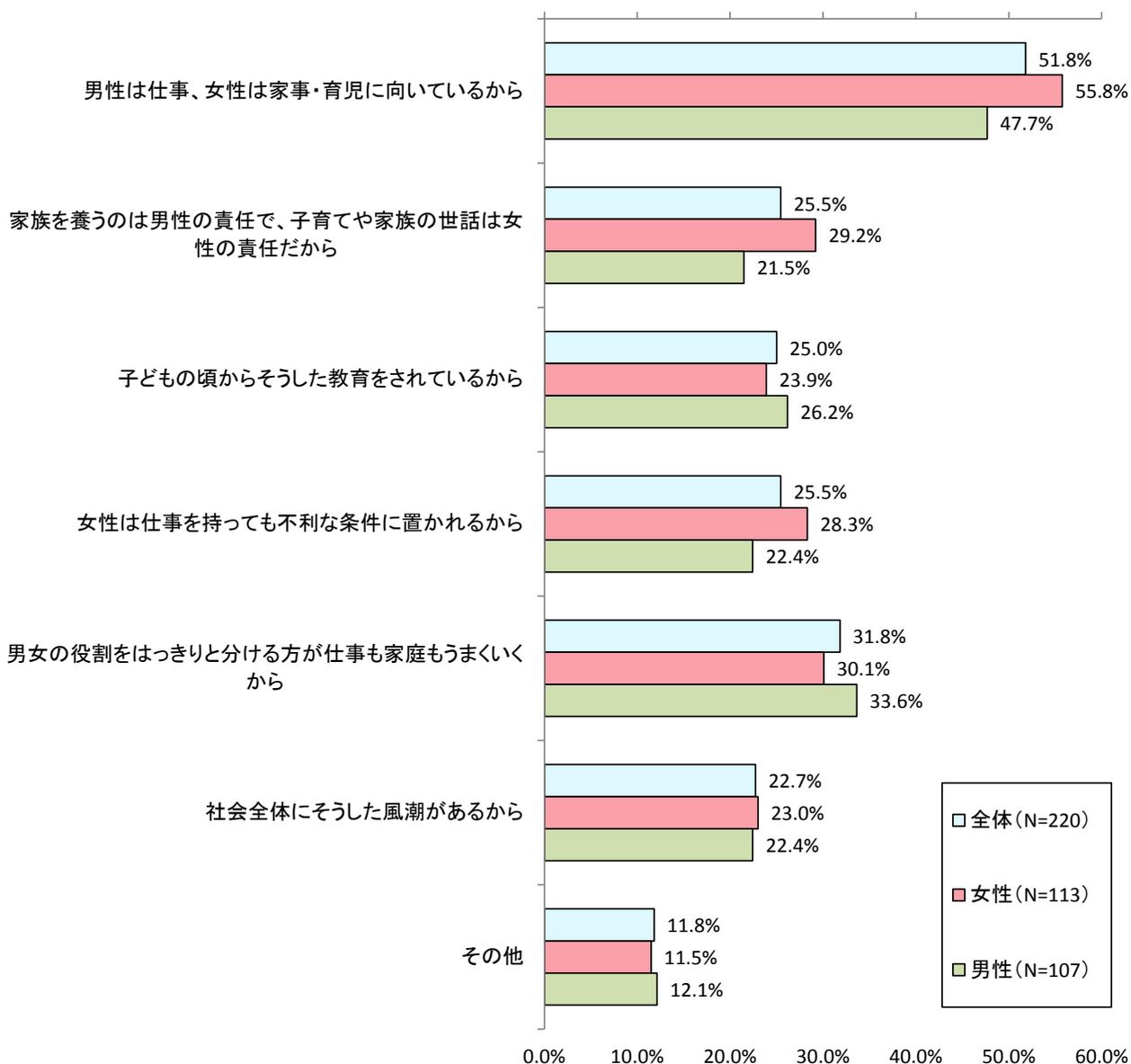
【問 13】 問 12 で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。
(複数回答)

～男性は仕事、女性は家事・育児に向いていると回答した人は5割～

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由をみると、全体では「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(51.8%)の割合が最も高く、次いで「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」(31.8%)となっている。

性別にみると、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(女性：55.8%、男性47.7%)で女性の割合が高くなっている。

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由(全体・性別)



性別役割分担に対する考え方に賛成する理由（性・年代配偶者の有無別）（複数回答）

		サンプル数	性別役割分担に対する考え方に賛成する理由						その他
			男性は仕事から、女性は家事・育児に向	て家族を養うのは女性の責任だから	て子どもの頃からそうした教育をされ	置かれるから	仕事も家庭もうまくいくから	社会全体にそうした風潮があるから	
全体		220	114 51.8%	56 25.5%	55 25.0%	56 25.5%	70 31.8%	50 22.7%	26 11.8%
性・年代別	女性計	113	63 55.8%	33 29.2%	27 23.9%	32 28.3%	34 30.1%	26 23.0%	13 11.5%
	10代・20代	9	4 44.4%	3 33.3%	1 11.1%	3 33.3%	3 33.3%	1 11.1%	0 0.0%
	30代	11	4 36.4%	3 27.3%	2 18.2%	4 36.4%	4 36.4%	1 9.1%	3 27.3%
	40代	12	7 58.3%	2 16.7%	0 0.0%	5 41.7%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%
	50代	17	11 64.7%	6 35.3%	0 0.0%	8 47.1%	5 29.4%	3 17.6%	0 0.0%
	60代	28	16 57.1%	7 25.0%	5 17.9%	3 10.7%	6 21.4%	11 39.3%	7 25.0%
	70歳以上	36	21 58.3%	12 33.3%	19 52.8%	9 25.0%	13 36.1%	8 22.2%	2 5.6%
	男性計	107	51 47.7%	23 21.5%	28 26.2%	24 22.4%	36 33.6%	24 22.4%	13 12.1%
	10代・20代	5	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%
	30代	10	5 50.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	4 40.0%	1 10.0%	3 30.0%
	40代	9	4 44.4%	4 44.4%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	3 33.3%	4 44.4%
	50代	17	8 47.1%	3 17.6%	5 29.4%	2 11.8%	5 29.4%	3 17.6%	2 11.8%
	60代	28	14 50.0%	6 21.4%	8 28.6%	11 39.3%	11 39.3%	7 25.0%	2 7.1%
	70歳以上	38	20 52.6%	10 26.3%	11 28.9%	5 13.2%	11 28.9%	9 23.7%	1 2.6%
性・配偶者の有無別	女性計	95	54 56.8%	27 28.4%	21 22.1%	27 28.4%	29 30.5%	19 20.0%	12 12.6%
	結婚している	85	49 57.6%	25 29.4%	20 23.5%	24 28.2%	25 29.4%	18 21.2%	12 14.1%
	結婚していない	10	5 50.0%	2 20.0%	1 10.0%	3 30.0%	4 40.0%	1 10.0%	0 0.0%
	男性計	101	50 49.5%	23 22.8%	26 25.7%	23 22.8%	34 33.7%	24 23.8%	11 10.9%
	結婚している	90	46 51.1%	20 22.2%	24 26.7%	19 21.1%	27 30.0%	21 23.3%	9 10.0%
	結婚していない	11	4 36.4%	3 27.3%	2 18.2%	4 36.4%	7 63.6%	3 27.3%	2 18.2%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(3) 日常生活における役割分担についての理想と現実

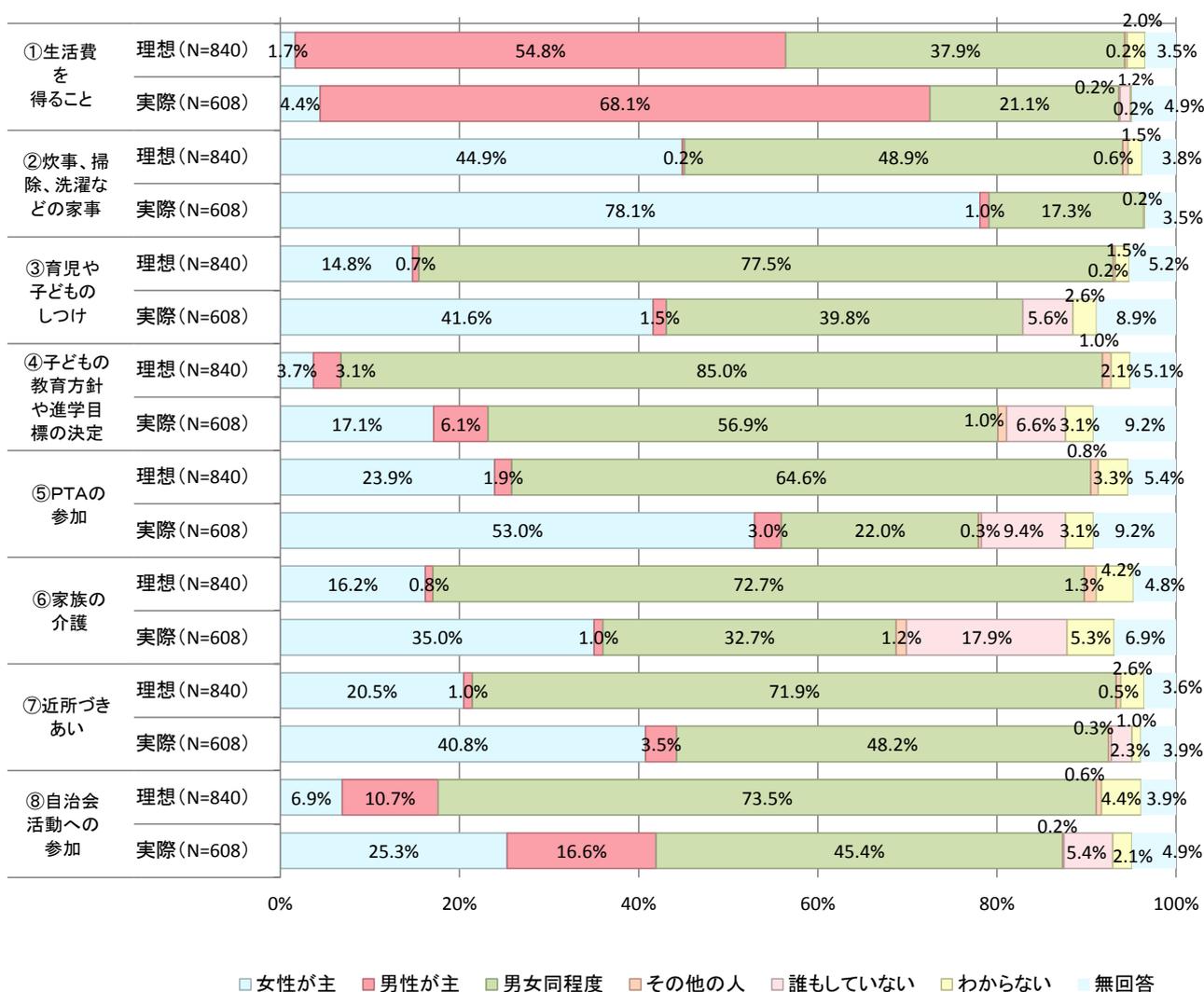
【問 14】 日常生活における役割分担についておたずねします。
 (1) ①～⑧について、あなたの理想とする分担をお答えください。
 (2) 結婚している方、結婚してはいるがパートナーと暮らしている方におたずねします。
 ①～⑧について、実際にあなたの家庭では主にだれが分担をしていますか。

～理想は「男女同程度」が多いが、実際に多くを担っているのは女性～

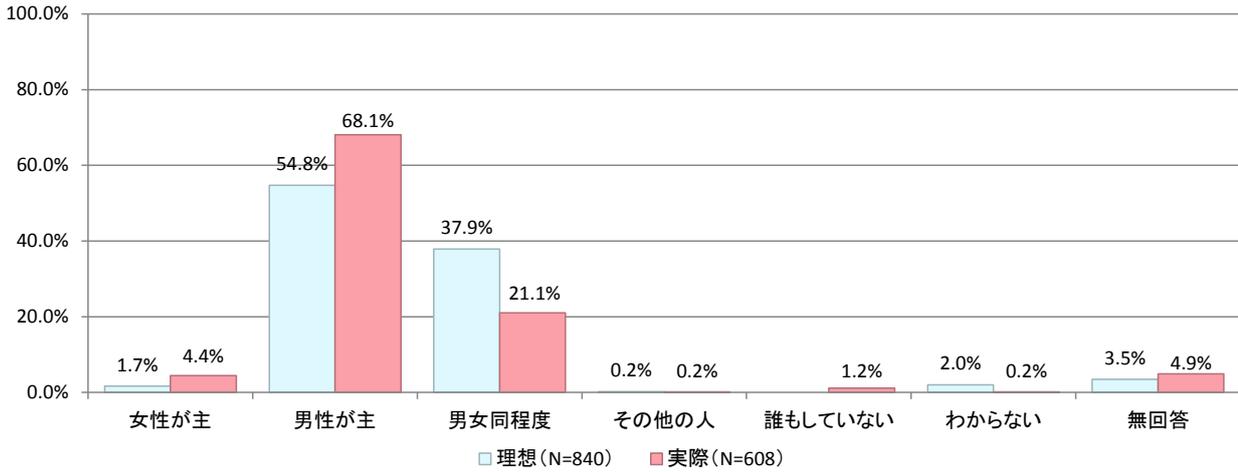
日常生活における役割分担についてみると、理想では「①生活費を得ること」と「②炊事、掃除、洗濯などの家事」を除いて「男女同程度」が6割を上回っている。

実際では「①生活費を得ること」の「男性が主」(68.1%)、「④子どもの教育方針や進学目標の決定」の「男女同程度」(56.9%)、「⑦近所づきあい」の「男女同程度」(48.2%)、「⑧自治会活動への参加」の「男女同程度」(45.4%)を除いて、「女性が主」の割合が高くなっている

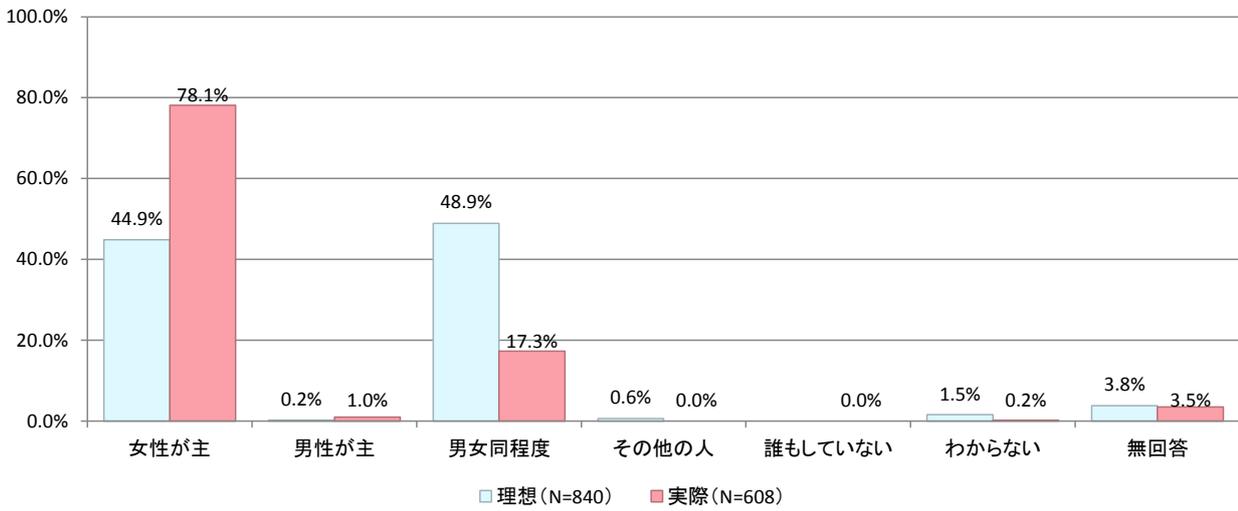
日常生活における役割分担の理想と実際(全体)



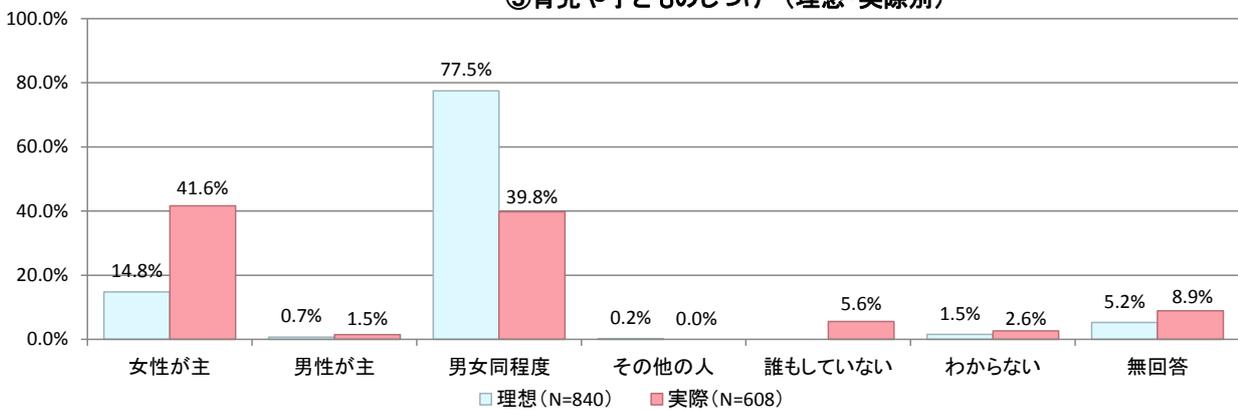
①生活費を得ること（理想・実際別）



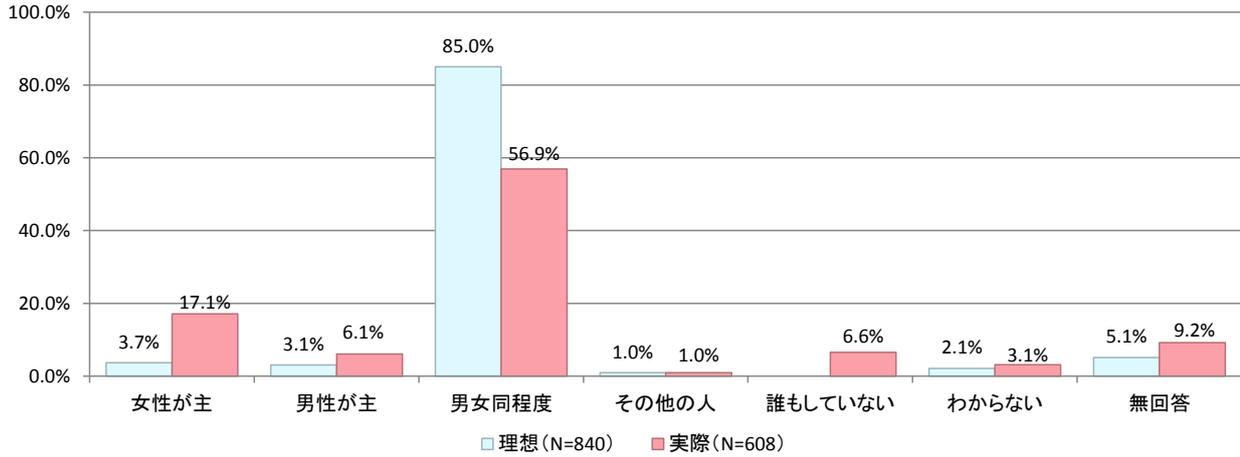
②炊事、掃除、洗濯などの家事（理想・実際別）



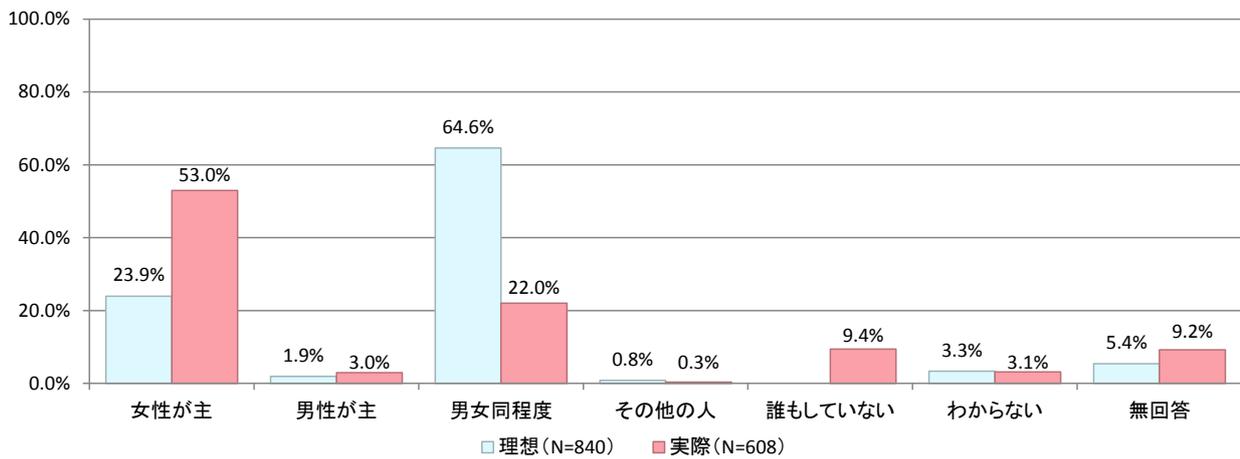
③育児や子どものしつけ（理想・実際別）



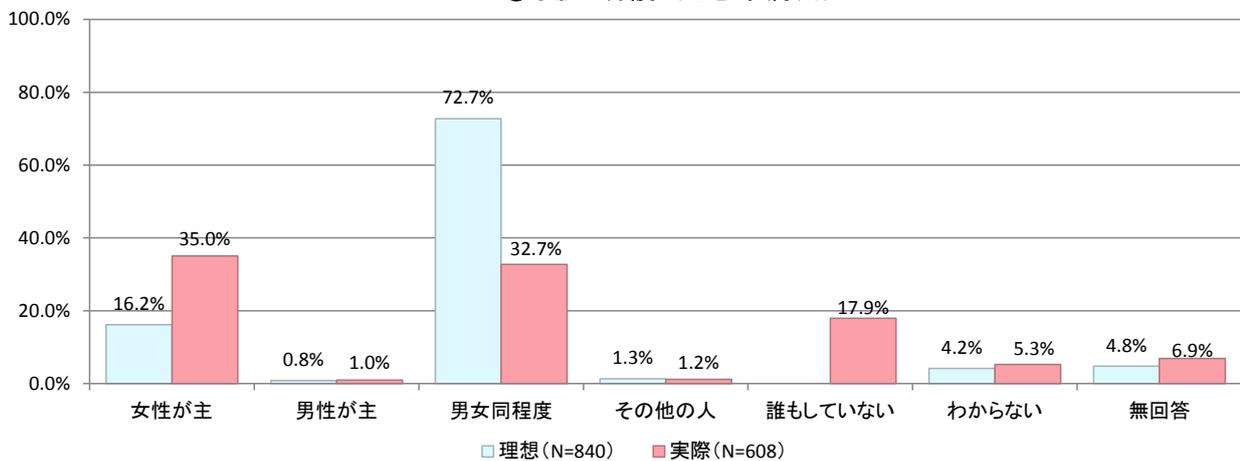
④子どもの教育方針や進学目標の決定(理想・実際別)



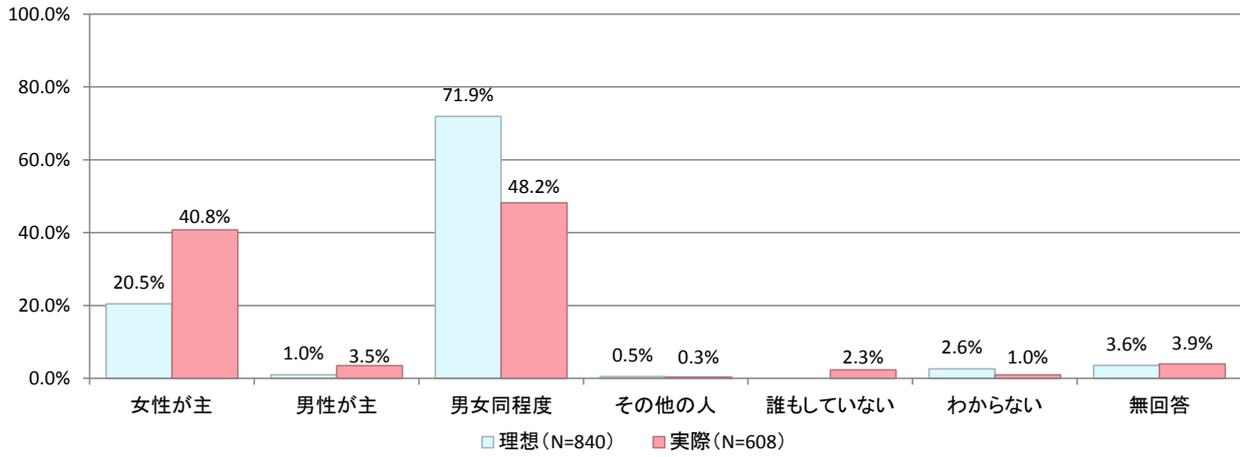
⑤PTAの参加(理想・実際別)



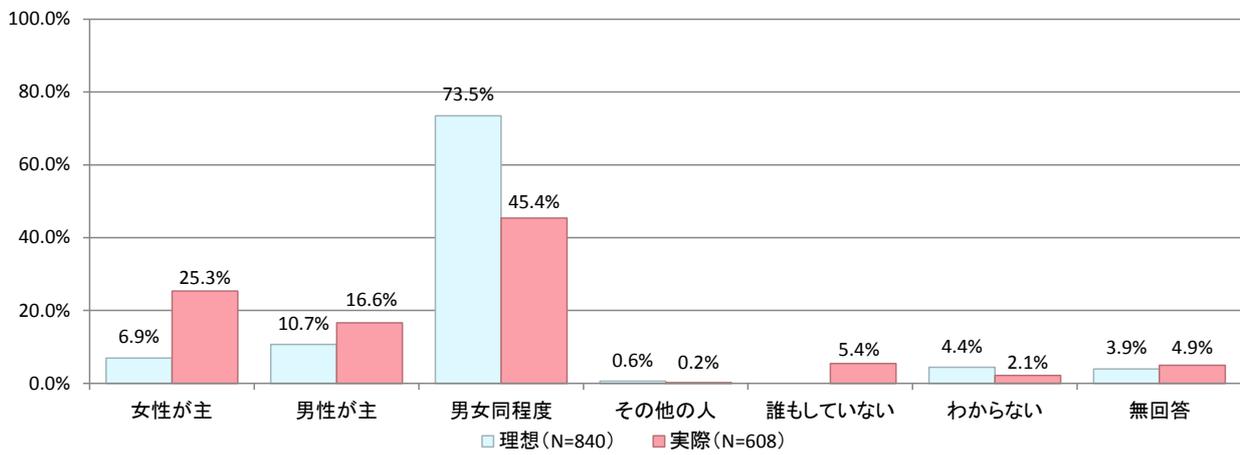
⑥家族の介護(理想・実際別)



⑦近所づきあい（理想・実際別）

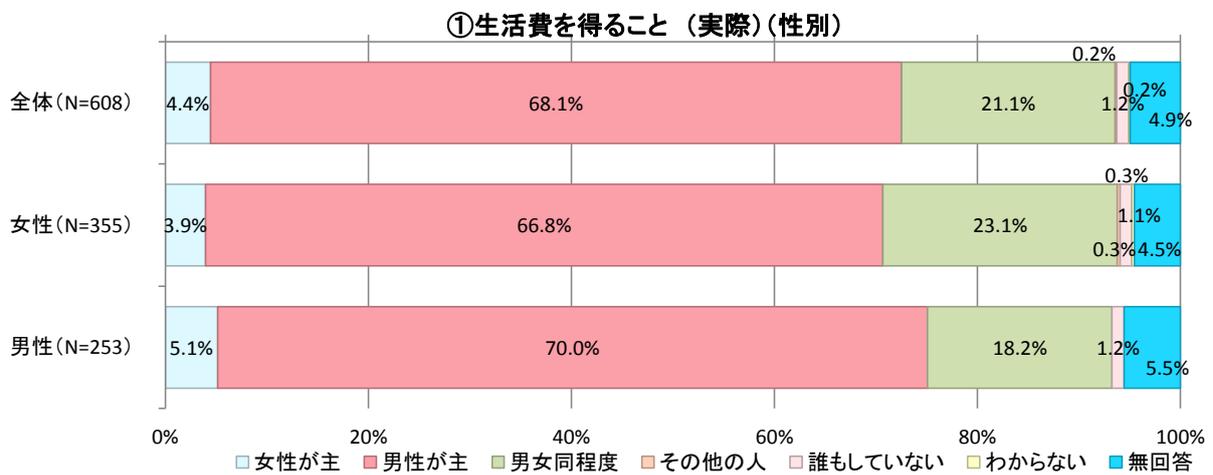
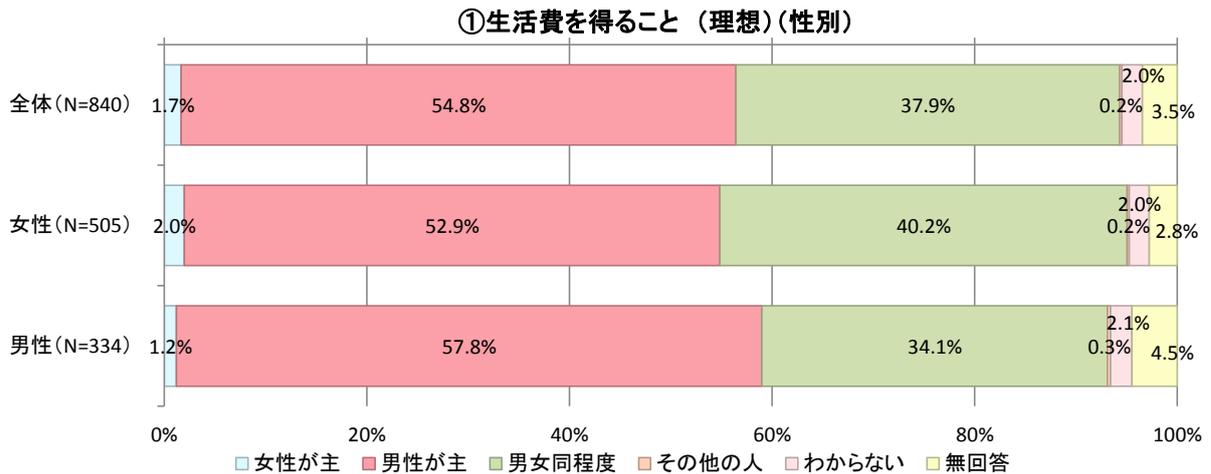


⑧自治会活動への参加（理想・実際別）

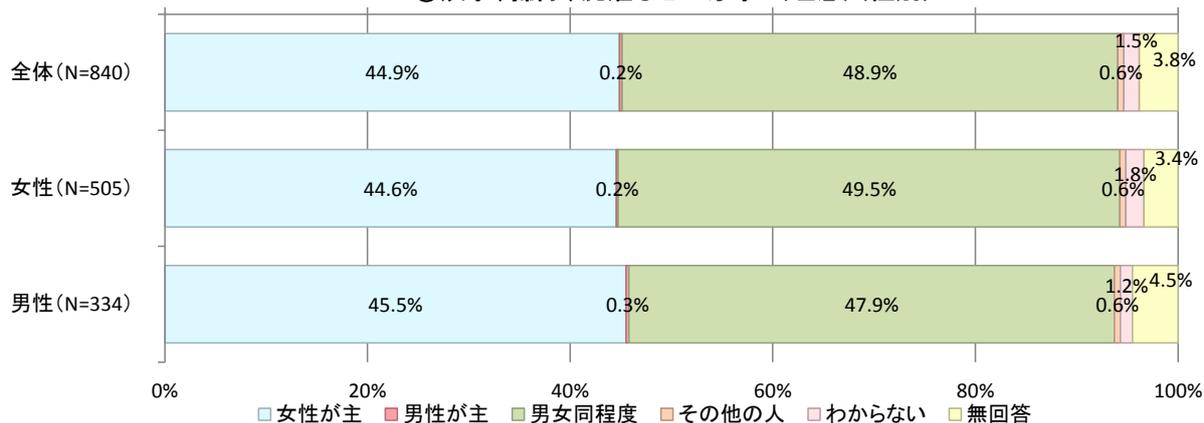


性別にみると、理想では、「①生活費を得ること」の「男性が主」を除いて「男女同程度」の割合が高くなっている。

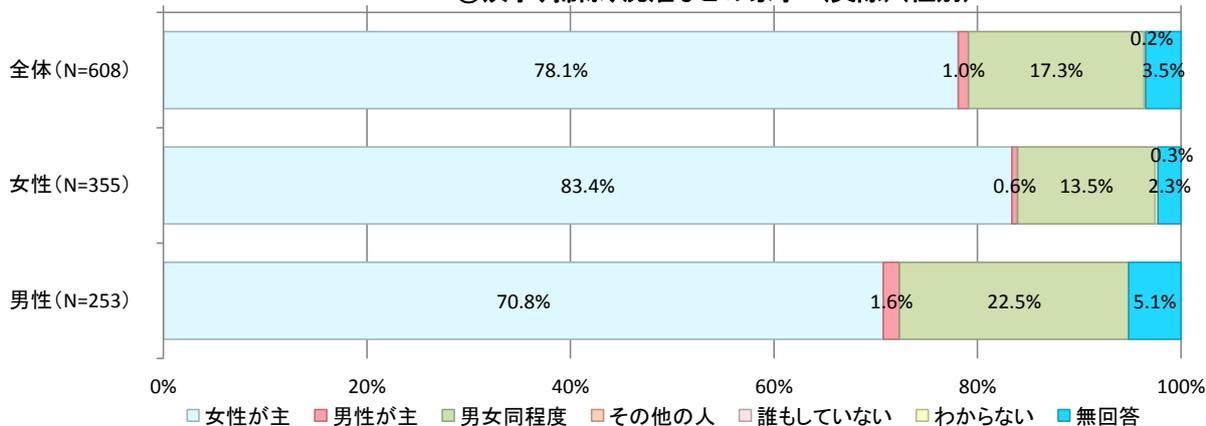
実際では、「①生活費を得ること」は「男性が主」、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」、「⑤PTAの参加」は「女性が主」、「④子どもの教育方針や進学目標の決定」、「⑧自治会活動への参加」は「男女同程度」の割合が男女ともに最も高くなっている。一方、「③育児や子どものしつけ」、「⑥家族の介護」、「⑦近所づきあい」では女性は「女性が主」、男性は「男女同程度」と答えた割合が最も高く、男女間の差がみられる。



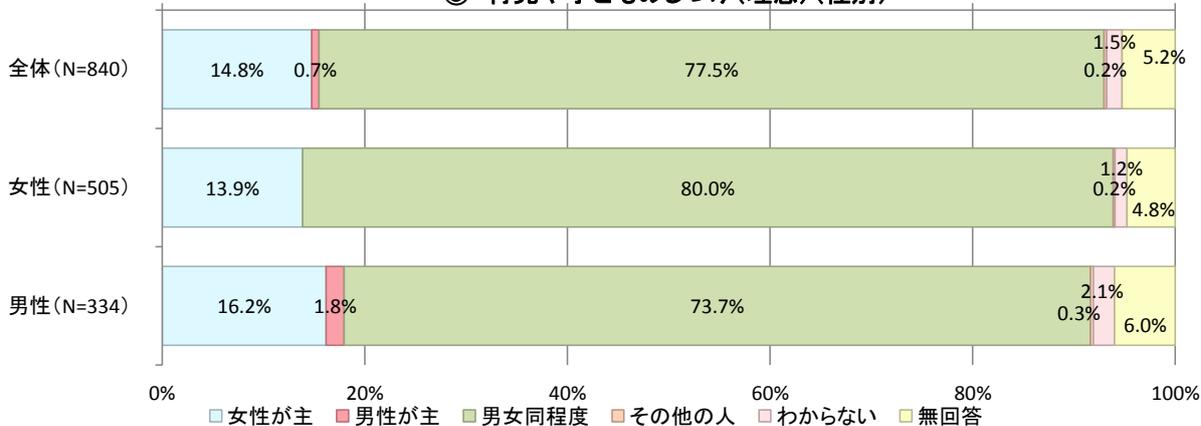
②炊事、掃除、洗濯などの家事（理想）（性別）



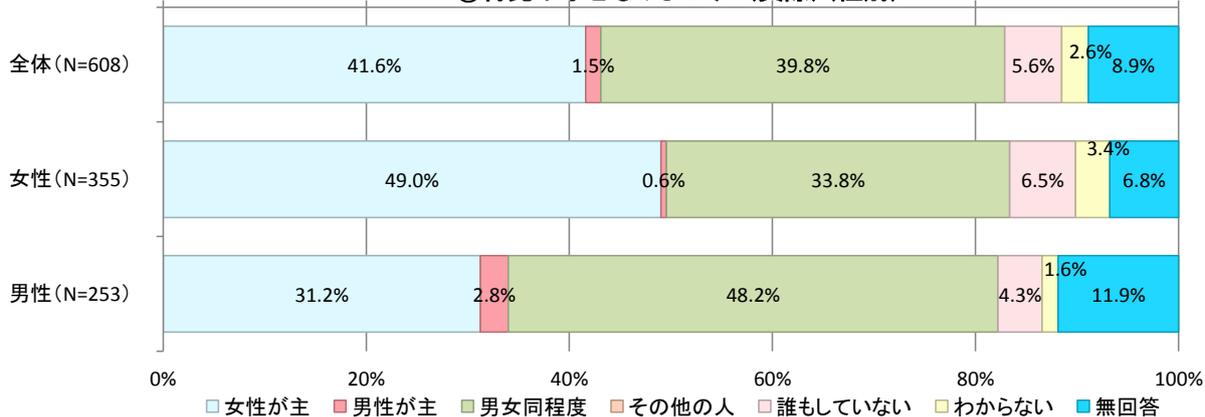
②炊事、掃除、洗濯などの家事（実際）（性別）



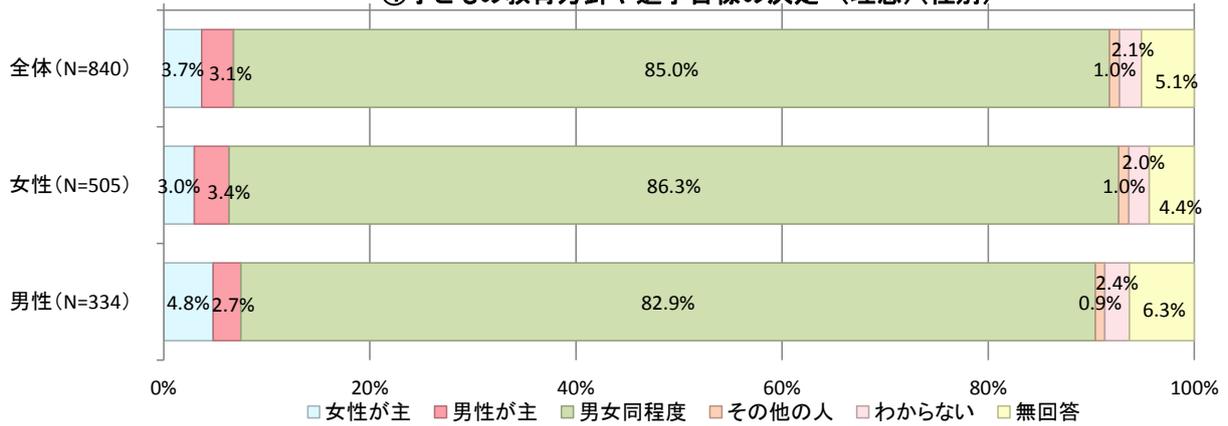
③育児や子どものしつけ（理想）（性別）



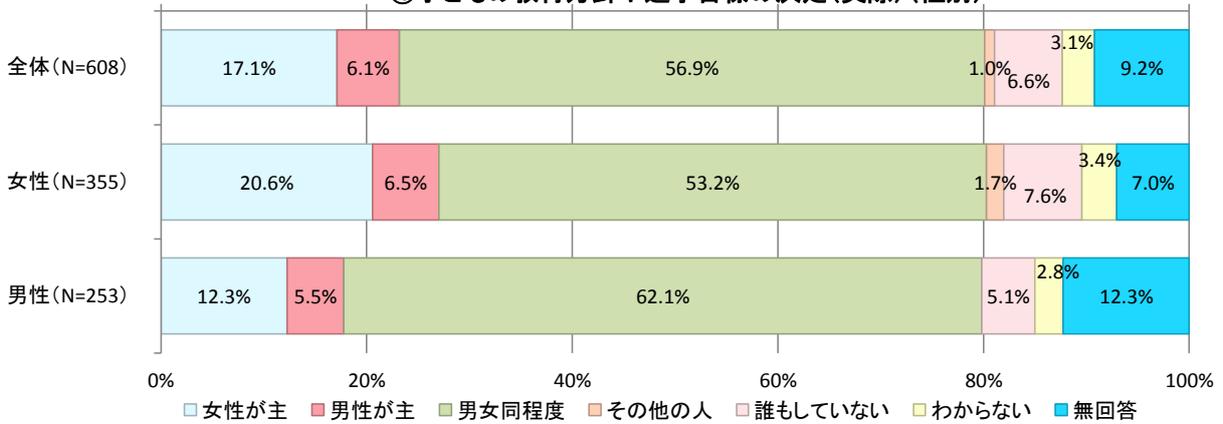
③育児や子どものしつけ（実際）（性別）



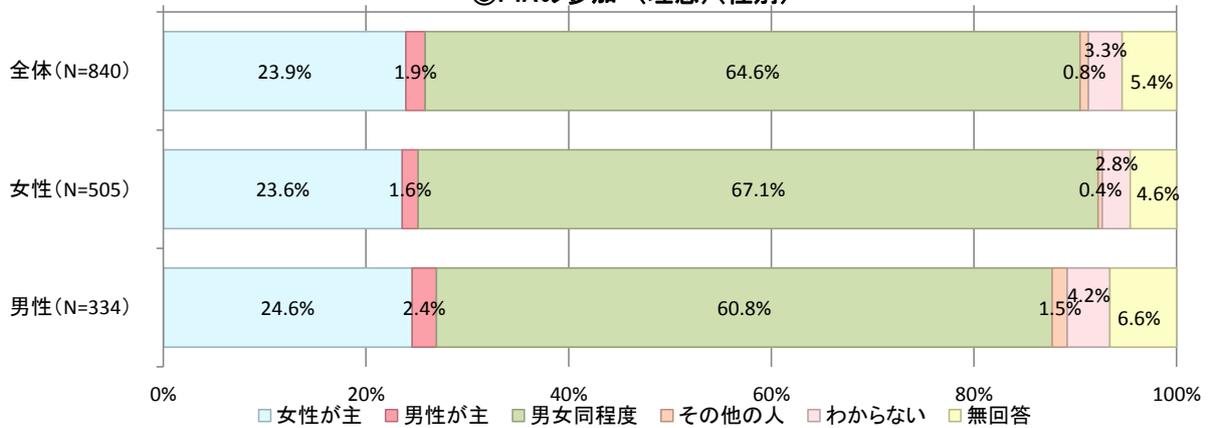
④子どもの教育方針や進学目標の決定（理想）（性別）



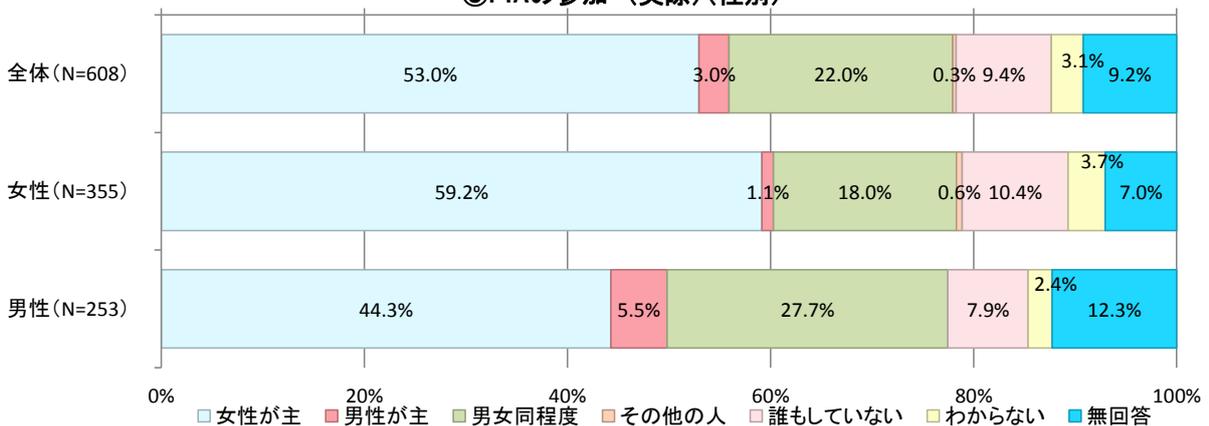
④子どもの教育方針や進学目標の決定（実際）（性別）



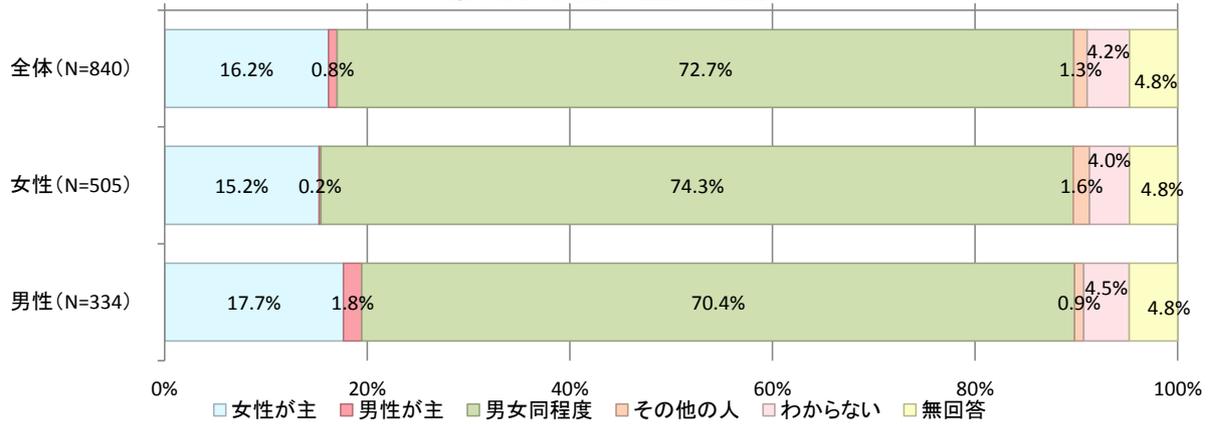
⑤PTAの参加（理想）（性別）



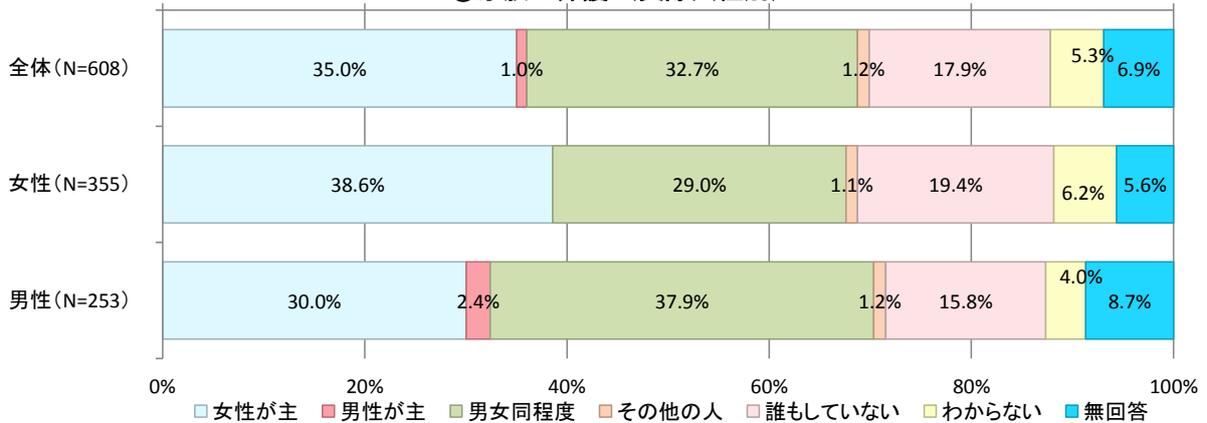
⑤PTAの参加（実際）（性別）



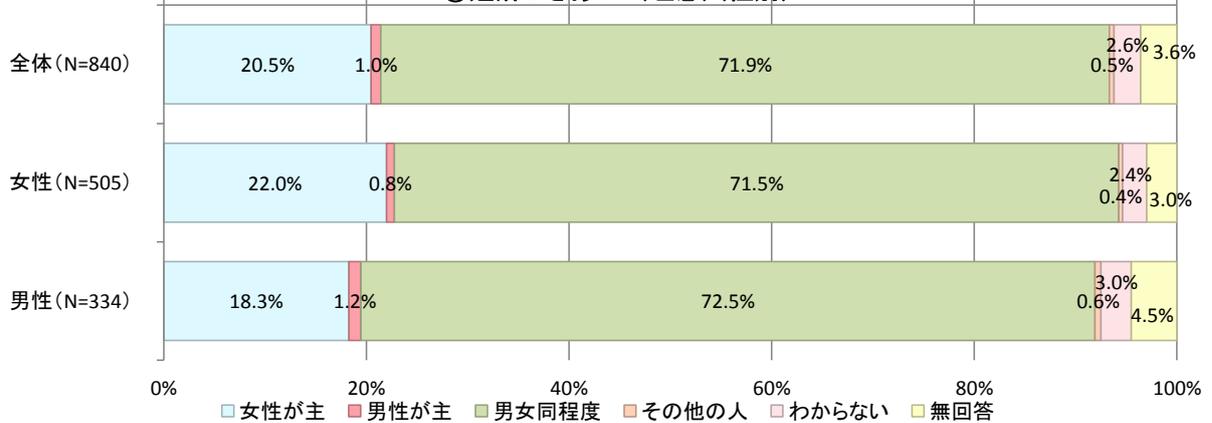
⑥家族の介護（理想）（性別）



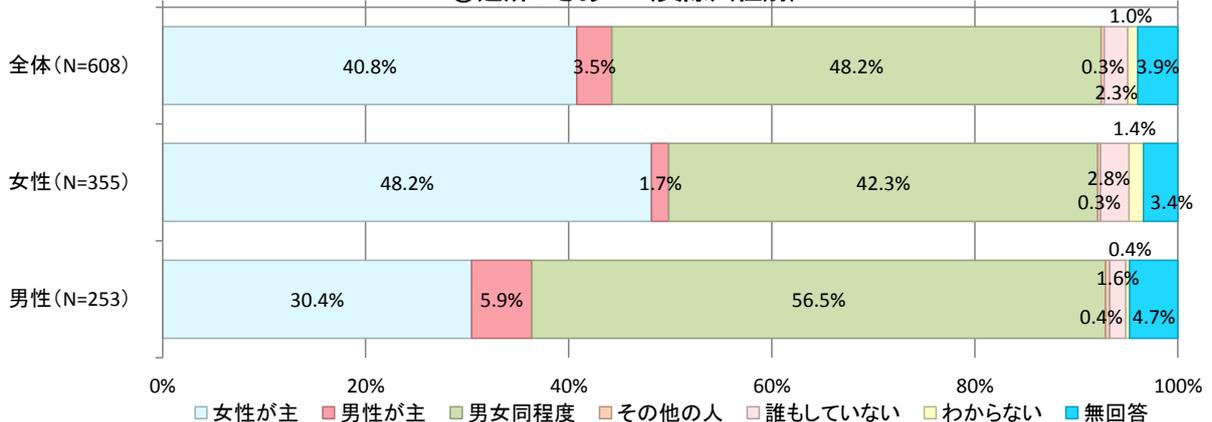
⑥家族の介護（実際）（性別）



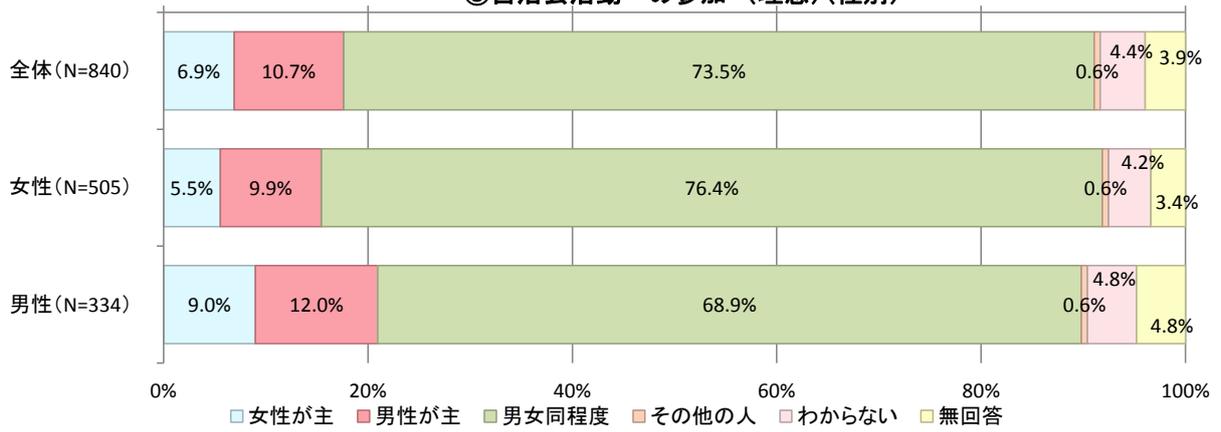
⑦近所づきあい（理想）（性別）



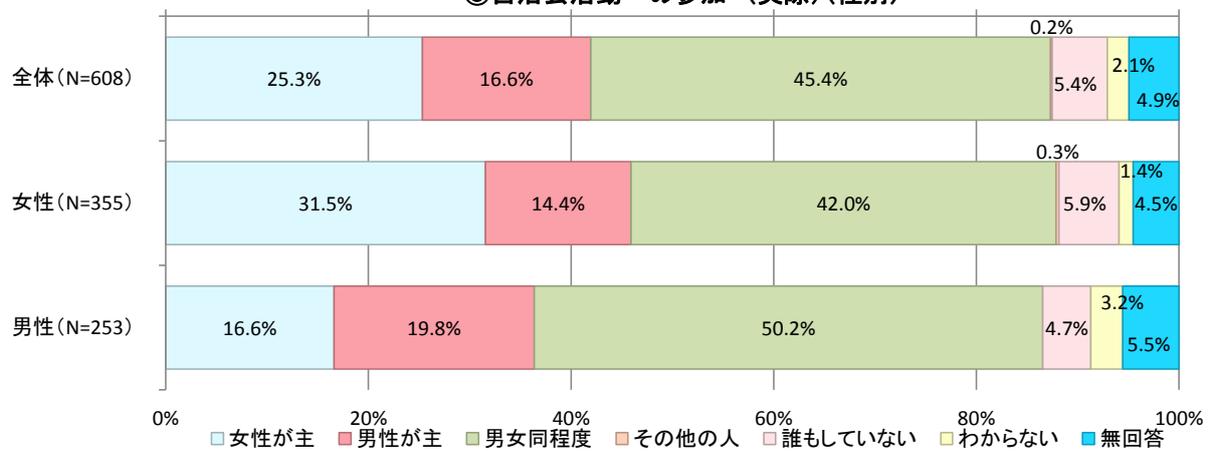
⑦近所づきあい（実際）（性別）



⑧自治会活動への参加（理想）（性別）



⑧自治会活動への参加（実際）（性別）



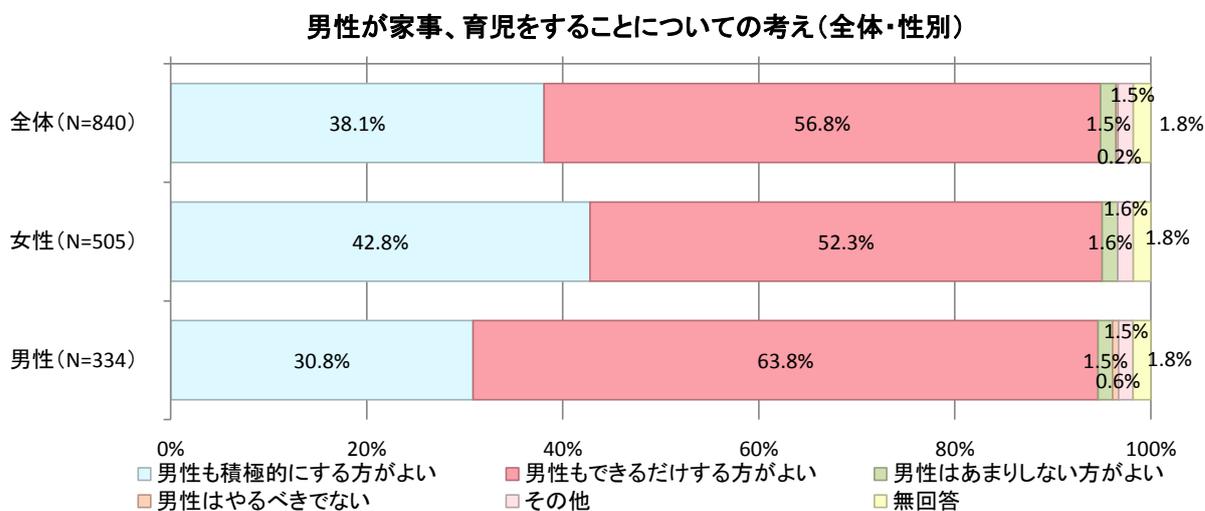
(4) 男性が家事、育児をすることについての考え

【問 15】 男性が家事、育児をすることについてどう思いますか。

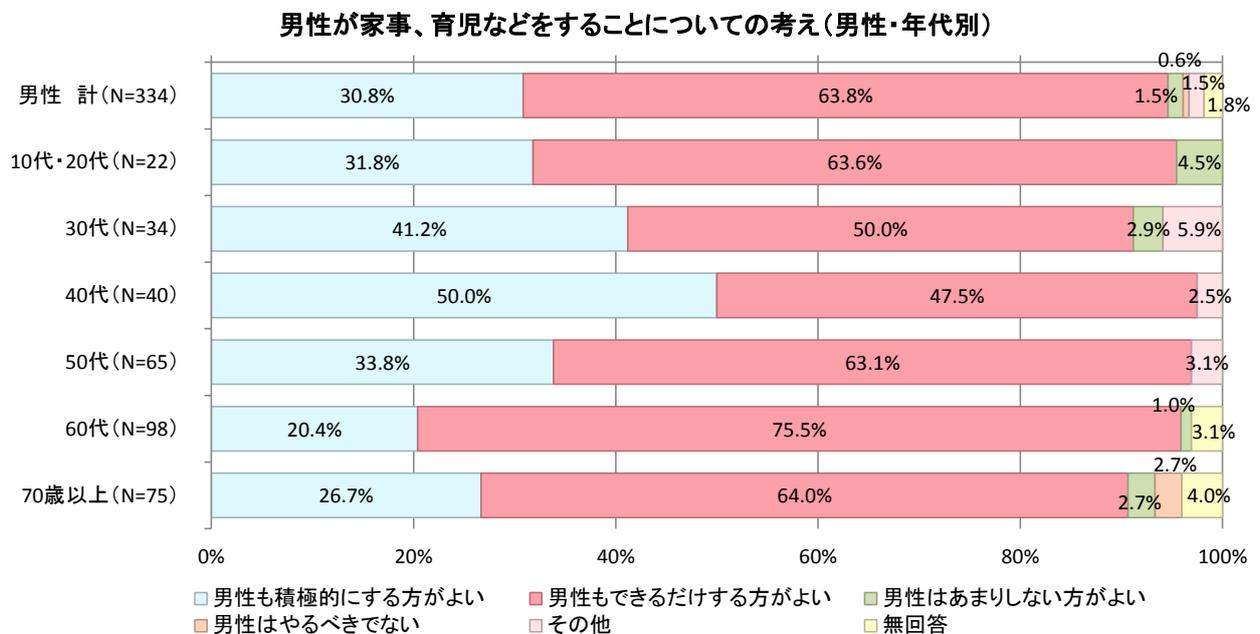
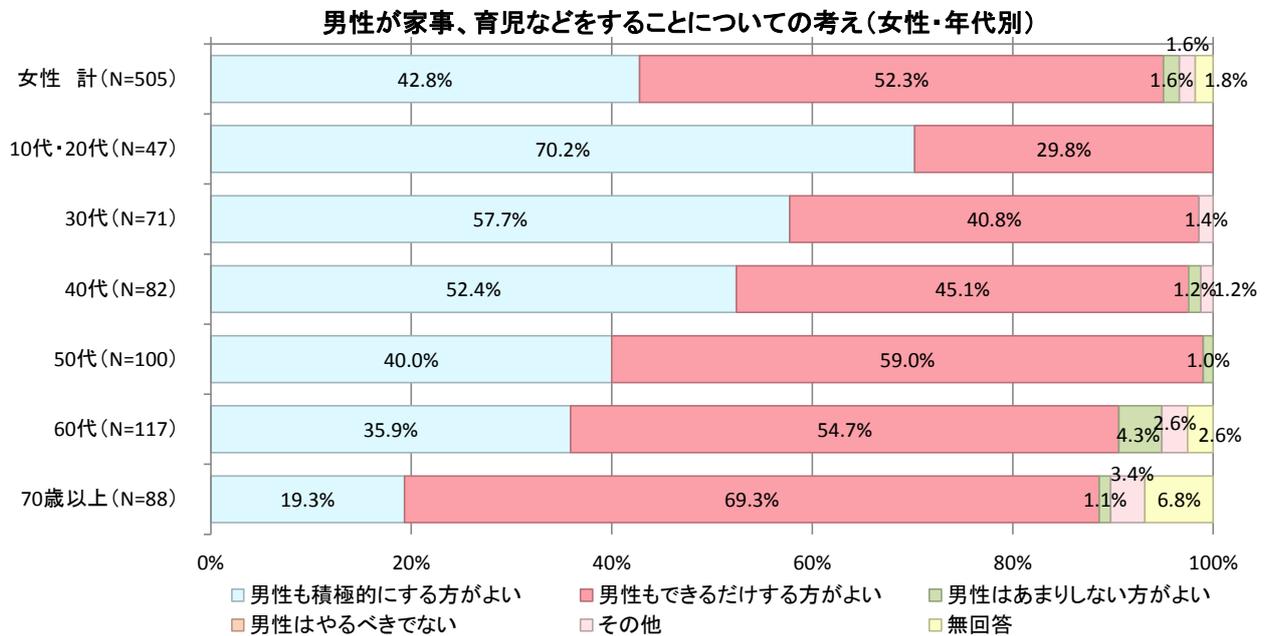
～男女とも9割が肯定的～

男性が家事、育児をすることについての考えをみると、全体では「男性もできるだけする方がよい」(56.8%)の割合が最も高く、次いで「男性も積極的にする方がよい」(38.1%)となっている。

性別にみると、女性は男性と比較し「男性も積極的にする方がよい」(女性：42.8%、男性：30.8%)の割合が高く、「男性もできるだけする方がよい」(女性：52.3%、男性：63.8%)を合わせると、女性は95.1%、男性は94.6%となっている。



性・年代別にみると、女性は年代が上がるにつれ「男性も積極的にする方がよい」の割合が低くなっている。男性は「男性も積極的にする方がよい」が40代（50.0%）と最も高くなっている。



男性が家事、育児をすることについての考え（性・年代別）

		男性が家事、育児などをする事についての考え						
		男性も積極的にする方がよい	男性もできるだけする方がよい	男性はあまりしない方がよい	男性はやるべきでない	その他	無回答	
全体		840	320	477	13	2	13	15
		100.0%	38.1%	56.8%	1.5%	0.2%	1.5%	1.8%
性・年代別	女性 計	505	216	264	8	0	8	9
		100.0%	42.8%	52.3%	1.6%	0.0%	1.6%	1.8%
	10代・20代	47	33	14	0	0	0	0
		100.0%	70.2%	29.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30代	71	41	29	0	0	1	0
		100.0%	57.7%	40.8%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
	40代	82	43	37	1	0	1	0
		100.0%	52.4%	45.1%	1.2%	0.0%	1.2%	0.0%
	50代	100	40	59	1	0	0	0
		100.0%	40.0%	59.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60代	117	42	64	5	0	3	3
		100.0%	35.9%	54.7%	4.3%	0.0%	2.6%	2.6%
	70歳以上	88	17	61	1	0	3	6
		100.0%	19.3%	69.3%	1.1%	0.0%	3.4%	6.8%
	男性 計	334	103	213	5	2	5	6
		100.0%	30.8%	63.8%	1.5%	0.6%	1.5%	1.8%
10代・20代	22	7	14	1	0	0	0	
	100.0%	31.8%	63.6%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
30代	34	14	17	1	0	2	0	
	100.0%	41.2%	50.0%	2.9%	0.0%	5.9%	0.0%	
40代	40	20	19	0	0	1	0	
	100.0%	50.0%	47.5%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	
50代	65	22	41	0	0	2	0	
	100.0%	33.8%	63.1%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	
60代	98	20	74	1	0	0	3	
	100.0%	20.4%	75.5%	1.0%	0.0%	0.0%	3.1%	
70歳以上	75	20	48	2	2	0	3	
	100.0%	26.7%	64.0%	2.7%	2.7%	0.0%	4.0%	

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

男性が家事、育児をすることについての考え
(性・配偶者の有無・夫婦の就労形態・子の有無・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	男性が家事、育児などをする事についての考え					無回答
			男性も積極的にする方がよい	男性もできるだけする方がよい	男性はあまりしない方がよい	男性はやるべきでない	その他	
全体		840	320	477	13	2	13	15
		100.0%	38.1%	56.8%	1.5%	0.2%	1.5%	1.8%
性・配偶者の有無別	女性 計	421	186	216	8	0	6	5
		100.0%	44.2%	51.3%	1.9%	0.0%	1.4%	1.2%
	結婚している	355	149	191	7	0	4	4
		100.0%	42.0%	53.8%	2.0%	0.0%	1.1%	1.1%
	結婚していない	66	37	25	1	0	2	1
		100.0%	56.1%	37.9%	1.5%	0.0%	3.0%	1.5%
男性 計	男性 計	310	90	203	5	2	5	5
		100.0%	29.0%	65.5%	1.6%	0.6%	1.6%	1.6%
	結婚している	253	75	166	2	2	3	5
	100.0%	29.6%	65.6%	0.8%	0.8%	1.2%	2.0%	
	結婚していない	57	15	37	3	0	2	0
		100.0%	26.3%	64.9%	5.3%	0.0%	3.5%	0.0%
就労夫婦形態の別	どちらも仕事をしている	288	126	153	3	0	3	3
		100.0%	43.8%	53.1%	1.0%	0.0%	1.0%	1.0%
	自分だけが仕事をしている	63	15	48	0	0	0	0
		100.0%	23.8%	76.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者だけが仕事をしている	107	45	57	5	0	0	0
		100.0%	42.1%	53.3%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	どちらも仕事をしていない	138	37	91	1	2	3	4
		100.0%	26.8%	65.9%	0.7%	1.4%	2.2%	2.9%
子の有無別	いる	645	235	379	8	2	9	12
		100.0%	36.4%	58.8%	1.2%	0.3%	1.4%	1.9%
	いない	174	73	89	5	0	4	3
		100.0%	42.0%	51.1%	2.9%	0.0%	2.3%	1.7%
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	220	43	161	6	2	5	3
		100.0%	19.5%	73.2%	2.7%	0.9%	2.3%	1.4%
	『反対』	490	239	241	4	0	4	2
		100.0%	48.8%	49.2%	0.8%	0.0%	0.8%	0.4%
	わからない	114	35	69	3	0	4	3
		100.0%	30.7%	60.5%	2.6%	0.0%	3.5%	2.6%

%：各属性内での回答割合が最も高い

(5) 男性が家事、育児をすることについての考えの理由

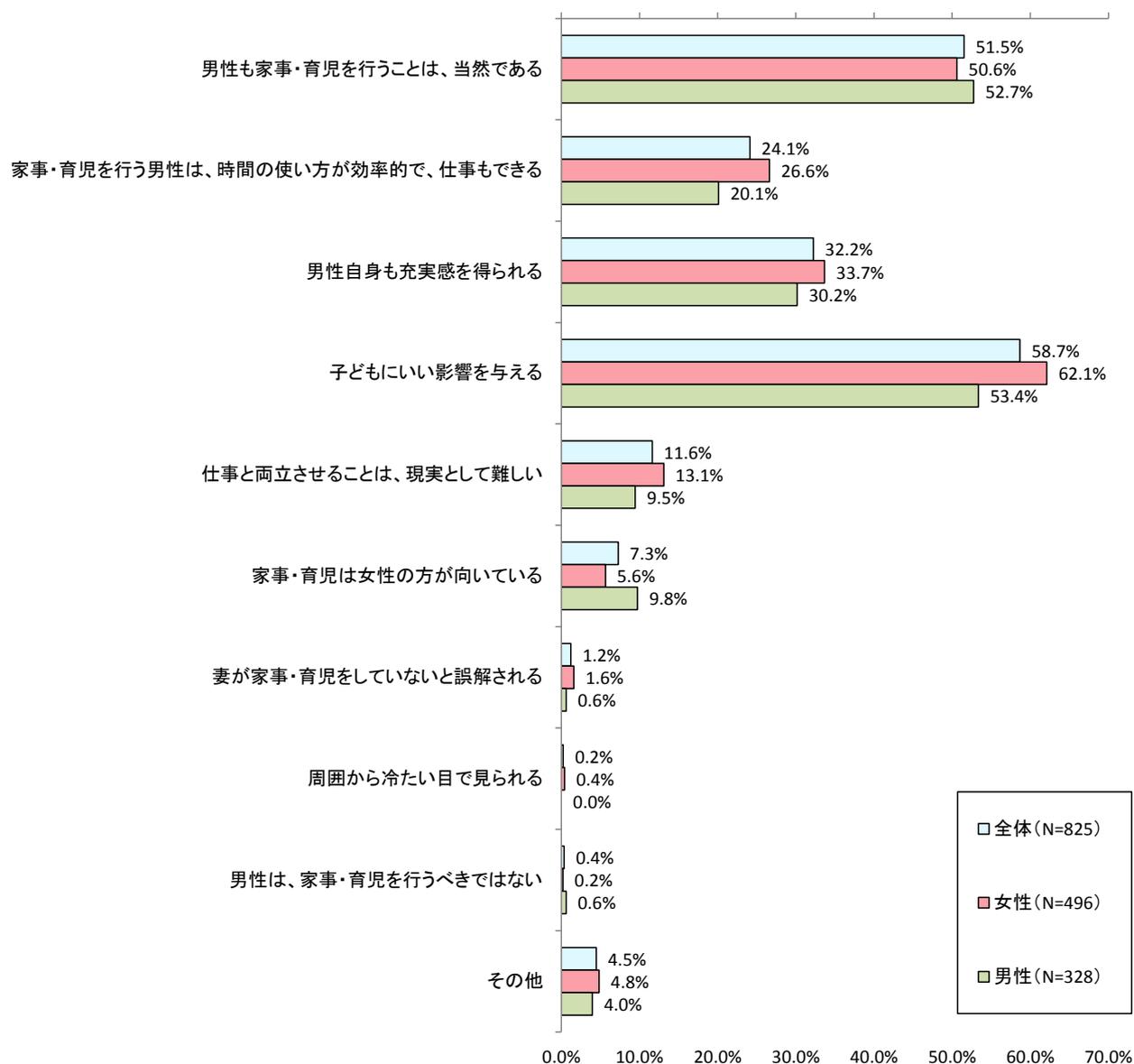
【問 16】 問 15 で選択した回答の理由は何ですか。(複数回答)

～「子どもに良い影響を与える」と考える人が多い～

男性が家事、育児をすることについての考えの理由をみると、全体では「子どもにいい影響を与える」(58.7%)の割合が最も高く、次いで「男性も家事・育児を行なうことは、当然である」(51.5%)、「男性自身も充実感を得られる」(32.2%)となっている。

性別にみると、「子どもに良い影響を与える」(女性：62.1%、男性：53.4%)と「家事・育児を行なう男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」(女性：26.6%、男性20.1%)で女性の割合が男性より高く、「家事・育児は女性の方が向いている」(女性：5.6%、男性：9.8%)で男性の割合が女性より高くなっている。

男性が家事、育児などをする事についての考えの理由(全体・性別)



男性が家事、育児などをする事についての考えの理由
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答)

		サンプル数	男性が家事、育児などをする事についての考えの理由									
			男性も家事・育児を行うことは、当然である	率的で、家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効	男性自身も充実感を得られる	子どもにいい影響を与える	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事・育児は女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事・育児を行うべきではない	その他
全体		825	425 51.5%	199 24.1%	266 32.2%	484 58.7%	96 11.6%	60 7.3%	10 1.2%	2 0.2%	3 0.4%	37 4.5%
性・年代別	女性計	496	251 50.6%	132 26.6%	167 33.7%	308 62.1%	65 13.1%	28 5.6%	8 1.6%	2 0.4%	1 0.2%	24 4.8%
	10代・20代	47	28 59.6%	14 29.8%	20 42.6%	36 76.6%	4 8.5%	1 2.1%	2 4.3%	1 2.1%	1 2.1%	1 2.1%
	30代	71	41 57.7%	19 26.8%	16 22.5%	39 54.9%	11 15.5%	1 1.4%	1 1.4%	1 1.4%	0 0.0%	6 8.5%
	40代	82	53 64.6%	17 20.7%	26 31.7%	52 63.4%	7 8.5%	2 2.4%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.9%
	50代	100	45 45.0%	30 30.0%	33 33.0%	58 58.0%	10 10.0%	4 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.0%
	60代	114	50 43.9%	28 24.6%	45 39.5%	73 64.0%	19 16.7%	11 9.6%	2 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	6 5.3%
	70歳以上	82	34 41.5%	24 29.3%	27 32.9%	50 61.0%	14 17.1%	9 11.0%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.7%
	男性計	328	173 52.7%	66 20.1%	99 30.2%	175 53.4%	31 9.5%	32 9.8%	2 0.6%	0 0.0%	2 0.6%	13 4.0%
	10代・20代	22	10 45.5%	6 27.3%	4 18.2%	10 45.5%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%
	30代	34	20 58.8%	7 20.6%	9 26.5%	22 64.7%	0 0.0%	2 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 14.7%
	40代	40	28 70.0%	7 17.5%	9 22.5%	17 42.5%	5 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	3 7.5%
	50代	65	34 52.3%	14 21.5%	15 23.1%	37 56.9%	8 12.3%	3 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.1%
	60代	95	48 50.5%	19 20.0%	34 35.8%	56 58.9%	8 8.4%	12 12.6%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.1%
	70歳以上	72	33 45.8%	13 18.1%	28 38.9%	33 45.8%	9 12.5%	14 19.4%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%
	対する考え方 性別役割 分担に	『賛成』	217	78 35.9%	41 18.9%	62 28.6%	130 59.9%	36 16.6%	26 12.0%	6 2.8%	0 0.0%	1 0.5%
『反対』		488	296 60.7%	127 26.0%	169 34.6%	292 59.8%	45 9.2%	21 4.3%	2 0.4%	0 0.0%	1 0.2%	18 3.7%
わからない		111	49 44.1%	31 27.9%	32 28.8%	56 50.5%	14 12.6%	11 9.9%	2 1.8%	2 1.8%	1 0.9%	4 3.6%

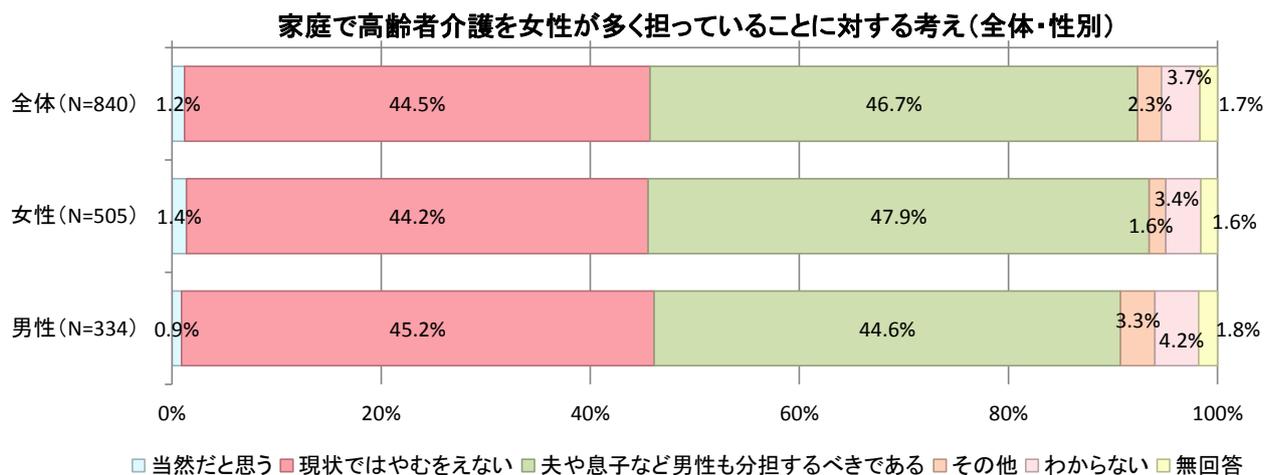
%：各属性内での回答割合が最も高い

(6) 家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え

【問 17】 現在、家庭での高齢者介護は、多くの場合女性が担っていますが、これについてどう思いますか。

～男女ともに分担すべきと考える人が4割を超える～

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考えについてみると、全体では「夫や息子など男性も分担すべきである」(46.7%)の割合が最も高く、次いで「現状ではやむをえない」(44.5%)となっている。



家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え（性・年代別）

		家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え						無回答
		当然だと思 う	現 状 で は や む を え な い	夫 や 息 子 な ど 男 性 も 分 担 す る べ き で あ る	そ の 他	わ か ら な い		
サンプル数								
全体		840 100.0%	10 1.2%	374 44.5%	392 46.7%	19 2.3%	31 3.7%	14 1.7%
性・年代別	女性計	505 100.0%	7 1.4%	223 44.2%	242 47.9%	8 1.6%	17 3.4%	8 1.6%
	10代・20代	47 100.0%	0 0.0%	16 34.0%	29 61.7%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%
	30代	71 100.0%	0 0.0%	22 31.0%	44 62.0%	1 1.4%	3 4.2%	1 1.4%
	40代	82 100.0%	1 1.2%	30 36.6%	46 56.1%	2 2.4%	3 3.7%	0 0.0%
	50代	100 100.0%	0 0.0%	52 52.0%	46 46.0%	0 0.0%	2 2.0%	0 0.0%
	60代	117 100.0%	4 3.4%	57 48.7%	44 37.6%	5 4.3%	4 3.4%	3 2.6%
	70歳以上	88 100.0%	2 2.3%	46 52.3%	33 37.5%	0 0.0%	3 3.4%	4 4.5%
	男性計	334 100.0%	3 0.9%	151 45.2%	149 44.6%	11 3.3%	14 4.2%	6 1.8%
	10代・20代	22 100.0%	0 0.0%	11 50.0%	10 45.5%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%
	30代	34 100.0%	0 0.0%	13 38.2%	17 50.0%	2 5.9%	2 5.9%	0 0.0%
	40代	40 100.0%	0 0.0%	19 47.5%	19 47.5%	1 2.5%	1 2.5%	0 0.0%
	50代	65 100.0%	1 1.5%	29 44.6%	30 46.2%	5 7.7%	0 0.0%	0 0.0%
	60代	98 100.0%	1 1.0%	46 46.9%	40 40.8%	1 1.0%	6 6.1%	4 4.1%
	70歳以上	75 100.0%	1 1.3%	33 44.0%	33 44.0%	2 2.7%	4 5.3%	2 2.7%

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

(7) 「仕事」、「家庭生活」、「地域個人生活」の関わり方の希望と現実

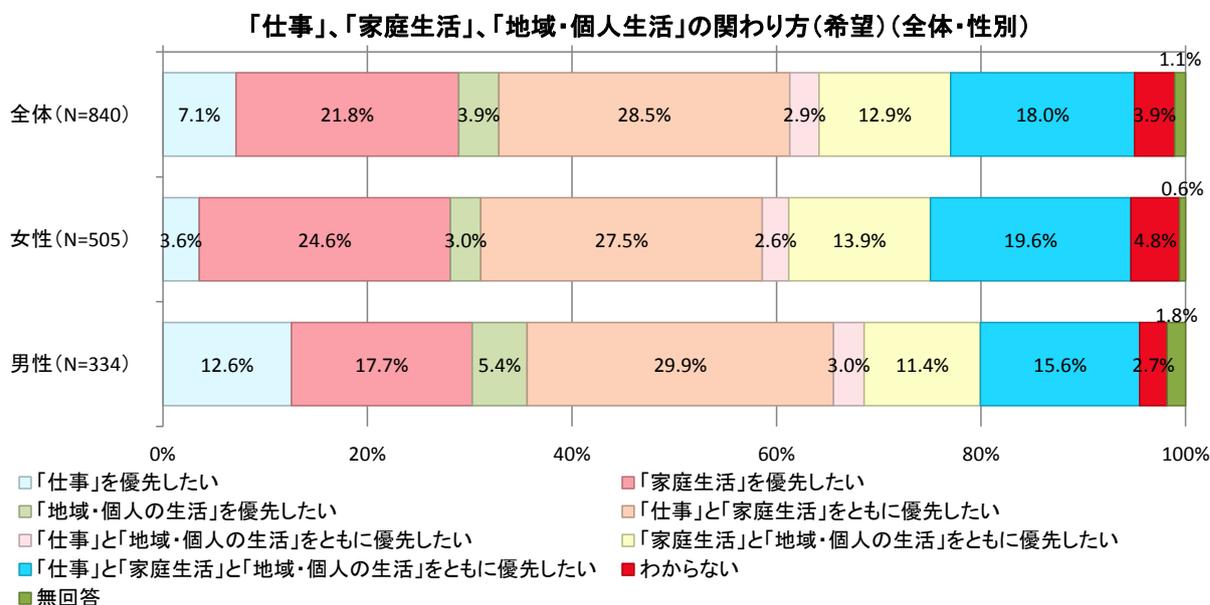
【問 18】 生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておたずねします。

～仕事と家庭生活をともに優先したいが、現実では女性は「家庭生活」、男性は「仕事」を優先～

(1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。

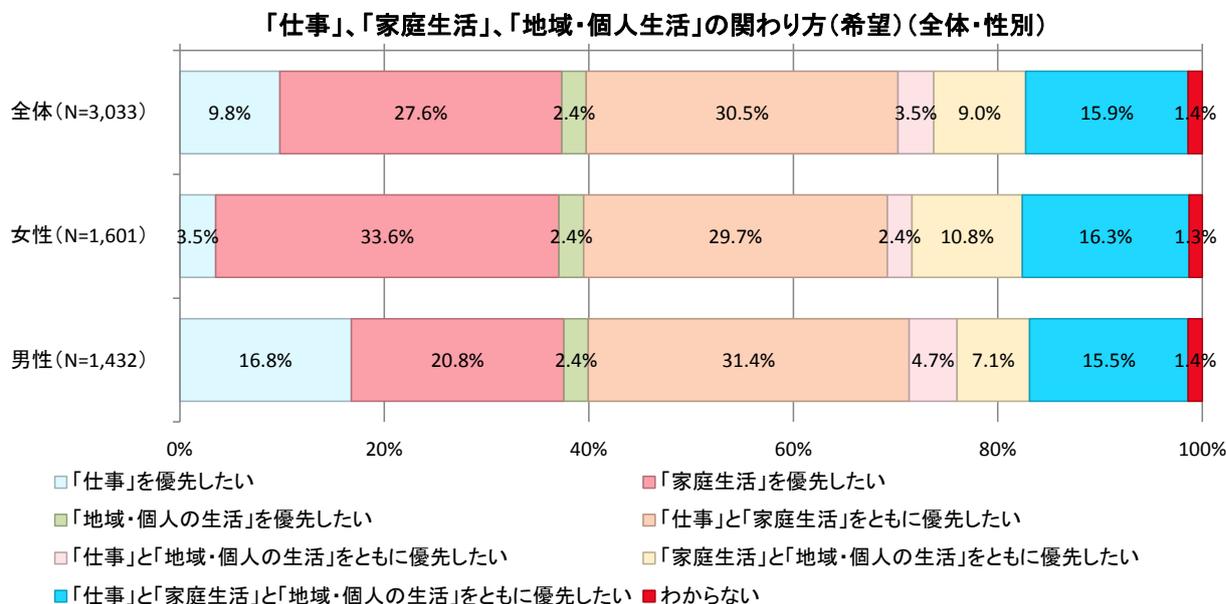
「仕事」、「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の希望についてみると、全体では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」（28.5%）の割合が最も高く、次いで「「家庭生活」を優先したい」（21.8%）、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」（18.0%）となっている。

性別にみると、「「家庭生活」を優先したい」（女性：24.6%、男性：17.7%）で女性の割合が男性より高く、「「仕事」を優先したい」（女性：3.6%、男性：12.6%）で男性の割合が女性より高くなっている。



内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに「家庭生活」を優先したい（全体・霧島市：21.8%、内閣府：27.6%）、（女性・霧島市：24.6%、内閣府：33.6%）、（男性・霧島市：17.7%、内閣府：20.8%）で霧島市の割合が内閣府より低くなっている。

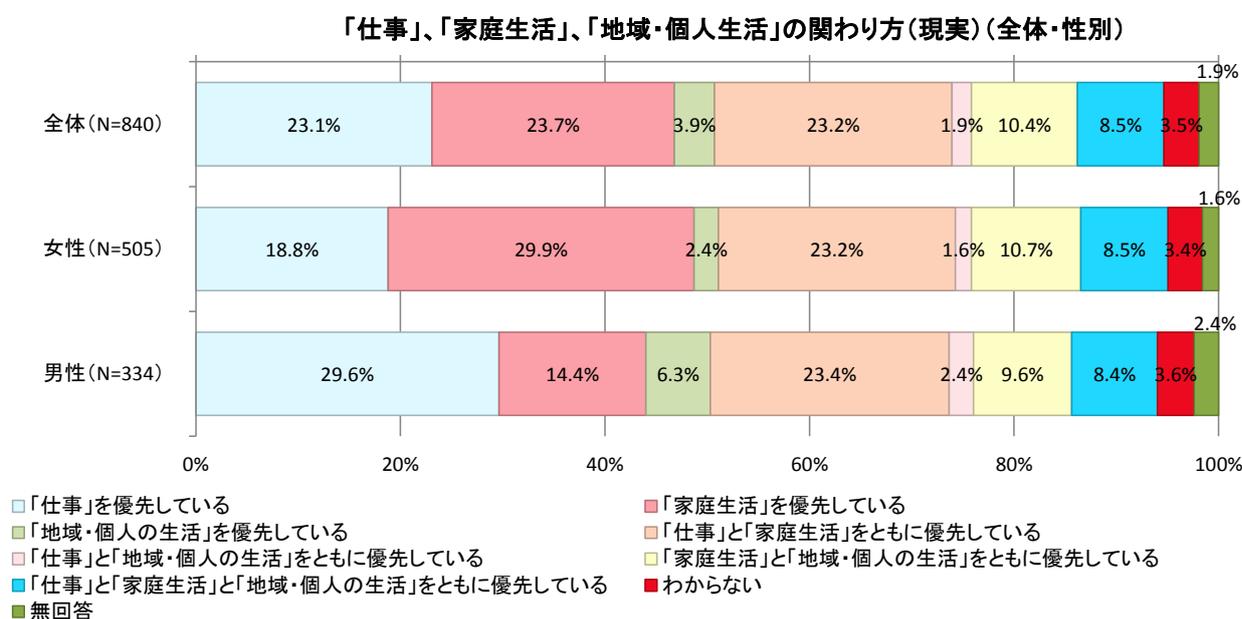
【内閣府調査】



(2) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。

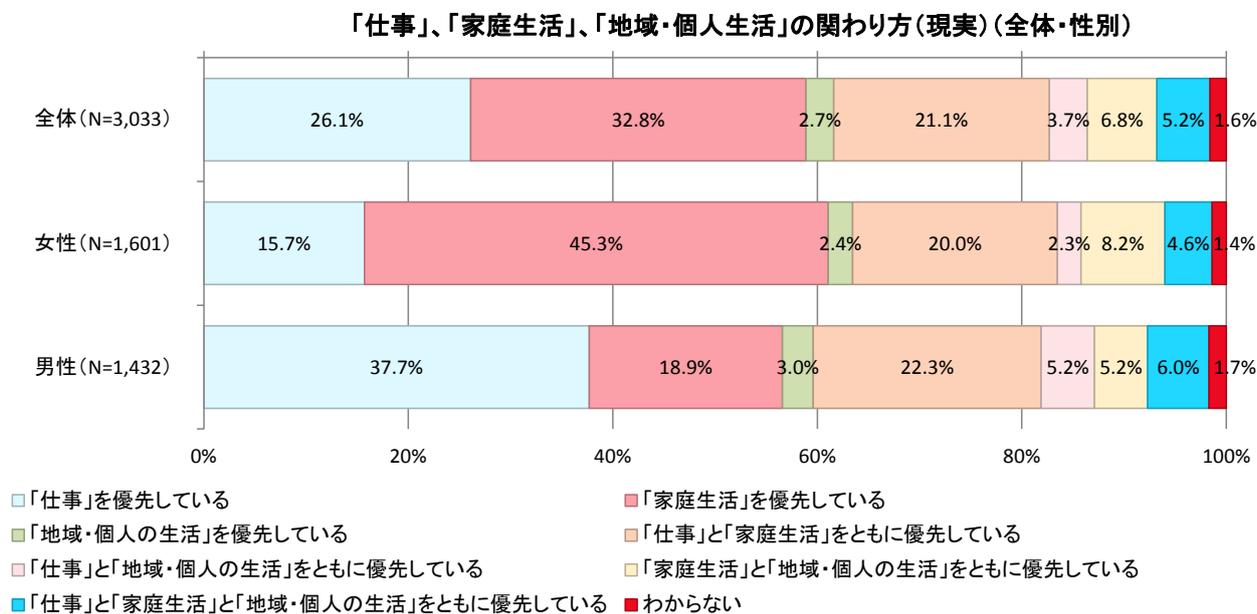
「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の優先度の現実についてみると、全体では「家庭生活」を優先している(23.7%)の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(23.2%)、「仕事」を優先している(23.1%)となっている。

性別にみると「家庭生活」を優先している(女性：29.9%、男性：14.4%)で女性の割合が男性より高く、「仕事」を優先している(女性：18.8%、男性：29.6%)で男性の割合が女性より高くなっている。



内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに「家庭生活」を優先したい（全体・霧島市：23.7%、内閣府：32.8%）、（女性・霧島市：29.9%、内閣府：45.3%）、（男性・霧島市：14.4%、内閣府：18.9%）で霧島市の割合が内閣府より低くなっている。

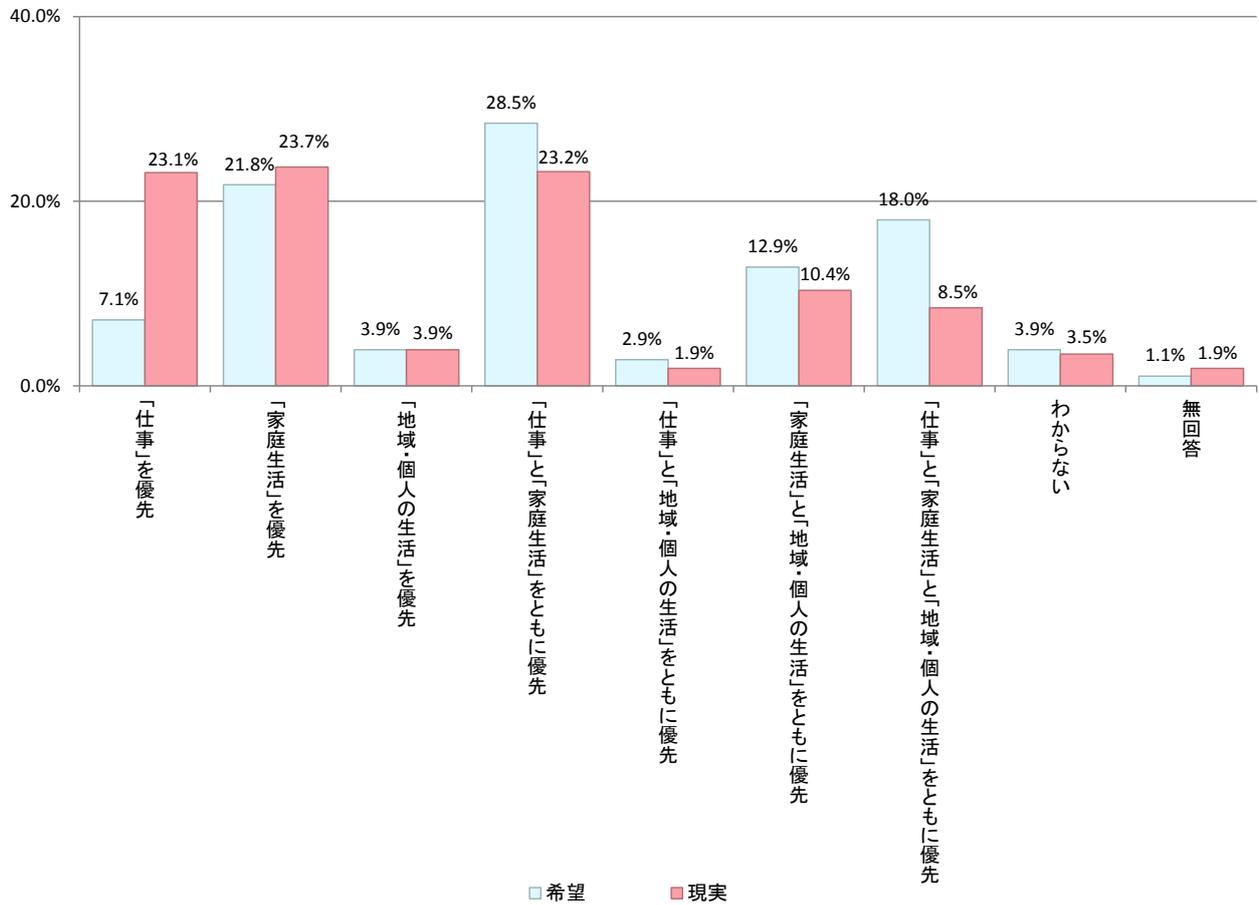
【内閣府調査】



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望と現実についてみると、全体では「仕事」を優先の割合は希望（7.1%）に対して現実（23.1%）が高くなっており、一方、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合は希望（18.0%）に対して現実（8.5%）は低くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望と現実）

(N=840)



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望）（性・年代別）

		「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望）									
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人生活」を優先したい	先「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
全体		840 100.0%	60 7.1%	183 21.8%	33 3.9%	239 28.5%	24 2.9%	108 12.9%	151 18.0%	33 3.9%	9 1.1%
性・年代別	女性計	505 100.0%	18 3.6%	124 24.6%	15 3.0%	139 27.5%	13 2.6%	70 13.9%	99 19.6%	24 4.8%	3 0.6%
	10代・20代	47 100.0%	1 2.1%	14 29.8%	1 2.1%	17 36.2%	1 2.1%	2 4.3%	10 21.3%	1 2.1%	0 0.0%
	30代	71 100.0%	0 0.0%	22 31.0%	3 4.2%	21 29.6%	0 0.0%	9 12.7%	13 18.3%	3 4.2%	0 0.0%
	40代	82 100.0%	1 1.2%	23 28.0%	1 1.2%	29 35.4%	2 2.4%	5 6.1%	17 20.7%	4 4.9%	0 0.0%
	50代	100 100.0%	9 9.0%	20 20.0%	1 1.0%	34 34.0%	3 3.0%	10 10.0%	21 21.0%	2 2.0%	0 0.0%
	60代	117 100.0%	6 5.1%	23 19.7%	3 2.6%	26 22.2%	3 2.6%	25 21.4%	24 20.5%	5 4.3%	2 1.7%
	70歳以上	88 100.0%	1 1.1%	22 25.0%	6 6.8%	12 13.6%	4 4.5%	19 21.6%	14 15.9%	9 10.2%	1 1.1%
	男性計	334 100.0%	42 12.6%	59 17.7%	18 5.4%	100 29.9%	10 3.0%	38 11.4%	52 15.6%	9 2.7%	6 1.8%
	10代・20代	22 100.0%	2 9.1%	6 27.3%	2 9.1%	8 36.4%	1 4.5%	0 0.0%	2 9.1%	1 4.5%	0 0.0%
	30代	34 100.0%	2 5.9%	6 17.6%	3 8.8%	12 35.3%	0 0.0%	5 14.7%	5 14.7%	0 0.0%	1 2.9%
	40代	40 100.0%	5 12.5%	6 15.0%	0 0.0%	18 45.0%	0 0.0%	3 7.5%	8 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
	50代	65 100.0%	9 13.8%	10 15.4%	2 3.1%	25 38.5%	4 6.2%	4 6.2%	9 13.8%	1 1.5%	1 1.5%
	60代	98 100.0%	14 14.3%	19 19.4%	6 6.1%	28 28.6%	3 3.1%	11 11.2%	13 13.3%	3 3.1%	1 1.0%
	70歳以上	75 100.0%	10 13.3%	12 16.0%	5 6.7%	9 12.0%	2 2.7%	15 20.0%	15 20.0%	4 5.3%	3 4.0%

%：各属性内での回答割合が最も高い

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）（性・年代別）

		サンプル数	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）								無回答
			「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	わからない	
全体		840	194	199	33	195	16	87	71	29	16
		100.0%	23.1%	23.7%	3.9%	23.2%	1.9%	10.4%	8.5%	3.5%	1.9%
性・年代別	女性計	505	95	151	12	117	8	54	43	17	8
		100.0%	18.8%	29.9%	2.4%	23.2%	1.6%	10.7%	8.5%	3.4%	1.6%
	10代・20代	47	15	15	1	7	2	1	0	5	1
		100.0%	31.9%	31.9%	2.1%	14.9%	4.3%	2.1%	0.0%	10.6%	2.1%
	30代	71	14	25	2	18	1	6	3	1	1
		100.0%	19.7%	35.2%	2.8%	25.4%	1.4%	8.5%	4.2%	1.4%	1.4%
	40代	82	20	24	1	24	0	3	7	3	0
		100.0%	24.4%	29.3%	1.2%	29.3%	0.0%	3.7%	8.5%	3.7%	0.0%
	50代	100	26	28	2	32	0	3	8	0	1
		100.0%	26.0%	28.0%	2.0%	32.0%	0.0%	3.0%	8.0%	0.0%	1.0%
	60代	117	17	31	2	25	3	20	12	5	2
		100.0%	14.5%	26.5%	1.7%	21.4%	2.6%	17.1%	10.3%	4.3%	1.7%
	70歳以上	88	3	28	4	11	2	21	13	3	3
		100.0%	3.4%	31.8%	4.5%	12.5%	2.3%	23.9%	14.8%	3.4%	3.4%
	男性計	334	99	48	21	78	8	32	28	12	8
		100.0%	29.6%	14.4%	6.3%	23.4%	2.4%	9.6%	8.4%	3.6%	2.4%
	10代・20代	22	11	2	3	1	0	0	1	4	0
	100.0%	50.0%	9.1%	13.6%	4.5%	0.0%	0.0%	4.5%	18.2%	0.0%	
30代	34	15	1	1	10	1	3	2	0	1	
	100.0%	44.1%	2.9%	2.9%	29.4%	2.9%	8.8%	5.9%	0.0%	2.9%	
40代	40	21	1	0	12	1	0	5	0	0	
	100.0%	52.5%	2.5%	0.0%	30.0%	2.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	
50代	65	28	8	2	18	3	3	3	0	0	
	100.0%	43.1%	12.3%	3.1%	27.7%	4.6%	4.6%	4.6%	0.0%	0.0%	
60代	98	13	20	7	28	2	9	13	3	3	
	100.0%	13.3%	20.4%	7.1%	28.6%	2.0%	9.2%	13.3%	3.1%	3.1%	
70歳以上	75	11	16	8	9	1	17	4	5	4	
	100.0%	14.7%	21.3%	10.7%	12.0%	1.3%	22.7%	5.3%	6.7%	5.3%	

%：各属性内での回答割合が最も高い

(8) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと

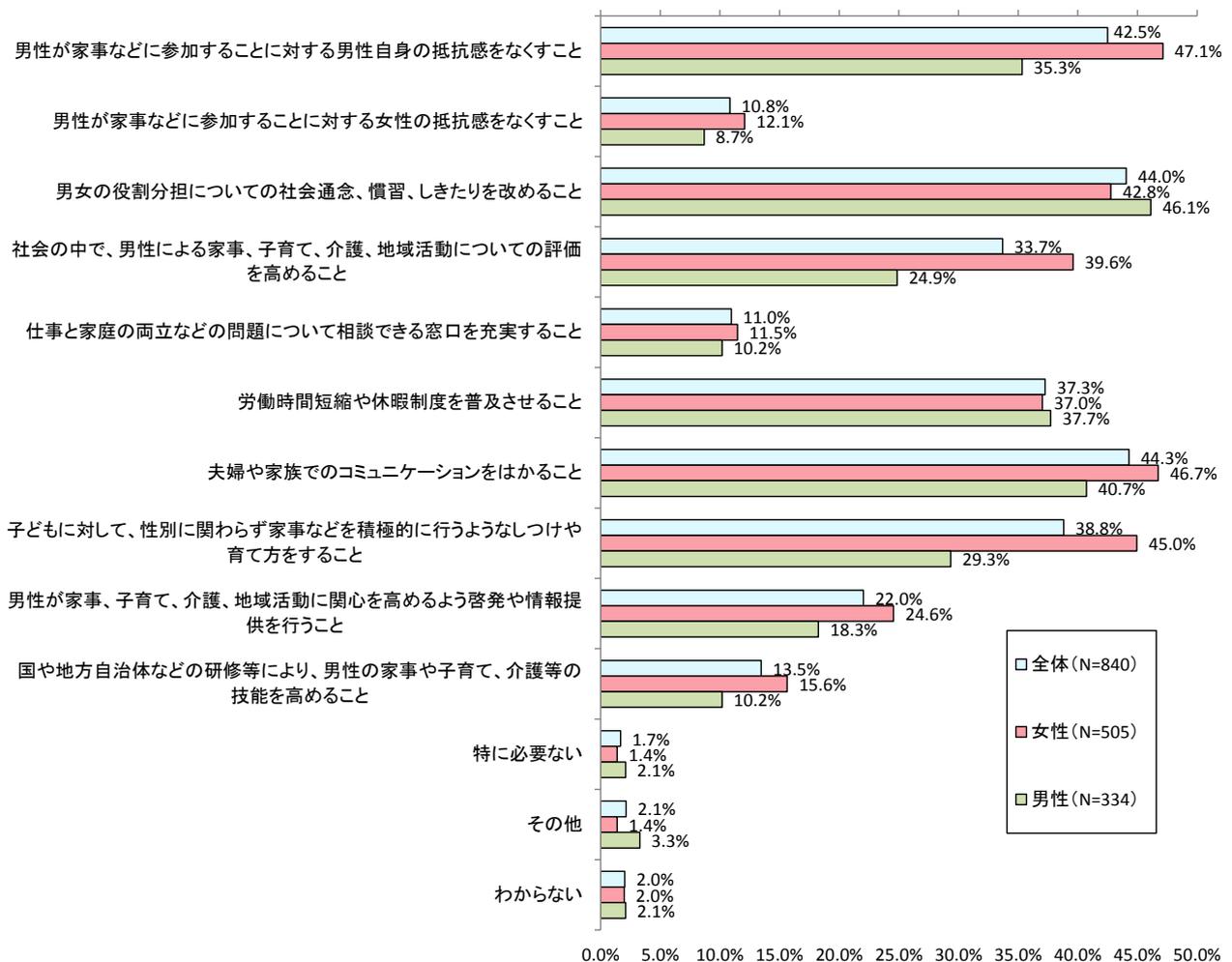
【問 19】 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

～家族でのコミュニケーションをはかることや男女の役割分担についての社会通念を改めることが必要～

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なことについてみると、全体では「夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること」(44.3%)の割合が最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(44.0%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(42.5%)となっている。

性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性：47.1%、男性：35.3%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」(女性：39.6%、男性：24.9%)、「夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること」(女性：46.7%、男性：40.7%)、「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること」(女性：45.0%、男性：29.3%)、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」(女性：24.6%、男性：18.3%)、「国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること」(女性：15.6%、男性：10.2%)で女性の割合が高くなっている。

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと(全体・性別)



男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと
 (性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 1/2

		サンプル数	男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと						
			男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	女性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	男女の役割分担についての変更の社会的通念	社会の中で、地域活動による家事、子育ての高められること	仕事と家庭の両立などの問題について	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること
全体		840	357 42.5%	91 10.8%	370 44.0%	283 33.7%	92 11.0%	313 37.3%	372 44.3%
性・年代別	女性計	505	238 47.1%	61 12.1%	216 42.8%	200 39.6%	58 11.5%	187 37.0%	236 46.7%
	10代・20代	47	29 61.7%	7 14.9%	22 46.8%	21 44.7%	7 14.9%	27 57.4%	28 59.6%
	30代	71	34 47.9%	9 12.7%	38 53.5%	34 47.9%	8 11.3%	37 52.1%	35 49.3%
	40代	82	34 41.5%	5 6.1%	41 50.0%	36 43.9%	6 7.3%	37 45.1%	34 41.5%
	50代	100	49 49.0%	16 16.0%	45 45.0%	42 42.0%	11 11.0%	38 38.0%	41 41.0%
	60代	117	58 49.6%	13 11.1%	43 36.8%	40 34.2%	12 10.3%	29 24.8%	53 45.3%
	70歳以上	88	34 38.6%	11 12.5%	27 30.7%	27 30.7%	14 15.9%	19 21.6%	45 51.1%
	男性計	334	118 35.3%	29 8.7%	154 46.1%	83 24.9%	34 10.2%	126 37.7%	136 40.7%
	10代・20代	22	7 31.8%	4 18.2%	10 45.5%	5 22.7%	6 27.3%	13 59.1%	10 45.5%
	30代	34	13 38.2%	4 11.8%	12 35.3%	12 35.3%	5 14.7%	18 52.9%	16 47.1%
	40代	40	16 40.0%	2 5.0%	24 60.0%	11 27.5%	1 2.5%	19 47.5%	16 40.0%
	50代	65	28 43.1%	8 12.3%	29 44.6%	17 26.2%	6 9.2%	25 38.5%	26 40.0%
	60代	98	29 29.6%	6 6.1%	45 45.9%	21 21.4%	7 7.1%	37 37.8%	35 35.7%
	70歳以上	75	25 33.3%	5 6.7%	34 45.3%	17 22.7%	9 12.0%	14 18.7%	33 44.0%
	対する考え方 性別役割 分担に	『賛成』	220	77 35.0%	18 8.2%	82 37.3%	59 26.8%	17 7.7%	78 35.5%
『反対』		490	242 49.4%	60 12.2%	246 50.2%	193 39.4%	62 12.7%	194 39.6%	224 45.7%
わからない		114	36 31.6%	11 9.6%	40 35.1%	31 27.2%	13 11.4%	39 34.2%	53 46.5%

％：各属性内での回答割合が最も高い

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと
 (性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 2/2

		サンプル数	男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと					
			や子育ての方を積極的にすること	子どもを対して性別に関わらず	行動が家事、子育て、介護、地域活動	技能、男性の方の家事や子育ての研修等	特に必要ない	その他
全体		840	326 38.8%	185 22.0%	113 13.5%	14 1.7%	18 2.1%	17 2.0%
性・年代別	女性計	505	227 45.0%	124 24.6%	79 15.6%	7 1.4%	7 1.4%	10 2.0%
	10代・20代	47	22 46.8%	11 23.4%	7 14.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	71	29 40.8%	14 19.7%	9 12.7%	1 1.4%	2 2.8%	1 1.4%
	40代	82	39 47.6%	18 22.0%	11 13.4%	1 1.2%	1 1.2%	1 1.2%
	50代	100	38 38.0%	24 24.0%	14 14.0%	1 1.0%	1 1.0%	0 0.0%
	60代	117	59 50.4%	32 27.4%	19 16.2%	2 1.7%	2 1.7%	4 3.4%
	70歳以上	88	40 45.5%	25 28.4%	19 21.6%	2 2.3%	1 1.1%	4 4.5%
	男性計	334	98 29.3%	61 18.3%	34 10.2%	7 2.1%	11 3.3%	7 2.1%
	10代・20代	22	4 18.2%	1 4.5%	4 18.2%	0 0.0%	1 4.5%	1 4.5%
	30代	34	10 29.4%	6 17.6%	1 2.9%	1 2.9%	3 8.8%	0 0.0%
	40代	40	10 25.0%	5 12.5%	4 10.0%	0 0.0%	3 7.5%	0 0.0%
	50代	65	17 26.2%	13 20.0%	6 9.2%	0 0.0%	2 3.1%	1 1.5%
	60代	98	30 30.6%	19 19.4%	12 12.2%	3 3.1%	2 2.0%	2 2.0%
	70歳以上	75	27 36.0%	17 22.7%	7 9.3%	3 4.0%	0 0.0%	3 4.0%
対する性別役割分担に 考える方	『賛成』	220	78 35.5%	38 17.3%	28 12.7%	7 3.2%	9 4.1%	5 2.3%
	『反対』	490	209 42.7%	130 26.5%	71 14.5%	3 0.6%	6 1.2%	4 0.8%
	わからない	114	34 29.8%	15 13.2%	12 10.5%	3 2.6%	3 2.6%	8 7.0%

4. 社会活動・地域活動について

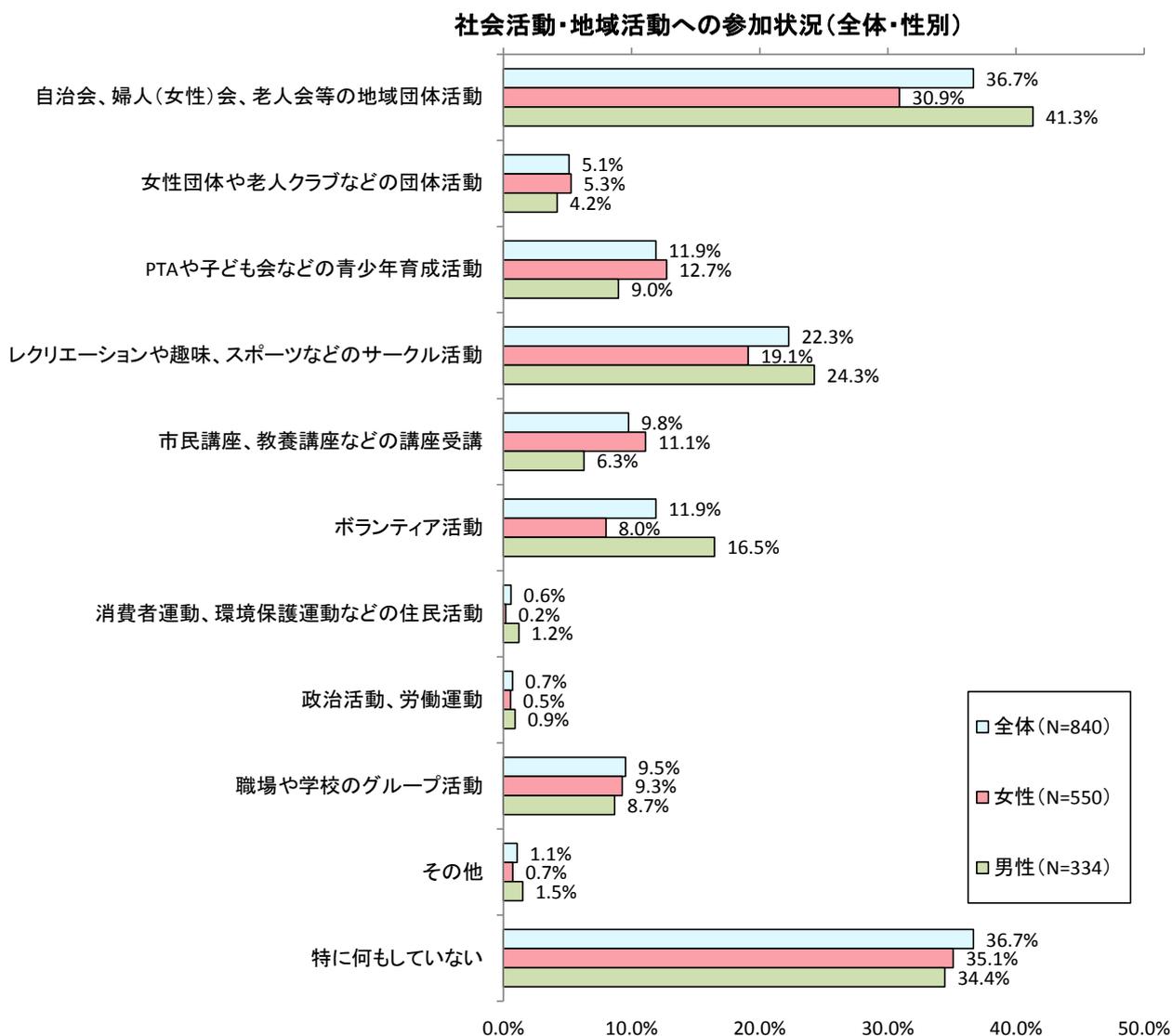
(1) 地域における活動への参加状況

【問 20】 あなたは現在、次のような活動に参加していますか。(複数回答)

～最も参加が多いのは自治会、婦人、老人会等の地域団体活動～

社会活動・地域活動への参加状況についてみると、全体では、「自治会、婦人（女性）会、老人会等の地域団体活動」、「特になにもしていない」（36.7%）の割合が同等で最も高く、次いで「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」（22.3%）となっている。

性別にみると、「PTAや子ども会などの団体活動」（女性：12.7%、男性：9.0%）、「市民講座、教養講座などの講座受講」（女性：11.1%、男性：6.3%）で女性の割合が男性より高く、「自治会、婦人（女性）会、老人会等の地域団体活動」（女性：30.9%、男性：41.3%）、「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」（女性：19.1%、男性：24.3%）、「ボランティア活動」（女性：8.0%、男性：16.5%）で男性の割合が女性より高くなっている。



社会活動・地域活動への参加状況
(性・年代・配偶者の有無別・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 1/2

		サンプル数	社会活動・地域活動への参加状況					ボランティア活動
			地域(団体活動)	自治会、婦人会等	女性団体や老人クラブ	P.T.Aや子ども会など	趣味、スポーツなど	
全体		840	308 36.7%	43 5.1%	100 11.9%	187 22.3%	82 9.8%	100 11.9%
性・年代別	女性計	505	170 33.7%	29 5.7%	70 13.9%	105 20.8%	61 12.1%	44 8.7%
	10代・20代	47	4 8.5%	0 0.0%	2 4.3%	6 12.8%	1 2.1%	4 8.5%
	30代	71	15 21.1%	0 0.0%	20 28.2%	7 9.9%	3 4.2%	2 2.8%
	40代	82	33 40.2%	3 3.7%	40 48.8%	17 20.7%	6 7.3%	3 3.7%
	50代	100	39 39.0%	2 2.0%	7 7.0%	19 19.0%	7 7.0%	9 9.0%
	60代	117	41 35.0%	8 6.8%	1 0.9%	32 27.4%	26 22.2%	14 12.0%
	70歳以上	88	38 43.2%	16 18.2%	0 0.0%	24 27.3%	18 20.5%	12 13.6%
	男性計	334	138 41.3%	14 4.2%	30 9.0%	81 24.3%	21 6.3%	55 16.5%
	10代・20代	22	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 27.3%	0 0.0%	2 9.1%
	30代	34	8 23.5%	1 2.9%	8 23.5%	4 11.8%	0 0.0%	4 11.8%
	40代	40	15 37.5%	0 0.0%	9 22.5%	11 27.5%	0 0.0%	7 17.5%
	50代	65	31 47.7%	0 0.0%	6 9.2%	18 27.7%	4 6.2%	6 9.2%
	60代	98	38 38.8%	2 2.0%	6 6.1%	21 21.4%	8 8.2%	23 23.5%
	70歳以上	75	45 60.0%	11 14.7%	1 1.3%	21 28.0%	9 12.0%	13 17.3%
性・配偶者の有無別	女性計	421	149 35.4%	25 5.9%	61 14.5%	95 22.6%	50 11.9%	37 8.8%
	結婚している	355	142 40.0%	24 6.8%	60 16.9%	86 24.2%	46 13.0%	29 8.2%
	結婚していない	66	7 10.6%	1 1.5%	1 1.5%	9 13.6%	4 6.1%	8 12.1%
	男性計	310	133 42.9%	13 4.2%	29 9.4%	80 25.8%	21 6.8%	53 17.1%
	結婚している	253	127 50.2%	13 5.1%	29 11.5%	71 28.1%	21 8.3%	45 17.8%
	結婚していない	57	6 10.5%	0 0.0%	0 0.0%	9 15.8%	0 0.0%	8 14.0%
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	220	104 47.3%	18 8.2%	22 10.0%	60 27.3%	24 10.9%	28 12.7%
	『反対』	490	166 33.9%	22 4.5%	69 14.1%	110 22.4%	49 10.0%	61 12.4%
	わからない	114	34 29.8%	3 2.6%	8 7.0%	16 14.0%	9 7.9%	11 9.6%

%：各属性内での回答割合が最も高い

社会活動・地域活動への参加状況

(性・年代・配偶者の有無別・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 2/2

		サンプル数	社会活動・地域活動への参加状況				
			消費者運動などの住民生活	政治活動、労働運動	職場や学校のグループ	その他	特に何もしていない
全体		840	5 0.6%	6 0.7%	80 9.5%	9 1.1%	308 36.7%
性・年代別	女性 計	505	1 0.2%	3 0.6%	51 10.1%	4 0.8%	193 38.2%
	10代・20代	47	0 0.0%	0 0.0%	13 27.7%	0 0.0%	20 42.6%
	30代	71	0 0.0%	1 1.4%	7 9.9%	0 0.0%	36 50.7%
	40代	82	0 0.0%	0 0.0%	17 20.7%	1 1.2%	18 22.0%
	50代	100	0 0.0%	1 1.0%	10 10.0%	1 1.0%	41 41.0%
	60代	117	0 0.0%	1 0.9%	4 3.4%	2 1.7%	44 37.6%
	70歳以上	88	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	34 38.6%
	男性 計	334	4 1.2%	3 0.9%	29 8.7%	5 1.5%	115 34.4%
	10代・20代	22	0 0.0%	0 0.0%	6 27.3%	1 4.5%	12 54.5%
	30代	34	0 0.0%	0 0.0%	7 20.6%	0 0.0%	14 41.2%
	40代	40	1 2.5%	0 0.0%	5 12.5%	0 0.0%	15 37.5%
	50代	65	1 1.5%	1 1.5%	6 9.2%	0 0.0%	20 30.8%
	60代	98	1 1.0%	0 0.0%	4 4.1%	2 2.0%	38 38.8%
	70歳以上	75	1 1.3%	2 2.7%	1 1.3%	2 2.7%	16 21.3%
	性・配偶者の有無別	女性 計	421	1 0.2%	3 0.7%	47 11.2%	2 0.5%
結婚している		355	1 0.3%	3 0.8%	32 9.0%	2 0.6%	125 35.2%
結婚していない		66	0 0.0%	0 0.0%	15 22.7%	0 0.0%	31 47.0%
男性 計		310	4 1.3%	3 1.0%	29 9.4%	4 1.3%	100 32.3%
結婚している		253	4 1.6%	3 1.2%	21 8.3%	2 0.8%	70 27.7%
結婚していない		57	0 0.0%	0 0.0%	8 14.0%	2 3.5%	30 52.6%
対する性別役割分担に 考える方	『賛成』	220	1 0.5%	0 0.0%	15 6.8%	2 0.9%	74 33.6%
	『反対』	490	3 0.6%	5 1.0%	57 11.6%	6 1.2%	172 35.1%
	わからない	114	1 0.9%	1 0.9%	8 7.0%	1 0.9%	54 47.4%

％：各属性内での回答割合が最も高い

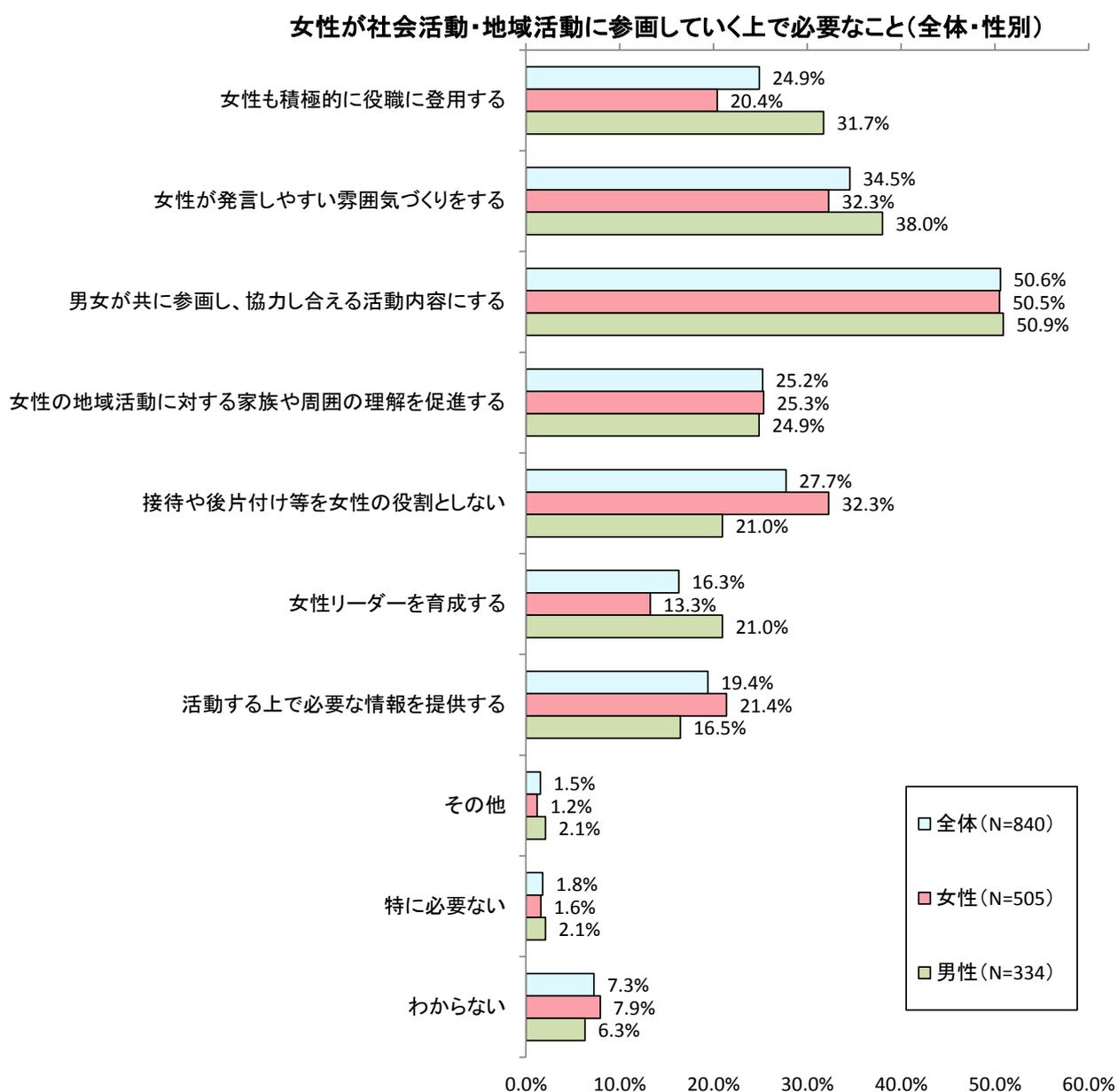
(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと

【問 21】 特に、女性が社会活動・地域活動に参画していく上ではどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

～「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」が最も多い～

女性が社会活動・地域活動等に参画していく上で必要なことについてみると、全体では、「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」(50.6%)の割合が最も高く、次いで「接待や後片付け等を女性の役割としない」(27.7%)、「女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進する」(25.2%)となっている。

性別にみると、「接待や後片付け等を女性の役割としない」(女性：32.3%、男性：21.0%)、「活動する上で必要な情報を提供する」(女性：21.4%、男性：16.5%)で女性の割合が男性より高く、「女性も積極的に役職に登用する」(女性：20.4%、男性：31.7%)、「女性が発言しやすい雰囲気づくりをする」(女性：32.3%、男性：38.0%)、「女性が発言しやすい雰囲気づくりをする」(女性：32.3%、男性：38.0%)、「女性リーダーを育成する」(女性：13.3%、男性：21.0%)で男性の割合が女性より高くなっている。



女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと（性・年代別）（複数回答） 1/2

		サンプル数	女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと				
			女性も積極的に役職に登用する	女性が発言しやすい雰囲気づくりをする	男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする	女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進	接待や後片付け等を女性の役割としない
全体		840	209 24.9%	290 34.5%	425 50.6%	212 25.2%	233 27.7%
性・年代別	女性計	505	103 20.4%	163 32.3%	255 50.5%	128 25.3%	163 32.3%
	10代・20代	47	8 17.0%	23 48.9%	19 40.4%	4 8.5%	18 38.3%
	30代	71	14 19.7%	31 43.7%	38 53.5%	18 25.4%	27 38.0%
	40代	82	16 19.5%	27 32.9%	40 48.8%	21 25.6%	35 42.7%
	50代	100	17 17.0%	31 31.0%	50 50.0%	23 23.0%	31 31.0%
	60代	117	25 21.4%	32 27.4%	60 51.3%	35 29.9%	30 25.6%
	70歳以上	88	23 26.1%	19 21.6%	48 54.5%	27 30.7%	22 25.0%
	男性計	334	106 31.7%	127 38.0%	170 50.9%	83 24.9%	70 21.0%
	10代・20代	22	0 0.0%	8 36.4%	11 50.0%	4 18.2%	3 13.6%
	30代	34	9 26.5%	14 41.2%	16 47.1%	8 23.5%	5 14.7%
	40代	40	15 37.5%	15 37.5%	20 50.0%	6 15.0%	14 35.0%
	50代	65	29 44.6%	28 43.1%	32 49.2%	20 30.8%	7 10.8%
	60代	98	24 24.5%	35 35.7%	54 55.1%	28 28.6%	17 17.3%
	70歳以上	75	29 38.7%	27 36.0%	37 49.3%	17 22.7%	24 32.0%

％：各属性内での回答割合が最も高い

女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと（性・年代別）（複数回答）2/2

		サンプル数	女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと				
			女性リーダーを育成する	活動する上で必要な情報を提供する	その他	特に必要ない	わからない
全体		840	137 16.3%	163 19.4%	13 1.5%	15 1.8%	61 7.3%
性・年代別	女性計	505	67 13.3%	108 21.4%	6 1.2%	8 1.6%	40 7.9%
	10代・20代	47	6 12.8%	4 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	5 10.6%
	30代	71	9 12.7%	16 22.5%	3 4.2%	2 2.8%	6 8.5%
	40代	82	14 17.1%	14 17.1%	1 1.2%	1 1.2%	3 3.7%
	50代	100	10 10.0%	25 25.0%	1 1.0%	2 2.0%	6 6.0%
	60代	117	15 12.8%	30 25.6%	1 0.9%	2 1.7%	12 10.3%
	70歳以上	88	13 14.8%	19 21.6%	0 0.0%	1 1.1%	8 9.1%
	男性計	334	70 21.0%	55 16.5%	7 2.1%	7 2.1%	21 6.3%
	10代・20代	22	2 9.1%	7 31.8%	1 4.5%	1 4.5%	2 9.1%
	30代	34	10 29.4%	1 2.9%	1 2.9%	3 8.8%	2 5.9%
	40代	40	8 20.0%	6 15.0%	2 5.0%	0 0.0%	1 2.5%
	50代	65	13 20.0%	10 15.4%	1 1.5%	1 1.5%	1 1.5%
	60代	98	22 22.4%	23 23.5%	0 0.0%	2 2.0%	8 8.2%
	70歳以上	75	15 20.0%	8 10.7%	2 2.7%	0 0.0%	7 9.3%

5. 就労について

(1) (結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え

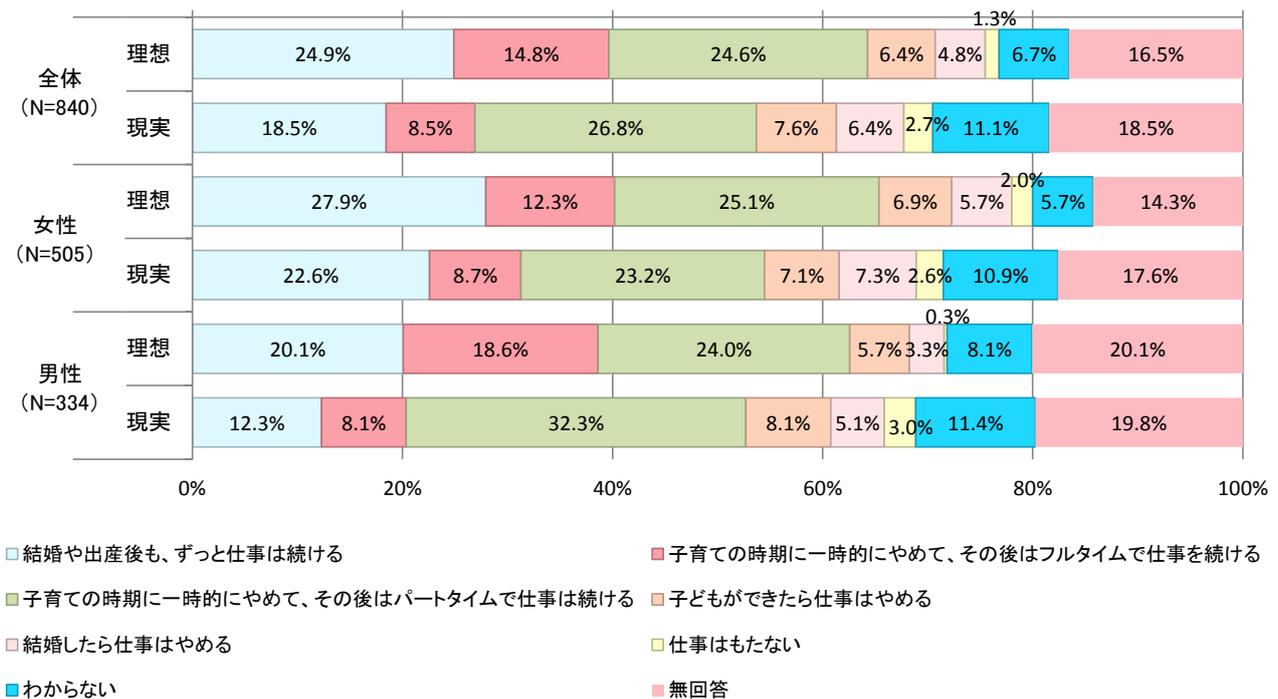
【問 22】 女性の仕事についてのあなたの考えをおたずねします。「①自分の理想」と「②現実」において、あなたの考えに一番近いものは1～7のうちどれですか。なお、男性の場合はあなたのパートナー（いない場合はいと家庭して）についてお答えください。

～女性が仕事を続けることは6割が肯定的～

女性の仕事に対する考えについてみると、理想は全体では、「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」(24.9%)の割合が最も高く、次いで「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事は続ける」(24.6%)、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事は続ける」(14.8%)となっている。

現実には、全体では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事は続ける」(26.8%)、「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」(18.5%)、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事は続ける」(8.5%)となっている。

女性の仕事に対する考え(全体・性別)



女性の仕事に対する考え (①自分の理想) (性・年代別)

		①女性の仕事に対する考え(自分の理想)								
		結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける	子育てのフルタイムで一時的にやめて、その後	子育てのパートタイムで一時的にやめて、その後	子どもができたら仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない	無回答	
全体		840 100.0%	209 24.9%	124 14.8%	207 24.6%	54 6.4%	40 4.8%	11 1.3%	56 6.7%	139 16.5%
性・年代別	女性計	505 100.0%	141 27.9%	62 12.3%	127 25.1%	35 6.9%	29 5.7%	10 2.0%	29 5.7%	72 14.3%
	10代・20代	47 100.0%	21 44.7%	1 2.1%	17 36.2%	2 4.3%	3 6.4%	1 2.1%	0 0.0%	2 4.3%
	30代	71 100.0%	18 25.4%	11 15.5%	19 26.8%	7 9.9%	4 5.6%	2 2.8%	3 4.2%	7 9.9%
	40代	82 100.0%	22 26.8%	12 14.6%	18 22.0%	14 17.1%	4 4.9%	0 0.0%	4 4.9%	8 9.8%
	50代	100 100.0%	32 32.0%	13 13.0%	29 29.0%	4 4.0%	8 8.0%	1 1.0%	6 6.0%	7 7.0%
	60代	117 100.0%	30 25.6%	17 14.5%	32 27.4%	5 4.3%	5 4.3%	4 3.4%	5 4.3%	19 16.2%
	70歳以上	88 100.0%	18 20.5%	8 9.1%	12 13.6%	3 3.4%	5 5.7%	2 2.3%	11 12.5%	29 33.0%
	男性計	334 100.0%	67 20.1%	62 18.6%	80 24.0%	19 5.7%	11 3.3%	1 0.3%	27 8.1%	67 20.1%
	10代・20代	22 100.0%	6 27.3%	4 18.2%	7 31.8%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 13.6%	1 4.5%
	30代	34 100.0%	5 14.7%	9 26.5%	11 32.4%	4 11.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.9%	3 8.8%
	40代	40 100.0%	7 17.5%	8 20.0%	15 37.5%	0 0.0%	3 7.5%	0 0.0%	3 7.5%	4 10.0%
	50代	65 100.0%	21 32.3%	9 13.8%	18 27.7%	4 6.2%	1 1.5%	1 1.5%	3 4.6%	8 12.3%
	60代	98 100.0%	18 18.4%	17 17.3%	17 17.3%	6 6.1%	5 5.1%	0 0.0%	9 9.2%	26 26.5%
	70歳以上	75 100.0%	10 13.3%	15 20.0%	12 16.0%	4 5.3%	2 2.7%	0 0.0%	7 9.3%	25 33.3%

％：各属性内での回答割合が最も高い

女性の仕事に対する考え（②現実）（性・年代別）

		②女性の仕事に対する考え（現実）								
		結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後フルタイムで仕事を続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後パートタイムで仕事を続ける	子どもができたらずら仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない	無回答	
全体	サンプル数	840	155	71	225	64	54	23	93	155
		100.0%	18.5%	8.5%	26.8%	7.6%	6.4%	2.7%	11.1%	18.5%
性・年代別	女性計	505	114	44	117	36	37	13	55	89
		100.0%	22.6%	8.7%	23.2%	7.1%	7.3%	2.6%	10.9%	17.6%
	10代・20代	47	9	7	7	4	2	2	8	8
		100.0%	19.1%	14.9%	14.9%	8.5%	4.3%	4.3%	17.0%	17.0%
	30代	71	14	2	23	8	4	1	13	6
		100.0%	19.7%	2.8%	32.4%	11.3%	5.6%	1.4%	18.3%	8.5%
	40代	82	23	7	28	6	6	1	7	4
		100.0%	28.0%	8.5%	34.1%	7.3%	7.3%	1.2%	8.5%	4.9%
	50代	100	28	14	28	6	7	2	9	6
		100.0%	28.0%	14.0%	28.0%	6.0%	7.0%	2.0%	9.0%	6.0%
	60代	117	23	7	27	7	12	4	10	27
		100.0%	19.7%	6.0%	23.1%	6.0%	10.3%	3.4%	8.5%	23.1%
	70歳以上	88	17	7	4	5	6	3	8	38
		100.0%	19.3%	8.0%	4.5%	5.7%	6.8%	3.4%	9.1%	43.2%
	男性計	334	41	27	108	27	17	10	38	66
		100.0%	12.3%	8.1%	32.3%	8.1%	5.1%	3.0%	11.4%	19.8%
10代・20代	22	2	1	10	2	1	0	4	2	
	100.0%	9.1%	4.5%	45.5%	9.1%	4.5%	0.0%	18.2%	9.1%	
30代	34	3	2	18	1	1	1	2	6	
	100.0%	8.8%	5.9%	52.9%	2.9%	2.9%	2.9%	5.9%	17.6%	
40代	40	6	4	14	4	4	2	6	0	
	100.0%	15.0%	10.0%	35.0%	10.0%	10.0%	5.0%	15.0%	0.0%	
50代	65	9	8	28	5	2	3	4	6	
	100.0%	13.8%	12.3%	43.1%	7.7%	3.1%	4.6%	6.2%	9.2%	
60代	98	14	8	20	9	7	4	13	23	
	100.0%	14.3%	8.2%	20.4%	9.2%	7.1%	4.1%	13.3%	23.5%	
70歳以上	75	7	4	18	6	2	0	9	29	
	100.0%	9.3%	5.3%	24.0%	8.0%	2.7%	0.0%	12.0%	38.7%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由

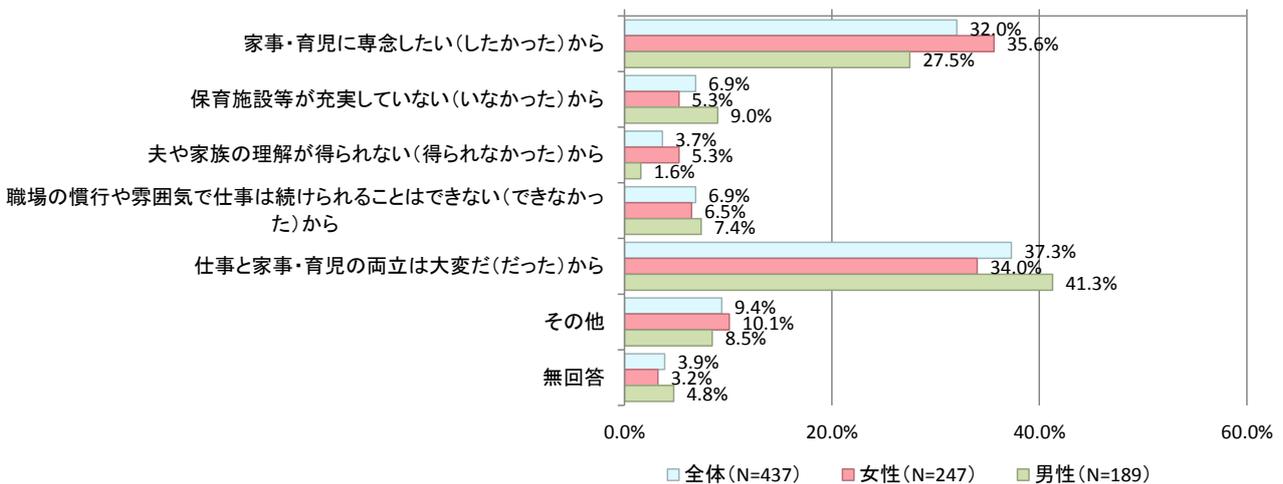
【問 23】 問 22 の「②現実」で、2～6 を選んだ方におたずねします。その理由は何ですか。

- ※問 22 の選択肢
2. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
 3. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
 4. 子どもができたなら仕事はやめる
 5. 結婚したら仕事はやめる
 6. 仕事はもたない

～「仕事と家事・育児の両立は大変」「家事・育児に専念したい」が多い～

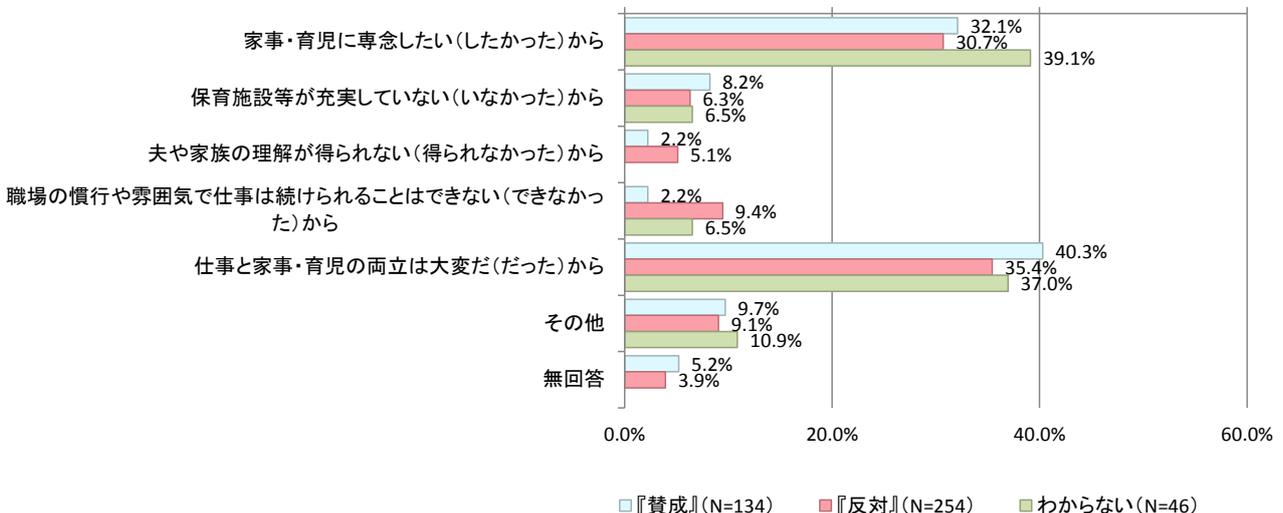
現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由をみると、全体では「仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から」（37.3%）が最も高く、次いで「家事・育児に専念したい（したかった）から」（32.0%）となっている。性別にみると、「家事・育児に専念した（したかった）から」（女性：35.6%、男性：27.5%）で女性の割合が男性より高く、「仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から」（女性：34.0%、男性：41.3%）と男性の割合が女性より高くなっている。

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由（全体・性別）



性別役割分担に対する考え方別では、違いはみられなかった。

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由（性別役割分担に対する考え方別）



※『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由
 (性・年代・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由						無回答
			家事・育児に専念したい（したかった）から	保育施設等が充実していない（ない）から	夫や家族の理解が得られない（得られなかった）から	職場の慣行や雰囲気（仕事は続けられない）から	仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から	その他	
全体		437	140	30	16	30	163	41	17
		100.0%	32.0%	6.9%	3.7%	6.9%	37.3%	9.4%	3.9%
性・年代別	女性 計	247	88	13	13	16	84	25	8
		100.0%	35.6%	5.3%	5.3%	6.5%	34.0%	10.1%	3.2%
	10代・20代	22	10	3	0	1	5	3	0
		100.0%	45.5%	13.6%	0.0%	4.5%	22.7%	13.6%	0.0%
	30代	38	12	1	1	3	12	7	2
		100.0%	31.6%	2.6%	2.6%	7.9%	31.6%	18.4%	5.3%
	40代	48	11	1	0	4	23	6	3
		100.0%	22.9%	2.1%	0.0%	8.3%	47.9%	12.5%	6.3%
	50代	57	20	2	5	6	20	3	1
		100.0%	35.1%	3.5%	8.8%	10.5%	35.1%	5.3%	1.8%
	60代	57	23	3	4	2	19	5	1
		100.0%	40.4%	5.3%	7.0%	3.5%	33.3%	8.8%	1.8%
	70歳以上	25	12	3	3	0	5	1	1
		100.0%	48.0%	12.0%	12.0%	0.0%	20.0%	4.0%	4.0%
	男性 計	189	52	17	3	14	78	16	9
	100.0%	27.5%	9.0%	1.6%	7.4%	41.3%	8.5%	4.8%	
10代・20代	14	2	1	0	1	10	0	0	
	100.0%	14.3%	7.1%	0.0%	7.1%	71.4%	0.0%	0.0%	
30代	23	5	1	0	2	12	3	0	
	100.0%	21.7%	4.3%	0.0%	8.7%	52.2%	13.0%	0.0%	
40代	28	12	1	0	0	12	3	0	
	100.0%	42.9%	3.6%	0.0%	0.0%	42.9%	10.7%	0.0%	
50代	46	14	3	0	4	19	4	2	
	100.0%	30.4%	6.5%	0.0%	8.7%	41.3%	8.7%	4.3%	
60代	48	13	1	2	4	18	5	5	
	100.0%	27.1%	2.1%	4.2%	8.3%	37.5%	10.4%	10.4%	
70歳以上	30	6	10	1	3	7	1	2	
	100.0%	20.0%	33.3%	3.3%	10.0%	23.3%	3.3%	6.7%	
対する考え方に性別役割分担に	『賛成』	134	43	11	3	3	54	13	7
		100.0%	32.1%	8.2%	2.2%	2.2%	40.3%	9.7%	5.2%
	『反対』	254	78	16	13	24	90	23	10
	100.0%	30.7%	6.3%	5.1%	9.4%	35.4%	9.1%	3.9%	
わからない	46	18	3	0	3	17	5	0	
	100.0%	39.1%	6.5%	0.0%	6.5%	37.0%	10.9%	0.0%	

%：各属性内での回答割合が最も高い

(3) 職場での男女格差の有無

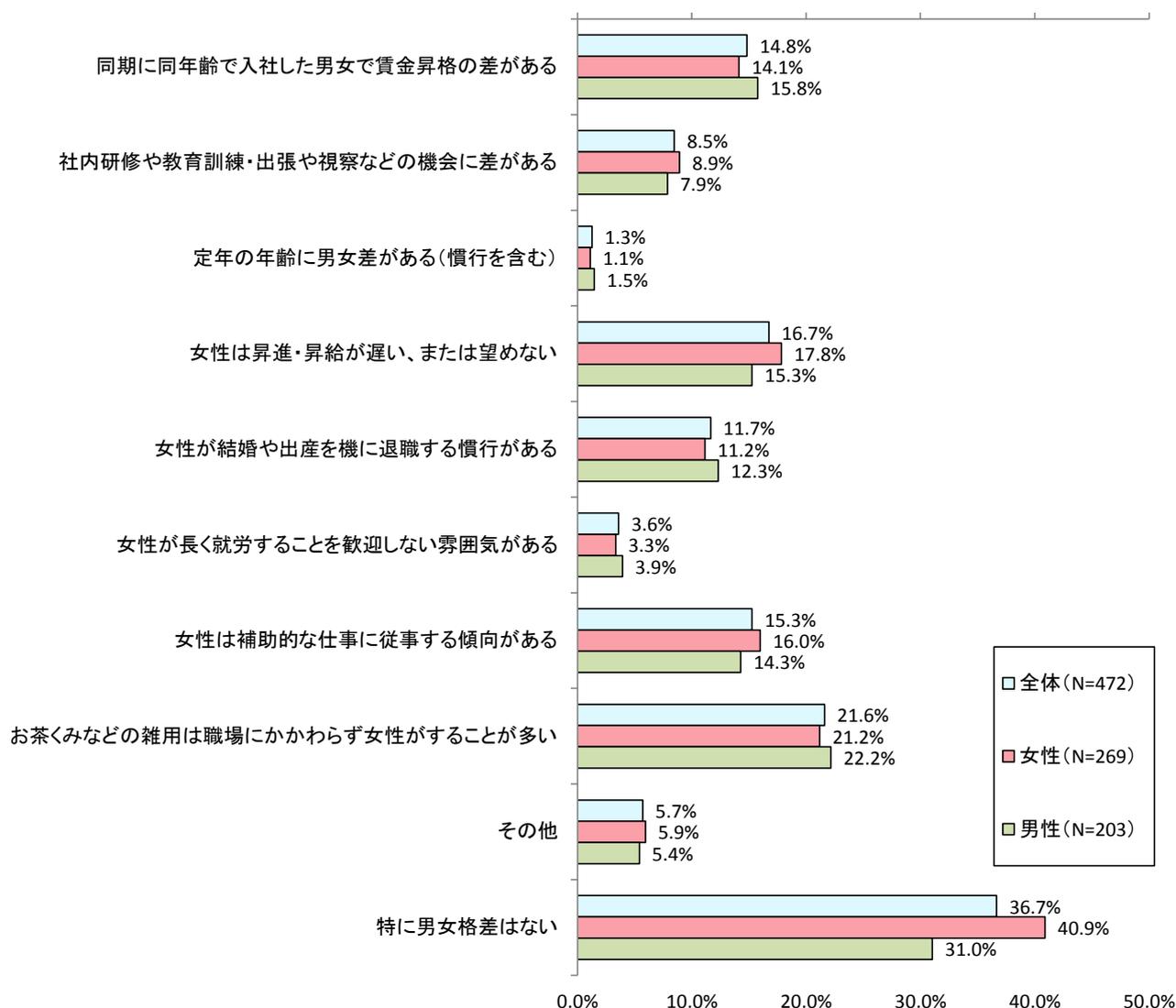
【問 24】 働いている方（パートタイマー、派遣、アルバイトをしている学生も含む）におたずねします。あなたの職場で現在次のような男女格差がありますか。該当するものに○をつけてください。（複数回答）

～「特に男女格差はない」と答えたが多い～

職場での男女格差の有無についてみると、全体では「特に男女格差はない」（36.7%）の割合が最も高く、次いで「お茶くみなどの雑用は職場にかかわらず女性がすることが多い」（21.6%）、「女性は昇進・昇給が遅い、または望めない」（16.7%）となっている。

性別にみると、「女性は昇進・昇給が遅い、または望めない」（女性：17.8%、男性：15.3%）、「特に男女格差はない」（女性：40.9%、男性：31.0%）で女性の割合が男性より高くなっている。

職場での男女格差の有無(全体・性別)



職場での男女格差の有無（性・年代別）（複数回答）

	サンプル数	職場での男女格差の有無										
		昇格の差がある	社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある	含む） 定年の年齢に男女差がある（慣行を	め 女性 ない は 昇進・昇給が遅い、または望	行 女性 がある が 結婚や出産を機に退職する慣	い 女性 が 長く 就労 する こと を 歓迎 しな	が 女性 は 補助 的な 仕事 に 従事 する 傾向	ら お 茶 く み な ど の 雑 用 は 職 場 に か か わ ら ず 女 性 が す る こ と が 多 い	その他	特に男女格差はない	
全体	472	70 14.8%	40 8.5%	6 1.3%	79 16.7%	55 11.7%	17 3.6%	72 15.3%	102 21.6%	27 5.7%	173 36.7%	
性・年代別	女性計	269	38 14.1%	24 8.9%	3 1.1%	48 17.8%	30 11.2%	9 3.3%	43 16.0%	57 21.2%	16 5.9%	110 40.9%
	10代・20代	28	4 14.3%	2 7.1%	0 0.0%	4 14.3%	3 10.7%	1 3.6%	6 21.4%	7 25.0%	0 0.0%	12 42.9%
	30代	45	6 13.3%	3 6.7%	0 0.0%	4 8.9%	4 8.9%	0 0.0%	7 15.6%	9 20.0%	2 4.4%	24 53.3%
	40代	66	13 19.7%	9 13.6%	1 1.5%	16 24.2%	9 13.6%	3 4.5%	13 19.7%	15 22.7%	8 12.1%	24 36.4%
	50代	73	12 16.4%	8 11.0%	1 1.4%	19 26.0%	11 15.1%	3 4.1%	8 11.0%	13 17.8%	4 5.5%	31 42.5%
	60代	44	3 6.8%	2 4.5%	1 2.3%	4 9.1%	3 6.8%	2 4.5%	7 15.9%	11 25.0%	2 4.5%	16 36.4%
	70歳以上	13	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	2 15.4%	0 0.0%	3 23.1%
	男性計	203	32 15.8%	16 7.9%	3 1.5%	31 15.3%	25 12.3%	8 3.9%	29 14.3%	45 22.2%	11 5.4%	63 31.0%
	10代・20代	9	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	3 33.3%	0 0.0%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	4 44.4%
	30代	33	5 15.2%	1 3.0%	0 0.0%	3 9.1%	4 12.1%	2 6.1%	3 9.1%	8 24.2%	2 6.1%	16 48.5%
	40代	39	8 20.5%	5 12.8%	2 5.1%	8 20.5%	4 10.3%	2 5.1%	11 28.2%	12 30.8%	3 7.7%	10 25.6%
	50代	59	13 22.0%	6 10.2%	0 0.0%	14 23.7%	9 15.3%	1 1.7%	8 13.6%	10 16.9%	2 3.4%	21 35.6%
	60代	46	4 8.7%	3 6.5%	0 0.0%	5 10.9%	4 8.7%	1 2.2%	5 10.9%	11 23.9%	3 6.5%	10 21.7%
	70歳以上	17	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	0 0.0%	1 5.9%	2 11.8%	0 0.0%	2 11.8%	1 5.9%	2 11.8%

%：各属性内での回答割合が最も高い

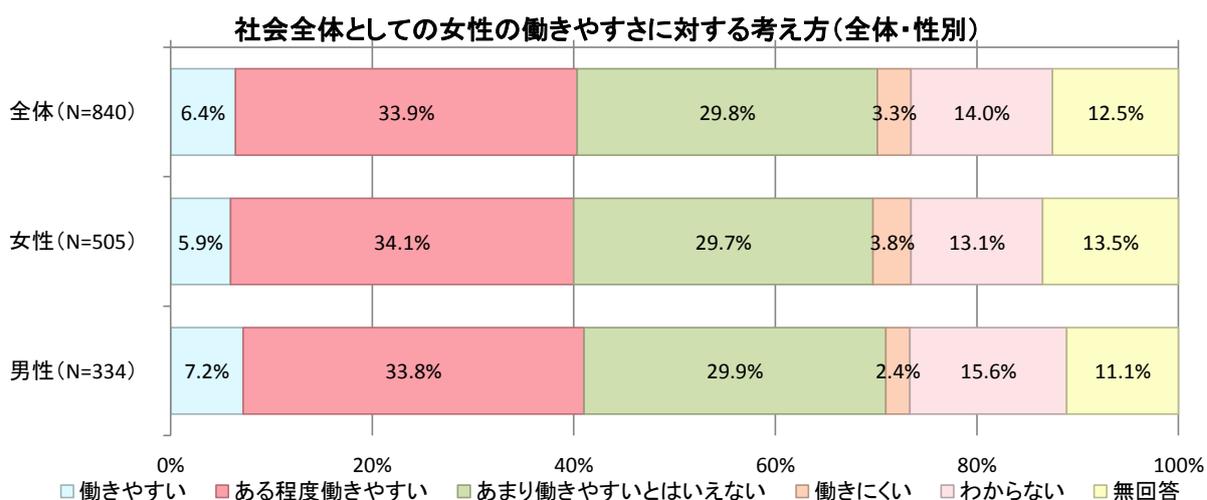
(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え

【問 25】 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。

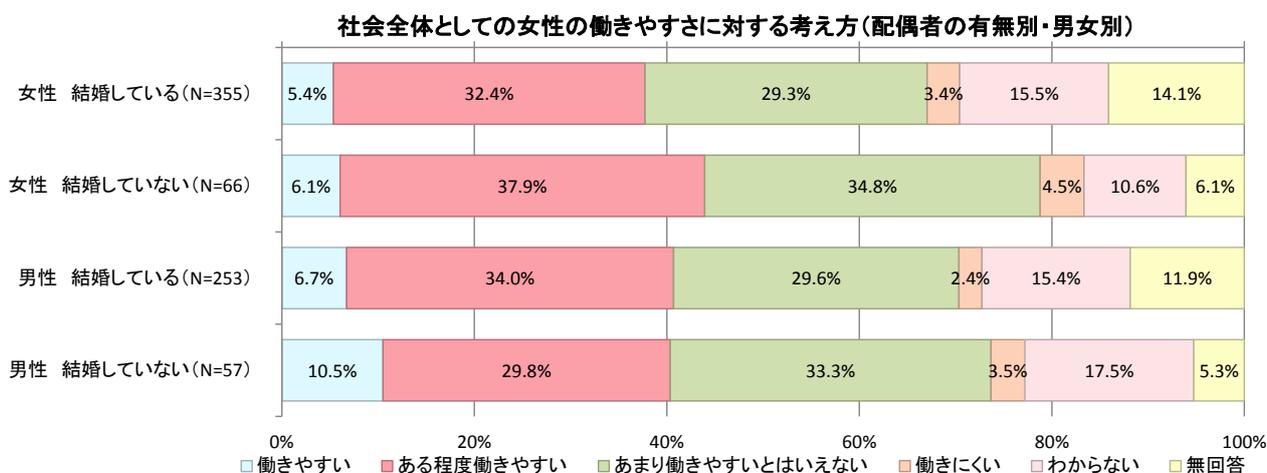
～『働きやすい』が4割～

社会全体としての女性の働きやすさに対する考えについてみると、全体では『働きやすい』（「働きやすい」＋「ある程度働きやすい」）が40.3%、『働きにくい』（「働きにくい」＋「あまり働きやすいとはいえない」）が33.1%で『働きやすい』と答えた割合が『働きにくい』答えた割合より高くなっている。

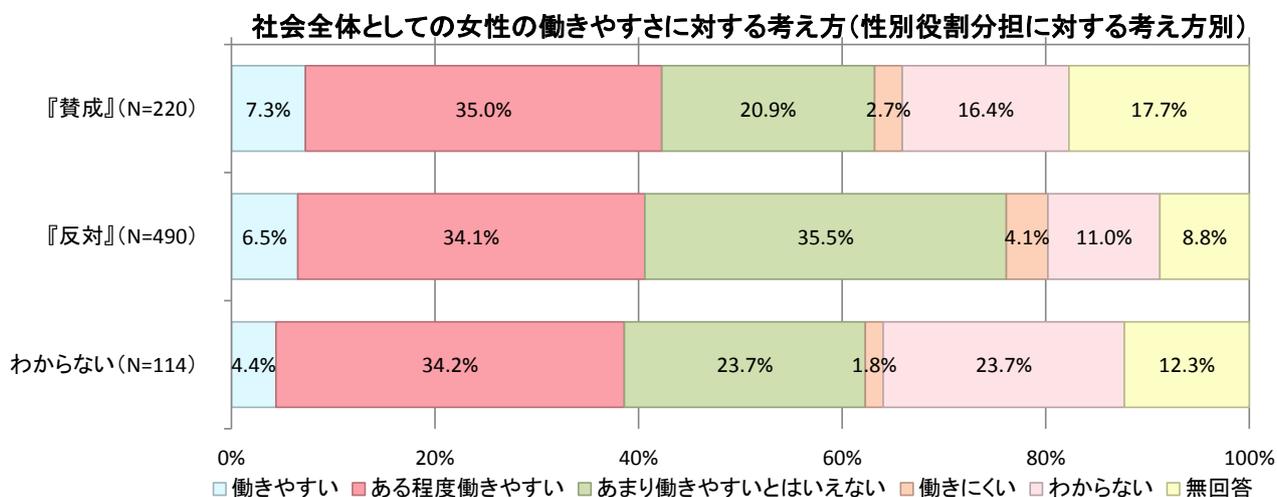
性別では違いはみられなかった。



配偶者の有無別では違いはみられなかったが、「結婚している」男性では『働きにくい』（32.0%）より『働きやすい』（40.7%）の割合が高くなっている。



性別役割分担に対する考え方別にみると『働きやすい』の割合が『賛成』42.3%、『反対』40.6%と、『賛成』が『反対』より高くなっている。一方、『働きにくい』の割合は『賛成』23.6%、『反対』39.6%と『反対』が『賛成』より高くなっている。



※ 『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え
(性・年代・配偶者の有無・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	社会全体としての女性の働きやすさに対する考え					無回答
			働きやすい	きある やる す程 い度 働	いやあ えすま ないり いと働 はき	働きにくい	わからない	
全体		840	54	285	250	28	118	105
		100.0%	6.4%	33.9%	29.8%	3.3%	14.0%	12.5%
性・年代別	女性 計	505	30	172	150	19	66	68
		100.0%	5.9%	34.1%	29.7%	3.8%	13.1%	13.5%
	10代・20代	47	3	15	16	2	8	3
		100.0%	6.4%	31.9%	34.0%	4.3%	17.0%	6.4%
	30代	71	1	19	33	7	8	3
		100.0%	1.4%	26.8%	46.5%	9.9%	11.3%	4.2%
	40代	82	5	31	31	4	8	3
		100.0%	6.1%	37.8%	37.8%	4.9%	9.8%	3.7%
	50代	100	4	35	40	5	12	4
		100.0%	4.0%	35.0%	40.0%	5.0%	12.0%	4.0%
	60代	117	12	50	16	1	16	22
		100.0%	10.3%	42.7%	13.7%	0.9%	13.7%	18.8%
	70歳以上	88	5	22	14	0	14	33
		100.0%	5.7%	25.0%	15.9%	0.0%	15.9%	37.5%
	男性 計	334	24	113	100	8	52	37
		100.0%	7.2%	33.8%	29.9%	2.4%	15.6%	11.1%
	10代・20代	22	4	7	7	0	3	1
		100.0%	18.2%	31.8%	31.8%	0.0%	13.6%	4.5%
30代	34	3	11	14	2	4	0	
	100.0%	8.8%	32.4%	41.2%	5.9%	11.8%	0.0%	
40代	40	4	12	12	2	10	0	
	100.0%	10.0%	30.0%	30.0%	5.0%	25.0%	0.0%	
50代	65	5	27	26	0	5	2	
	100.0%	7.7%	41.5%	40.0%	0.0%	7.7%	3.1%	
60代	98	4	34	28	2	15	15	
	100.0%	4.1%	34.7%	28.6%	2.0%	15.3%	15.3%	
70歳以上	75	4	22	13	2	15	19	
	100.0%	5.3%	29.3%	17.3%	2.7%	20.0%	25.3%	
性・配偶者の有無別	女性 計	421	23	140	127	15	62	54
		100.0%	5.5%	33.3%	30.2%	3.6%	14.7%	12.8%
	結婚している	355	19	115	104	12	55	50
		100.0%	5.4%	32.4%	29.3%	3.4%	15.5%	14.1%
	結婚していない	66	4	25	23	3	7	4
		100.0%	6.1%	37.9%	34.8%	4.5%	10.6%	6.1%
男性 計	310	23	103	94	8	49	33	
	100.0%	7.4%	33.2%	30.3%	2.6%	15.8%	10.6%	
結婚している	253	17	86	75	6	39	30	
	100.0%	6.7%	34.0%	29.6%	2.4%	15.4%	11.9%	
結婚していない	57	6	17	19	2	10	3	
	100.0%	10.5%	29.8%	33.3%	3.5%	17.5%	5.3%	
対する 考え方 性別 役割 分担に	『賛成』	220	16	77	46	6	36	39
		100.0%	7.3%	35.0%	20.9%	2.7%	16.4%	17.7%
	『反対』	490	32	167	174	20	54	43
	100.0%	6.5%	34.1%	35.5%	4.1%	11.0%	8.8%	
わからない	114	5	39	27	2	27	14	
	100.0%	4.4%	34.2%	23.7%	1.8%	23.7%	12.3%	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

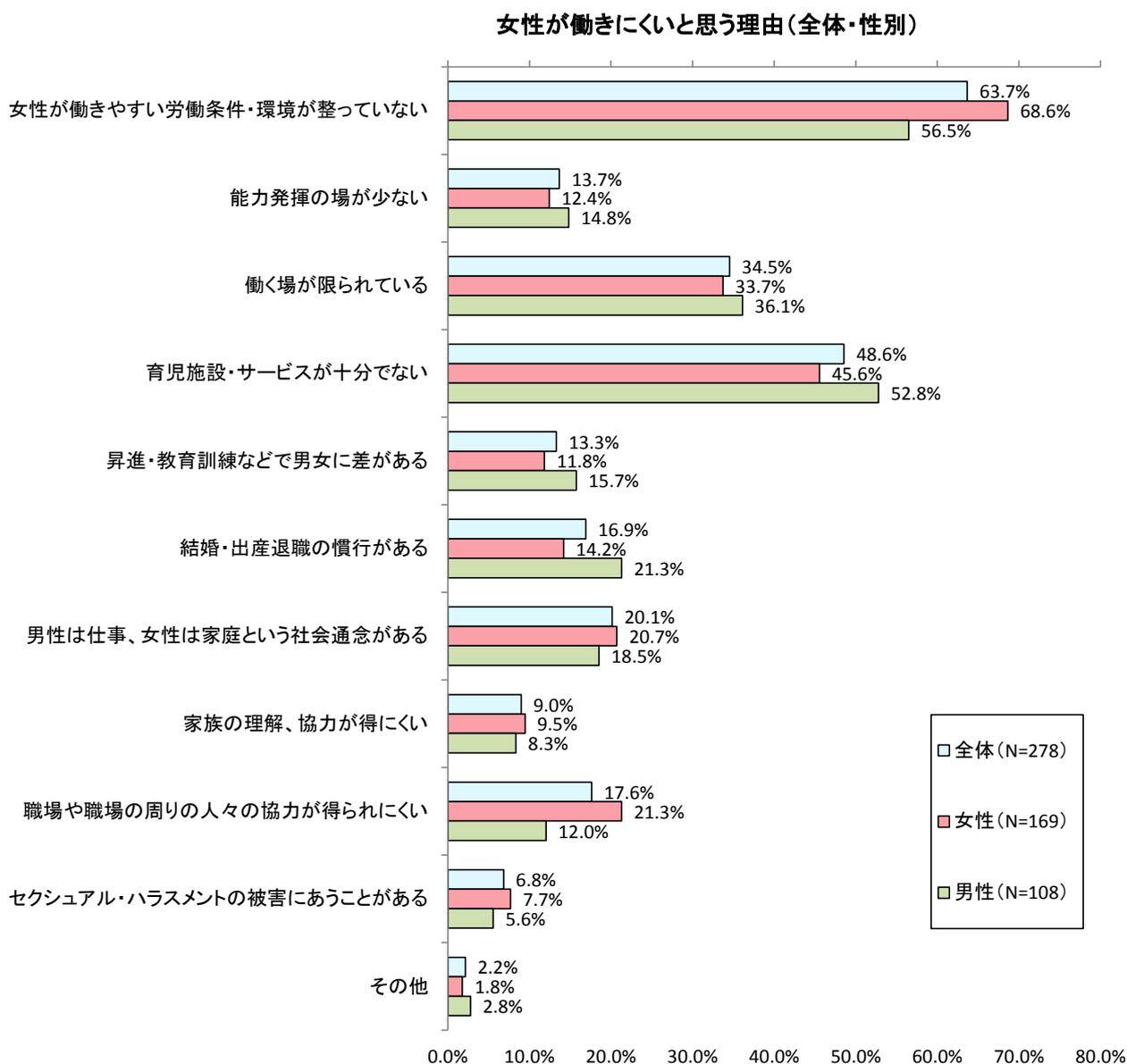
(5) 女性が働きにくいと思う理由

【問 26】 問 25 で「あまり働きやすいとはいえない」「働きにくい」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。(複数回答)

～「労働条件・環境が整っていない」「育児施設・サービスが十分でない」との回答が多い～

女性が働きにくいと思う理由についてみると、全体では「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」(63.7%)と最も高く、次いで「育児施設・サービスが十分でない」(48.6%)、「働く場が限られている」(34.7%)となっている。

性別にみると、「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」(女性：68.6%、男性：56.5%)、「職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい」(女性：21.3%、男性：12.0%)で女性の割合が男性より高く、「育児施設・サービスが十分でない」(女性：45.6%、男性 52.8%)、「結婚・出産退職の慣行がある」(女性：14.2%、男性：21.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。



女性が働きにくいと思う理由（性・年代・性別役割分担に対する考え方別）（複数回答）1/2

		サンプル数	女性が働きにくいと思う理由					慣結 行婚 が・ ある ある 出産 退職 の	
			整 つ働 て条 い件 ない働 い環 境や す が い	な能 い力 発 揮 の 場 が 少	い働 るく 場 が 限 ら れ て	ス育 が児 十施 分設 で・ ないサ ー ビ	るど昇 で進 男・ 女教 育 差 訓 が 練 あ な		
全体		278	177 63.7%	38 13.7%	96 34.5%	135 48.6%	37 13.3%	47 16.9%	
性・ 年代別	女性計	169	116 68.6%	21 12.4%	57 33.7%	77 45.6%	20 11.8%	24 14.2%	
	10代・20代	18	14 77.8%	1 5.6%	4 22.2%	15 83.3%	1 5.6%	7 38.9%	
	30代	40	26 65.0%	5 12.5%	13 32.5%	20 50.0%	1 2.5%	8 20.0%	
	40代	35	22 62.9%	4 11.4%	12 34.3%	15 42.9%	8 22.9%	3 8.6%	
	50代	45	34 75.6%	6 13.3%	18 40.0%	14 31.1%	7 15.6%	5 11.1%	
	60代	17	9 52.9%	2 11.8%	6 35.3%	6 35.3%	3 17.6%	1 5.9%	
	70歳以上	14	11 78.6%	3 21.4%	4 28.6%	7 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	男性計	108	61 56.5%	16 14.8%	39 36.1%	57 52.8%	17 15.7%	23 21.3%	
	10代・20代	7	3 42.9%	0 0.0%	2 28.6%	4 57.1%	1 14.3%	2 28.6%	
	30代	16	7 43.8%	2 12.5%	4 25.0%	10 62.5%	0 0.0%	2 12.5%	
	40代	14	10 71.4%	0 0.0%	5 35.7%	9 64.3%	1 7.1%	4 28.6%	
	50代	26	15 57.7%	5 19.2%	5 19.2%	15 57.7%	5 19.2%	6 23.1%	
	60代	30	16 53.3%	6 20.0%	16 53.3%	13 43.3%	7 23.3%	7 23.3%	
	70歳以上	15	10 66.7%	3 20.0%	7 46.7%	6 40.0%	3 20.0%	2 13.3%	
	対する 性別 役割 分担に 考え方	『賛成』	52	37 71.2%	6 11.5%	22 42.3%	23 44.2%	4 7.7%	14 26.9%
		『反対』	194	120 61.9%	28 14.4%	63 32.5%	97 50.0%	27 13.9%	30 15.5%
わからない		29	18 62.1%	4 13.8%	9 31.0%	13 44.8%	6 20.7%	3 10.3%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

女性が働きにくいと思う理由（性・年代・性別役割分担に対する考え方別）（複数回答） 2/2

		サンプル数	女性が働きにくいと思う理由				
			通念が ある	は男性 は仕事 、女性	が家族 にのり く理 い解 、協 力	らの職 れ人場 に々や くの職 い協場 力の が周 得り	にラセ あスク うメシ コン とトア がのル あ被・ る害ハ
全体		278	56 20.1%	25 9.0%	49 17.6%	19 6.8%	6 2.2%
性・年代別	女性計	169	35 20.7%	16 9.5%	36 21.3%	13 7.7%	3 1.8%
	10代・20代	18	2 11.1%	0 0.0%	7 38.9%	2 11.1%	0 0.0%
	30代	40	10 25.0%	5 12.5%	9 22.5%	3 7.5%	0 0.0%
	40代	35	7 20.0%	3 8.6%	7 20.0%	2 5.7%	1 2.9%
	50代	45	12 26.7%	5 11.1%	7 15.6%	2 4.4%	2 4.4%
	60代	17	2 11.8%	2 11.8%	5 29.4%	3 17.6%	0 0.0%
	70歳以上	14	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%
	男性計	108	20 18.5%	9 8.3%	13 12.0%	6 5.6%	3 2.8%
	10代・20代	7	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	16	4 25.0%	1 6.3%	3 18.8%	3 18.8%	1 6.3%
	40代	14	4 28.6%	1 7.1%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%
	50代	26	6 23.1%	2 7.7%	2 7.7%	1 3.8%	1 3.8%
	60代	30	2 6.7%	2 6.7%	3 10.0%	0 0.0%	1 3.3%
	70歳以上	15	4 26.7%	1 6.7%	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%
	対する 分担に 性別 役割 考え方	『賛成』	52	6 11.5%	5 9.6%	6 11.5%	3 5.8%
『反対』		194	49 25.3%	17 8.8%	39 20.1%	13 6.7%	4 2.1%
わからない		29	1 3.4%	3 10.3%	3 10.3%	3 10.3%	1 3.4%

(6) 女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿

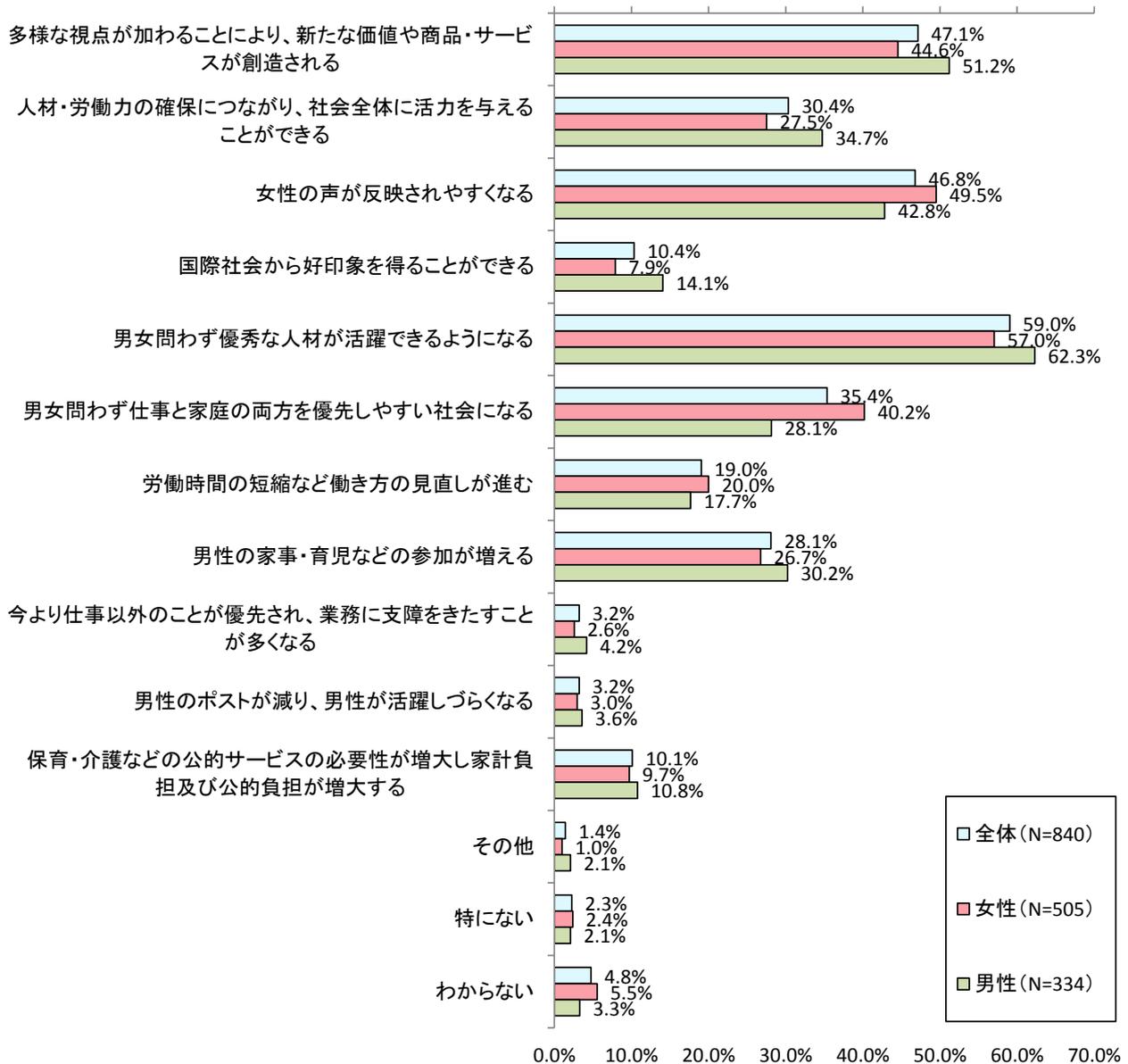
【問 27】 あなたは、政治・経済・地域などの分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えることどのような影響があると思いますか。(複数回答)

～「男女問わず優秀な人材が活躍」「新たな価値や商品・サービスが創造される」との回答が多い～

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿についてみると、全体では「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(59.0%)の割合が最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(47.1%)、「女性の声が反映されやすくなる」(46.8%)となっている。

性別にみると、「女性の声が反映されやすくなる」(女性：49.5%、男性：42.8%)、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(女性：40.2%、男性28.1%)で女性の割合が男性より高く、一方、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(女性：44.6%、男性51.2%)、「人材労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」(女性：27.5%、男性34.7%)、「国際社会から好印象を得ることができる」(女性：7.9%、男性14.1%)で男性の割合が女性より高くなっている。

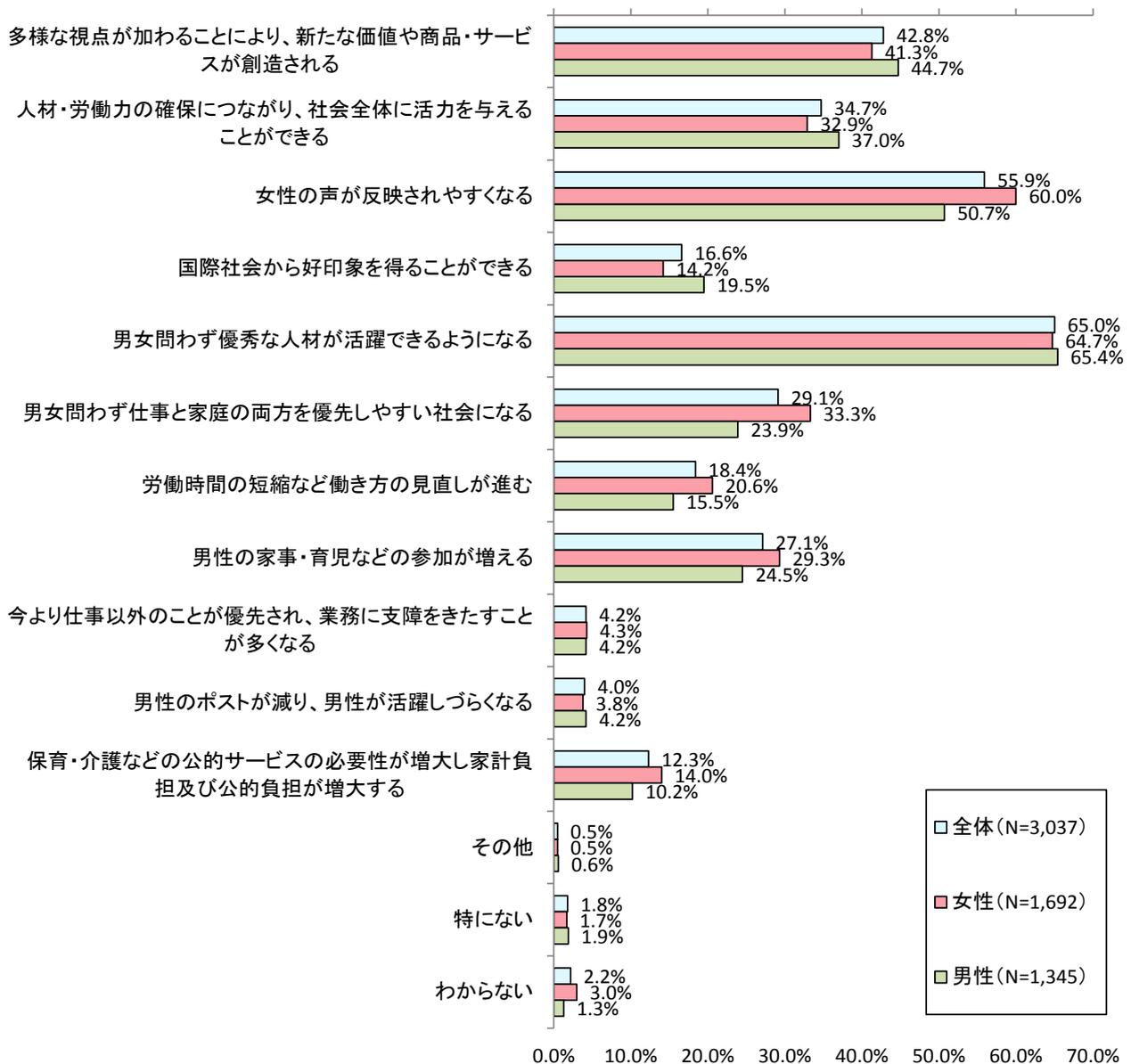
女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿(全体・性別)



内閣府女性活躍推進調査と比較すると、全体では「多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」（霧島市：47.1%、内閣府：42.8%）、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」（霧島市：35.4%、内閣府：29.1%）の割合が内閣府より高くなっている。一方、「女性の声が反映されやすくなる」（霧島市：46.8%、内閣府：55.9%）、「国際社会から好印象を得ることができる」（霧島市：10.4%、内閣府：16.6%）、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」（霧島市：59.0%、内閣府：65.0%）の割合は内閣府より低くなっている。

【内閣府女性活躍推進調査】

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿(全体・性別)



女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿（性・年代別）（複数回答）1/2

		女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿							
		れた多様な価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができ	よ男女問わず優秀な人材が活躍できる	しや女問わず仕事と家庭の両方を優先	が労働時間の短縮など働き方の見直し	
全体		396 47.1%	255 30.4%	393 46.8%	87 10.4%	496 59.0%	297 35.4%	160 19.0%	
性・年代別	女性計	505	225 44.6%	139 27.5%	250 49.5%	40 7.9%	288 57.0%	203 40.2%	101 20.0%
	10代・20代	47	26 55.3%	8 17.0%	21 44.7%	5 10.6%	31 66.0%	24 51.1%	14 29.8%
	30代	71	34 47.9%	19 26.8%	38 53.5%	5 7.0%	39 54.9%	29 40.8%	17 23.9%
	40代	82	39 47.6%	22 26.8%	48 58.5%	5 6.1%	44 53.7%	39 47.6%	18 22.0%
	50代	100	54 54.0%	24 24.0%	51 51.0%	8 8.0%	63 63.0%	44 44.0%	18 18.0%
	60代	117	48 41.0%	40 34.2%	47 40.2%	7 6.0%	66 56.4%	43 36.8%	18 15.4%
	70歳以上	88	24 27.3%	26 29.5%	45 51.1%	10 11.4%	45 51.1%	24 27.3%	16 18.2%
	男性計	334	171 51.2%	116 34.7%	143 42.8%	47 14.1%	208 62.3%	94 28.1%	59 17.7%
	10代・20代	22	8 36.4%	5 22.7%	6 27.3%	2 9.1%	10 45.5%	7 31.8%	4 18.2%
	30代	34	20 58.8%	11 32.4%	18 52.9%	5 14.7%	15 44.1%	12 35.3%	6 17.6%
	40代	40	20 50.0%	9 22.5%	21 52.5%	5 12.5%	29 72.5%	11 27.5%	8 20.0%
	50代	65	41 63.1%	23 35.4%	35 53.8%	11 16.9%	44 67.7%	18 27.7%	7 10.8%
	60代	98	51 52.0%	35 35.7%	36 36.7%	14 14.3%	61 62.2%	31 31.6%	21 21.4%
	70歳以上	75	31 41.3%	33 44.0%	27 36.0%	10 13.3%	49 65.3%	15 20.0%	13 17.3%

%：各属性内での回答割合が最も高い

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿（性・年代別）（複数回答） 2/2

		サンプル数	女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿						わからない
			男性の家事・育児などの参加が増える	今より仕事以外のことが優先される、業務に支障をきたすことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	要増大する	保育・介護などの公的サービスの負担の増大	その他	
全体		840	236 28.1%	27 3.2%	27 3.2%	85 10.1%	12 1.4%	19 2.3%	40 4.8%
性・年代別	女性計	505	135 26.7%	13 2.6%	15 3.0%	49 9.7%	5 1.0%	12 2.4%	28 5.5%
	10代・20代	47	13 27.7%	1 2.1%	1 2.1%	5 10.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%
	30代	71	21 29.6%	2 2.8%	1 1.4%	8 11.3%	2 2.8%	1 1.4%	2 2.8%
	40代	82	22 26.8%	3 3.7%	1 1.2%	10 12.2%	0 0.0%	1 1.2%	5 6.1%
	50代	100	27 27.0%	2 2.0%	3 3.0%	7 7.0%	1 1.0%	1 1.0%	3 3.0%
	60代	117	34 29.1%	2 1.7%	5 4.3%	15 12.8%	2 1.7%	4 3.4%	10 8.5%
	70歳以上	88	18 20.5%	3 3.4%	4 4.5%	4 4.5%	0 0.0%	5 5.7%	7 8.0%
	男性計	334	101 30.2%	14 4.2%	12 3.6%	36 10.8%	7 2.1%	7 2.1%	11 3.3%
	10代・20代	22	6 27.3%	1 4.5%	3 13.6%	1 4.5%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%
	30代	34	14 41.2%	1 2.9%	4 11.8%	8 23.5%	3 8.8%	0 0.0%	3 8.8%
	40代	40	11 27.5%	1 2.5%	0 0.0%	4 10.0%	1 2.5%	3 7.5%	1 2.5%
	50代	65	21 32.3%	1 1.5%	2 3.1%	6 9.2%	1 1.5%	1 1.5%	2 3.1%
	60代	98	26 26.5%	6 6.1%	1 1.0%	11 11.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.0%
	70歳以上	75	23 30.7%	4 5.3%	2 2.7%	6 8.0%	1 1.3%	2 2.7%	3 4.0%

6. 教育について

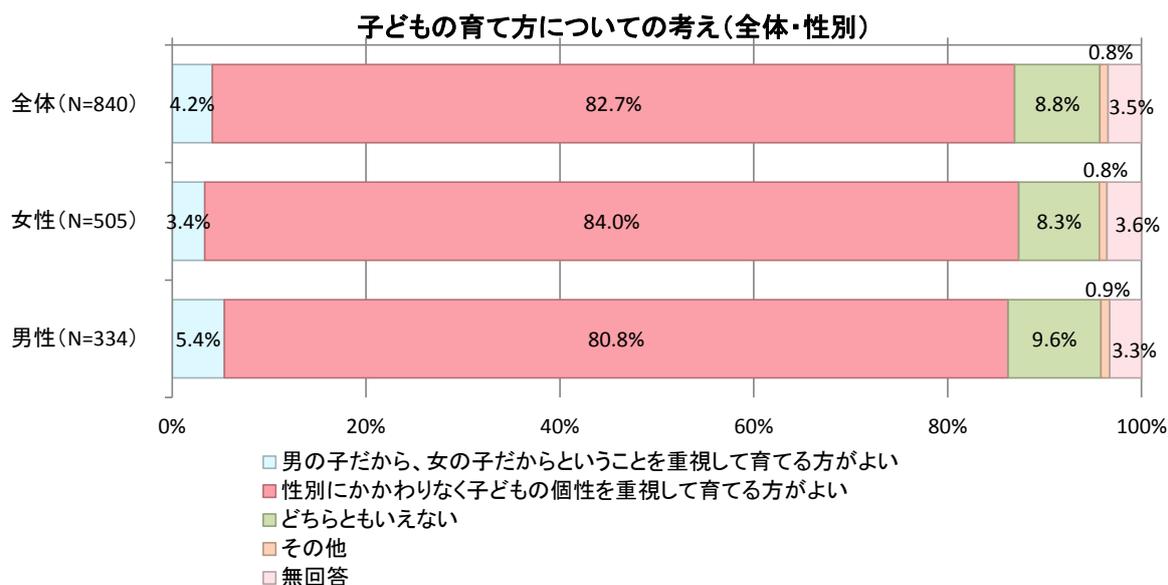
(1) 子どもの育て方についての考え

【問28】 子どもの育て方についてのあなたの考えをおたずねします。

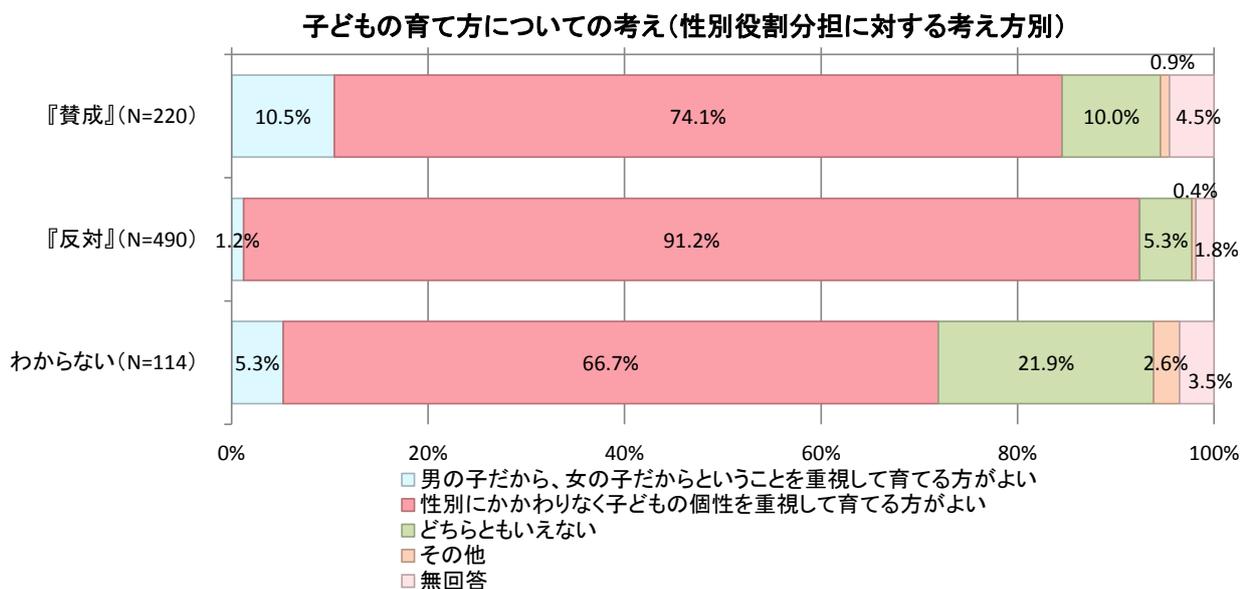
～「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」と考える人は8割～

子どもの育て方についての考えについてみると、全体、男女ともに「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」が8割を超えている。

性別での違いはみられなかった。



性別役割分担に対する考え方別にみると、「男の子だから、女の子だからということ重視して育てる方がよい」(『賛成』: 10.5%、『反対』: 1.2%) の割合は『賛成』が『反対』より高く、「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」(『賛成』: 74.1%、『反対』: 91.2%) の割合は『反対』が『賛成』より高くなっている。



※ 『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

子どもの育て方についての考え（性・年代・性別役割分担に対する考え別）

		サンプル数	子どもの育て方についての考え				無回答
			視だ男 しかの てら子 育とだ ていから うらこ、 方がと女 よをの重 い重子	育ど性 ても別 るのに 方個か が性を よをわ い重り 視なく して子	ど ちら とも いえ ない	そ の 他	
全体		840	35	695	74	7	29
		100.0%	4.2%	82.7%	8.8%	0.8%	3.5%
性・年代別	女性計	505	17	424	42	4	18
		100.0%	3.4%	84.0%	8.3%	0.8%	3.6%
	10代・20代	47	0	45	1	0	1
		100.0%	0.0%	95.7%	2.1%	0.0%	2.1%
	30代	71	3	59	8	1	0
		100.0%	4.2%	83.1%	11.3%	1.4%	0.0%
	40代	82	3	68	10	0	1
		100.0%	3.7%	82.9%	12.2%	0.0%	1.2%
	50代	100	2	88	9	0	1
		100.0%	2.0%	88.0%	9.0%	0.0%	1.0%
	60代	117	5	97	9	2	4
		100.0%	4.3%	82.9%	7.7%	1.7%	3.4%
	70歳以上	88	4	67	5	1	11
		100.0%	4.5%	76.1%	5.7%	1.1%	12.5%
	男性計	334	18	270	32	3	11
		100.0%	5.4%	80.8%	9.6%	0.9%	3.3%
	10代・20代	22	1	19	2	0	0
		100.0%	4.5%	86.4%	9.1%	0.0%	0.0%
30代	34	3	26	3	2	0	
	100.0%	8.8%	76.5%	8.8%	5.9%	0.0%	
40代	40	1	36	3	0	0	
	100.0%	2.5%	90.0%	7.5%	0.0%	0.0%	
50代	65	5	53	7	0	0	
	100.0%	7.7%	81.5%	10.8%	0.0%	0.0%	
60代	98	3	81	9	1	4	
	100.0%	3.1%	82.7%	9.2%	1.0%	4.1%	
70歳以上	75	5	55	8	0	7	
	100.0%	6.7%	73.3%	10.7%	0.0%	9.3%	
対する 考え 方 性別 役割 分担に	『賛成』	220	23	163	22	2	10
		100.0%	10.5%	74.1%	10.0%	0.9%	4.5%
	『反対』	490	6	447	26	2	9
	100.0%	1.2%	91.2%	5.3%	0.4%	1.8%	
わからない	114	6	76	25	3	4	
	100.0%	5.3%	66.7%	21.9%	2.6%	3.5%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと

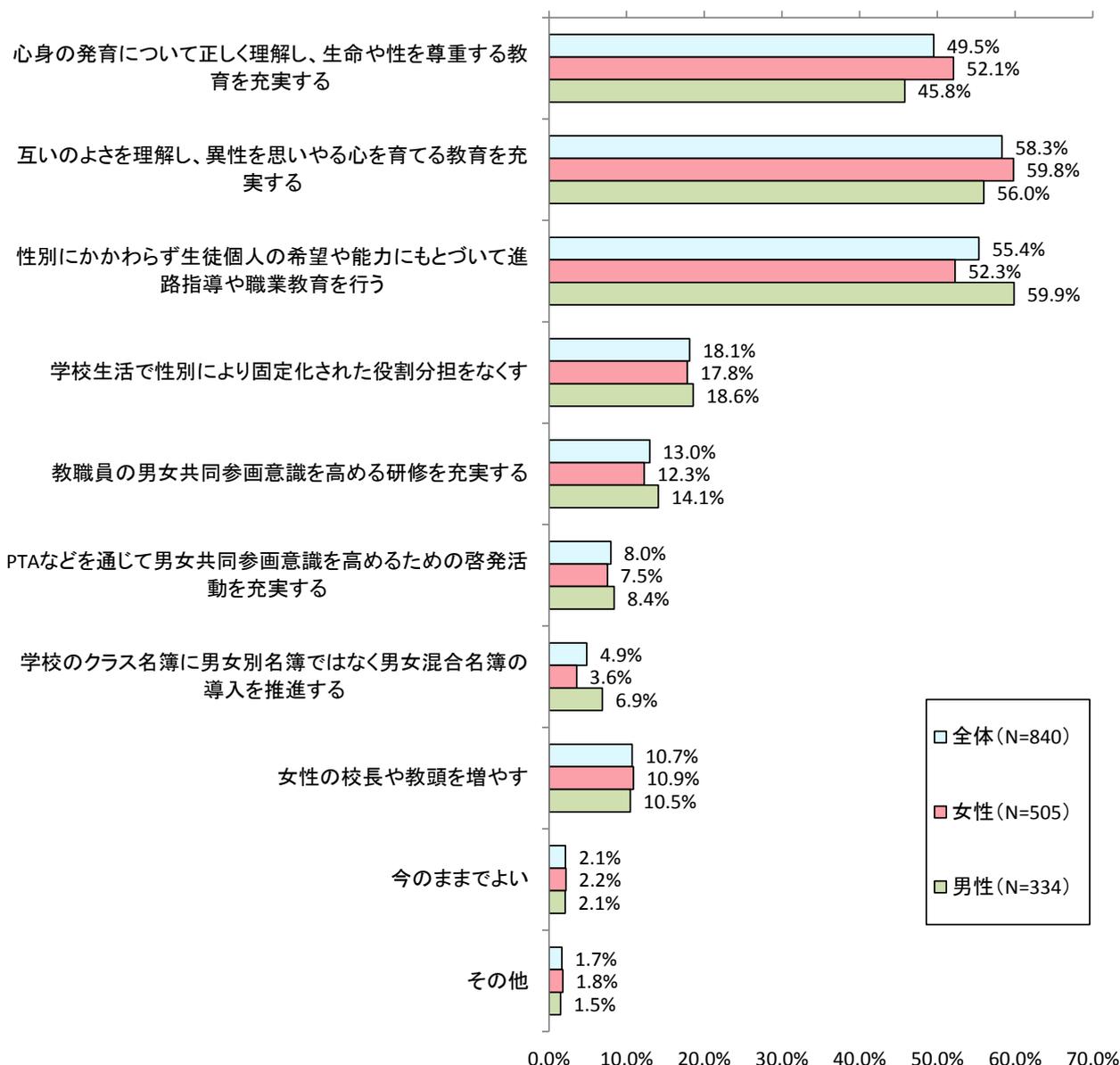
【問 29】 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。
(複数回答)

～異性への思いやりや、個人の希望や能力に基づいた進路希望・職業教育～

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なことについてみると、全体では「互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」(58.3%)の割合が最も高く、次いで「性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて進路指導や職業教育を行なう」(55.4%)、「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」(49.5%)となっている。

性別では、「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」(女性：52.1%、男性：45.8%)で女性の割合が男性より高く、「性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて進路指導や職業教育を行なう」(女性：52.3%、男性59.9%)で男性の割合が女性より高くなっている。

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと(全体・性別)



男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと（全体・性別）（複数回答）

		男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと													
サンプル数		生命や性の尊重を重視する教育を充実する	心身の発育について正しく理解し、育つよう理解し、異性を思いやる	互いのよさを理解し、異性を思いやる	育力に力をつける	性別にかかわらず進路指導や職業教育	役割分担をなくす	学校生活で性別により固定化された	教職員の男女共同参画意識を高める	知識を高めるための啓発活動を充実する	PTAなどを通じて男女共同参画意識を高める	学校のクラス名簿の導入を推進する	女性の校長や教頭を増やす	今のままでよい	その他
全体	840	416 49.5%	490 58.3%	465 55.4%	152 18.1%	109 13.0%	67 8.0%	41 4.9%	90 10.7%	18 2.1%	14 1.7%				
性・年代別	女性計	505	263 52.1%	302 59.8%	264 52.3%	90 17.8%	62 12.3%	38 7.5%	18 3.6%	55 10.9%	11 2.2%	9 1.8%			
	10代・20代	47	24 51.1%	27 57.4%	25 53.2%	7 14.9%	4 8.5%	3 6.4%	6 12.8%	8 17.0%	1 2.1%	0 0.0%			
	30代	71	39 54.9%	44 62.0%	37 52.1%	19 26.8%	5 7.0%	4 5.6%	3 4.2%	14 19.7%	0 0.0%	3 4.2%			
	40代	82	41 50.0%	45 54.9%	41 50.0%	17 20.7%	14 17.1%	4 4.9%	2 2.4%	7 8.5%	5 6.1%	3 3.7%			
	50代	100	66 66.0%	68 68.0%	51 51.0%	15 15.0%	12 12.0%	5 5.0%	3 3.0%	6 6.0%	1 1.0%	1 1.0%			
	60代	117	61 52.1%	68 58.1%	68 58.1%	16 13.7%	17 14.5%	15 12.8%	1 0.9%	9 7.7%	2 1.7%	0 0.0%			
	70歳以上	88	32 36.4%	50 56.8%	42 47.7%	16 18.2%	10 11.4%	7 8.0%	3 3.4%	11 12.5%	2 2.3%	2 2.3%			
	男性計	334	153 45.8%	187 56.0%	200 59.9%	62 18.6%	47 14.1%	28 8.4%	23 6.9%	35 10.5%	7 2.1%	5 1.5%			
	10代・20代	22	9 40.9%	10 45.5%	11 50.0%	5 22.7%	2 9.1%	1 4.5%	2 9.1%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%			
	30代	34	14 41.2%	22 64.7%	14 41.2%	10 29.4%	3 8.8%	2 5.9%	4 11.8%	5 14.7%	1 2.9%	2 5.9%			
	40代	40	17 42.5%	28 70.0%	23 57.5%	9 22.5%	2 5.0%	3 7.5%	3 7.5%	7 17.5%	0 0.0%	0 0.0%			
	50代	65	32 49.2%	40 61.5%	40 61.5%	7 10.8%	9 13.8%	4 6.2%	6 9.2%	5 7.7%	0 0.0%	2 3.1%			
	60代	98	45 45.9%	60 61.2%	62 63.3%	22 22.4%	23 23.5%	9 9.2%	3 3.1%	8 8.2%	1 1.0%	0 0.0%			
	70歳以上	75	36 48.0%	27 36.0%	50 66.7%	9 12.0%	8 10.7%	9 12.0%	5 6.7%	10 13.3%	4 5.3%	1 1.3%			

％：各属性内での回答割合が最も高い

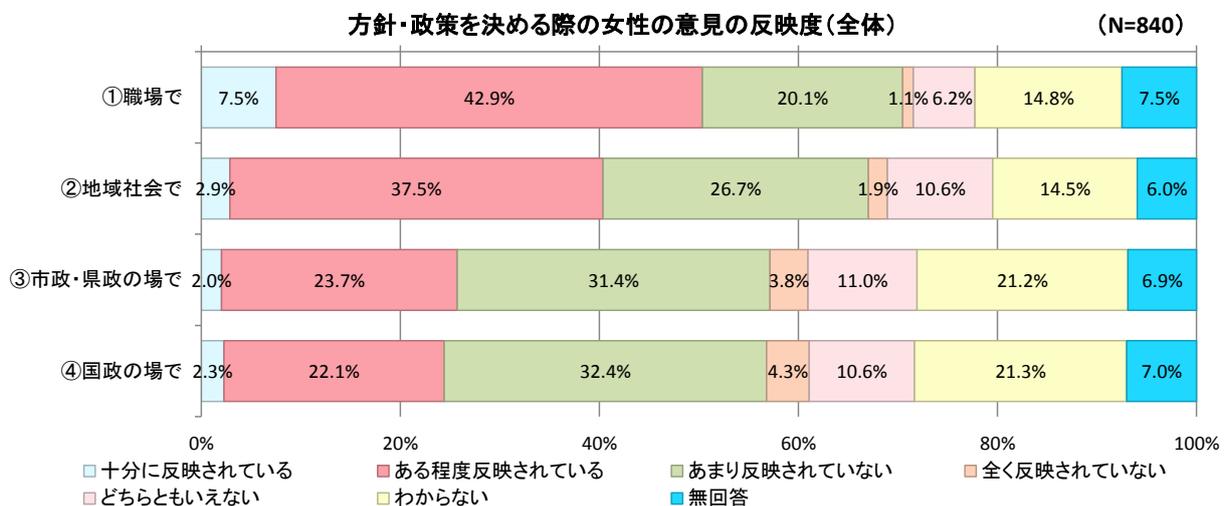
7. 女性の政策参画について

(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度

【問 30】 次の①～④の各分野でその方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。

～職場・地域社会で意見の反映度が高く、政治の場では低い～

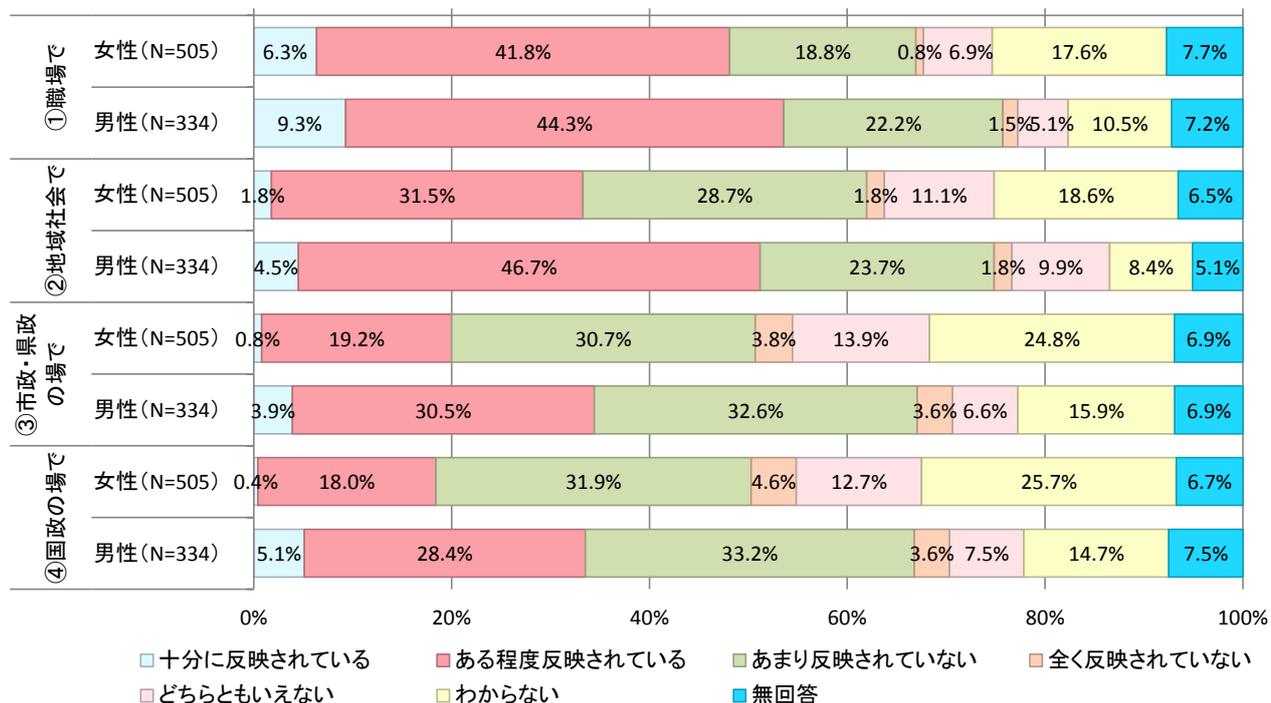
方針・政策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、「①職場で」（『反映されている』：50.4%、『反映されていない』：21.2%）と「②地域社会で」（『反映されている』：40.4%、『反映されていない』：28.6%）では『反映されている』の割合が高い。一方、「③市政・県政の場で」（『反映されている』：25.7%、『反映されていない』：35.2%）と「④国政の場で」（『反映されている』：24.4%、『反映されていない』：36.7%）」では『反映されていない』の割合が高い。



※ 『反映されている』 = 十分に反映されている + ある程度反映されている
『反映されていない』 = あまり反映されていない + 全く反映されていない

性別にみると、①～④すべての項目で、『反映されている』の割合は、男性の方が女性より高くなっている。

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(性別)



方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代・性別役割分担に対する考え別）1/4

		サンプル数	①職場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		840	63	360	169	9	52	124	63
		100.0%	7.5%	42.9%	20.1%	1.1%	6.2%	14.8%	7.5%
性・年代別	女性計	505	32	211	95	4	35	89	39
		100.0%	6.3%	41.8%	18.8%	0.8%	6.9%	17.6%	7.7%
	10代・20代	47	6	24	4	0	2	9	2
		100.0%	12.8%	51.1%	8.5%	0.0%	4.3%	19.1%	4.3%
	30代	71	9	37	9	0	7	8	1
		100.0%	12.7%	52.1%	12.7%	0.0%	9.9%	11.3%	1.4%
	40代	82	8	39	17	0	4	11	3
		100.0%	9.8%	47.6%	20.7%	0.0%	4.9%	13.4%	3.7%
	50代	100	8	43	25	2	8	11	3
		100.0%	8.0%	43.0%	25.0%	2.0%	8.0%	11.0%	3.0%
	60代	117	1	43	25	1	10	31	6
		100.0%	0.9%	36.8%	21.4%	0.9%	8.5%	26.5%	5.1%
	70歳以上	88	0	25	15	1	4	19	24
		100.0%	0.0%	28.4%	17.0%	1.1%	4.5%	21.6%	27.3%
	男性計	334	31	148	74	5	17	35	24
		100.0%	9.3%	44.3%	22.2%	1.5%	5.1%	10.5%	7.2%
	10代・20代	22	3	12	3	0	1	2	1
		100.0%	13.6%	54.5%	13.6%	0.0%	4.5%	9.1%	4.5%
30代	34	5	14	8	0	3	4	0	
	100.0%	14.7%	41.2%	23.5%	0.0%	8.8%	11.8%	0.0%	
40代	40	5	18	10	0	3	4	0	
	100.0%	12.5%	45.0%	25.0%	0.0%	7.5%	10.0%	0.0%	
50代	65	10	35	15	1	3	0	1	
	100.0%	15.4%	53.8%	23.1%	1.5%	4.6%	0.0%	1.5%	
60代	98	7	46	18	3	4	13	7	
	100.0%	7.1%	46.9%	18.4%	3.1%	4.1%	13.3%	7.1%	
70歳以上	75	1	23	20	1	3	12	15	
	100.0%	1.3%	30.7%	26.7%	1.3%	4.0%	16.0%	20.0%	
対する 分担に 性別役割 考え方	『賛成』	220	10	90	50	4	8	36	22
		100.0%	4.5%	40.9%	22.7%	1.8%	3.6%	16.4%	10.0%
	『反対』	490	45	223	99	5	31	63	24
	100.0%	9.2%	45.5%	20.2%	1.0%	6.3%	12.9%	4.9%	
わからない	114	8	43	17	0	13	23	10	
	100.0%	7.0%	37.7%	14.9%	0.0%	11.4%	20.2%	8.8%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代・性別役割分担に対する考え別）2/4

		サンプル数	②地域社会で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		840	24	315	224	16	89	122	50
		100.0%	2.9%	37.5%	26.7%	1.9%	10.6%	14.5%	6.0%
性・年代別	女性計	505	9	159	145	9	56	94	33
		100.0%	1.8%	31.5%	28.7%	1.8%	11.1%	18.6%	6.5%
	10代・20代	47	4	15	8	1	5	12	2
		100.0%	8.5%	31.9%	17.0%	2.1%	10.6%	25.5%	4.3%
	30代	71	0	17	26	1	7	20	0
		100.0%	0.0%	23.9%	36.6%	1.4%	9.9%	28.2%	0.0%
	40代	82	1	28	28	0	10	13	2
		100.0%	1.2%	34.1%	34.1%	0.0%	12.2%	15.9%	2.4%
	50代	100	0	26	40	2	15	14	3
		100.0%	0.0%	26.0%	40.0%	2.0%	15.0%	14.0%	3.0%
	60代	117	1	43	28	5	14	22	4
		100.0%	0.9%	36.8%	23.9%	4.3%	12.0%	18.8%	3.4%
	70歳以上	88	3	30	15	0	5	13	22
		100.0%	3.4%	34.1%	17.0%	0.0%	5.7%	14.8%	25.0%
	男性計	334	15	156	79	6	33	28	17
		100.0%	4.5%	46.7%	23.7%	1.8%	9.9%	8.4%	5.1%
	10代・20代	22	2	14	3	0	0	2	1
		100.0%	9.1%	63.6%	13.6%	0.0%	0.0%	9.1%	4.5%
30代	34	2	13	9	0	5	5	0	
	100.0%	5.9%	38.2%	26.5%	0.0%	14.7%	14.7%	0.0%	
40代	40	2	17	10	1	6	4	0	
	100.0%	5.0%	42.5%	25.0%	2.5%	15.0%	10.0%	0.0%	
50代	65	1	34	20	1	6	3	0	
	100.0%	1.5%	52.3%	30.8%	1.5%	9.2%	4.6%	0.0%	
60代	98	3	51	18	3	10	7	6	
	100.0%	3.1%	52.0%	18.4%	3.1%	10.2%	7.1%	6.1%	
70歳以上	75	5	27	19	1	6	7	10	
	100.0%	6.7%	36.0%	25.3%	1.3%	8.0%	9.3%	13.3%	
対する 分担に 性別役割 考え方	『賛成』	220	6	101	50	2	20	23	18
		100.0%	2.7%	45.9%	22.7%	0.9%	9.1%	10.5%	8.2%
	『反対』	490	13	172	150	12	54	74	15
	100.0%	2.7%	35.1%	30.6%	2.4%	11.0%	15.1%	3.1%	
わからない	114	5	42	19	1	14	24	9	
	100.0%	4.4%	36.8%	16.7%	0.9%	12.3%	21.1%	7.9%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代・性別役割分担に対する考え別） 3/4

		サンプル数	③市政・県政の場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		840	17	199	264	32	92	178	58
		100.0%	2.0%	23.7%	31.4%	3.8%	11.0%	21.2%	6.9%
性・年代別	女性計	505	4	97	155	19	70	125	35
		100.0%	0.8%	19.2%	30.7%	3.8%	13.9%	24.8%	6.9%
	10代・20代	47	1	10	9	4	7	14	2
		100.0%	2.1%	21.3%	19.1%	8.5%	14.9%	29.8%	4.3%
	30代	71	0	11	27	4	8	21	0
		100.0%	0.0%	15.5%	38.0%	5.6%	11.3%	29.6%	0.0%
	40代	82	1	12	30	3	12	22	2
		100.0%	1.2%	14.6%	36.6%	3.7%	14.6%	26.8%	2.4%
	50代	100	1	14	42	2	17	21	3
		100.0%	1.0%	14.0%	42.0%	2.0%	17.0%	21.0%	3.0%
	60代	117	1	27	31	4	18	32	4
		100.0%	0.9%	23.1%	26.5%	3.4%	15.4%	27.4%	3.4%
	70歳以上	88	0	23	16	2	8	15	24
		100.0%	0.0%	26.1%	18.2%	2.3%	9.1%	17.0%	27.3%
	男性計	334	13	102	109	12	22	53	23
		100.0%	3.9%	30.5%	32.6%	3.6%	6.6%	15.9%	6.9%
	10代・20代	22	3	8	5	0	2	3	1
		100.0%	13.6%	36.4%	22.7%	0.0%	9.1%	13.6%	4.5%
30代	34	4	11	8	2	1	8	0	
	100.0%	11.8%	32.4%	23.5%	5.9%	2.9%	23.5%	0.0%	
40代	40	0	11	14	1	6	8	0	
	100.0%	0.0%	27.5%	35.0%	2.5%	15.0%	20.0%	0.0%	
50代	65	1	27	23	4	2	8	0	
	100.0%	1.5%	41.5%	35.4%	6.2%	3.1%	12.3%	0.0%	
60代	98	4	27	35	4	6	16	6	
	100.0%	4.1%	27.6%	35.7%	4.1%	6.1%	16.3%	6.1%	
70歳以上	75	1	18	24	1	5	10	16	
	100.0%	1.3%	24.0%	32.0%	1.3%	6.7%	13.3%	21.3%	
対する 分担に 性別役割 考え方	『賛成』	220	4	62	62	3	20	46	23
		100.0%	1.8%	28.2%	28.2%	1.4%	9.1%	20.9%	10.5%
	『反対』	490	10	117	174	24	54	95	16
	100.0%	2.0%	23.9%	35.5%	4.9%	11.0%	19.4%	3.3%	
わからない	114	3	20	23	4	18	35	11	
	100.0%	2.6%	17.5%	20.2%	3.5%	15.8%	30.7%	9.6%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代・性別役割分担に対する考え別）4/4

		サンプル数	④国政の場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		840	19	186	272	36	89	179	59
		100.0%	2.3%	22.1%	32.4%	4.3%	10.6%	21.3%	7.0%
性・年代別	女性計	505	2	91	161	23	64	130	34
		100.0%	0.4%	18.0%	31.9%	4.6%	12.7%	25.7%	6.7%
	10代・20代	47	1	7	13	7	5	12	2
		100.0%	2.1%	14.9%	27.7%	14.9%	10.6%	25.5%	4.3%
	30代	71	0	11	28	5	6	21	0
		100.0%	0.0%	15.5%	39.4%	7.0%	8.5%	29.6%	0.0%
	40代	82	0	13	29	5	11	22	2
		100.0%	0.0%	15.9%	35.4%	6.1%	13.4%	26.8%	2.4%
	50代	100	0	14	45	2	14	22	3
		100.0%	0.0%	14.0%	45.0%	2.0%	14.0%	22.0%	3.0%
	60代	117	1	28	27	3	19	35	4
		100.0%	0.9%	23.9%	23.1%	2.6%	16.2%	29.9%	3.4%
	70歳以上	88	0	18	19	1	9	18	23
		100.0%	0.0%	20.5%	21.6%	1.1%	10.2%	20.5%	26.1%
	男性計	334	17	95	111	12	25	49	25
		100.0%	5.1%	28.4%	33.2%	3.6%	7.5%	14.7%	7.5%
	10代・20代	22	3	8	6	0	0	4	1
		100.0%	13.6%	36.4%	27.3%	0.0%	0.0%	18.2%	4.5%
	30代	34	5	8	9	2	2	8	0
	100.0%	14.7%	23.5%	26.5%	5.9%	5.9%	23.5%	0.0%	
40代	40	0	11	15	1	6	7	0	
	100.0%	0.0%	27.5%	37.5%	2.5%	15.0%	17.5%	0.0%	
50代	65	3	23	26	2	4	7	0	
	100.0%	4.6%	35.4%	40.0%	3.1%	6.2%	10.8%	0.0%	
60代	98	4	28	34	5	8	13	6	
	100.0%	4.1%	28.6%	34.7%	5.1%	8.2%	13.3%	6.1%	
70歳以上	75	2	17	21	2	5	10	18	
	100.0%	2.7%	22.7%	28.0%	2.7%	6.7%	13.3%	24.0%	
対する 分担に 性別役割 考え方	『賛成』	220	6	59	62	5	17	47	24
		100.0%	2.7%	26.8%	28.2%	2.3%	7.7%	21.4%	10.9%
	『反対』	490	9	112	176	29	55	93	16
	100.0%	1.8%	22.9%	35.9%	5.9%	11.2%	19.0%	3.3%	
わからない	114	4	15	30	1	17	37	10	
	100.0%	3.5%	13.2%	26.3%	0.9%	14.9%	32.5%	8.8%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由

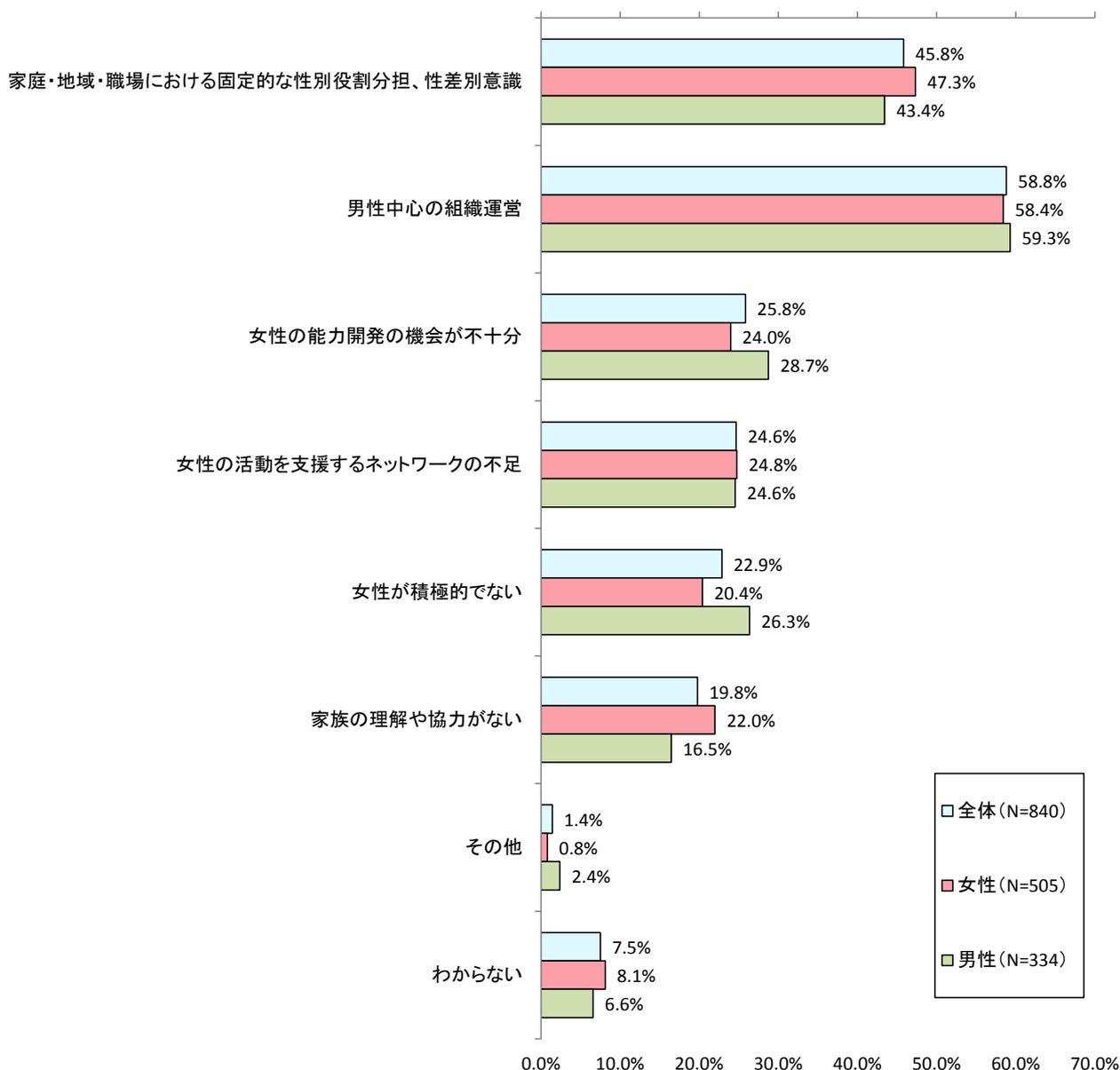
【問 31】 現在、わが国の政策や方針決定過程への女性の参画状況は先進国の中で特に低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由は何だと思いますか。(複数回答)

～「男性中心の組織運営」と約6割が回答～

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由についてみると、全体では「男性中心の組織運営」(58.8%)の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(45.8%)、「女性の能力開発の機会が不十分」(25.8%)となっている。

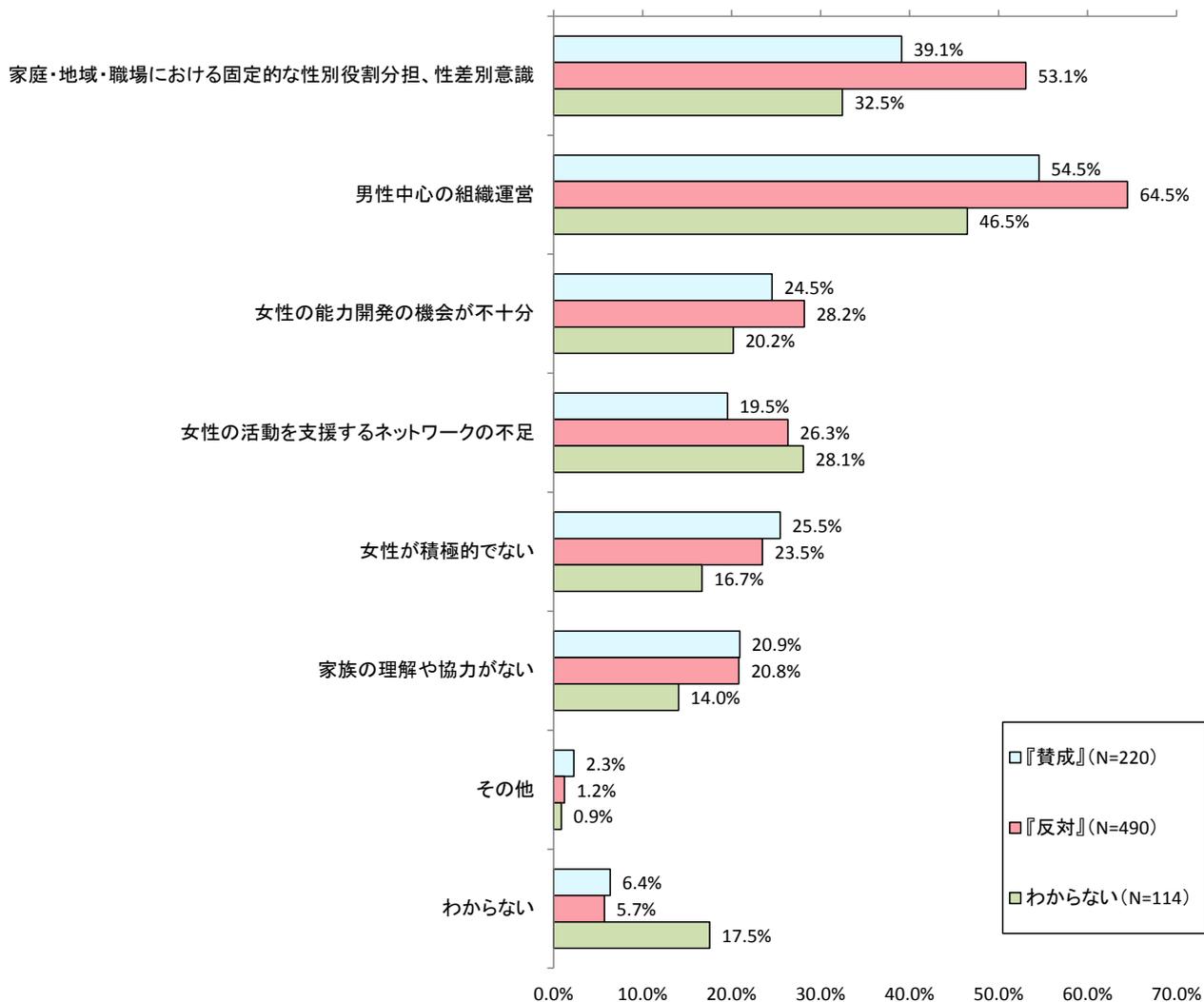
性別にみると「家族の理解や協力がない」(女性：22.0%、男性：16.5%)で女性の割合が男性より高く、「女性が積極的でない」(女性：20.4%、男性：26.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由(全体・性別)



性別役割分担に対する考え方にみると、「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(『賛成』: 39.1%、『反対』: 53.1%)、「男性中心の組織運営」(『賛成』: 54.5%、『反対』: 64.5%)、「女性の活動を支援するネットワークの不足」(『賛成』: 19.5%、『反対』: 26.3%) では『反対』の割合が『賛成』より高くなっている

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由(性別役割分担に対する考え方)



※ 『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答)

	サンプル数	政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由							
		家庭的・性別役割分担、職場における意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援するネット	女性が積極的でない	家族の理解や協力が無い	その他	わからない
全体	840	385 45.8%	494 58.8%	217 25.8%	207 24.6%	192 22.9%	166 19.8%	12 1.4%	63 7.5%
性・年代別	女性計	505 47.3%	295 58.4%	121 24.0%	125 24.8%	103 20.4%	111 22.0%	4 0.8%	41 8.1%
	10代・20代	47 48.9%	24 51.1%	6 12.8%	14 29.8%	10 21.3%	6 12.8%	0 0.0%	4 8.5%
	30代	71 62.0%	51 71.8%	10 14.1%	11 15.5%	11 15.5%	16 22.5%	2 2.8%	4 5.6%
	40代	82 57.3%	54 65.9%	15 18.3%	17 20.7%	12 14.6%	23 28.0%	0 0.0%	2 2.4%
	50代	100 44.0%	68 68.0%	27 27.0%	27 27.0%	16 16.0%	24 24.0%	0 0.0%	9 9.0%
	60代	117 44.4%	60 51.3%	35 29.9%	28 23.9%	35 29.9%	25 21.4%	1 0.9%	15 12.8%
	70歳以上	88 33.0%	38 43.2%	28 31.8%	28 31.8%	19 21.6%	17 19.3%	1 1.1%	7 8.0%
	男性計	334 43.4%	198 59.3%	96 28.7%	82 24.6%	88 26.3%	55 16.5%	8 2.4%	22 6.6%
	10代・20代	22 45.5%	6 27.3%	6 27.3%	4 18.2%	8 36.4%	3 13.6%	0 0.0%	2 9.1%
	30代	34 44.1%	20 58.8%	9 26.5%	4 11.8%	7 20.6%	5 14.7%	1 2.9%	2 5.9%
	40代	40 37.5%	25 62.5%	7 17.5%	7 17.5%	8 20.0%	11 27.5%	4 10.0%	5 12.5%
	50代	65 49.2%	41 63.1%	20 30.8%	18 27.7%	16 24.6%	10 15.4%	3 4.6%	1 1.5%
	60代	98 44.9%	62 63.3%	33 33.7%	30 30.6%	32 32.7%	13 13.3%	0 0.0%	5 5.1%
	70歳以上	75 38.7%	44 58.7%	21 28.0%	19 25.3%	17 22.7%	13 17.3%	0 0.0%	7 9.3%
対する考え方 性別役割 分担に	『賛成』	220 39.1%	120 54.5%	54 24.5%	43 19.5%	56 25.5%	46 20.9%	5 2.3%	14 6.4%
	『反対』	490 53.1%	316 64.5%	138 28.2%	129 26.3%	115 23.5%	102 20.8%	6 1.2%	28 5.7%
	わからない	114 32.5%	53 46.5%	23 20.2%	32 28.1%	19 16.7%	16 14.0%	1 0.9%	20 17.5%

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること

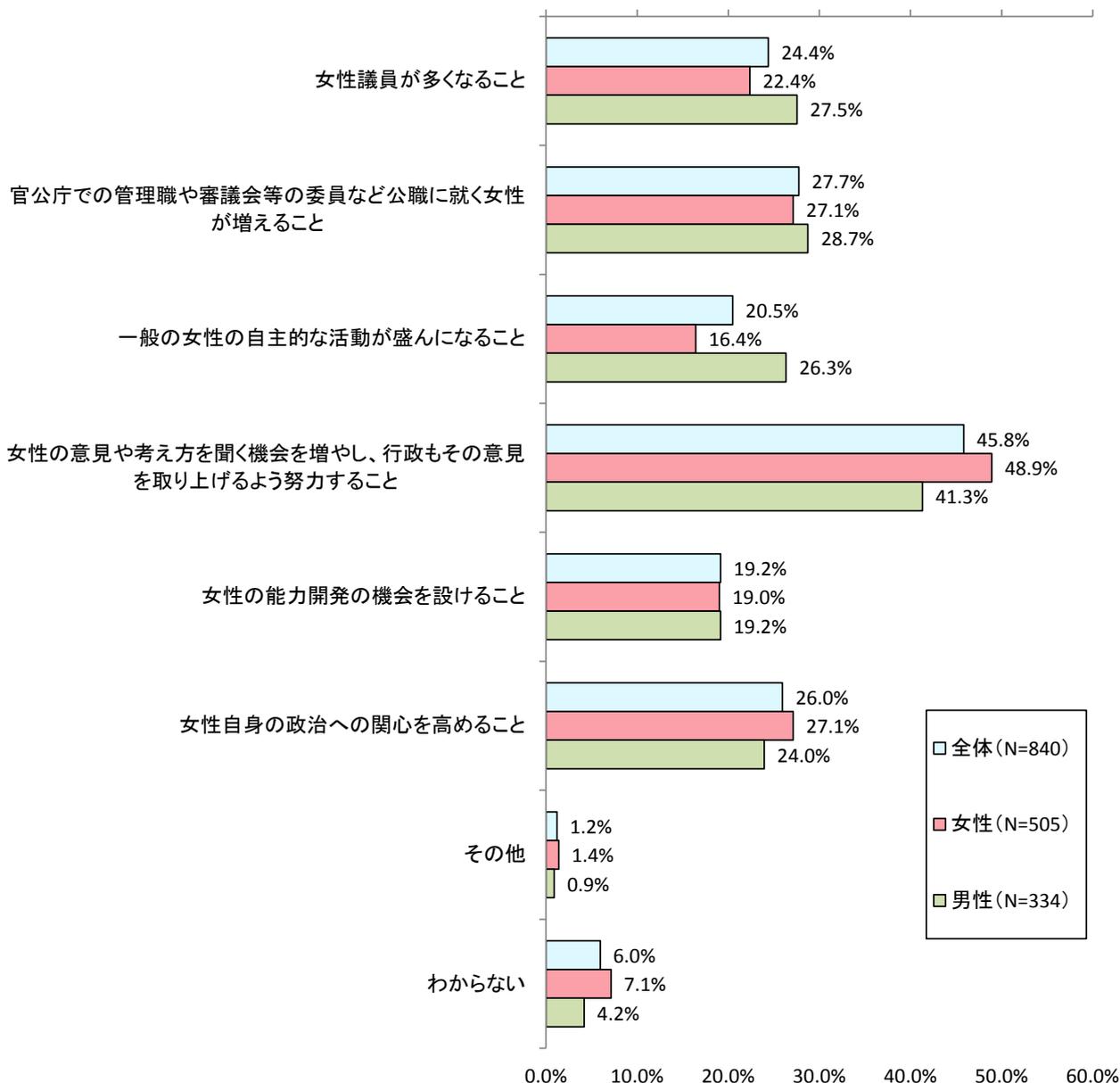
【問 32】 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。(複数回答)

～女性の意見を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること～

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われることについてみると、全体では「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」(45.8%)の割合が最も高く、次いで「官公庁での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること」(27.7%)、「女性自身の政治への関心を高めること」(26.0%)となっている。

性別にみると、「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」(女性：48.9%、男性：41.3%)で女性の割合が男性より高く、「女性議員が多くなること」(女性：22.4%、男性：27.5%)、「女性議員が多くなること」(女性：22.4%、男性：27.5%)、「一般の女性の自主的な活動が盛んになること」(女性：16.4%、男性26.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること(全体・性別)



女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること（全体・性別）

		サンプル数	女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること							わからない
			女性議員が多くなること	官公庁での管理職や審議会等の委員など女性が増えること	一般の女性の自主的な活動が盛んになること	女性、行政の意見や考え方を聞き上げる機会を増やすこと	女性の能力開発の機会を設けること	女性自身の政治への関心を高めること	その他	
全体		840	205 24.4%	233 27.7%	172 20.5%	385 45.8%	161 19.2%	218 26.0%	10 1.2%	50 6.0%
性・年代別	女性計	505	113 22.4%	137 27.1%	83 16.4%	247 48.9%	96 19.0%	137 27.1%	7 1.4%	36 7.1%
	10代・20代	47	11 23.4%	15 31.9%	5 10.6%	26 55.3%	8 17.0%	10 21.3%	0 0.0%	3 6.4%
	30代	71	23 32.4%	21 29.6%	11 15.5%	30 42.3%	12 16.9%	20 28.2%	4 5.6%	3 4.2%
	40代	82	15 18.3%	22 26.8%	13 15.9%	42 51.2%	21 25.6%	18 22.0%	1 1.2%	6 7.3%
	50代	100	24 24.0%	26 26.0%	11 11.0%	56 56.0%	20 20.0%	28 28.0%	1 1.0%	5 5.0%
	60代	117	20 17.1%	28 23.9%	33 28.2%	50 42.7%	25 21.4%	39 33.3%	0 0.0%	13 11.1%
	70歳以上	88	20 22.7%	25 28.4%	10 11.4%	43 48.9%	10 11.4%	22 25.0%	1 1.1%	6 6.8%
	男性計	334	92 27.5%	96 28.7%	88 26.3%	138 41.3%	64 19.2%	80 24.0%	3 0.9%	14 4.2%
	10代・20代	22	2 9.1%	5 22.7%	3 13.6%	7 31.8%	6 27.3%	9 40.9%	0 0.0%	3 13.6%
	30代	34	14 41.2%	13 38.2%	8 23.5%	9 26.5%	8 23.5%	4 11.8%	2 5.9%	1 2.9%
	40代	40	18 45.0%	12 30.0%	10 25.0%	14 35.0%	5 12.5%	6 15.0%	0 0.0%	0 0.0%
	50代	65	13 20.0%	21 32.3%	19 29.2%	33 50.8%	13 20.0%	15 23.1%	1 1.5%	2 3.1%
	60代	98	19 19.4%	28 28.6%	31 31.6%	47 48.0%	25 25.5%	27 27.6%	0 0.0%	2 2.0%
	70歳以上	75	26 34.7%	17 22.7%	17 22.7%	28 37.3%	7 9.3%	19 25.3%	0 0.0%	6 8.0%
対する考え方 性別役割 分担に	『賛成』	220	45 20.5%	62 28.2%	55 25.0%	94 42.7%	37 16.8%	57 25.9%	3 1.4%	13 5.9%
	『反対』	490	132 26.9%	147 30.0%	94 19.2%	246 50.2%	100 20.4%	137 28.0%	6 1.2%	22 4.5%
	わからない	114	27 23.7%	20 17.5%	20 17.5%	40 35.1%	23 20.2%	21 18.4%	1 0.9%	15 13.2%

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

8. 人権・暴力について

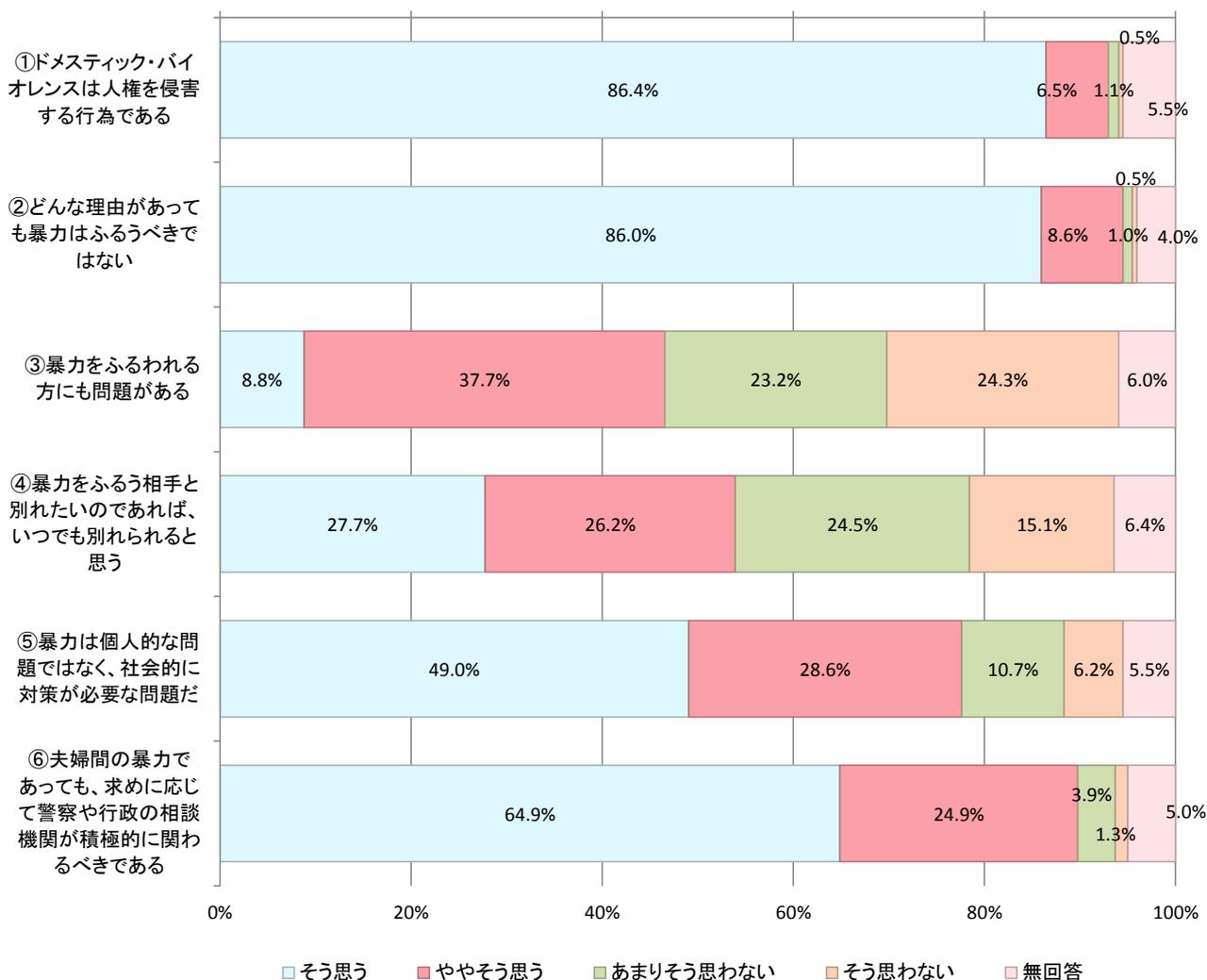
(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方

【問 33】 配偶者等からの暴力は、多くの場合女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思いますか。

～9割超の人が「どんな理由があっても暴力をふるうべきではない」と考えている～

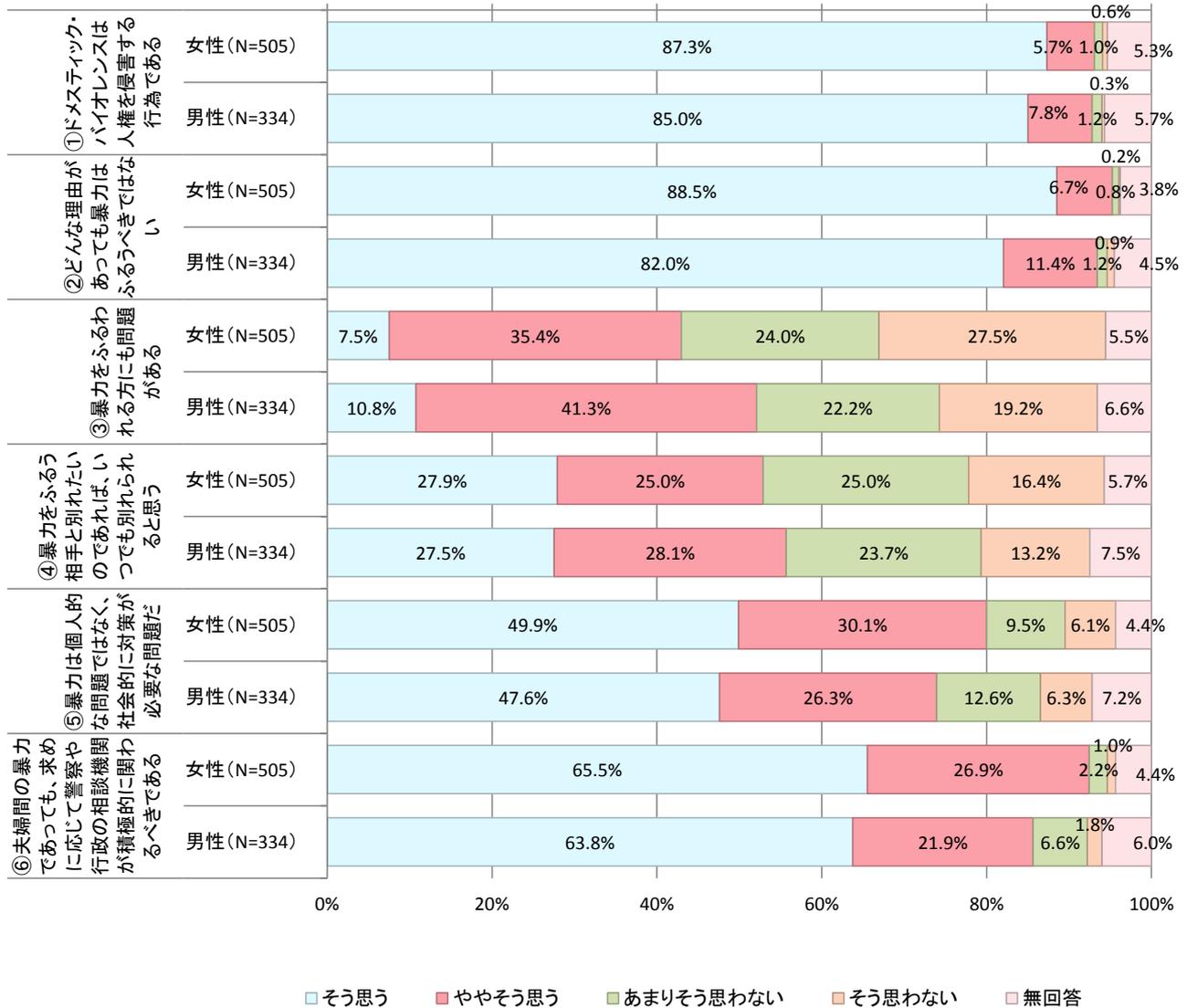
ドメスティック・バイオレンス（DV）に対する考え方についてみると、全体では『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合は「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」（94.6%）が最も高く、次いで「①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である」（92.9%）、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の機関が積極的に関わるべきである」（89.8%）となっている。一方、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」という考え方には約5割（46.5%）の人が『そう思う』と答えている。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方（全体）



性別にみると『そう思う』の割合は「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」（女性：80.0%、男性：73.9%）、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」（女性：92.4%、男性：85.7%）で女性の割合が男性より高くなっている。一方、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」（女性：42.9%、男性52.1%）で男性の割合が女性より高くなっている。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(性別)



性別役割分担に対する考え方にみると、「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」、
「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」で性別役割分
担に『反対』の方が『賛成』より『そう思う』の割合が高く、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」で『反対』
が『賛成』より『そう思う』の割合が低くなっている。

※『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方（性・性別役割分担に対する考え方別） 1/3

		サンプル数	①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である					②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない				
			そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
全体		840	726	55	9	4	46	722	72	8	4	34
		100.0%	86.4%	6.5%	1.1%	0.5%	5.5%	86.0%	8.6%	1.0%	0.5%	4.0%
性別	女性	505	441	29	5	3	27	447	34	4	1	19
		100.0%	87.3%	5.7%	1.0%	0.6%	5.3%	88.5%	6.7%	0.8%	0.2%	3.8%
	男性	334	284	26	4	1	19	274	38	4	3	15
		100.0%	85.0%	7.8%	1.2%	0.3%	5.7%	82.0%	11.4%	1.2%	0.9%	4.5%
対する性別役割 分担に 考え方	『賛成』	220	187	9	2	1	21	177	21	4	2	16
		100.0%	85.0%	4.1%	0.9%	0.5%	9.5%	80.5%	9.5%	1.8%	0.9%	7.3%
	『反対』	490	442	30	6	1	11	438	39	3	2	8
		100.0%	90.2%	6.1%	1.2%	0.2%	2.2%	89.4%	8.0%	0.6%	0.4%	1.6%
	わからない	114	90	15	0	2	7	98	11	1	0	4
		100.0%	78.9%	13.2%	0.0%	1.8%	6.1%	86.0%	9.6%	0.9%	0.0%	3.5%

％：各属性内での回答割合が最も高い

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方（性・性別役割分担に対する考え方別） 2/3

	サンプル数	③暴力をふるわれる方にも問題がある					④暴力をふるう相手と別れたいのであれば、 いつでも別れられると思う					
		そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	
全体	840	74	317	195	204	50	233	220	206	127	54	
		100.0%	8.8%	37.7%	23.2%	24.3%	6.0%	27.7%	26.2%	24.5%	15.1%	6.4%
性別	女性	505	38	179	121	139	28	141	126	126	83	29
		100.0%	7.5%	35.4%	24.0%	27.5%	5.5%	27.9%	25.0%	25.0%	16.4%	5.7%
性別	男性	334	36	138	74	64	22	92	94	79	44	25
		100.0%	10.8%	41.3%	22.2%	19.2%	6.6%	27.5%	28.1%	23.7%	13.2%	7.5%
対する 考え方 性別 役割 分担に	『賛成』	220	26	90	49	35	20	66	51	53	27	23
		100.0%	11.8%	40.9%	22.3%	15.9%	9.1%	30.0%	23.2%	24.1%	12.3%	10.5%
	『反対』	490	38	185	111	140	16	134	124	129	87	16
		100.0%	7.8%	37.8%	22.7%	28.6%	3.3%	27.3%	25.3%	26.3%	17.8%	3.3%
わからない	114	9	38	32	28	7	28	42	23	13	8	
	100.0%	7.9%	33.3%	28.1%	24.6%	6.1%	24.6%	36.8%	20.2%	11.4%	7.0%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方（性・性別役割分担に対する考え方別） 3/3

	サンプル数	⑤暴力は個人的な問題ではなく、 社会的に対策が必要な問題だ					⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の 相談機関が積極的に関わるべきである					
		そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	
全体	840	412	240	90	52	46	545	209	33	11	42	
		100.0%	49.0%	28.6%	10.7%	6.2%	5.5%	64.9%	24.9%	3.9%	1.3%	5.0%
性別	女性	505	252	152	48	31	22	331	136	11	5	22
		100.0%	49.9%	30.1%	9.5%	6.1%	4.4%	65.5%	26.9%	2.2%	1.0%	4.4%
性別	男性	334	159	88	42	21	24	213	73	22	6	20
		100.0%	47.6%	26.3%	12.6%	6.3%	7.2%	63.8%	21.9%	6.6%	1.8%	6.0%
対する 考え方 性別 役割 分担に	『賛成』	220	97	53	34	16	20	128	58	10	5	19
		100.0%	44.1%	24.1%	15.5%	7.3%	9.1%	58.2%	26.4%	4.5%	2.3%	8.6%
	『反対』	490	258	150	42	28	12	347	112	16	5	10
		100.0%	52.7%	30.6%	8.6%	5.7%	2.4%	70.8%	22.9%	3.3%	1.0%	2.0%
わからない	114	53	33	13	8	7	65	35	6	1	7	
	100.0%	46.5%	28.9%	11.4%	7.0%	6.1%	57.0%	30.7%	5.3%	0.9%	6.1%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 配偶者等からのDVの被害経験の有無

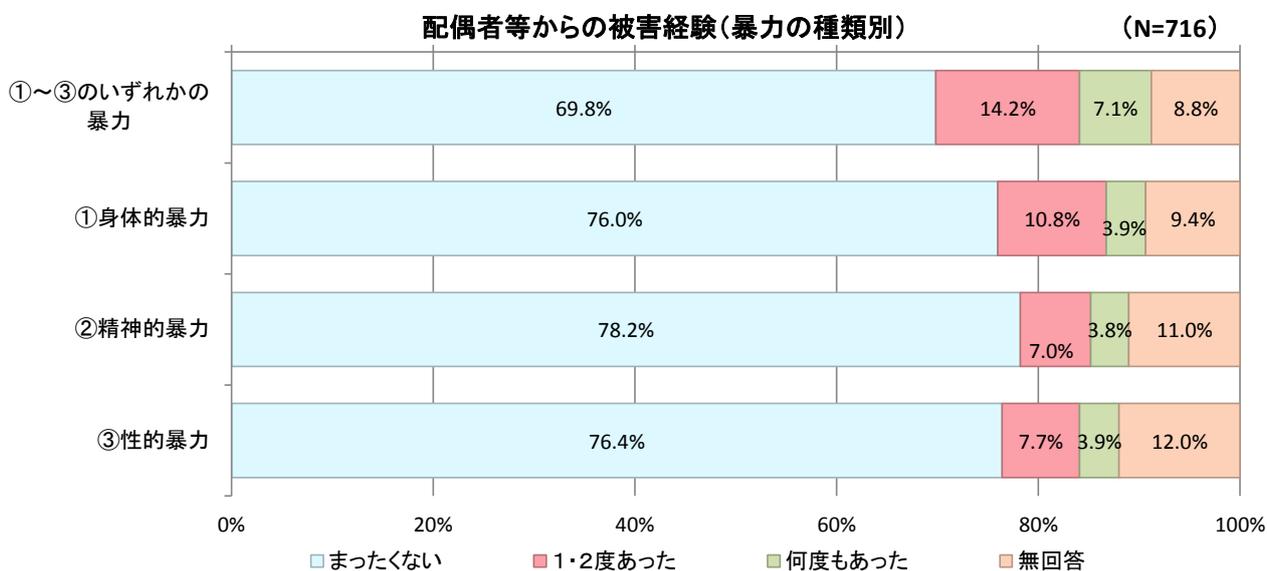
【問 34】 現在または過去に配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）がいる（いた）方におたずねします。

～何らかの被害経験が『あった』と答えたのは女性の4人に1人、男性の9人に1人～

(1) これまでに、あなたの配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）から次の①～③のようなことをされたことがありますか。

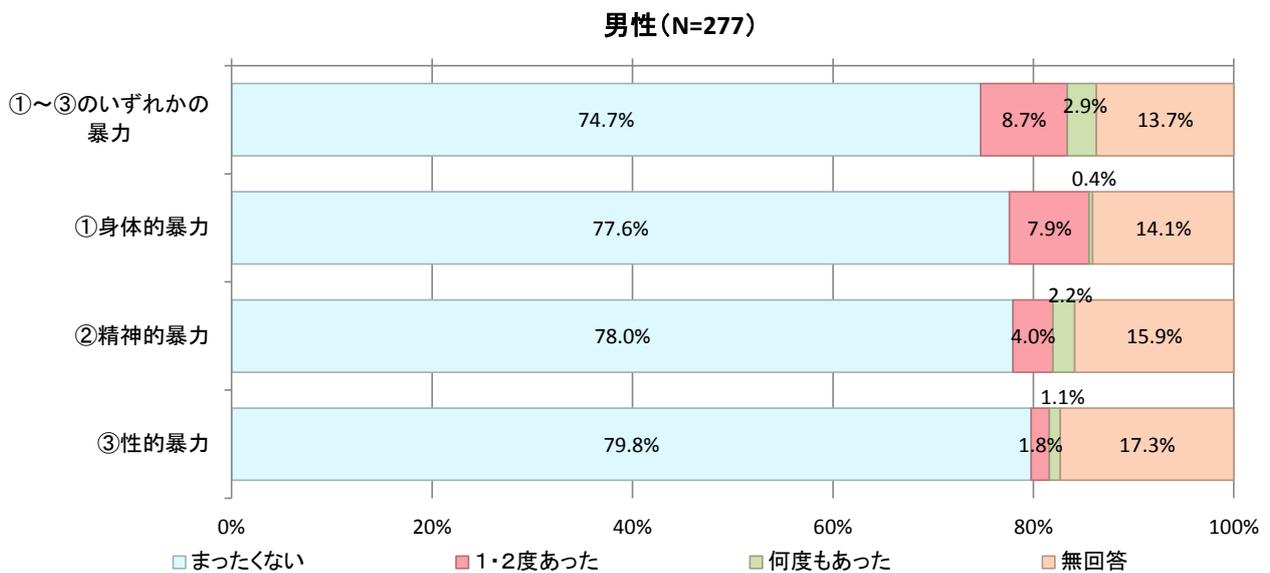
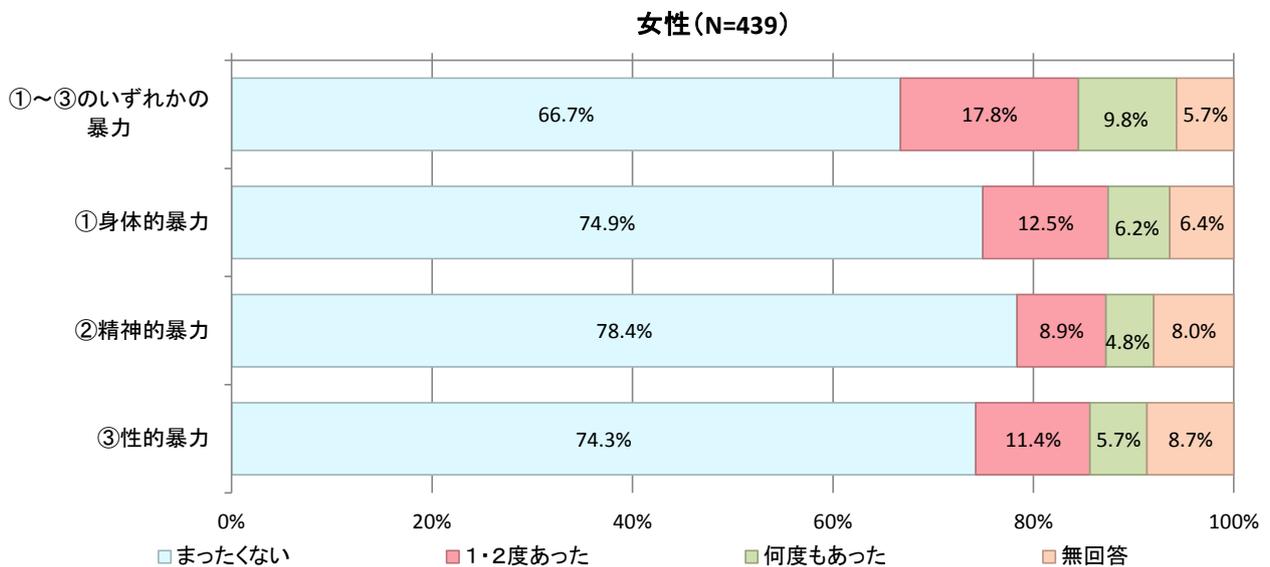
- ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- ②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなたもしくはあなたの家族に被害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- ③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された

配偶者等からのDVの被害経験の有無について、暴力の種類別にみると被害経験が『あった』（「1・2度あった」＋「何度もあった」）と答えた割合は「①身体的暴力」（14.7%）が最も高く、次いで「③性的暴力」（11.6%）、「②精神的暴力」（10.8%）となっている。



性別、暴力の種類別にみると、何らかの被害経験が『あった』と答えた割合は、いずれも女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。

配偶者等からのDVの被害経験の有無（暴力の種類別・性別）



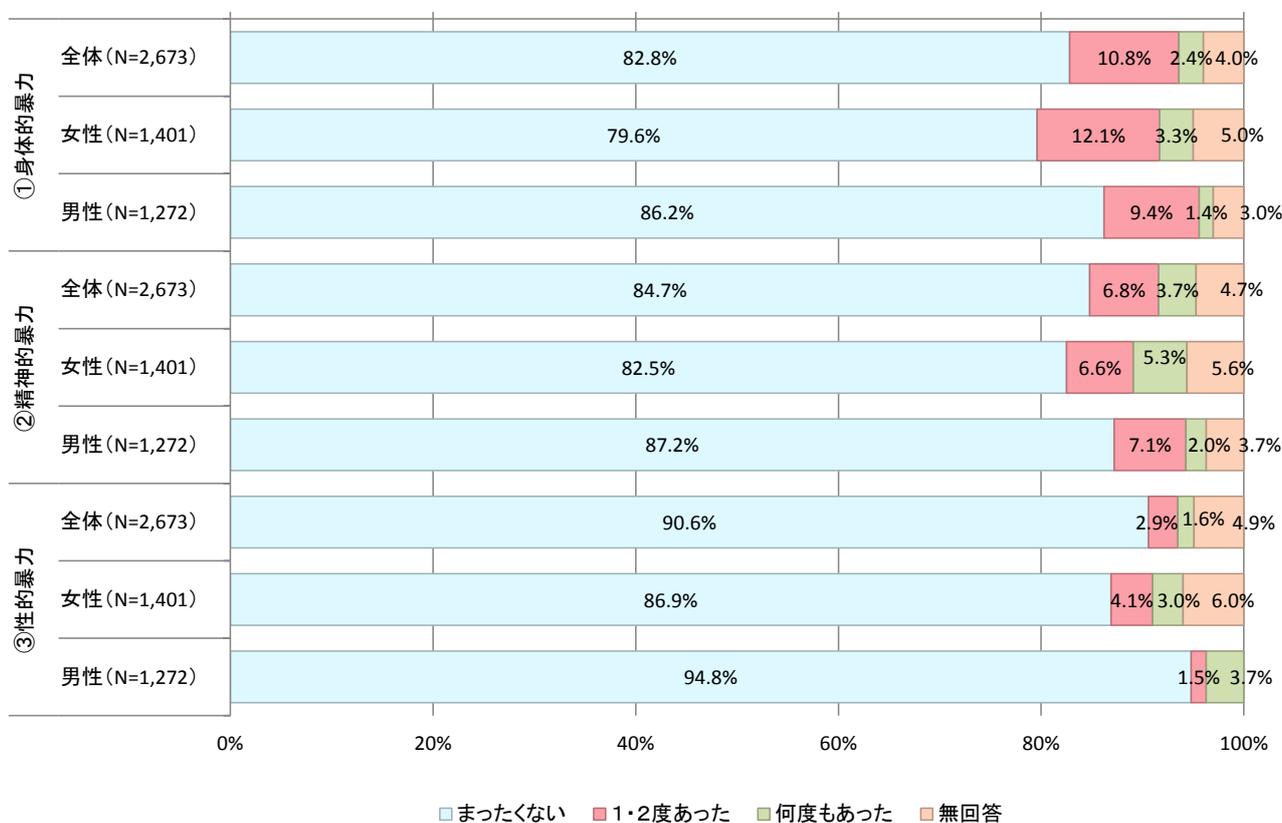
内閣府DV調査と比較すると、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなどの身体に対する暴行を受けた」について『あった』と回答した人は、全体（霧島市：14.7%、内閣府：13.2%）、女性（霧島市：18.7%、内閣府：15.4%）で霧島市が内閣府より高くなっている。

「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」について『あった』と回答した人は、男性（霧島市：6.2%、内閣府：9.2%）で内閣府の方が霧島市より高くなっている。

「避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された」について『あった』と回答した人は、全体（霧島市11.6%、内閣府：4.5%）（霧島市：17.1%、内閣府：7.1%）（霧島市：2.9%、内閣府：1.5%）で霧島市が内閣府より割合が高くなっている。

【内閣府DV調査】

配偶者からの被害経験(暴力の種類別・性別)



配偶者等からのDVの被害経験の有無（性・年代別）

	サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された			
		まったくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくない	1・2度あった	何度もあった	無回答
全体	716	544	77	28	67	560	50	27	79	547	55	28	86
	100.0%	76.0%	10.8%	3.9%	9.4%	78.2%	7.0%	3.8%	11.0%	76.4%	7.7%	3.9%	12.0%
女性 計	439	329	55	27	28	344	39	21	35	326	50	25	38
	100.0%	74.9%	12.5%	6.2%	6.4%	78.4%	8.9%	4.8%	8.0%	74.3%	11.4%	5.7%	8.7%
10代・20代	20	16	3	1	0	18	1	1	0	15	3	1	1
	100.0%	80.0%	15.0%	5.0%	0.0%	90.0%	5.0%	5.0%	0.0%	75.0%	15.0%	5.0%	5.0%
30代	56	43	7	5	1	46	4	5	1	47	5	3	1
	100.0%	76.8%	12.5%	8.9%	1.8%	82.1%	7.1%	8.9%	1.8%	83.9%	8.9%	5.4%	1.8%
40代	71	56	9	4	2	58	6	4	3	57	6	6	2
	100.0%	78.9%	12.7%	5.6%	2.8%	81.7%	8.5%	5.6%	4.2%	80.3%	8.5%	8.5%	2.8%
50代	92	68	15	7	2	69	13	7	3	68	14	6	4
	100.0%	73.9%	16.3%	7.6%	2.2%	75.0%	14.1%	7.6%	3.3%	73.9%	15.2%	6.5%	4.3%
60代	115	90	12	7	6	96	8	4	7	84	17	6	8
	100.0%	78.3%	10.4%	6.1%	5.2%	83.5%	7.0%	3.5%	6.1%	73.0%	14.8%	5.2%	7.0%
70歳以上	85	56	9	3	17	57	7	0	21	55	5	3	22
	100.0%	65.9%	10.6%	3.5%	20.0%	67.1%	8.2%	0.0%	24.7%	64.7%	5.9%	3.5%	25.9%
男性 計	277	215	22	1	39	216	11	6	44	221	5	3	48
	100.0%	77.6%	7.9%	0.4%	14.1%	78.0%	4.0%	2.2%	15.9%	79.8%	1.8%	1.1%	17.3%
10代・20代	2	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	24	23	1	0	0	23	1	0	0	24	0	0	0
	100.0%	95.8%	4.2%	0.0%	0.0%	95.8%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40代	34	31	1	0	2	31	1	0	2	32	0	0	2
	100.0%	91.2%	2.9%	0.0%	5.9%	91.2%	2.9%	0.0%	5.9%	94.1%	0.0%	0.0%	5.9%
50代	56	46	9	0	1	47	5	2	2	51	2	1	2
	100.0%	82.1%	16.1%	0.0%	1.8%	83.9%	8.9%	3.6%	3.6%	91.1%	3.6%	1.8%	3.6%
60代	89	62	6	1	20	61	3	3	22	62	2	2	23
	100.0%	69.7%	6.7%	1.1%	22.5%	68.5%	3.4%	3.4%	24.7%	69.7%	2.2%	2.2%	25.8%
70歳以上	72	51	5	0	16	52	1	1	18	50	1	0	21
	100.0%	70.8%	6.9%	0.0%	22.2%	72.2%	1.4%	1.4%	25.0%	69.4%	1.4%	0.0%	29.2%

％：各属性内での回答割合が最も高い

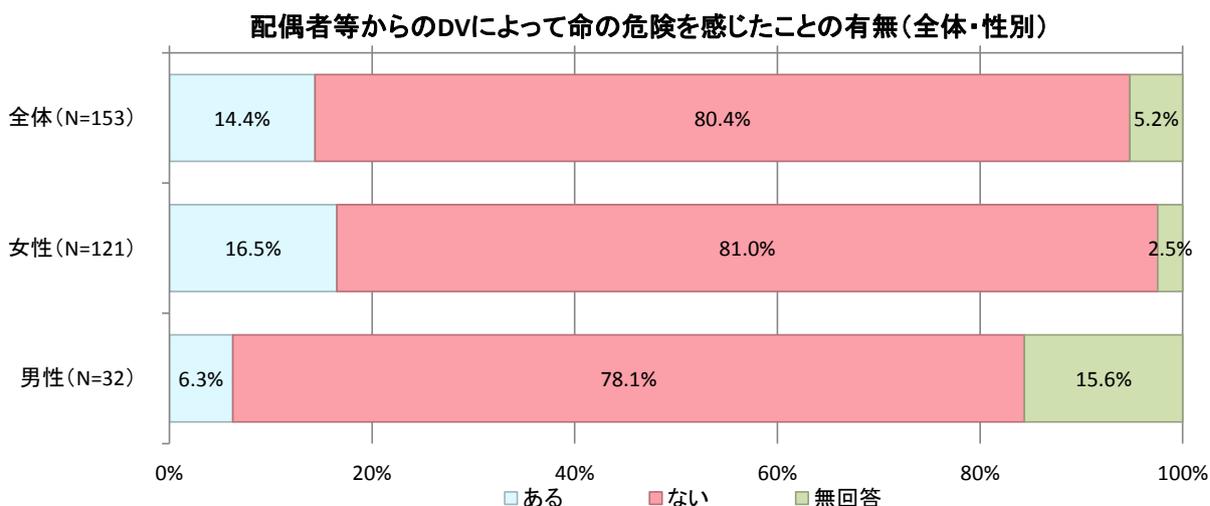
(3) 配偶者等からのDVにより命の危険を感じたことの有無

(2) 問34(1)で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

①その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

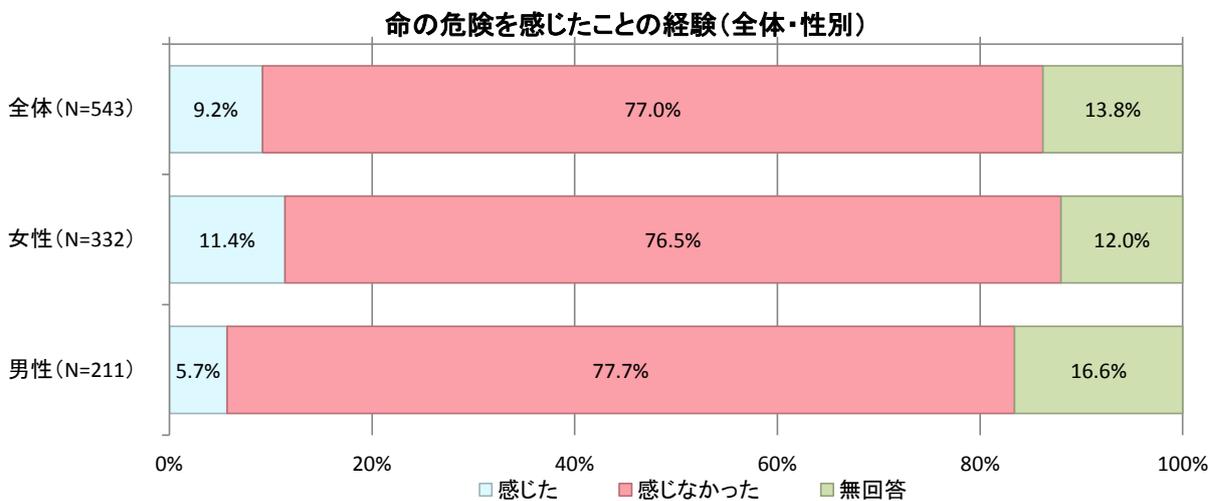
配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が14.4%、「ない」が80.4%となっている。

性別にみると「ある」(女性：16.5%、男性：6.3%)と答えた割合は女性が男性より高くなっている。



内閣府DV調査と比較すると「ある」と答えた割合が霧島市の方が高くなっている。

【内閣府DV調査】



配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無（性・年代別）

		サンプル数	配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		153	22	123	8
		100.0%	14.4%	80.4%	5.2%
性・年代別	女性 計	121	20	98	3
		100.0%	16.5%	81.0%	2.5%
	10代・20代	6	0	6	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	30代	15	2	13	0
		100.0%	13.3%	86.7%	0.0%
	40代	18	5	12	1
		100.0%	27.8%	66.7%	5.6%
	50代	32	5	27	0
		100.0%	15.6%	84.4%	0.0%
	60代	35	5	29	1
		100.0%	14.3%	82.9%	2.9%
	70歳以上	15	3	11	1
		100.0%	20.0%	73.3%	6.7%
	男性 計	32	2	25	5
		100.0%	6.3%	78.1%	15.6%
10代・20代	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
30代	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
40代	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
50代	13	0	9	4	
	100.0%	0.0%	69.2%	30.8%	
60代	11	2	8	1	
	100.0%	18.2%	72.7%	9.1%	
70歳以上	6	0	6	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	

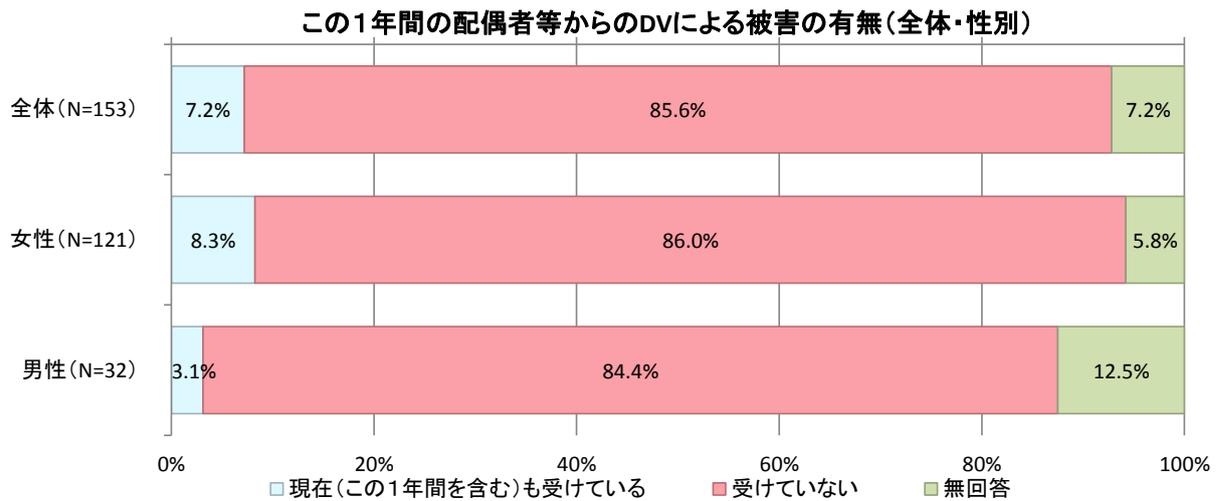
_____%：各属性内での回答割合が最も高い

(4) この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無

②問 34 (1) のような暴力を、現在 (この1年間を含む) も受けていますか。

この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無についてみると、全体では「現在 (この1年間を含む) も受けている」が7.2%、「受けていない」85.6%となっている。

性別でみると「現在 (この1年間を含む) も受けている」(女性:8.3%、男性:3.1%)と答えた割合は女性が男性より高くなっている。



この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無（性・年代別）

		サンプル数	この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無		
			現在（この1年間を含む）も受けている	受けていない	無回答
全体		153	11	131	11
		100.0%	7.2%	85.6%	7.2%
性・年代別	女性 計	121	10	104	7
		100.0%	8.3%	86.0%	5.8%
	10代・20代	6	2	4	0
		100.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	30代	15	3	12	0
		100.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	40代	18	1	14	3
		100.0%	5.6%	77.8%	16.7%
	50代	32	1	31	0
		100.0%	3.1%	96.9%	0.0%
	60代	35	3	30	2
		100.0%	8.6%	85.7%	5.7%
	70歳以上	15	0	13	2
		100.0%	0.0%	86.7%	13.3%
	男性 計	32	1	27	4
		100.0%	3.1%	84.4%	12.5%
	10代・20代	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
30代	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
40代	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
50代	13	0	10	3	
	100.0%	0.0%	76.9%	23.1%	
60代	11	1	9	1	
	100.0%	9.1%	81.8%	9.1%	
70歳以上	6	0	6	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

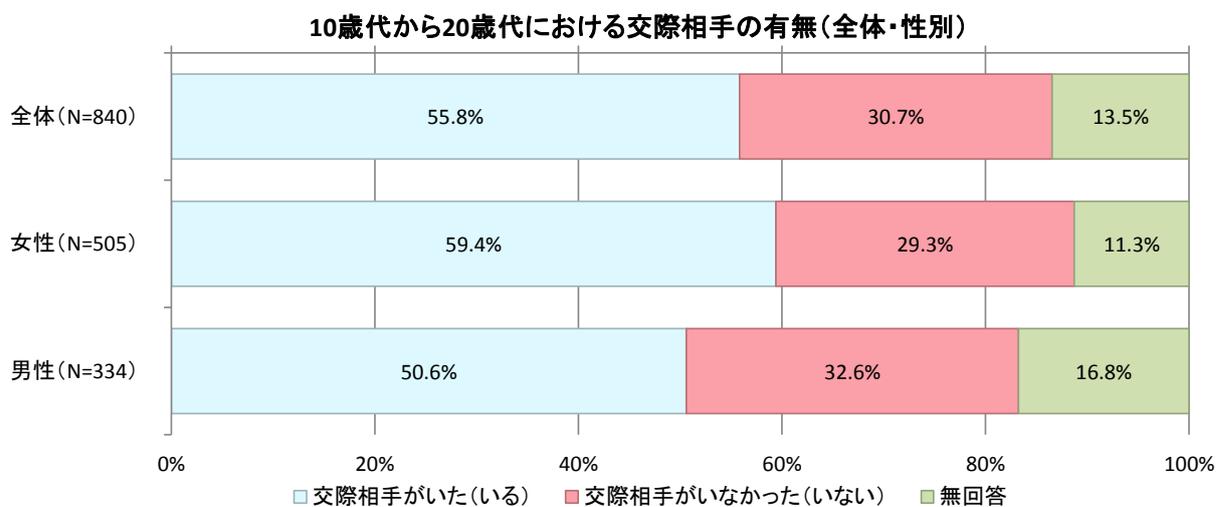
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無

【問 35】 あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。あなたは、その当時、交際相手がありましたか。

～交際相手があった（いる）割合の方が高い～

10歳代から20歳代における交際相手の有無についてみると、全体では「交際相手があった（いる）」が55.8%、「交際相手がいなかった（いない）」が30.7%となっている。

性別にみると、「交際相手があった（いる）」（女性：59.4%、男性：50.6%）の割合は女性が男性より高くなっている。



10歳代から20歳代における交際相手の有無（性・年代別）

		サンプル数	10歳代から20歳代における交際相手の有無		
			交際相手がいた（いる）	交際相手がいなかった（いない）	無回答
全体		840	469	258	113
		100.0%	55.8%	30.7%	13.5%
性・年代別	女性 計	505	300	148	57
		100.0%	59.4%	29.3%	11.3%
	10代・20代	47	31	9	7
		100.0%	66.0%	19.1%	14.9%
	30代	71	56	8	7
		100.0%	78.9%	11.3%	9.9%
	40代	82	68	11	3
		100.0%	82.9%	13.4%	3.7%
	50代	100	68	27	5
		100.0%	68.0%	27.0%	5.0%
	60代	117	61	45	11
		100.0%	52.1%	38.5%	9.4%
	70歳以上	88	16	48	24
		100.0%	18.2%	54.5%	27.3%
	男性 計	334	169	109	56
		100.0%	50.6%	32.6%	16.8%
10代・20代	22	7	9	6	
	100.0%	31.8%	40.9%	27.3%	
30代	34	23	9	2	
	100.0%	67.6%	26.5%	5.9%	
40代	40	34	4	2	
	100.0%	85.0%	10.0%	5.0%	
50代	65	39	22	4	
	100.0%	60.0%	33.8%	6.2%	
60代	98	40	37	21	
	100.0%	40.8%	37.8%	21.4%	
70歳以上	75	26	28	21	
	100.0%	34.7%	37.3%	28.0%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無

【問36】 問35で「交際相手がいた「いる」と答えた方におたずねします。

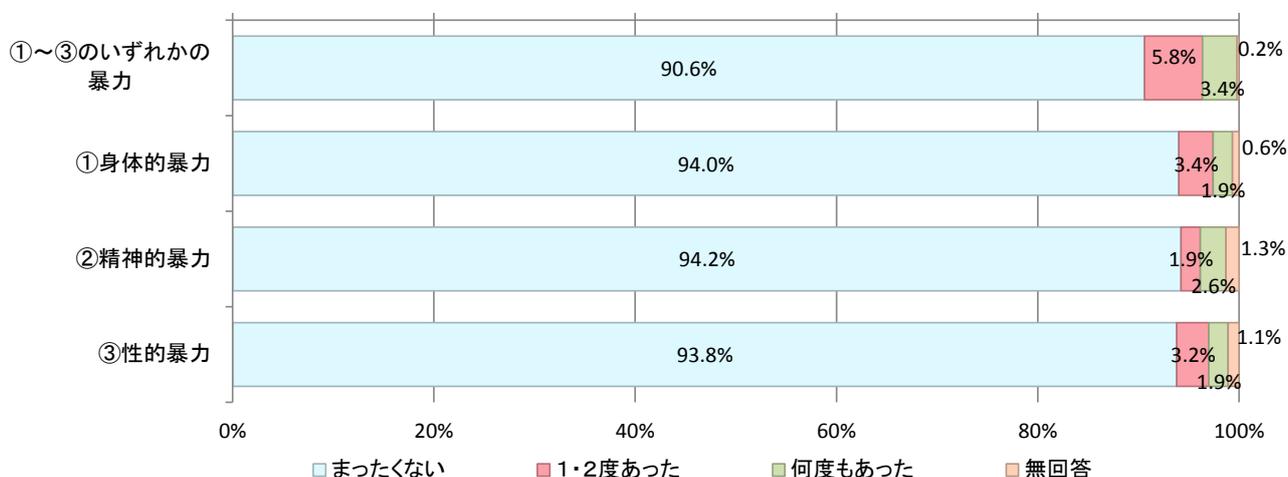
～何らかの被害経験が『あった』と答えたのは、女性の8人に1人～

(1) あなたは、10歳代または20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、①～③のようなことをされたことがありますか。

- ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- ②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなたもしくはあなたの家族に被害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- ③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された

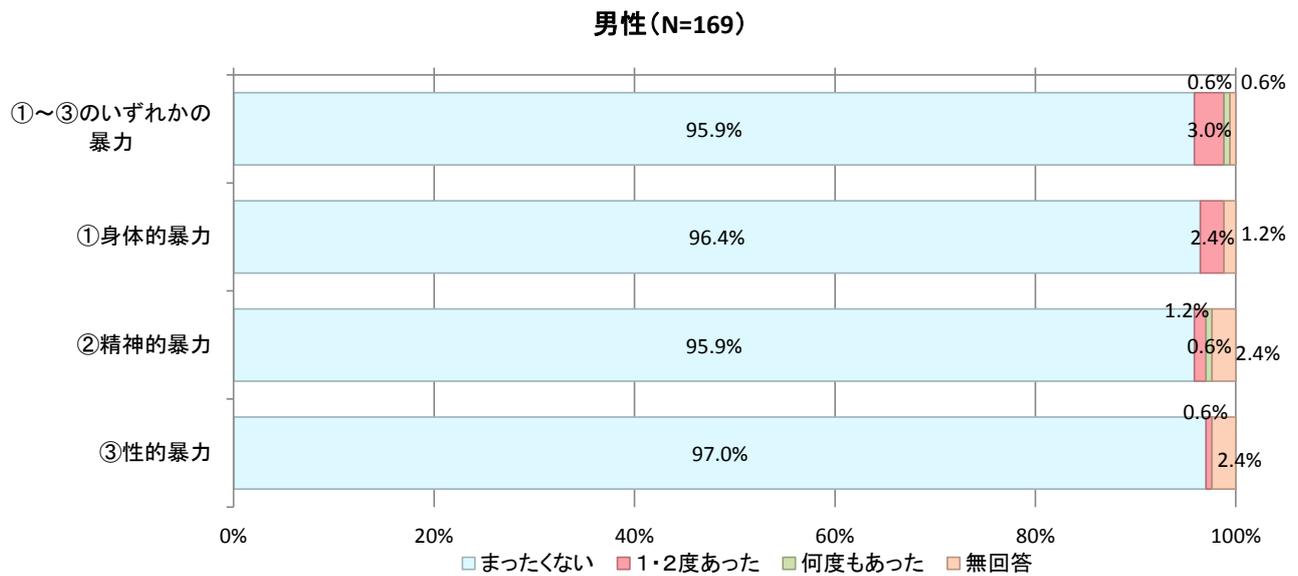
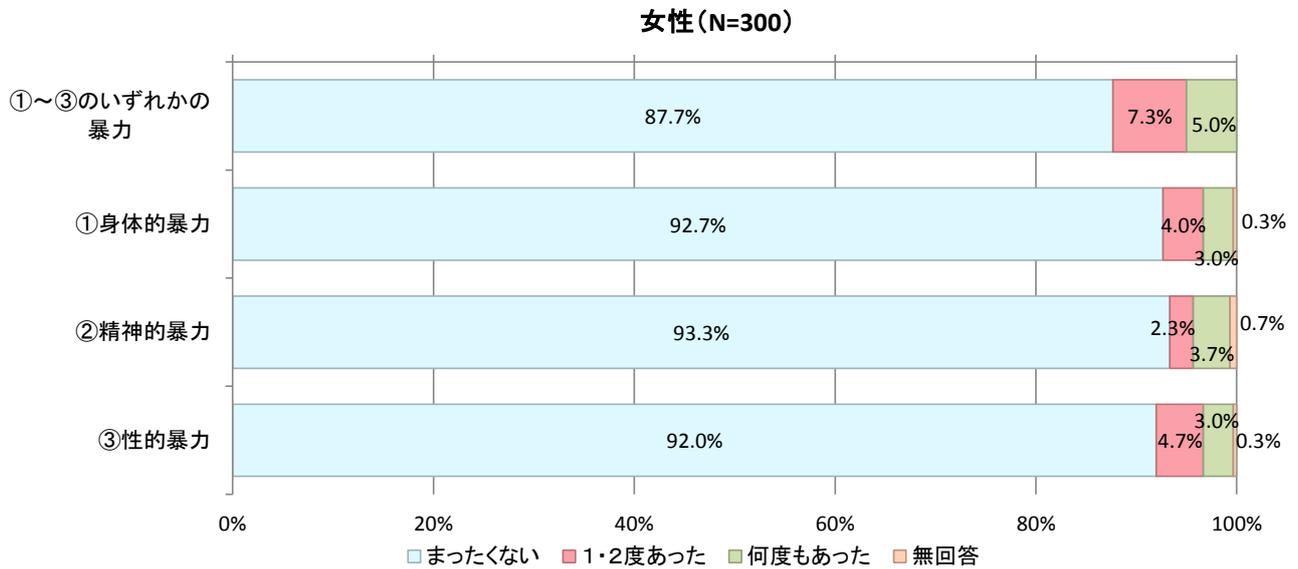
10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無について、暴力の種類別にみると被害経験が『あった』（「1・2度あった」＋「何度もあった」）と答えた割合は「①身体的暴力」（5.3%）が最も高く、次いで「③性的暴力」（5.1%）、「②精神的暴力」（4.5%）となっている。

10歳代から20歳代における交際相手からの被害経験
（暴力の種類別）



10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無（性別・暴力の種類別・性別）

性別、暴力の種類別にみると、何らかの被害経験が『あった』と答えた割合は、いずれも女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。



10歳代から20歳代における交際相手からDVの被害経験の有無（性・年代別）

	サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された				
		まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	
全体	469	441	16	9	3	442	9	12	6	440	15	9	5	
	100.0%	94.0%	3.4%	1.9%	0.6%	94.2%	1.9%	2.6%	1.3%	93.8%	3.2%	1.9%	1.1%	
性・年代別	女性計	300	278	12	9	1	280	7	11	2	276	14	9	1
		100.0%	92.7%	4.0%	3.0%	0.3%	93.3%	2.3%	3.7%	0.7%	92.0%	4.7%	3.0%	0.3%
	10代・20代	31	29	1	1	0	29	1	1	0	27	3	1	0
		100.0%	93.5%	3.2%	3.2%	0.0%	93.5%	3.2%	3.2%	0.0%	87.1%	9.7%	3.2%	0.0%
	30代	56	50	1	5	0	48	1	7	0	51	1	4	0
		100.0%	89.3%	1.8%	8.9%	0.0%	85.7%	1.8%	12.5%	0.0%	91.1%	1.8%	7.1%	0.0%
	40代	68	63	4	1	0	63	4	1	0	61	5	1	1
		100.0%	92.6%	5.9%	1.5%	0.0%	92.6%	5.9%	1.5%	0.0%	89.7%	7.4%	1.5%	1.5%
	50代	68	63	4	1	0	65	1	2	0	66	0	2	0
		100.0%	92.6%	5.9%	1.5%	0.0%	95.6%	1.5%	2.9%	0.0%	97.1%	0.0%	2.9%	0.0%
	60代	61	57	2	1	1	59	0	0	2	55	5	1	0
		100.0%	93.4%	3.3%	1.6%	1.6%	96.7%	0.0%	0.0%	3.3%	90.2%	8.2%	1.6%	0.0%
	70歳以上	16	16	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	男性計	169	163	4	0	2	162	2	1	4	164	1	0	4
		100.0%	96.4%	2.4%	0.0%	1.2%	95.9%	1.2%	0.6%	2.4%	97.0%	0.6%	0.0%	2.4%
	10代・20代	7	6	1	0	0	7	0	0	0	7	0	0	0
		100.0%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30代	23	23	0	0	0	23	0	0	0	23	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
40代	34	34	0	0	0	33	1	0	0	34	0	0	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	97.1%	2.9%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
50代	39	37	1	0	1	36	1	0	2	36	1	0	2	
	100.0%	94.9%	2.6%	0.0%	2.6%	92.3%	2.6%	0.0%	5.1%	92.3%	2.6%	0.0%	5.1%	
60代	40	37	2	0	1	37	0	1	2	38	0	0	2	
	100.0%	92.5%	5.0%	0.0%	2.5%	92.5%	0.0%	2.5%	5.0%	95.0%	0.0%	0.0%	5.0%	
70歳以上	26	26	0	0	0	26	0	0	0	26	0	0	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

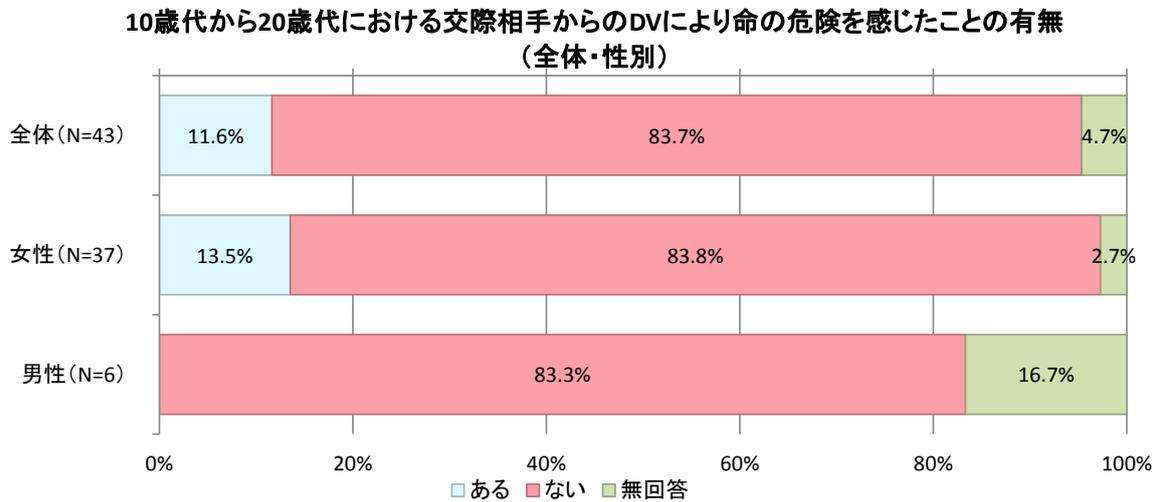
％：各属性内での回答割合が最も高い

(7) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無

(2) その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

交際相手からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が11.6%、「ない」が83.7%となっている

性別にみると「ある」と答えたのは女性の13.5%となっている。



10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無（性・年代別）

		サンプル数	10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		43 100.0%	5 11.6%	36 83.7%	2 4.7%
性・年代別	女性計	37 100.0%	5 13.5%	31 83.8%	1 2.7%
	10代・20代	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%
	30代	9 100.0%	3 33.3%	6 66.7%	0 0.0%
	40代	12 100.0%	1 8.3%	10 83.3%	1 8.3%
	50代	6 100.0%	1 16.7%	5 83.3%	0 0.0%
	60代	6 100.0%	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%
	70歳以上	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	男性計	6 100.0%	0 0.0%	5 83.3%	1 16.7%
	10代・20代	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	30代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	50代	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%
	60代	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
	70歳以上	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

(8) DVにあった際の相談の有無

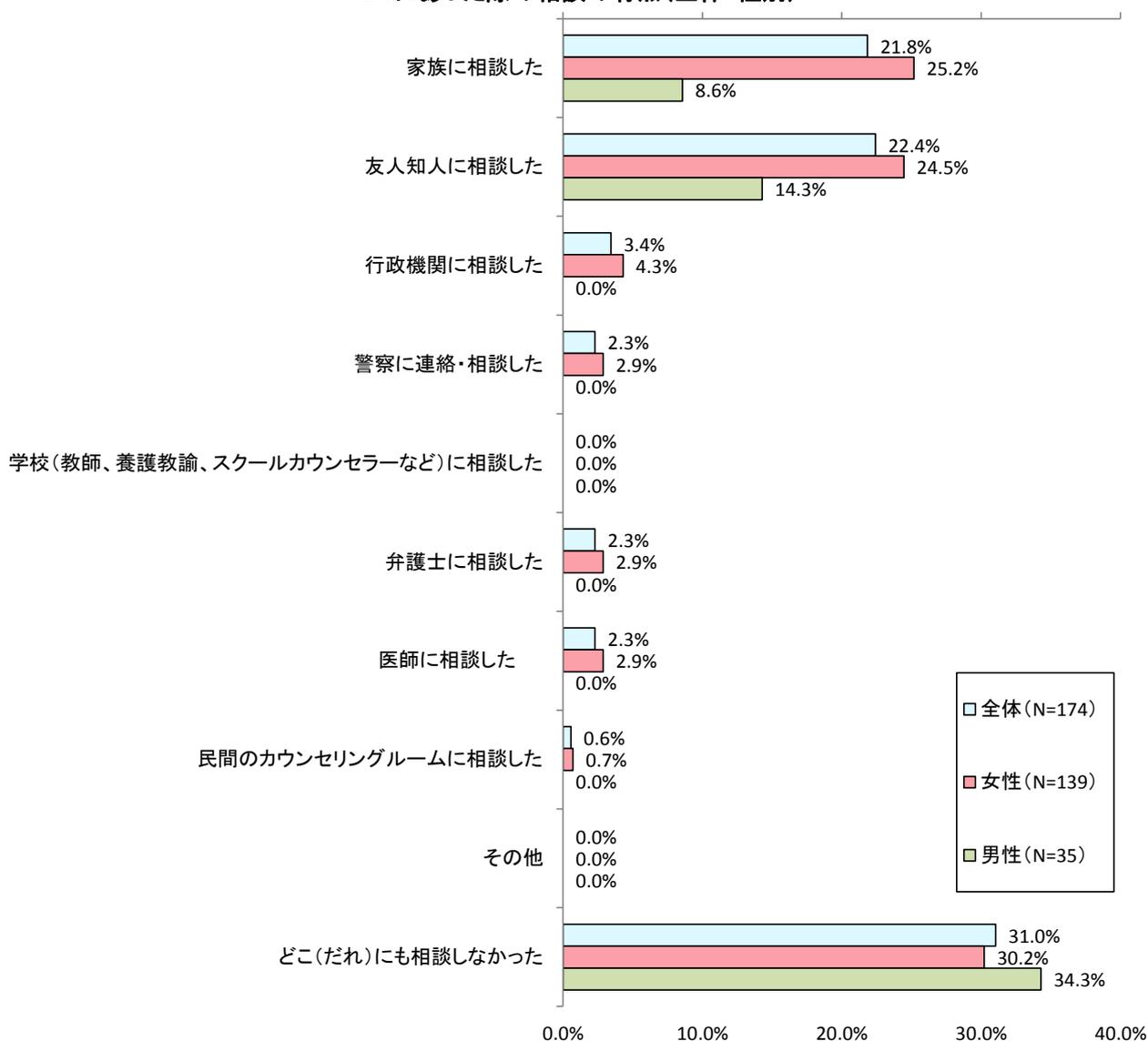
【問 37】 問 34 (1) または問 36 (1) で「1・2度あった」「何度もあった」 答えた方におたずねします。あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

～DV被害者の5割近くが友人・知人・家族に相談～

DVにあった際の有無についてみると、全体では「どこ(だれ)にも相談しなかった」(31.0%)の割合が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」(22.4%)、「家族に相談した」(21.8%)となっており、その他の項目の割合は4%未満に留まっている。

性別にみると、「家族に相談した」(女性:25.2%、男性8.6%)、「友人知人に相談した」(女性:24.5%、男性14.3%)で女性の割合が男性より高く、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(女性:30.2%、男性:34.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。

DVにあった際の相談の有無(全体・性別)



DVにあった際の相談の有無（性・年代別）（複数回答）

	サンプル数	DVにあった際の相談の有無										
		家族に相談した	友人知人に相談した	行政機関に相談した	警察に連絡・相談した	学校（教師、養護教諭、スクールカウンセラーなど）に相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	
全体	174	38 21.8%	39 22.4%	6 3.4%	4 2.3%	0 0.0%	4 2.3%	4 2.3%	1 0.6%	0 0.0%	54 31.0%	
性・年代別	女性計	139	35 25.2%	34 24.5%	6 4.3%	4 2.9%	0 0.0%	4 2.9%	4 2.9%	1 0.7%	0 0.0%	42 30.2%
	10代・20代	8	1 12.5%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%
	30代	20	9 45.0%	10 50.0%	1 5.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 20.0%
	40代	25	8 32.0%	11 44.0%	2 8.0%	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.0%	1 4.0%	0 0.0%	7 28.0%
	50代	33	8 24.2%	6 18.2%	2 6.1%	1 3.0%	0 0.0%	4 12.1%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 27.3%
	60代	38	7 18.4%	4 10.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 31.6%
	70歳以上	15	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 53.3%
	男性計	35	3 8.6%	5 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 34.3%
	10代・20代	1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	50代	14	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 28.6%
	60代	12	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 41.7%
	70歳以上	6	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

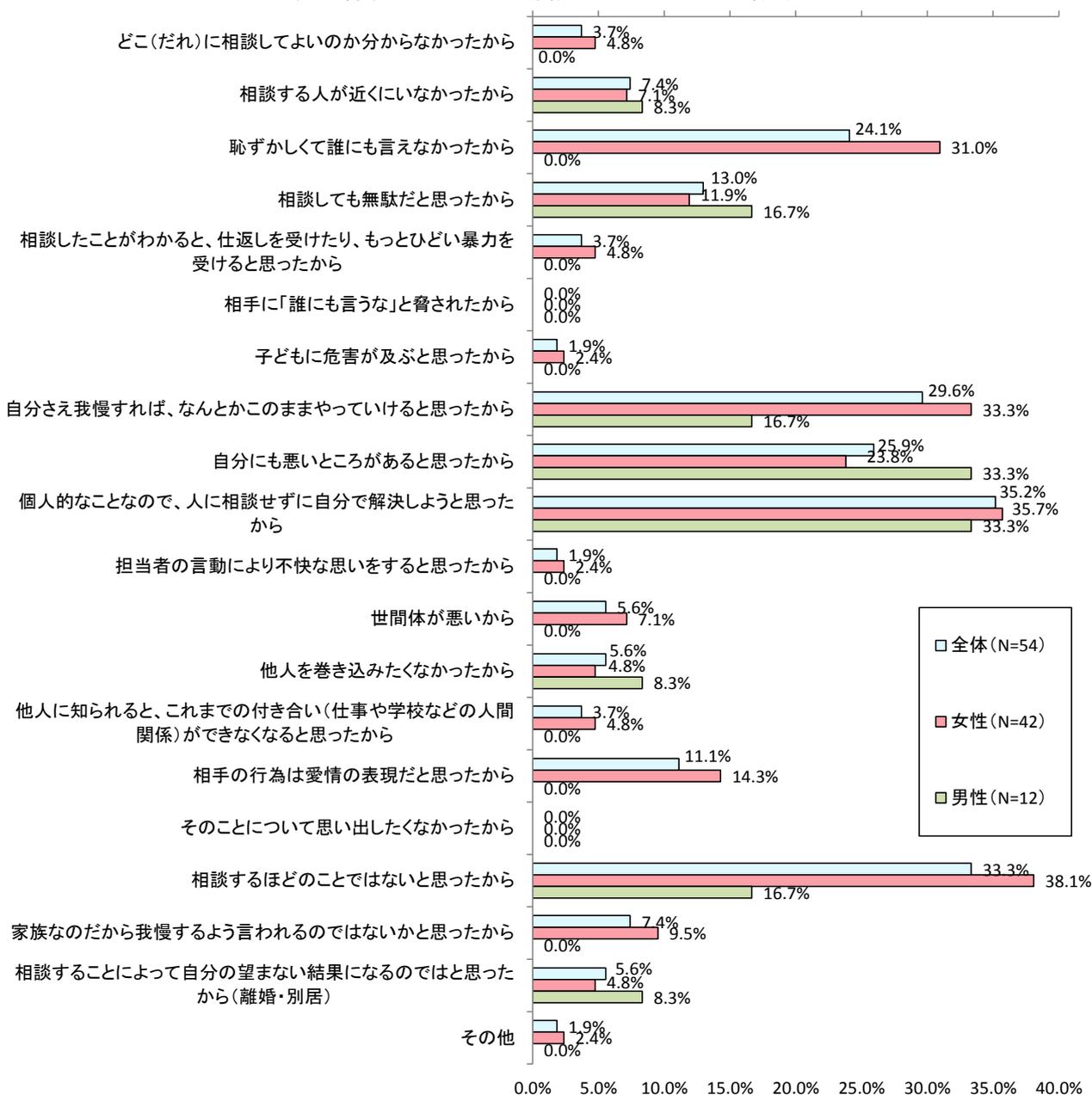
(9) DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由

【問38】 問37で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(複数回答)

～個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから～

DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由についてみると、全体では「個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから」(35.2%)の割合が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(33.3%)、「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」(29.6%)となっている。

DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由(全体・性別)



DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由（性・年代別）（複数回答）1/2

		DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由（全体・性別）										
		どこ（だれ）にも相談しなかったから	相談する人が近くにいなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もつとひどい暴力を受け	相談したことがわかると、仕返しを受け	相手に「誰にも言うな」と脅されたから	子どもに危害が及ぶと思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	個人的なことでないので、人に相談せず
全体	54	2 3.7%	4 7.4%	13 24.1%	7 13.0%	2 3.7%	0 0.0%	1 1.9%	16 29.6%	14 25.9%	19 35.2%	
性・年代別	女性計	42	2 4.8%	3 7.1%	13 31.0%	5 11.9%	2 4.8%	0 0.0%	1 2.4%	14 33.3%	10 23.8%	15 35.7%
	10代・20代	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%
	30代	4	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	3 75.0%
	40代	7	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	2 28.6%
	50代	9	0 0.0%	2 22.2%	4 44.4%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	4 44.4%	1 11.1%	2 22.2%
	60代	12	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	3 25.0%	4 33.3%
	70歳以上	8	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	3 37.5%	3 37.5%
	男性計	12	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	4 33.3%	4 33.3%
	10代・20代	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	50代	4	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%
	60代	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%
	70歳以上	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(10) DVの未然防止にとって必要なこと

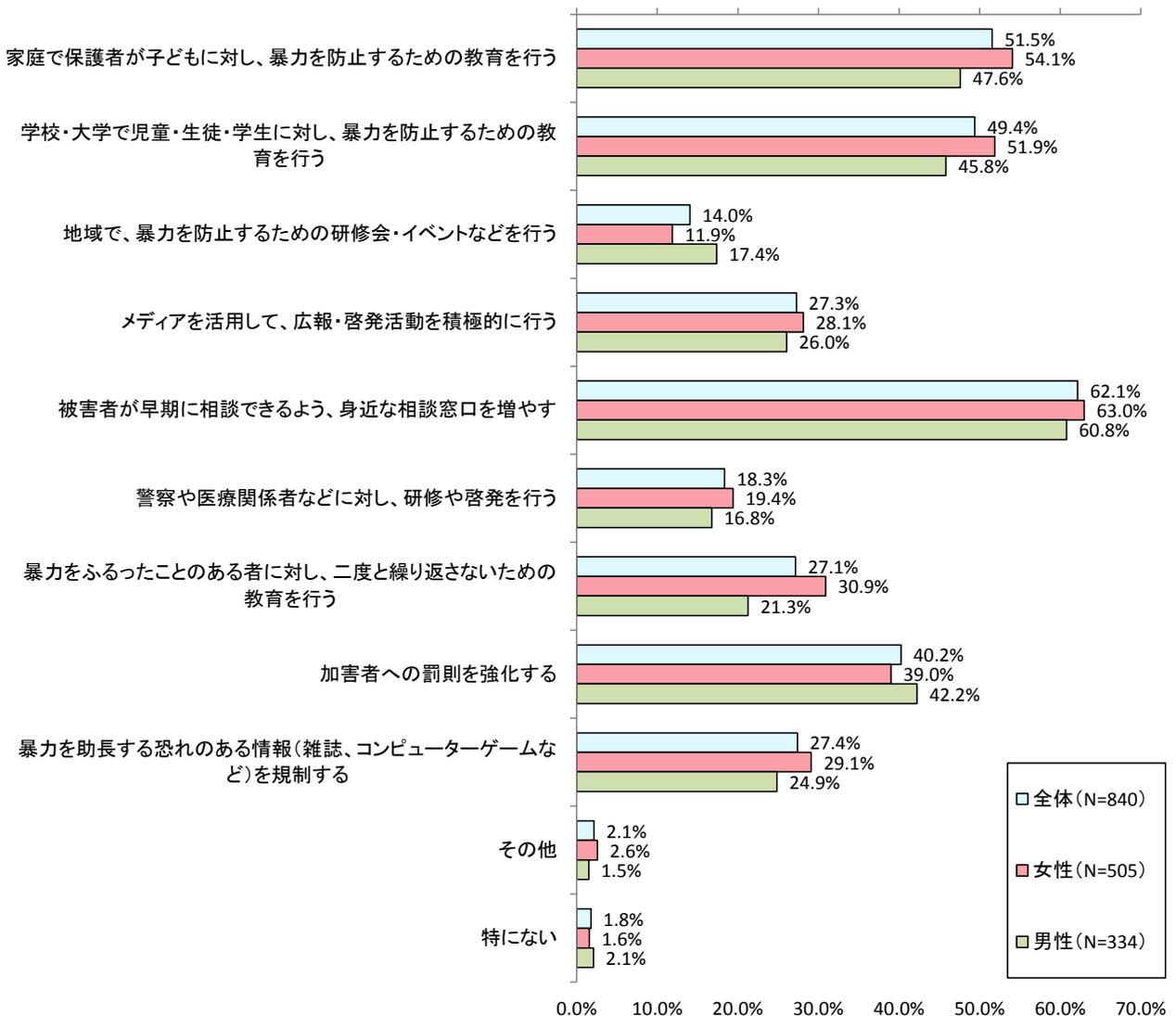
【問 39】 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

～身近な相談窓口を増やすことや家庭、学校などにおける教育が必要～

DVの未然防止にとって必要なことについてみると、全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(62.1%)の割合が最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行なう」(51.5%)、「加害者への罰則を強化する」(40.2%)となっている。

性別にみると、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行なう」(女性：54.1%、男性：47.6%)、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行なう」(女性：30.9%、男性：21.3%)で女性の割合が男性より高く、「地域で暴力を防止するための研修会・イベントを行なう」(女性：11.9%、男性：17.4%)は男性の割合が女性より高くなっている。

DV未然防止にとって必要なこと(全体・性別)



DVの未然防止にとって必要なこと（性・年代別）（複数回答）1/2

		サンプル数	DVの未然防止にとって必要なこと					
			家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
全体		840	433 51.5%	415 49.4%	118 14.0%	229 27.3%	522 62.1%	154 18.3%
性・年代別	女性 計	505	273 54.1%	262 51.9%	60 11.9%	142 28.1%	318 63.0%	98 19.4%
	10代・20代	47	22 46.8%	18 38.3%	2 4.3%	11 23.4%	29 61.7%	14 29.8%
	30代	71	34 47.9%	32 45.1%	5 7.0%	18 25.4%	44 62.0%	18 25.4%
	40代	82	46 56.1%	46 56.1%	10 12.2%	33 40.2%	54 65.9%	25 30.5%
	50代	100	58 58.0%	56 56.0%	13 13.0%	25 25.0%	70 70.0%	15 15.0%
	60代	117	67 57.3%	62 53.0%	14 12.0%	33 28.2%	68 58.1%	14 12.0%
	70歳以上	88	46 52.3%	48 54.5%	16 18.2%	22 25.0%	53 60.2%	12 13.6%
	男性 計	334	159 47.6%	153 45.8%	58 17.4%	87 26.0%	203 60.8%	56 16.8%
	10代・20代	22	6 27.3%	8 36.4%	1 4.5%	6 27.3%	15 68.2%	6 27.3%
	30代	34	15 44.1%	20 58.8%	4 11.8%	11 32.4%	24 70.6%	7 20.6%
	40代	40	19 47.5%	19 47.5%	8 20.0%	13 32.5%	30 75.0%	10 25.0%
	50代	65	37 56.9%	24 36.9%	9 13.8%	16 24.6%	45 69.2%	8 12.3%
	60代	98	42 42.9%	42 42.9%	16 16.3%	28 28.6%	54 55.1%	16 16.3%
	70歳以上	75	40 53.3%	40 53.3%	20 26.7%	13 17.3%	35 46.7%	9 12.0%

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

DVの未然防止にとって必要なこと（性・年代別）（複数回答） 2/2

		サンプル数	DVの未然防止にとって必要なこと				
			二度と暴力をふるったことのある者に對し、繰り返し返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	制する、誌、暴力を助長する恐れのある情報（雑誌、コンピューターゲームなど）を規制	その他	特になし
全体		840	228 27.1%	338 40.2%	230 27.4%	18 2.1%	15 1.8%
性・年代別	女性計	505	156 30.9%	197 39.0%	147 29.1%	13 2.6%	8 1.6%
	10代・20代	47	14 29.8%	22 46.8%	9 19.1%	1 2.1%	0 0.0%
	30代	71	28 39.4%	42 59.2%	22 31.0%	5 7.0%	0 0.0%
	40代	82	34 41.5%	42 51.2%	23 28.0%	1 1.2%	1 1.2%
	50代	100	22 22.0%	40 40.0%	30 30.0%	1 1.0%	0 0.0%
	60代	117	31 26.5%	30 25.6%	38 32.5%	5 4.3%	5 4.3%
	70歳以上	88	27 30.7%	21 23.9%	25 28.4%	0 0.0%	2 2.3%
	男性計	334	71 21.3%	141 42.2%	83 24.9%	5 1.5%	7 2.1%
	10代・20代	22	5 22.7%	14 63.6%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	34	4 11.8%	18 52.9%	7 20.6%	1 2.9%	2 5.9%
	40代	40	5 12.5%	23 57.5%	5 12.5%	2 5.0%	0 0.0%
	50代	65	14 21.5%	24 36.9%	18 27.7%	2 3.1%	1 1.5%
	60代	98	26 26.5%	43 43.9%	30 30.6%	0 0.0%	1 1.0%
	70歳以上	75	17 22.7%	19 25.3%	21 28.0%	0 0.0%	3 4.0%

(11) メディアにおける性・暴力表現についての考え

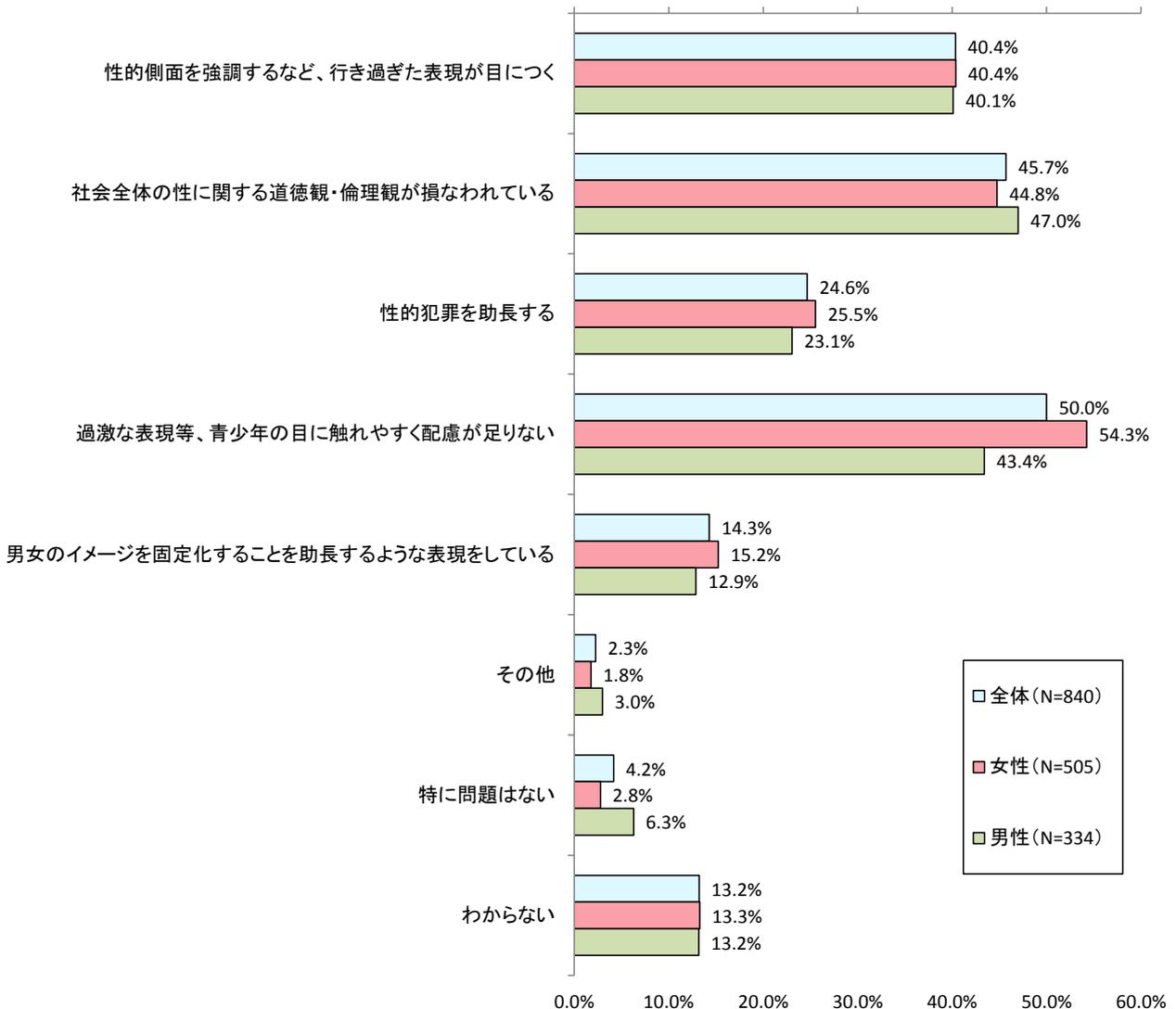
【問 40】 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(複数回答)

～過激な表現等があり、配慮が足りないと感じる人が多い～

メディアにおける性・暴力表現についての考えについてみると、全体では「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(50.0%)の割合が最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(45.7%)、「性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」(40.4%)となっている。

性別にみると「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(女性：54.3%、男性：43.4%)は女性の割合が男性より高く、「特に問題はない」(女性：2.8%、男性6.3%)は男性の割合が女性より高くなっている。

メディアにおける性・暴力表現についての考え(全体・性別)



メディアにおける性・暴力表現についての考え（性・年代別）（複数回答）

		メディアにおける性・暴力表現についての考え								
		性的表現が目に付く	社会全体の性に関する道徳観・倫理	性的犯罪を助長する	過度な表現等、青少年の目に触れや	男女のイメージを固定化している	その他	特に問題はない	わからない	
全体	840	339 40.4%	384 45.7%	207 24.6%	420 50.0%	120 14.3%	19 2.3%	35 4.2%	111 13.2%	
性・年代別	女性計	505	204 40.4%	226 44.8%	129 25.5%	274 54.3%	77 15.2%	9 1.8%	14 2.8%	67 13.3%
	10代・20代	47	13 27.7%	14 29.8%	8 17.0%	21 44.7%	7 14.9%	1 2.1%	2 4.3%	8 17.0%
	30代	71	24 33.8%	20 28.2%	20 28.2%	30 42.3%	14 19.7%	2 2.8%	6 8.5%	13 18.3%
	40代	82	28 34.1%	33 40.2%	24 29.3%	44 53.7%	15 18.3%	2 2.4%	2 2.4%	11 13.4%
	50代	100	43 43.0%	49 49.0%	26 26.0%	61 61.0%	14 14.0%	1 1.0%	3 3.0%	11 11.0%
	60代	117	51 43.6%	60 51.3%	32 27.4%	65 55.6%	15 12.8%	3 2.6%	1 0.9%	18 15.4%
	70歳以上	88	45 51.1%	50 56.8%	19 21.6%	53 60.2%	12 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	6 6.8%
	男性計	334	134 40.1%	157 47.0%	77 23.1%	145 43.4%	43 12.9%	10 3.0%	21 6.3%	44 13.2%
	10代・20代	22	4 18.2%	5 22.7%	3 13.6%	4 18.2%	4 18.2%	2 9.1%	5 22.7%	5 22.7%
	30代	34	13 38.2%	11 32.4%	7 20.6%	15 44.1%	3 8.8%	2 5.9%	5 14.7%	4 11.8%
	40代	40	10 25.0%	13 32.5%	7 17.5%	10 25.0%	4 10.0%	2 5.0%	5 12.5%	11 27.5%
	50代	65	35 53.8%	33 50.8%	15 23.1%	34 52.3%	9 13.8%	2 3.1%	2 3.1%	6 9.2%
	60代	98	43 43.9%	60 61.2%	28 28.6%	53 54.1%	14 14.3%	1 1.0%	2 2.0%	10 10.2%
	70歳以上	75	29 38.7%	35 46.7%	17 22.7%	29 38.7%	9 12.0%	1 1.3%	2 2.7%	8 10.7%

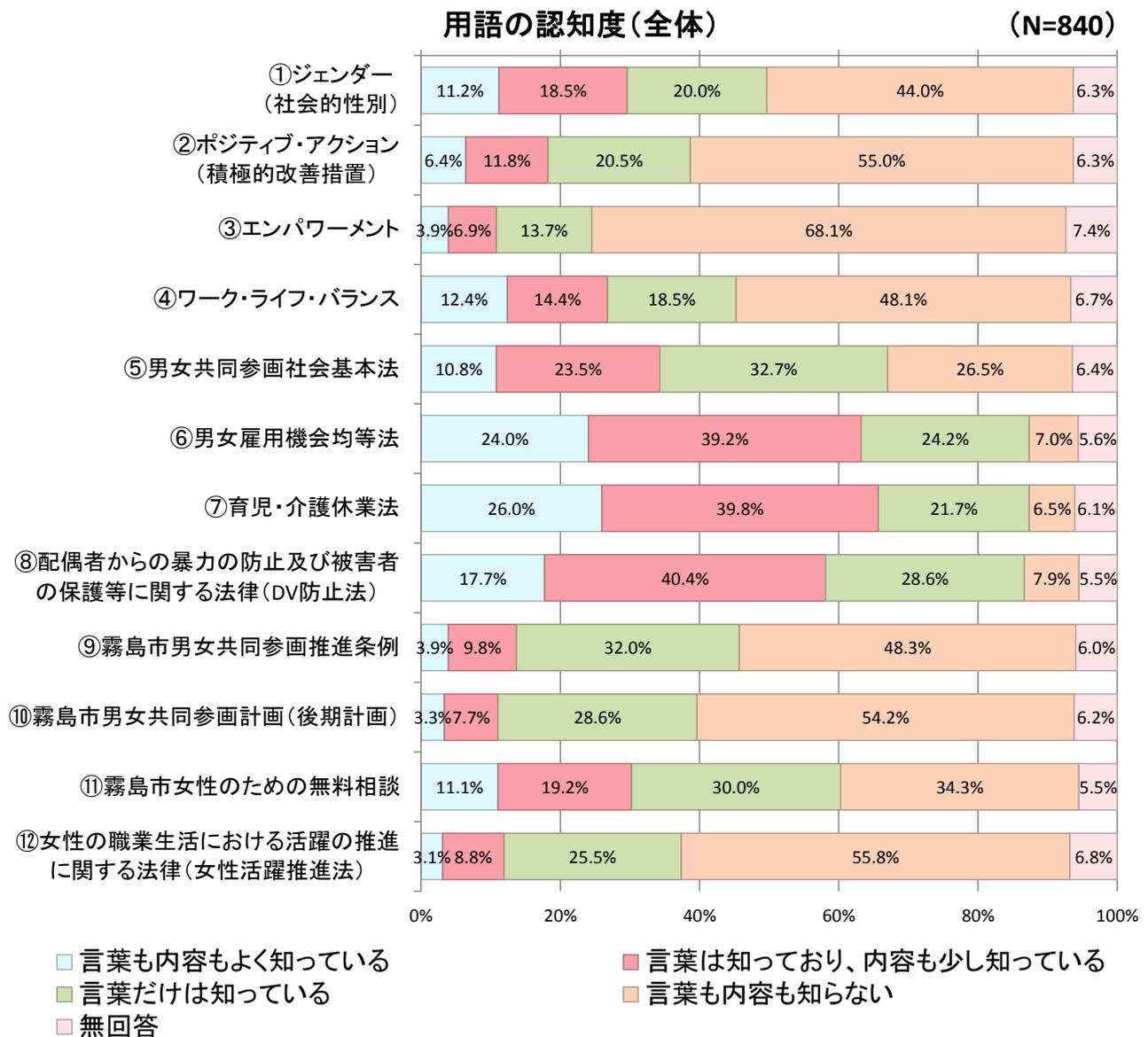
％：各属性内での回答割合が最も高い

9. 男女共同参画に関する用語

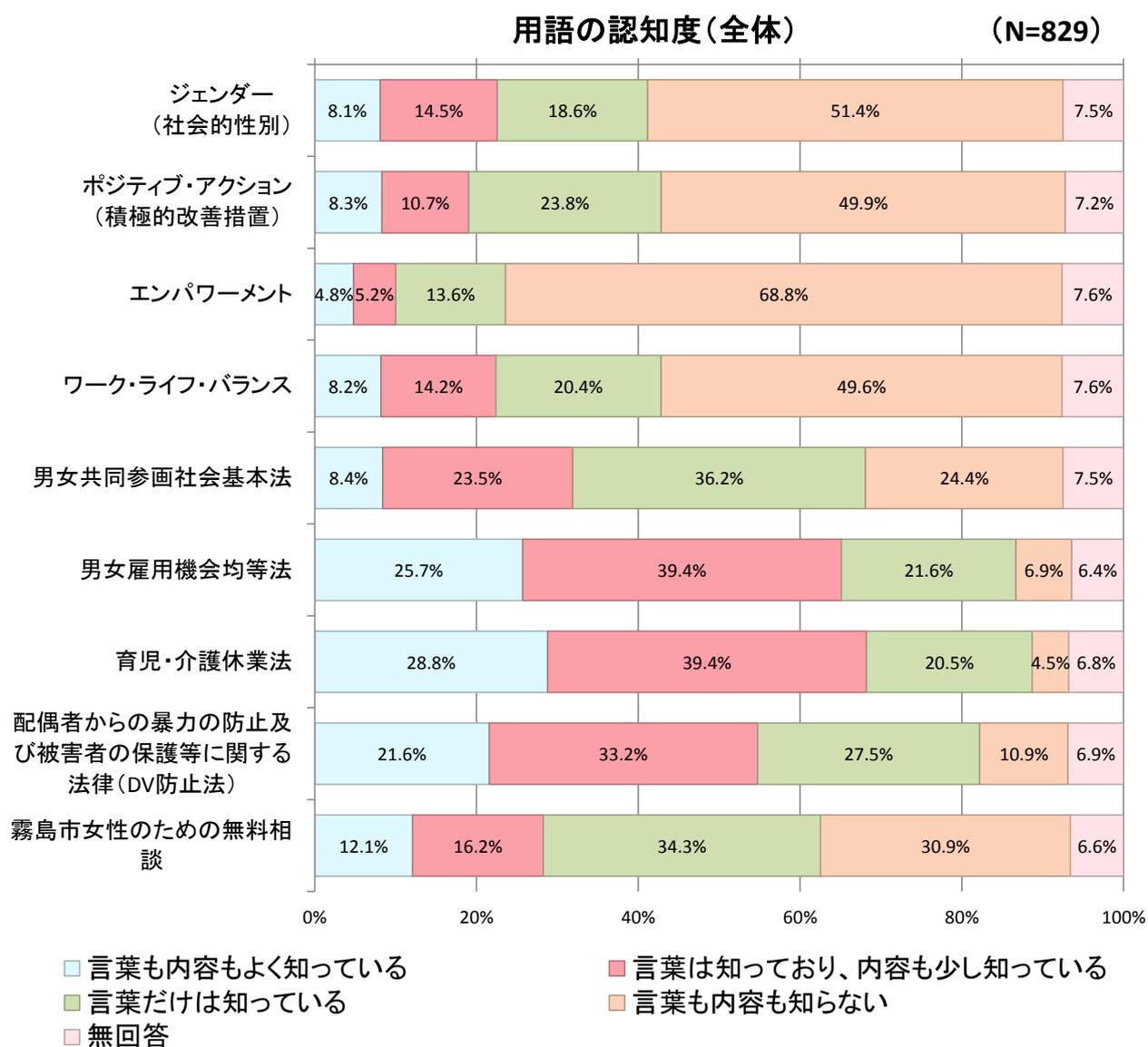
(1) 用語の認知度

【問 41】 男女共同参画に関連の深い次の言葉をこれまで知っていましたか。①～⑫それぞれについてお答えください。

男女共同参画に関する用語については、「⑦育児・介護休業法」「⑥男女雇用機会均等法」「⑧配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」の認知度が特に高くなっている。



【前回調査】



用語の認知度（性別） 1/4

	サンプル数	①ジェンダー(社会的性別)					②ポジティブ・アクション(積極的改善措置)					③エンパワーメント					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	840	94	155	168	370	53	54	99	172	462	53	33	58	115	572	62	
	100.0%	11.2%	18.5%	20.0%	44.0%	6.3%	6.4%	11.8%	20.5%	55.0%	6.3%	3.9%	6.9%	13.7%	68.1%	7.4%	
性別	女性	505	53	102	93	231	26	30	56	95	297	27	19	31	63	358	34
		100.0%	10.5%	20.2%	18.4%	45.7%	5.1%	5.9%	11.1%	18.8%	58.8%	5.3%	3.8%	6.1%	12.5%	70.9%	6.7%
	男性	334	40	53	75	139	27	24	43	76	165	26	13	27	52	214	28
		100.0%	12.0%	15.9%	22.5%	41.6%	8.1%	7.2%	12.9%	22.8%	49.4%	7.8%	3.9%	8.1%	15.6%	64.1%	8.4%

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別） 2/4

	サンプル数	④ワーク・ライフ・バランス					⑤男女共同参画社会基本法					⑥男女雇用機会均等法					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	840	104	121	155	404	56	91	197	275	223	54	202	329	203	59	47	
	100.0%	12.4%	14.4%	18.5%	48.1%	6.7%	10.8%	23.5%	32.7%	26.5%	6.4%	24.0%	39.2%	24.2%	7.0%	5.6%	
性別	女性	505	58	61	91	266	29	55	108	170	143	29	111	195	132	41	26
		100.0%	11.5%	12.1%	18.0%	52.7%	5.7%	10.9%	21.4%	33.7%	28.3%	5.7%	22.0%	38.6%	26.1%	8.1%	5.1%
	男性	334	45	60	64	138	27	36	89	104	80	25	90	134	71	18	21
		100.0%	13.5%	18.0%	19.2%	41.3%	8.1%	10.8%	26.6%	31.1%	24.0%	7.5%	26.9%	40.1%	21.3%	5.4%	6.3%

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別）3/4

	サンプル数	⑦育児・介護休業法					⑧配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)					⑨霧島市男女共同参画推進条例					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	840	218	334	182	55	51	149	339	240	66	46	33	82	269	406	50	
	100.0%	26.0%	39.8%	21.7%	6.5%	6.1%	17.7%	40.4%	28.6%	7.9%	5.5%	3.9%	9.8%	32.0%	48.3%	6.0%	
性別	女性	505	131	213	102	31	28	89	204	150	39	23	21	42	171	245	26
		100.0%	25.9%	42.2%	20.2%	6.1%	5.5%	17.6%	40.4%	29.7%	7.7%	4.6%	4.2%	8.3%	33.9%	48.5%	5.1%
	男性	334	86	121	80	24	23	60	134	90	27	23	12	40	98	160	24
		100.0%	25.7%	36.2%	24.0%	7.2%	6.9%	18.0%	40.1%	26.9%	8.1%	6.9%	3.6%	12.0%	29.3%	47.9%	7.2%

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別）4/4

	サンプル数	⑩霧島市男女共同参画計画(後期計画)					⑪霧島市女性のための無料相談					⑫女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	840	28	65	240	455	52	93	161	252	288	46	26	74	214	469	57	
	100.0%	3.3%	7.7%	28.6%	54.2%	6.2%	11.1%	19.2%	30.0%	34.3%	5.5%	3.1%	8.8%	25.5%	55.8%	6.8%	
性別	女性	505	18	33	156	271	27	76	119	158	130	22	19	43	134	281	28
		100.0%	3.6%	6.5%	30.9%	53.7%	5.3%	15.0%	23.6%	31.3%	25.7%	4.4%	3.8%	8.5%	26.5%	55.6%	5.5%
	男性	334	10	32	84	183	25	17	42	93	158	24	7	31	80	187	29
		100.0%	3.0%	9.6%	25.1%	54.8%	7.5%	5.1%	12.6%	27.8%	47.3%	7.2%	2.1%	9.3%	24.0%	56.0%	8.7%

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

10. 行政について

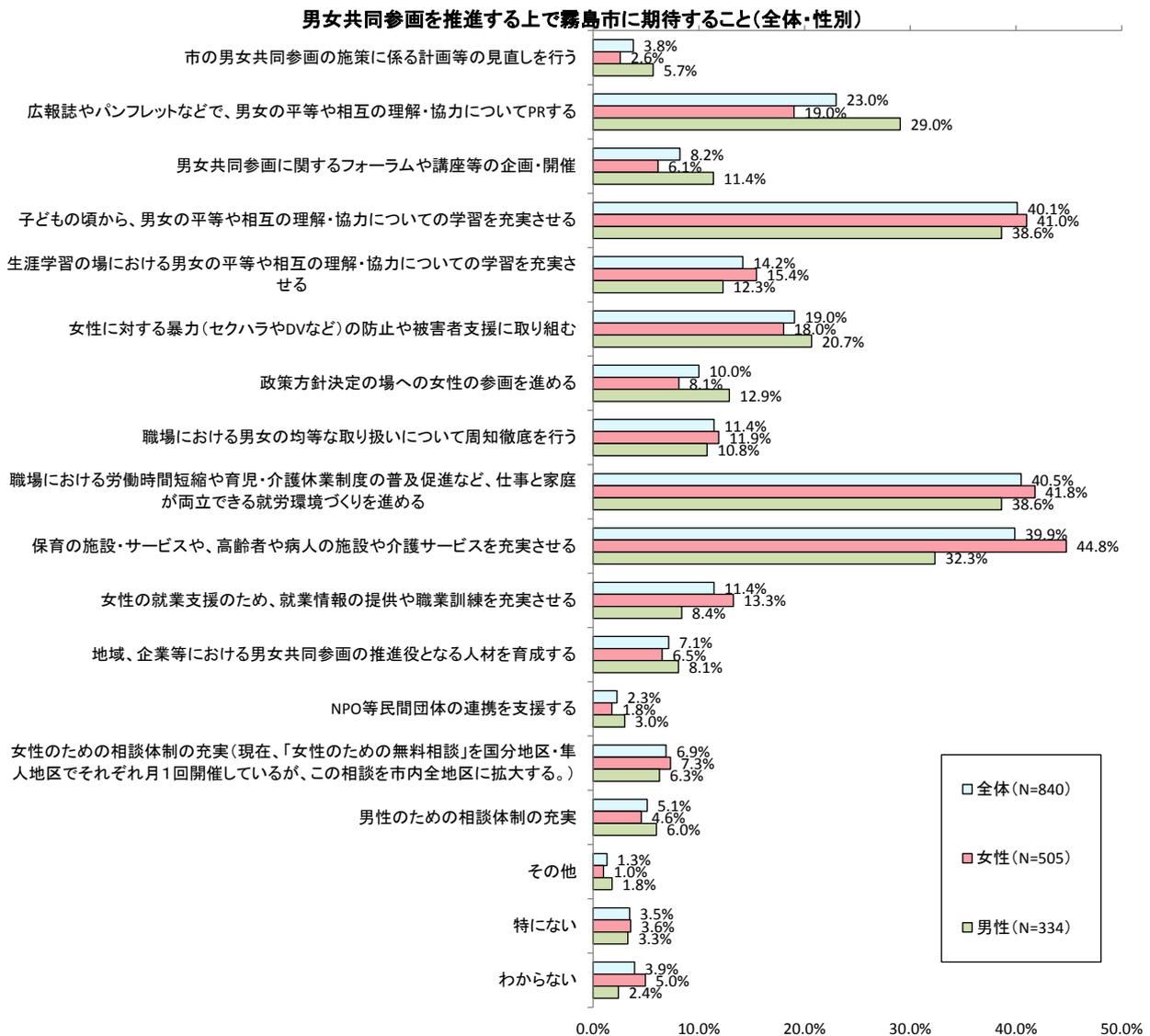
(1) 男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること

【問 42】 男女共同参画を推進する上で、霧島市にどのようなことを期待しますか。(複数回答)

～仕事と家庭が両立できる就労環境づくりをすすめることを期待している～

男女共同参画を推進するうえで霧島市に期待することについてみると、全体では「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」(40.5%)の割合が最も高く、次いで「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」(40.1%)、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(39.9%)の順となっている。

性別にみると、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(女性：44.8%、男性：32.3%)で女性の割合が男性より高く、「広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする」(女性：19.0%、男性：29.0%)で女性の割合が男性より高くなっている。



男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 1/2

	サンプル数	男女共同参画を推進する上で期待すること									
		直市の男女共同参画の施策に係る計画等の見直しを行う	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互理解・協力についてPRする	男女共同参画に関するフォーラムや講座等の企画・開催	子どもの頃から、男女の平等や相互理解・協力の傾向についての学習を充実させる	生涯学習の場における男女の平等や相互理解・協力の場における男女の平等や相互の	女性の被る暴力(セクハラやDVなど)の防止や被害者支援に取り組み	政策方針決定の場への女性の参画を進める	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事を両立できる就労環境づくりを進める	
全体	840	32 3.8%	193 23.0%	69 8.2%	337 40.1%	119 14.2%	160 19.0%	84 10.0%	96 11.4%	340 40.5%	
性・年代別	女性計	505	13 2.6%	96 19.0%	31 6.1%	207 41.0%	78 15.4%	91 18.0%	41 8.1%	60 11.9%	211 41.8%
	10代・20代	47	2 4.3%	3 6.4%	0 0.0%	15 31.9%	7 14.9%	10 21.3%	2 4.3%	7 14.9%	22 46.8%
	30代	71	3 4.2%	6 8.5%	4 5.6%	24 33.8%	10 14.1%	15 21.1%	6 8.5%	11 15.5%	34 47.9%
	40代	82	2 2.4%	12 14.6%	5 6.1%	44 53.7%	7 8.5%	16 19.5%	7 8.5%	15 18.3%	35 42.7%
	50代	100	1 1.0%	26 26.0%	8 8.0%	44 44.0%	18 18.0%	18 18.0%	11 11.0%	14 14.0%	46 46.0%
	60代	117	3 2.6%	25 21.4%	10 8.5%	43 36.8%	21 17.9%	19 16.2%	11 9.4%	8 6.8%	48 41.0%
	70歳以上	88	2 2.3%	24 27.3%	4 4.5%	37 42.0%	15 17.0%	13 14.8%	4 4.5%	5 5.7%	26 29.5%
	男性計	334	19 5.7%	97 29.0%	38 11.4%	129 38.6%	41 12.3%	69 20.7%	43 12.9%	36 10.8%	129 38.6%
	10代・20代	22	2 9.1%	4 18.2%	1 4.5%	7 31.8%	4 18.2%	6 27.3%	3 13.6%	6 27.3%	11 50.0%
	30代	34	1 2.9%	5 14.7%	2 5.9%	15 44.1%	1 2.9%	5 14.7%	6 17.6%	4 11.8%	11 32.4%
	40代	40	0 0.0%	6 15.0%	3 7.5%	14 35.0%	5 12.5%	9 22.5%	7 17.5%	6 15.0%	14 35.0%
	50代	65	7 10.8%	22 33.8%	10 15.4%	31 47.7%	8 12.3%	15 23.1%	7 10.8%	8 12.3%	22 33.8%
	60代	98	3 3.1%	35 35.7%	15 15.3%	35 35.7%	16 16.3%	20 20.4%	14 14.3%	6 6.1%	45 45.9%
	70歳以上	75	6 8.0%	25 33.3%	7 9.3%	27 36.0%	7 9.3%	14 18.7%	6 8.0%	6 8.0%	26 34.7%
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	220	6 2.7%	56 25.5%	16 7.3%	85 38.6%	29 13.2%	40 18.2%	17 7.7%	19 8.6%	86 39.1%
	『反対』	490	21 4.3%	123 25.1%	41 8.4%	217 44.3%	75 15.3%	100 20.4%	64 13.1%	57 11.6%	215 43.9%
	わからない	114	5 4.4%	13 11.4%	11 9.6%	31 27.2%	14 12.3%	18 15.8%	3 2.6%	18 15.8%	33 28.9%

% : 各属性内での回答割合が最も高い

男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 2/2

	サンプル数	男女共同参画を推進する上で期待すること											
		施設や介護サービスや、高齢者や病人の	保育の施設や、高年齢者や病人の	女性の就業支援のため、就業情報の提供や	職業訓練を充実させる	地域、企業等における男女共同参画の推進	役となる人材を育成する	NPO等民間団体の連携を支援する	区内の無料相談体制の充実(現在、女性のための相談体制を国分地区・隼人の地区に拡大しているが、この	男性のための相談体制の充実	その他	特にな	わからない
全体	840	335 39.9%	96 11.4%	60 7.1%	19 2.3%	58 6.9%	43 5.1%	11 1.3%	29 3.5%	33 3.9%			
性・年代別	女性計	505	226 44.8%	67 13.3%	33 6.5%	9 1.8%	37 7.3%	23 4.6%	5 1.0%	18 3.6%	25 5.0%		
	10代・20代	47	25 53.2%	11 23.4%	3 6.4%	0 0.0%	6 12.8%	5 10.6%	0 0.0%	1 2.1%	1 2.1%		
	30代	71	39 54.9%	16 22.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%	6 8.5%	1 1.4%	3 4.2%	2 2.8%		
	40代	82	36 43.9%	10 12.2%	4 4.9%	0 0.0%	5 6.1%	3 3.7%	1 1.2%	3 3.7%	4 4.9%		
	50代	100	45 45.0%	16 16.0%	5 5.0%	3 3.0%	12 12.0%	1 1.0%	1 1.0%	2 2.0%	5 5.0%		
	60代	117	54 46.2%	9 7.7%	12 10.3%	4 3.4%	8 6.8%	5 4.3%	1 0.9%	4 3.4%	7 6.0%		
	70歳以上	88	27 30.7%	5 5.7%	9 10.2%	2 2.3%	4 4.5%	3 3.4%	1 1.1%	5 5.7%	6 6.8%		
	男性計	334	108 32.3%	28 8.4%	27 8.1%	10 3.0%	21 6.3%	20 6.0%	6 1.8%	11 3.3%	8 2.4%		
	10代・20代	22	8 36.4%	3 13.6%	1 4.5%	0 0.0%	2 9.1%	5 22.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%		
	30代	34	10 29.4%	7 20.6%	1 2.9%	0 0.0%	2 5.9%	5 14.7%	3 8.8%	2 5.9%	0 0.0%		
	40代	40	12 30.0%	4 10.0%	3 7.5%	2 5.0%	3 7.5%	5 12.5%	2 5.0%	3 7.5%	1 2.5%		
	50代	65	17 26.2%	6 9.2%	5 7.7%	2 3.1%	2 3.1%	2 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.1%		
	60代	98	33 33.7%	5 5.1%	8 8.2%	4 4.1%	10 10.2%	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	2 2.0%		
	70歳以上	75	28 37.3%	3 4.0%	9 12.0%	2 2.7%	2 2.7%	2 2.7%	1 1.3%	5 6.7%	3 4.0%		
	性別役割 に対する 考え方	『賛成』	220	84 38.2%	24 10.9%	18 8.2%	8 3.6%	16 7.3%	13 5.9%	3 1.4%	11 5.0%	6 2.7%	
『反対』		490	203 41.4%	55 11.2%	38 7.8%	10 2.0%	31 6.3%	23 4.7%	5 1.0%	12 2.4%	15 3.1%		
わからない		114	43 37.7%	17 14.9%	3 2.6%	1 0.9%	10 8.8%	6 5.3%	3 2.6%	6 5.3%	9 7.9%		

％：各属性内での回答割合が最も高い

11. 自由意見

【問43】 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

【20代女性】

- DVに関しては、何か起きてからではなく、相談を受けた時点でもっと協力をしていく世の中になってほしい。(警察は何か起きないと動かないイメージなので・・・)
- 男女が今以上に平等になったら、生活が良く変わると思います。向いている、向いていないはあっても、決めつけて制限される社会はなくなるべきだと思います。頑張ってください。
- 男女平等の教育を積極的に行ってほしいです。
- 女性が出産することに対する抵抗がなくせる職場づくりを徹底してほしい。産休・育休を取ることは当然なはずなのに、それができないのはおかしい。

【20代男性】

- 私の意見としましては、「平等よりも公平」ということですね。男性が要職につくことが、女性が要職につく機会を損なっているなんてことは決してありません。努力の結果です。門戸は男女平等に聞かれていると思いますよ。そこに女性を簡単に要職につける制度を導入して男性の努力を損なうということがあればそれこそ男女不平等なのではないでしょうか

【30代女性】

- 女性に対するパワハラについて市職員にもっと理解して欲しい。相談に行っても対応が事務的にされる。
- 『男女共同参画社会の実現』を初めて聞いた。選挙啓発ばりに活動をPRすべき。TVとか。昔の考えを持っている人が働いている時点で(「女のくせに」とか言う人がいると特に)男女差別とかなく・・・とか無理。妊婦を理由にさぼるのもどうかと思うが。製造業の正社員を希望しているのに、パートや派遣を勧められた。
- 子育てや仕事を持っている人はセミナーや相談などにわざわざ出かけるのが大変な状況にある方も多と思います。自宅にいる方でももう少し、政策が分かったり、意見を言えるような環境が整えられるといいなと思います。自分もそうですが、子ども達が大きくなった時に、もう少し暮らしていきやすい社会になっていると嬉しいです。
- 働く女性にとって保育のサポートは必要だと思います。保育園や託児所を増やすなど対策をお願いします。
- 介護の件、親と同居する家庭は市民税免除など、プラスαがあれば、核家族が少しでも解消されるのでは？
- 出産を機に、女性の能力は社会から消えてしまうことが多い。行政はもっともっと母親達から意見を聞くべきです。女性の力は、男性の何十倍もあると思います。
- 「うちの嫁」「嫁ぐ」といった言葉が無くならない限り、差別はなくならないと思います。
- 男性・女性ではなく、能力評価してほしい。その為に同じように働ける仕組みが必要だと思う。でないと、男女共同参画の取り組みだから、女性は楽に上に行ける機会があるように思う男性も多い。
- 夫婦共働きで子どもが2人います。子どもが病気になった時、看病をするのはいつも母親であり、父親は当然のように仕事に行きます。いつも不平等さを感じます。男性が育児に関して休みを取りやすい職場の雰囲気求めます。
- 男性、女性それぞれにしかできないこともあるのだから男女平等といって何でも全てが平等にいかないと思う。学校での名簿順が男女混合＝男女平等でもないと思う。目に見えるところばかりが平等な扱いで根本的な考えが変わらなければ意味がないのでは？

【30代男性】

- あらためて考える機会となりました。市に期待します。
- 地域性全体に問題があるので実は男女ウヌンではない。実現を考えるなら議会で条例を話すべき。

- 女性専用車両、女性専用トイレ、女性だけの飲食店、レディースデーなど女性を優遇しすぎて男性差別になっている。男性はチカンと思われやすく、声をかけただけで事件にされかねない。「女性を守るべき」という固定観念を捨てて本当に平等な社会を考えて欲しい。
- 保育や介護の施設が不足しているからと言って、ただ増やせばいいとは思わない。質を保つためには、しっかりと行政が介入する。使用者は、預ける所がなく、仕方なく預けていることが多い。
- 女性は職場を変えてもそこまで生活に（金銭面）影響がないが男性は大きく影響するような気がします。同じ正社員でも仕事内容、会社が求める要求も違う。その辺が平等にならないとずっとこの問題は解消されない。

【40代女性】

- 結局、共働きの場合、男は仕事を優先せざるを得ない状況にあり（気軽に有休が使えない）、女が仕事を休んで学校行事の育児をやらなければならない。まずは、全企業が有休の取得を快くうけてくれないと何も改善しません。
- ジェンダーフリー絶対反対です。平等だけを訴えずに一人ひとりが人間として男らしさ女らしさをもって生活できる世の中になってほしいです。お茶くみは平等じゃないという人もいますが、本当に小さなことでも目配り気配り心配りができて人間関係も円滑にいくのではないかと思います。自分のことばかり考えている人達が増えずに思いやりをもてる社会になりますように。
- 特に年配の方の男女差別偏見があるので年長者からまず意識をかえて欲しい。
- 他県から転入してきましたが、鹿児島県は男尊女卑の傾向が強いです。今だに、企業内で女性のお茶くみや管理職は男性のみの企業が目につきます。地域でも女性は下という見下した面がみられます。他県では女性も尊重され、企業でも活躍できる環境でしたので。霧島市は過ごしやすいですが、男尊女卑の関係にあきれちゃう感じがします。女性が参画協力したくなる霧島市になることを願います。
- 男女の個体差があるので全てを平等にするのは難しいと思いますが、両性の良い所を互いに認め合いより適した場所や部署で活躍できるよう会社が変わっていけばよいと思います。その際は偏ることなく男女が感じた意見を出し合い、改善する関係が築けたらいいと思います。
- 土地柄からか女性の活躍の場が少ないような気がする。もう少し、ひらけた考えをもってもらえたらありがたいです。
- 女性に関わる育児、介護、仕事をしていく上で悩みやストレスは必ずできます。霧島市にもっとその方面でのスペシャリストの講演会などが充実することを願います。

【40代男性】

- 男女共同参画のためには、お互いが尊重しあえるような政策が必要だと思う。女性が社会的に活躍できるような場を作っていくことはもちろんであるが、男性も同じように相談窓口や職場環境における充実を図ることが本当の意味での参画ではないかと思う。個人の能力、姿勢は様々であることから、男性だけとか女性だけという考えではなく、お互いが社会で活躍できる環境整備を考えていくべきであると思う。男女と区別するのは、性別だけであって、社会環境において男女の枠を無くすことが平等な社会を作っていく事につながるのではないのでしょうか。
- 努力することは大事ですが、強引に進めるべきではないような気がする。例外的に男性が弱くなってきている感はある。
- 生活にゆとりがなければ日々の生活だけで忙しいです。誰かが、何かを変わってくれなければ一人でできることは必然的に決まります。その中で何が一番大事なのか考えればできる事はそんなに多くはありません。生活にゆとりがある人が平等という名目で仕事を押し付けてきます。そんな平等ならいりません！役割分担とか負担の押し売りです。文句を言う人ほどずるいとか言いますが、皆が同じ事をしているわけではないので、できる人、できない人がいるのは当然だと思います。
- 鹿児島は特に不平等だと思います。いきなり変わることは難しいが、問 32 の①や④、問 26 の①、③、④、問 28 の②など、ちゃんとやっていたら徐々に変わっていくと思います。

【50代女性】

- 介護などは、やはり女性が担っている場合が多いですが、その為、仕事を辞めたり、時間帯を選べなかったりと問題がたくさんあります。女性も心配なく働けるような社会になればと思います。
- 男性への相談体制や支援対策をもっと充実させることも必要だと思ふ。
- 職場はDVを受けているのであろう人が最近は入ってきています。子どもなのかパートナーなのかは分かりません。窓口を早く使って欲しいです。
- 一番の要望高齢者が安心して介護サービスを受けられるような社会。例えば老人でも貧困差があると思ふますが老人者でもお金がある人は介護サービスも出来ませんが（お金のない人）は介護サービスを受けたくても無理な人がいます。
- 男性より女性の意識を変える方が大変だと思ふます。男女平等と言いながら、都合が悪くなると性差を持ち出すのは女性の方が多いように思ふ。日本は男女とも労働時間が長い社会の仕組み、制度を変えて、ゆとりが出ればよいと思ふ。
- 霧島市役所内での職員の男女共同参画意識が変わらない限り、市全体へは進まない。すべての施策に男女共同参画がなければならぬ。少子高齢化に向けても、人の生き方の自由選択にも必要。市の担当係の方のご苦勞もあるでしょうが、専門家の採用なども必要だと思ふます。
- 男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みが行なわれているようですがまずは女性自身の意識の改革が必要だと思ふます。“女だから”、“結婚したら主婦（家庭に入る）になる”というこれまでの考え方はなく自分自身の設計を立て、働き方で（正規、パート等）を変えながら、社会参加を続けていくなかでよりよい人生を送れば良いのではと思ふます。
- 霧島市役所の管理職（部長、課長クラス）の半分が女性、副市长も女性になれば、霧島市全体の男女共同参画が進むと思ふます。新規採用者も男性が多いのではないのでしょうか。霧島市役所がお手本にならなければ、民間ではなかなか難しいと思ふます。霧島市のトップや人事担当者の意識改革からですね。
- 男女平等を求める前に女性のモラルの低下（言葉、礼儀、マナー）が少子化に少なからず影響しているように思ふます。少子化が前よりも問題なのでは。社会進出は性的にも体力的にも育児にもメリットよりリスクが多いです。被害をこうむるのは次世代をになう子どもです。

【50代男性】

- まずは、役所職員から男女数を同じにしたり、役職の割合を同じにしたりすることで、市としてのやる気を見せてほしい。
- 歴史的な事だと思ふがPRいろいろな会などの待ち・受け身だけではなく支援・防止・周知徹底を図るには市・地域・会社などの連携でいろいろな方をピックアップして、TEL・戸別訪問点・会社など人との連携対話で問題点をあげていくためのものもありかなと思ふ。また、市として施策により活動計画の推移の実現結果の周知徹底が今後とも含めて欲しいように思ふ。
- 市の方も市民に対してもっと情報公開をしてほしいと思ふます。
- 生物学上の男女の区別は必要だがそれ以外はすべて個人を見るべきである。男女というフィルターを通して個人を見てはいけないと思ふ。男女の他にも性同一性障害の方たちもいるので男、女プラスの合計3種類があることを意識して政策に取り組むべきだと思ふ。

【60代女性】

- 福祉、医療の専門家を半数は女性を起用する（市役所内）。保育施設やサービスを充実させる（民間も）
- 生活の為仕事、家庭中心にやってきて、今回とても勉強不足で、わからないことや考えさせられることが多くて、本当に恥ずかしい思ひでした。金銭的、仕事、家庭に理解がある方、霧島市にもいっぱいいらっしやると思ひます。その方々が多く参加して、もっともっと霧島市（社会全体）が、より良い世界になりますように願っています。
- 男性も育児休暇、介護休暇が取れるようになってほしい。家庭がうまくいけば、男女の平等がうまくいくのでは。その為には、政治、経済がうまく運営できるように霧島市の上の方頑張ってもらいたい。税の勉強してほしい。

- 男と女にはそれぞれ役割があると思います。男の人でも力仕事に向かない人、女の人でも料理が苦手だったり、それぞれが得意なことを生かしてお互い理解しあえて生活できることが一番良いのではないのでしょうか。また、男、女に限らず何かに挑戦したい人は自由に挑戦できる社会が良いと思います。
- 50歳代以下の方は、子育て、家事等よく協力分担してやっている様ですが、高齢者が協力的でない人が多い。家庭で良い見本を見せておけば、子ども達も自然と見習うのではないのでしょうか。
- 男女共同ということで、どうしても女性の意見となるのかもしれませんが、女性の女性らしさ（淑女）が無くなっているのも感じます。協力することの大切さが大事だと思います。主張だけするのではなく、男女がお互いを思いやることが共同参画社会につながると思うのです。男性のできる事、女性のできる事を認め合って生活したい。
- 男女平等は当たり前の事ですが、世の女性は女性だからと甘えている部分が多く見受けられます。職場でも家庭でも、男性も家事・育児をして当然とばかりに、他の家庭と比べて不満の声を耳にします。いくら男女共同参画を推進しても、机上の夢事で、本来の男は男らしく、女は女らしく、そして自分自身しっかりと生きていく姿勢が男女共同参画だと思うのですが・・・。
- 実際のところ、はっきりわからないのですが、昔京都では「青年の家」、伏見では仕事をした後講座があり、私は（男女問わず）参加しておりました。今さら、男、女をそう区別するものでしょうか？お互いの意見、相手を思いやる「心」があれば、暴力など考えられませんね！
- 女性の仕事と家庭が両立できるよう労働時間の短縮や育児、介護休業制度の普及促進など、とにかく女性も働きやすいように就労環境づくりを少しでも早く進めてほしいものです。
- 年齢的にも自分達の世代では、無理な所が多でしたが、今後若い世代では、女性自身もしっかりとした考えを持ち努力して男性と同様に活躍できるようにと希望します。
- いつも男女共同参画推進に取り組みご尽力下さり大変嬉しく思っております。近年地域においても様々な場面（会合や集会）で自分の意思（意見）をしっかり伝えることの大切さを学んでいます。また、同等に意見を言えるような雰囲気が出来てきているようにも思えます。そして家庭内においても子や孫にも教える（話あえる）機会も増えました。お互いを尊重し合い老若男女が誰でも個人の能力を出し合い協力することのできる社会になって行くことを願っております。
- 男女平等の教育を受けた20代の男性に見受けられるのは、体力も平等と思われ重いものを女性に平気で持たせるといことです。コミュニケーションも大事であると思います。体力が必要な時は男性、細かく気配りする時は女性などすべてが平等ではないと思います。

【60代男性】

- 全ては教育（家庭も含む）だと思います。幼児期からの教育が最も重要です。
- 中央に集約するだけではなく、自治会レベルまでに拡大した方が良いのではないかと。
- 均等、平等、共同参画社会・・・十分に大切なことだと思うが、仕事、家事、育児、介護、地域活動等時間的制約と経済的バランス大切と考えます。しかも、育児はせめて6歳くらいまで、母親の愛と豊かな感性、厳しい躾が必要で、その時間をとれる支援、時間が大切です。その為に社会・公で受けるべきではないでしょうか。
- 地域における相談員の増員、人材育成が必要。報酬を予算化し、手厚く相談員を市が補助すべき！
- このアンケートの結果が男女共同参画計画の推進に役立つことを心から期待いたします。

【70歳以上女性】

- 男女共同参画ごとに読み、頷くことばかりでした。今後、積極的に参画したいと思いました。
- 男女共同参画社会が実現できることは大賛成です。子供達の家族を見ていますと、結構協力し合っているように思います。我が子のオムツ替え、ミルク作り、食器を洗う等、私達の子育ての頃とは段違いの感です。やらされている、しないと機嫌が悪いからでは、すれ違いが起こってきて・・・。ちょっと？と懸念されるけど、お互い納得していれば子供達にもいい影響を与え、将来良い結果をもたらすのではと考えます。
- 特に田舎で老人の多い地域では、女性の発言権や権利が極めて低く感じる。行政は、このような過疎地域へ「目線が行っていない」と感じます。
- 鹿児島の子の幼児期の生活に問題があるのでは。DV等考えても鹿児島の男性は結婚の対象には考えた

くないです。人生の終わりを前に男であることを主張しない人間であることを大切に考える人と共に出来たことが鹿児島に来て知りました、男女である前に共に人間です。

- 若い方々には積極的に協力していただきたいです。

【70 歳以上男性】

- 女性に対する偏見、差別並びに女性の人格、人権を軽視したり無視したりする行為は絶対に許すべきではないと考えるが、男女それぞれが持つ特性、能力に深く思いを男女平等（責任の分担）社会の構築を希望する。
- 男女共同参画についての PR を徹底し、内容について理解をさせる。（市民に）
- 職場や地域で男女共同参画とは真にどういうことなのか言葉だけでなく実践する行動を管理職や地域の役員がしっかりと行う事ではないかと思えます。まだまだ男の仕事、女の仕事と区分しようとする考えは、根深いと思えます。真の男女平等を目指して。男女共同参画を考える前に、国政や地方自治体の首長や人事権を持つ人々が、もちろん企業においても社長や役員の方々が、学歴尊重の考えを改め、仕事に対する考えがしっかりしている者、技能技術の優れた者を評価し、登用することから始めるべきではないでしょうか。今、学力はあっても能力があっても学ぶ場に行けない人たちが多数いることを見たり聞いたりします。そのような学校に行きたくとも行けない人達に道を開くことから男女共同参画も考えるべきだと思えます。男女に関係なくしっかり仕事をすれば認められるのだという事を周知させるべきだと思えます。仕事はできないのに学歴だけで上に行くのは他にやる気をなくさせるもとです。

